東京大学陸上運動倶楽部

会報

復刊　第七十三号

（令和八年版）


フンドーキン
いつもの朝に、
元気のスイッチ。
味噌汁で迎える朝。
いつもの味噌とお気に入りの具材は
ふしぎと〝元気のスイッチ〟を入れてくれる。
背筋を伸ばして「おはようございます」
これまでもこれからもフンドーキンの味噌で
変わらない朝のおいしさをお届けします。
生詰 フンドーキン 無添加 あわせみそ
生詰 塩分20%ひかえめ 無添加減塩 あわせみそ
フンドーキン醤油株式会社
フンドーキン醤油 検索

東京大學陸上運動倶樂部

会報

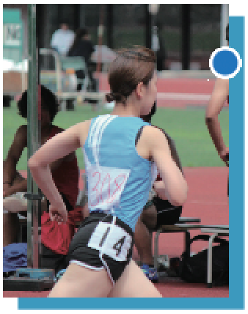
復刊　第七十三号

（令和八年版）

東京大学陸上運動部

Yearbook　2026

年間スケジュール



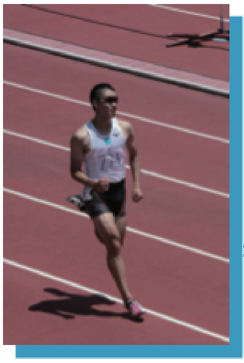
六大戦
（慶應、東京、法政、明治、立教、早稲田）

4月

関東インカレ

5月

国公立戦



四大戦
（学芸、群馬、東京、埼玉）

6月

七大戦
（北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州）

7月

夏合宿
長距離:北海道清里町
他パート:長野県菅平高原

8月

一橋戦

9月

日本インカレ

京大戦

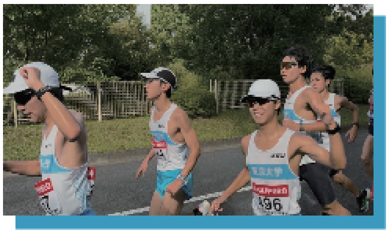
10月

箱根予選会

11月

東大競技会

12月



1月

冬季練

2月

3月

東大競技会

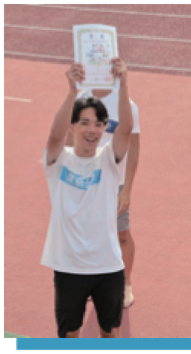
ごあいさつ

高校生のみなさん、こんにちは！
今年も高校で陸上競技をしているみなさんに東京大学陸上運動部をご紹介するため、この冊子「Yearbook 2026」を作成いたしました。
東大陸上部には100名を超える部員が所属しており、様々なレベルの選手がそれぞれの目標に向かって日々練習に励んでいます。
「大学でも陸上を続けたい」と思いながら東大を目指しているみなさんのモチベーションを、この冊子を通して少しでも後押しできれば幸いです。
東大合格を掴み取った暁には、ぜひ東大陸上部のグラウンドに足をお運びください！
また、マネージャーは他大学からも募集しています。
選手を支える大切な仕事でとてもやりがいがあります！
関東の大学に進学予定で東大陸上部に興味のあるマネージャー志望の方大歓迎です！
高校生のみなさんの将来の入部を部員一同、お待ちしております！

2025年度の主な記録

東大記録更新

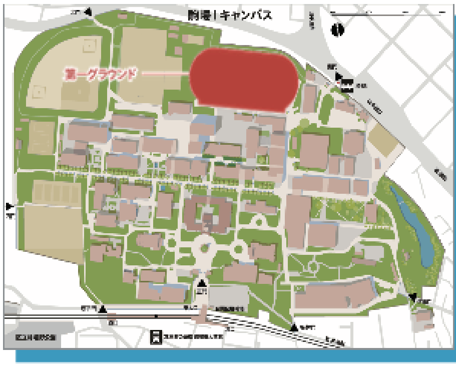
男子1500m　秋吉拓真(4年)　3’48″20
男子10000m　秋吉拓真(4年)　28’45″62
男子ハーフマラソン競歩　越國太貴(2年)　1°31’36
男子35kmW　金谷響介(4年)　2°57’18
男子フルマラソン競歩　金谷響介(4年)　3°37’12
男子ハンマー投　沖田康太朗(2年)　48m56
女子ハーフマラソン　渡邉晴香(1年)　1°24’13
女子5000mW　沖夏子(4年)　24’17″77
女子10000mW　青山虹海(3年)　52’01″35
女子10kmW　沖夏子(4年)　49’56
女子ハーフマラソン競歩　沖夏子(4年)　1°53’59



箱根駅伝本戦出場

関東学生連合チーム
4区　本多健亮(修士2年)
7区　秋吉拓真(4年)

活動場所



駒場第一グラウンド
学生会館北側の400m全天候型トラックがあるグラウンドで練習できます。

活動日程

毎週　火曜・木曜・土曜　の3日間＋α

火曜木曜　……　17:00~
土曜　……　10:00~
日曜　……　10:00~(短距離、跳躍、投擲)

※練習時間はパートごとに異なります。
※上記の時間外（授業で使用している時間帯を除く）でもグラウンドは使用できますので、仲間同士で誘い合って練習することができます。
また、火曜・木曜に関しては授業(5限)を優先することが認められています。

その他の情報(X、Instagram、HP、ブログ等)はこちらのリンク集からご覧ください。→
https://lit.link/uttflinks

主将・女子主将にインタビュー！

主将

藤本祐乃介(中距離3年)

〇経歴を教えてください
北野高校(大阪)→東京大学理科一類→工学部化学生命工学科
PB:800m 2′01″13 1500m 4′14″99 5000m 16′38″48
高校から陸上を始めました。走ること自体がかなり好きです。ごく稀にある、大きくPBが出る時の全能感を感じる瞬間も好きですし、インターバルで刻んでいる瞬間も好きです。

〇高校生に伝えたいこと
初めまして、主将の藤本祐乃介です。この部の選手層は幅広くて、大学から陸上を始めた人もいれば、日本選手権に出るレベルの人もいます。全体練習は火曜・木曜・土曜の週3回で、コーチもいます。メインのメニューはパートチーフが考えますが、やりたいことがあれば自由に変えられるので、自由度はかなり高いです。
個人的に一番良いなと思っているのは、部員同士で陸上について良く話すことです。「今日のフォームどうだった？」とか「次の大会に向けてどう調整する？」とか、そういう会話が自然に生まれる。レベルが違っても、みんな真剣に陸上と向き合ってるから、話していて面白いんです。
記録が伸びる瞬間も、伸び悩む時期も、同じグラウンドで一緒に考えてくれる仲間がいる。それが自分を支えてくれました。
「何かに本気で取り組んでみたい」とか「自分で考えながら成長したい」と思っているなら、一度来てみてください。

〇最後に受験生へのエールを！
今の努力が未来のあなたの陸上を支える土台になります。自信を持って、堂々と挑んできてください。
部員一同、みなさんの入部を心待ちにしています。

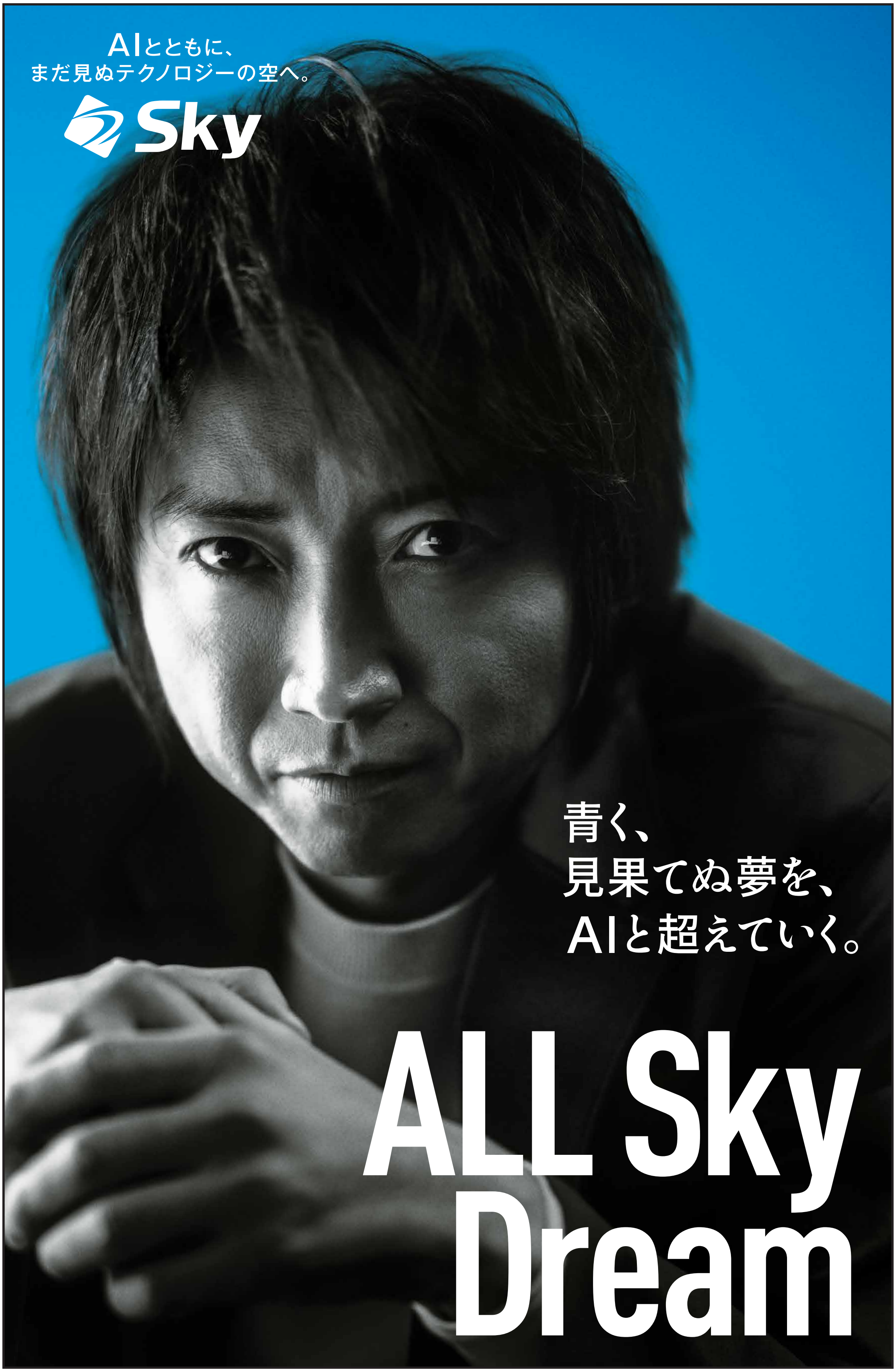
女子主将

柳沙織(長距離3年)

〇経歴を教えてください
岩国高校(山口)→東京大学文科一類→法学部第1類
PB:3000m 10′39″51 5000m 18′25″07
中学から中長距離をしています。最初は800mから始め、距離を伸ばしてきました。

〇高校生に伝えたいこと
こんにちは、女子主将の柳沙織です。
現在、東大陸上部には13人の女子選手と4人の女子マネージャーが在籍しています。人数が多いとは言えませんが、女子同士、パートや学年の垣根を越えて仲が良く、日々楽しく部活動に取り組んでいます。現在、女子は4×100mRでの関東インカレ出場、関東大学女子駅伝出場といったチームとしての目標を掲げて切磋琢磨しながら練習しています。
東大陸上部は初心者から全国レベルまで様々な人に開かれています。大学生活の4年間、陸上に打ち込んで仲間とアツい思い出を作りましょう!!

〇最後に受験生へのエールを！
受験勉強は大変だと思いますが、最後まで自分を信じて頑張ってください！東大合格の暁にはぜひ陸上部へ！
駒場グラウンドでお待ちしています！


AIとともに、
まだ見ぬテクノロジーの空へ。
Sky
青く、
見果てぬ夢を、
AIと超えていく。
ALL Sky
Dream

部員紹介（3年以下）

1.学科・科類　2.出身県・高校　3.PB　4.一言

短距離　sprint

折川京祐

1.工学部宇宙工
2.富山・富山中部
3.100m11.45
4.一歩一歩に夢中になる

落合利紅

1.工学部物理工
2.群馬・中央中等
3.400m51.74
4.たくさん考えて速くなる

木下裕二朗

1.農学部水圏生物科学
2.兵庫・加古川東
3.400mH55.79
4.発揮する

今野碧衣

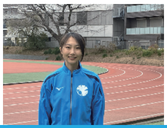
1.教養学部地域文化研究
2.埼玉・浦和第一女子
3.100m13.29
4.阿

多田有沙

1.工学部建築
2.東京・小石川
3.
4.がんばります

畠山小枝

1.工学部生命工
2.茨城・並木中等
3.100m12.95
4.叶



三木菜摘

1.工学部シス創B
2.愛知・旭丘
3.
4.自分と向き合う

遠藤渓一郎

1.農学部農業資源経済
2.東京・本郷
3.100m10.65
4.日の丸背負う

徳山大暉

1.農学部農業生物
2.福岡・小倉
3.100mH15.38
4.ハードルをかち割る

西川諒

1.工学部応用化学
2.奈良・西大和学園
3.100m10.91
4.本職はトッパーです

林健太郎

1.薬学部
2.埼玉・栄東
3.100m12.15
4.野菜2倍食う

松本龍樹

1.法学部1類
2.東京・海城
3.100m11.12
4.鈍足と俊足こそ東大に行け

宮宇地彬

1.工学部機械情報
2.愛知・岡崎
3.100m12.92
4.陸上部が好きです

元田睦大

1.薬学部
2.東京・麻布
3.100m12.07
4.頑張るゾ

和田優輝

1.農学部動物生命システム科学
2.兵庫・須磨学園
3.400m51.26
4.肉離れも追いつけないスピードで

岩田優

1.理科一類
2.愛知・一宮
3.110mH12.92
4.自認ラシッド

内山陽文

1.文科二類
2.奈良・西大和学園
3.100m11.69
4.もっと速くなります

大沼歩生

1.理科一類
2.栃木・石橋
3.400m52.04
4.かまします

小田槇太朗

1.文科一類
2.鹿児島・ラ・サール
3.100m10.54
4.ありがたいことです

川崎太陽

1.理科二類
2.栃木・宇都宮
3.100m11.11
4.マルチスプリンターになる

佐藤吏輝

1.理科一類
2.茨城・竹園
3.400mH56.19
4.もうハムが切れませんように

塩川玲央

1.理科一類
2.静岡・静岡
3.400m51.87
4.自認アーニャ

信田泰知

1.理科一類
2.東京・海城
3.100m12.29
4.伸び盛り

田中基愛

1.文科三類
2.福岡・修猷館
3.110mH15.54
4.もう骨は折らない

戸田匠音

1.文科二類
2.京都・洛南
3.400m57.53
4.もっとストイックになる

松本幌平

1.文科三類
2.東京・城北
3.400m51.93
4.対校選手になります

渡辺遥斗

1.理科一類
2.北海道・札幌南
3.100m10.84
4.世界のWATANABE

三輪記子の法律事務所

弁護士　三　輪　記　子　Ｈ１４ 法学部卒業

家事事件・男女トラブル
相続・財産管理
一般民事事件
労働事件
企業法務
刑事事件

✴まずはお気軽にご相談ください✴

表参道・明治神宮前駅徒歩７分
〒150－0001
東京都渋谷区神宮前4-23-10ラルコバレーノ神宮前102
TEL　03-6438-9713　　FAX　03-6455-5915
E-MAIL　info@miwafusako.com
WEB　https://www.miwafusako.com/

中距離　middle distance

竹下柚稀

1.工学部シス創B
2.静岡・静岡
3.800m2′03″23
4.チーフの責任を果たす

藤本裕乃介

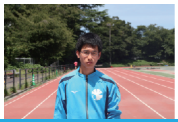
1.工学部化学生命工
2.大阪・北野
3.800m2′01″13
4.楽しく記録向上

榎本涼馬

1.薬学部
2.東京・筑波大付属
3.800m1′59″40
4.1500を速く走れば全部解決

小栗蒼一郎

1.教養学部統合自然科学
2.神奈川・横浜市立南
3.800m1′54″38
4.まだ伸びる



恩田武琉

1.工学部機械工
2.神奈川・横浜市立南
3.800m2′04″84
4.怪我しない

寺尾瑛司

1.経済学部経営
2.茨城・土浦第一
3.800m2′18″06
4.風邪ひかない

布施力

1.法学部三類
2.東京・小石川
3.800m2′00″98
4.更なるブレイクスルー

三田悠人

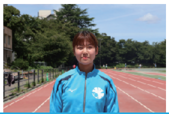
1.理学部化学
2.東京・筑波大付属
3.800m2′02″30
4.我武者羅に頑張ります

倉田拓実

1.理科一類
2.大阪・北野
3.1500m4′38
4.4分切りたい

佐藤大獅

1.文科一類
2.神奈川・湘南
3.800m2′06″42
4.ブランクを乗り越える



服部瑞季

1.理科二類
2.富山・富山中部
3.800m2′29″79
4.過去の自分に勝つ

吉澤登吾

1.理科一類
2.東京・桐朋
3.800m1′47″80
4.世界レベルの走り

長距離　long distance

渡邊慶大

1.医学部医
2.神奈川・聖光学院
3.5000m14′39″64
4.チーフは君臨すれども統治せず

井上剛志

1.農学部国際開発農
2.東京・早稲田
3.5000m16′50″34
4.恐れず侮らず焦らず怠らず

大森智

1.農学部国際開発農
2.千葉・渋谷幕張
3.5000m14′22″73
4.ラストイヤーのキーワードは貪欲

久保信三郎

1.文学部社会心理
2.東京・暁星
3.1500m4′23″98
4.怪我なく駆け抜けます！

小泉亮太

1.教養学部統合自然科学
2.東京・筑波大駒場
3.5000m16′50″33
4.がんばります

瀧野幹拡

1.工学部航空宇宙工
2.東京・筑波大駒場
3.10000m33′11″16
4.今年に懸ける

田中風舞

1.法学部一類
2.栃木・宇都宮
3.5000m15′43
4.気合いだ！気合いだ！気合いだ！

日影拓真

1.法学部三類
2.岩手・盛岡第一
3.5000m17′29″65
4.大器晩成

藤井敬大

1.医学部健康総合科学
2.神奈川・厚木
3.5000m15′38
4.デジタルデトックスしたい

柳沙織

1.法学部一類
2.山口・岩国
3.3000m10′39″51
4.ラストイヤー頑張ります！

進め。

やればできる。
必ずできる。
そして本物になる。

意志が実力をつくり、実力が道を切り拓く。
積み重ねた努力の全てが、自分を本物に育てていく。

伊藤塾は、合格だけで終わらない、
社会で活躍できる「本物」を育てる受験指導校です。

予備試験ルートからの司法試験合格者
伊藤塾有料講座受講生 占有率
95.3%

大学在学中（出願時）の予備試験ルート司法試験合格者
伊藤塾有料講座受講生 占有率
98.6%

国家総合職内定率
伊藤塾本科講座受講生
83.3% 全体の2倍超

伊藤塾

植木優仁

1.経済学部経営
2.兵庫・長田
3.1500m4′19″36
4.楽しながら走ります

大宮夏輝

1.教養学部統合自然科学
2.茨城・日立第一
3.5000m14′54″24
4.ハロー どうも 僕はここ

小林風馬

1.法学部三類
2.埼玉・県立浦和
3.ミスド20.5個
4.目指せ70kg

菊池翼

1.経済学部金融
2.千葉・市川
3.5000m16′34
4.鳥のような軽い走りを!

高木啓陽

1.教養学部統合自然科学
2.鹿児島・ラ・サール
3.5000m16′00″78
4.ペナルティ「凍結」

大槻修也

1.教養学部統合自然科学
2.千葉・市川
3.3000mSC9′44″23
4.代謝max

鈴木隆史

1.経済学部経済
2.静岡・磐田南
3.5000m16′45″71
4.どうも左翼です

仁井田徳真

1.工学部航空宇宙工
2.愛知・岡崎
3.1500m4′18
4.男子部員求ム。

山田望仁

1.教養学部統合自然科学
2.静岡・浜松北
3.1500m4′03
4.ンゴゴ・チンパンジー

有田周

1.理科二類
2.和歌山・智辯和歌山
3.1500m4′20″07
4.コツコツ練習継続します

大江至道

1.理科一類
2.兵庫・灘
3.1500m4′25′98
4.楽しんだもん勝ち

小川哲生

1.理科一類
2.東京・芝
3.5000m17′20″61
4.怪我なく走りたい

小澤直紘

1.理科一類
2.埼玉・県立浦和
3.5000m15′35″07
4.日々精進します

小泉裕翔

1.理科二類
2.栃木・宇都宮
3.5000m16′05″54
4.足が速くなりたいです

鈴木晴陽

1.理科一類
2.神奈川・湘南
3.5000m15′10″43
4.東大チームで箱根本戦

染川尊俊

1.理科一類
2.茨城・並木中等
3.5000m15′25″92
4.14分台を目指します

田中智也

1.理科一類
2.東京・海城
3.1500m4′48″25
4.脱初心者

渡邊晴香

1.文科三類
2.兵庫・姫路西
3.3000m9′49″01
4.長ければ長いほど性に合うのです

Beyond Imagination

日本の中心で培った知見と情熱、 それをどこで活かすべきか。
東京一極集中からの脱却が叫ばれる今、 地方の課題は国の課題であり、
新たなフロンティアである。 みなさんの知的好奇心と社会貢献意欲。
その両方を、 真に社会が求めている場所で爆発させる。
香川県は、 地方都市は、 その舞台として完璧な条件を備えている。

FUEL JAPAN'S PROVINCES

香川で、 地方で働くという選択肢

香川県での UIJ ターン。 それは、 単なる移住ではなく、
あなたの能力を最大限に発揮できる場所への挑戦です。
地域経済の担い手として、 あるいは行政の核心で、
やりがいに満ちたフィールドがあなたを待っています。

■香川独自のUIターン支援制度（助成金、住宅支援）
■起業支援プログラム
■県内有力企業とのマッチングイベント開催予定

Our Group

株式会社 UR

ヒューマンプランニング株式会社

社会福祉法人太陽福祉会

跳躍　jump

尾嵜玄空

1.工学部システム創成
2.奈良・東大寺
3.走幅跳6m98
4.やらない後悔よりやって大成功

大野夢真

1.文学部英語英米文
2.埼玉・県立浦和
3.走幅跳6m64
4.虚心坦懐に努力します

坂本向輝

1.理学部生物
2.福岡・修猷館
3.三段跳14m37
4.バネ人間になります

橋本官樹

1.教養学部統合自然科学
2.東京・都立青山
3.やり投げ45m84
4.毎試合PB出す

寺西拓

1.理科一類
2.石川・金沢泉丘
3.三段跳13m64
4.関カレは通過点

競歩　race walking

青山虹海

1.農学部応用生物
2.富山・富山
3.5000mW26′30″04
4.悔いのないラストイヤーに!

越國太貴

1.工学部都市工
2.北海道・札幌北
3.5000mW20′14″52
4.最強になります

三村珠広

1.農学部獣医
2.東京・桜蔭
3.5000mW30′51″14
4.目指せオールラウンダー

髙島啓嗣

1.文科三類
2.福岡・久留米大附設
3.5000mW24′53″15
4.心臓を捧げます

投擲　throw

沖田康太朗

1.文学部倫理
2.静岡・磐田南
3.ハンマー投48m56
4.対校戦がんばる

杉田知隆

1.法学部三類
2.奈良・東大寺学園
3.円盤投げ25m02
4.食べて食べて寝てまいります

村上凛

1.法学部二類
2.富山・富山中部
3.ハンマー投39m44
4.そぉーらをーおしあぁげてぇー

寺田良

1.理科一類
2.兵庫・北摂三田
3.槍投げ37m38
4.チームに貢献

マネージャー　manager

永田愛吏

1.文学部英文
（日本女子）
2.静岡・藤枝明誠
4.こんにちぴ～

黒部涼乃

1.看護学部看護
（聖路加国際）
2.千葉・芝浦工大柏
4.明るく楽しく頑張ります!

橋場彩香

1.看護学部看護
（聖路加国際）
2.群馬・ぐんま国際
4.楽しむ!

粟屋渓

1.看護学部看護
（聖路加国際）
2.埼玉・淑徳与野
4.正確かつ丁寧なサポートをする

三井住友銀行は
目標に向かって頑張る
皆さんを応援しています！

渡辺さん(昭和59年卒)
森野さん(昭和64年卒)
三橋さん(平成2年卒)
日隈さん(平成3年卒)
内田さん(平成4年卒)
加藤さん(平成5年卒)
太田さん(平成7年卒)
伊藤さん(平成8年卒)
柴田さん(平成9年卒)

保泉さん(平成11年卒)
田口さん(平成14年卒)
藤田さん(平成17年卒)
宮崎さん(平成18年卒)
竹内さん(平成19年卒)
山本さん(平成20年卒)
青木さん(平成24年卒)
土居さん(平成24年卒)

山下さん(平成25年卒)
津田さん(平成27年卒)
加藤さん(平成29年卒)
渡邉さん(平成30年卒)
戸部さん(平成31年卒)
坂口さん(平成31年卒)
三宅さん(令和2年卒)
岩田さん(令和6年卒)

復刊　第 73 号(令和 8 年版)

目次

表紙　題字　故緒方知三郎先生(明治 40 年卒)

会長挨拶

会長　小林寛道

令和 7 年度は、東京大学陸上運動倶楽部の役員改選の時期にあたり、あと 1 期だけ会長を務めることになりました。理事長を室城氏が務めて下さるということから、お引き受けすることになりました。わたくしは、前会長の大河原良雄先生から会長職を引き継ぎましたが、会長職について、会則には、年齢についての記述はありません。しかし、今後の慣例として、任期はおよそ 85 歳までとして、引継ぎすることが良いのではないかと思います。

長い間、陸上運動部長を務めて頂いた八田秀雄先生の定年退職後、新部長として工藤和俊先生が活躍してくださいました。お陰さまで新しい部室や器具庫が完成しました。担当の小林理事をはじめご賛同を頂きました方々に厚くお礼申し上げます。

八田秀雄先生は、昨年度の会報で、部長という立場や職責について募る想いを記述されていますが、色々な葛藤がある中でご尽力を頂き大変有難く思っております。

陸上運動倶楽部のメンバーである OB の皆さんが、日本のスポーツ界での様々なお世話役として活躍され、気負うことなく楽しくその重責を担って下さっていることがとても頼もしく、誇らしい気持ちです。このことは、陸上運動部で活躍されている現役の学生選手たちにとって、将来、社会での活躍の良い見本となっているのではないかと思います。

令和 7 年度は、京大戦には勝つことができませんでしたが、京大蒼穹会との交流は和やかに続けられています。京大戦では、電気計時の機器の不具合によって、何回もスタート後にやり直しの場面が生じましたが、こうした不具合はできるだけ生じないようにする工夫が必要と思いました。選手には気の毒ですし、応援する側にとっても気持ちの集中が途切れてしまいがちです。

陸上運動倶楽部の目的には、現役部員の活動の補助援助とともに、会員同士の親睦も非常に重要な役割を持っています。また、パートごとの現役とＯＢの交流も素晴らしいことだと思います。

本年も、昨年度に引き続き、箱根駅伝に大学院生の本多君と、2 年連続出場を果たした秋吉君の健闘が、学内的にも社会的にも注目を集めました。

最近では、ランニングシューズの性能によって、著しく記録の向上が図られてきています。シューズの性能が高くなり、記録の出やすい状況ですが、怪我をすることの弊害も報道されるようになりました。全天候用走路ができたころには、ハムストリングスの肉離れを起こす選手が多くあらわれ、東大駒場グラウンドを全天候用走路にしようと考えた時に、肉離れが起きるという理由で心配する部員がいました。

スポーツには怪我は付き物であるという潜在的な危険性について自覚を持ちながら日々の練習や試合に取り組んでいただきたいと思います。　皆さんのご活躍を期待いたします。

部長挨拶

部長　工藤和俊

　部長を拝命してから、まもなく 1 年が経とうとしています。思えば昨年の私は、新年早々、箱根駅伝の沿道で一教員として東京大学を応援していました。その私が、今年は部長として再び沿道に立ち、選手たちを応援することになるとは、全く予想だにしませんでした。この 1 年間、部の運営に関わってこられたのは、多くの OB・OG の皆様、そして八田秀雄前部長をはじめとする関係者の皆様のお力添えあってのことと感じております。この場をお借りして、改めて深く御礼申し上げます。

　また、念願であった部室棟も無事に竣工し、陸上運動部の練習環境は着実に向上しています。こうした環境のもとで、部員一人ひとりが練習を継続し、それぞれの目標に向かって挑戦していくことを願っています。

　私は現在、教養学部において前期課程の「身体運動・健康科学実習」や「スポーツ・身体運動実習」を担当しています。大学時代は心理学を専攻し、社会科の教員免許を取得しましたが、縁あって現在はスポーツや身体運動を教える立場にあります。特に優れた競技成績を残したわけでもなく、体育の教員免許を持っているわけでもありません。その私が今日までスポーツの世界に関わり続けてこられたのは、運動することの楽しさ、練習によって上達していく喜び、そして思うように上達しない壁を乗り越えた先に訪れる成長の瞬間といった、スポーツならではの魅力に強く惹かれてきたからだと感じています。

　私自身は大学を卒業してすでに 35 年が経ちましたが、学生時代に部活動に熱中した経験はいまなお私自身の大きな財産となっています。大学を取り巻く環境や大学スポーツの在り方は大きく変化していますが、スポーツに真剣に向き合う選手の気持ちや、その姿を応援する卒業生の方々の思いは、今も昔も変わらないものだと思います。

　スポーツを教える教員としての私の目標は、将来振り返ったときに「スポーツや運動に取り組んでよかった」と感じられる方々を一人でも多く増やすことです。部長としても、部員一人ひとりが自己実現に向かって歩んでいくための後押しができるよう、新たな一年に向けた環境づくりを引き続き支えていきたいと考えています。

　今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

理事長挨拶

理事長　室城信之

2025 年度、シーズン開幕を飾る六大戦は主将の秋吉が 5000mで優勝するなどの活躍があったものの、男女とも総合 6 位と課題の残るスタートとなりました。関東インカレは十種競技で田中が 5 位入賞、10000mWで越國 3 位、金谷 4 位、H J で坂井が 8 位、ハンマー投で沖田が東大新を記録し 8 位入賞、5000mで秋吉が 13 位(日本人 6 位)と、一定の成果を収めることができたと思います。従来夏季の開催であった OBOG 戦は猛暑を避けて 5 月に開催。多くの OBOG にご参加いただきました。七大戦は男子総合 4 位、女子総合 7 位という結果でしたが、男子は長距離などを中心に健闘。秋吉が、1500m、5000m、3000mSC の優勝で MVP に輝き、フィールドでは投擲種目で得点を重ねることができたのは収穫でした。9 月には東京で世界陸上が開催。駒場グラウンドが投擲の練習会場になり、世界のトップアスリートのパフォーマンスを目の当たりにすることのできる貴重な機会となりました。そして 10 月には念願であった部室が完成。10 月 5 日開催の京大戦の際には、OBOG の皆さんにも部室の内覧をしていただきました。その京大戦は、男女ともに京大に敗れたものの、秋吉が 1500m、5000mいずれも大会新記録で優勝するとともに、数人が関東インカレ標準記録をクリアするなど、得るものもある大会となりました。箱根駅伝予選会は、昨年と同様 10 月とは思えない暑さの中、学部チーム、大学院チームともに健闘。学部チームからは秋吉、大学院チームからは本多が、昨年に続いて両チームから関東学生連合チームに選出されました。特に秋吉は全体で 12 位（日本人中 5 位）という好走。チーム選出ルールの変更があったため、秋吉は 2 年連続での出走が可能になりました。11 月には恒例となった「皇居周回駅伝」が開催され 7 チーム（各組 4 人）が参加。「申告タイムに近いチームが優勝」という誰でも楽しめるルールで大変盛り上がりました。そして、今や国民的行事となった箱根駅伝。4 区に大学院の本多が、7 区に秋吉が出場。本多は当初補欠でしたが体調不良者が出たために急遽出場となり、秋吉は予選会の後に肺炎を発症して危ぶまれたものの、本番までに回復して 2 人とも好走。特に秋吉は区間 4 位相当というすばらしい結果を残しました。沿道には多くの OBOG、東大応援部、そして藤井東大総長にも応援に駆けつけていただきました。対校戦等の結果は以上であり、全力を尽くした部員諸君に敬意を表したいと思います。

なお、「部室再建」の寄付につきご協力をいただいた皆様、誠にありがとうございました。今後必要となるグラウンドの改修等経費の高騰が予想されることから、引き続きご支援をお願いいたします。

陸上運動倶楽部会員の皆様には、陸上運動倶楽部並びに陸上運動部へ一層のご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

監督挨拶

監督　藤田靖浩

2025 年で、一番盛り上がったのは、何といっても 34 年ぶりの東京世界陸上です。日本の選手の活躍も目立ちました。私も 6 日間観戦に行きましたが、多くの会員の皆様にお会いしましたし、全国の他大学の陸上関係者と久しぶりに会うこともできました。皆様ご存じの通り、東大のグラウンドは投擲練習場となっており、砲丸投げも 20m以上投げられるように整備されています。そして、世界陸上のタイミングに合わせ、ついに念願の部室・倉庫が完成しました。会員の皆様や大学関係者の皆様から多大なるご支援・ご協力を頂き、なんとかここまでこぎつけることができました。ミーティングや体のケアもそうですし、特に用器具の保管という点についても、非常に苦慮してきたところですので、新しい部室を最大限活用し、改めて東大陸上部を盛り上げていきたいと思います。

さて本題の競技面での振り返りですが、全体としては、対校戦でなかなか勝利することができず、少々厳しいシーズンとなりました。個々の記録を見ますと、短距離では下級生中心に関東インカレ標準を突破する好記録が多数生まれたり、中長距離、競歩、ハンマー投で東大記録が生まれるという良い結果もありましたが、総合力の底上げが大きな課題です。幸い、部員数も増加傾向にありますので、お互いに刺激しあい、高めあって、26 年、27 年の関東インカレ一部昇格を目指して頑張って参ります。

一方、シーズン終盤の箱根駅伝では、秋吉、本多の 2 名が出場しました。当初は 1 名のみの出場を想定していましたが、直前の入れ替えで昨年同様に 2 名が出走し、大学関係者のみならず、世間からも注目を集めることができました。ルールの変更に伴い、当面は学連選抜チームは維持されることになりましたが、高い目標ではありますが、チームでの出場も目指しながら、引き続き力を入れていきたいと思います。

最後になりますが、26 年のシーズンは、関東インカレが栃木、日本選手権が名古屋、七大戦が福岡、京大戦が京都、と遠征が多くなっております。最近は WEB 配信も多いですが、やはり現地で応援していただけると力になりますので、是非、ご旅行がてら観戦に来ていただけますでしょうか。

今年度も引き続きよろしくお願い致します。

主将挨拶　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**主将　藤本裕乃介**

平素より多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。本年度主将を務めます中距離パート藤本裕乃介です。新部室の完成、心より御礼申し上げます。また世界陸上東京大会では多くの部員が運営に携わり、世界最高峰の熱気に触れ大きな刺激を受けました。

昨季は、箱根駅伝に 2 年連続で本多・秋吉の 2 名が出場、特に秋吉は区間 4 位相当の好走を見せました。U20 王者経験を持つ吉澤の入部や 7 名の東大記録更新など、「個」の輝きが増した一年でした。一方で、七大戦 4 位や京大戦敗北、関東インカレ 2 部 14 位（17 点）という現実は、選手層の薄さを痛感させるものでした。今季はチーム全体の底上げを図りつつ、対校戦の本質である「順位争い」に徹します。持ちタイムで劣っても、スロー展開への対応や競り合いを制する戦術眼を磨けば勝機はあります。

本年度は記録の追求に加え、泥臭く一点をもぎ取る執念を植え付け、チーム一丸となり勝利を目指します。変わらぬご声援をお願い申し上げます。

女子主将挨拶　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**女子主将　栁沙織**

女子主将を務めさせていただきます、長距離の栁沙織と申します。OB・OG の皆様におかれましては、日頃より温かいご支援・ご声援をいただき、心より感謝申し上げます。

女子選手は現在新 4 年生 6 名、新 3 年生 2 名、新 2 年生 2 名で活動しております。下級生が少ないという課題はあるものの、2025 年度には三女戦で久しぶりの優勝を果たすことができました。また、競歩の沖と青山、長距離の渡邉の 3 名が東大記録を更新する活躍も見られました。

2026 年度も部員一人ひとりが自己記録を更新し、対校戦では少しでも順位・得点を伸ばすことができるよう、互いに声を掛け合って練習に励んでまいります。具体的には、4×100mR での関東インカレ出場、関東大学女子駅伝出場を大きな目標に考えております。今後とも変わらぬご支援・ご声援のほどよろしくお願いいたします。

主務挨拶　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**主務　今野碧衣**

2026 年度の主務を務めさせていただきます、短距離 4 年の今野碧衣と申します。

主務に就任してから倶楽部関係の仕事にも携わらせていただく機会が増え、陸上運動部という組織の大きさと深い伝統を日々感じております。私自身を支え、成長させてくれた場所である陸上運動部に少しでも貢献できるよう、これからも精進してまいります。

さて、2025 年度は対校戦の結果が奮わず悔しいシーズンとなりました。複数の東大新記録が出た一方で、チーム全体としての実力不足が露呈した形となりました。今シーズンはその悔しさをバネに、「強い東大」を取り戻せるように精進してまいります。

昨年秋には多くの OBOG の皆さまのご支援のおかげで念願の新部室棟が完成しました。このご恩に結果でお答えできるよう、部員一丸となって貪欲に勝利を目指していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

中長会報告

2025 年度の中長会は 2026 年 1 月 31 日(土)、駒場キャンパスの学生食堂にて開催されました。当日の参加者は現役が院生を含めて 36 名、卒業生が 15 名での会となりました。

中長会では、会計係の榎本涼馬くんが作成したスライドを見ながら、1 年間の活動を振り返りました。詳細は本会報にも別途記載がありますが、4 年で主将の秋吉くんは六大戦で 5000m 優勝、七大戦で 1500m、5000m、3000mSC の 3 冠、京大戦で 1500m、5000m の 2 冠､そして箱根駅伝予選会から本戦での好走と大車輪の活躍をみせました。卒業後も実業団 MABP マーヴェリックで競技を続ける予定なので、引き続きの活躍に期待したいと思います｡また中距離では高校時代に日本代表の経験をもつ 1 年の吉澤登吾くんが関東インカレで予選突破、2 年の小栗蒼一郎くんが京大戦で 1 分 54 秒台での 2 位、また長距離では 3 年の大森智くんが七大戦で 2 位になるなど、着実に次の世代も育っている状況であり、新年度の活躍も期待したいと思います。

1 年間の活動報告に続いては、本年も学部生から 1 名、院生から 1 名が参加した箱根駅伝の報告があり､丸亀ハーフ前日ということで秋吉くんはビデオメッセージでしたが、本多くんはリアルで参加してくれました。なお、丸亀ハーフでは秋吉くんが 61 分 01 秒の東大新、3 年の大森くんが 63 分 56 秒の歴代 3 位、また本多くんが 63 分 03 秒の大学院記録と好記録をマークしております。

その後は今年の 1 年生（中距離 4 名、長距離 9 名、競歩 1 名の計 14 名。昨年度比 5 名減）に自己紹介をしてもらい、懇談しながら、参加した卒業生の言葉と続きました。多くの卒業生が走り続け、また現役時代の過ごし方を共有していただくことで、現役の皆さんも大いに刺激を受けたことと思います。

中長会では例年、多くの OB･OG の皆様から特別寄付をいただいています｡2025 年度は 150 名もの方々からご協力をいただきました。また本年も昨年に続いて箱根駅伝臨時寄付を募りましたが、138 名・219 万円余りのご支援をいただきました。皆様に改めて御礼申し上げるとともに、現役の意向を踏まえ、有効に活用させていただきます。

最後に、箱根駅伝に関して、2 年連続して学部生・院生から 1 名ずつ出走しており、東大の新たな伝統になりつつあります。この伝統を絶やすことなく、お互いが切磋琢磨して競技力の向上に励んでいただければと思います。現役の皆さん、大いに頑張ってください！

（報告者　松本翔＜2008 年卒＞）

中長会 2026 1/31

池田元美	1969	小林俊	1975	沖田協介	1979
坂本修一	1981	野田晴彦	1981	宗石譲	1982
太田充男	1984	清水明	1984	渡辺吏	1984
渡辺典之	1984	栗田晴彦	1985	大谷薫	1986
半村哲	1997	新妻拓弥	2001	松本翔	2008

名前/卒年

中長会参加者名簿一覧(敬称略)

部室再建プロジェクト完了について

部室再建ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾘｰﾀﾞｰ
副理事長 小林徹

1． 部室再建プロジェクトの完了について

旧トレーニング体育館の取り壊しと跡地への講義棟新築計画の実施に伴い旧陸上部室がなくなることとなり、倶楽部として部室を再建させるべく 2020 年 7 月の書面での総会承認を経て部室再建プロジェクトが立ち上がりました。
以来約 5 年強、コロナ禍という前代未聞の災禍に見舞われたり、大学自体の厳しい収支の影響を受けるとともに昨今の各種建築費用の高騰の影響を受け寄付目標額を上げる必要に迫られるなど、様々な厳しい状況もありましたが、
・倶楽部会員の皆様からの多大なるご寄付
・大学当局との粘り強い各種調整をいただいた八田総監督のご尽力
・内山さんの全カレ優勝、2 年連続の箱根駅伝出走など、現役部員の継続的な活躍での東大プレゼンス向上への寄与により、大学当局の前向きなサポートが得られたこと
などの後押しとともに、駒場が東京世界陸上の練習会場となった追い風などもあり、2025 年 9 月に部室棟が無事竣工し、世界陸上の練習会場としての供用を終えた後に大学側より引き渡しを受け、以降部室内備品の整備を経て陸上部室としての供用を開始しております。
これまでの厚いご支援本当にありがとうございました。

2． プロジェクトの最終状況について

1．最終収支について

部室棟の建設計画がある程度明らかになった 2022 年度より倶楽部会員に向けて部室再建寄付のお願いを差し上げた結果、2025 年末の段階で **104,470,411 円**のご寄付をいただきました。目標金額を大きく上回るご寄付をいただき、改めてお礼申し上げます。なお本来であれば寄付者数のご報告も差し上げるべきところですが、東大スポーツ基金経由での寄付者情報の提供に時間を要しており、確定人数については入手し次第別途ご報告をさせていただきます。
一方で費用については、部室棟建設費として 90,972,047 円を要しましたが、八田総監督の調整もあり、
・寄付の多くが東大スポーツ基金経由であり、基金内で多額の寄付貢献があった
・陸上部としての活躍が大学プレゼンスの向上に寄与した
ことなどを評価されたこともあり、東大スポーツ基金の大学部分（全体口）から費用充当がされた結果、倶楽部としての負担額は 81,396,043 円となりました。
そこに部室内備品費などの費用を加えた費用計としては **83,570,301 円**となりました。
その結果、最終的には **20,900,110 円の黒字**として完了することが出来ました。
この残額につきましては、倶楽部基金に繰り入れを行い、今後さらなる部室設備の拡充が発生した場合の費用充当や、その他今後のグラウンド改修をはじめとした倶楽部としての必要基金として運用していく予定です。

2．部室棟・部室内について

場所は学生会館・課外活動共同施設の並びに第一グラウンドに面した形で建設されました。

部室棟自体は2階建で、1階・2階ともに94.25㎡となっており、
・1階には男・女・バリアフリートイレ（共用）、男子更衣室（共用）25.11㎡、体育用倉庫（共用）6.83㎡、陸上部専用倉庫33.60㎡
・2階には女子更衣室（共用）20.21㎡、陸上部室67.20㎡
が設置されています。
陸上部としては、1階の専用倉庫と2階の部室を専用使用するとともに、その他共用更衣室・トイレを使用することが出来る形となっています（陸上部専用部分以外は大学管理）。
陸上部室にはエアコン、大学のwifiが設置されており、居室としての快適性も確保されています。
部室内の備品としては、既に全部員数を上回るシューズロッカーを設置するとともに、打ち合わせ・作業用のテーブル、デスクワーク用長テーブル、ミーティング用チェアなどを整備しており、今後大型テレビモニター、空気清浄機、冷蔵庫、製氷機などをはじめとした家電類を整備する予定です。部としての活動はもとより、部員相互のダイレクトコミュニケーションの場として、また駒場生を中心として空き時間の有効活用の場として、整備を進める予定です。
既に現役部員はすべて「部室レス」世代となっており、供用開始直後はおっかなびっくりでの利用となっていましたが、徐々に「たまり場」になりつつあります。

3．今後の取り組みについて

上記の通り引き続き必要な備品の整備を進めていく予定です。
また今回の部室再建に向けて寄付いただいた会員の皆様の銘板を、部室内に掲出させていただく予定です。
加えて大学管理の男女更衣室について、
・現状の施設状況では更衣室としての設備に不足があること
・同施設の主たる利用者が陸上部員となること
なども踏まえ、大学側と調整を行いながら倶楽部としても施設整備を行い、利用に供することが出来るようにする予定です。
なお上記の対応予算については、概算の金額を最終収支の費用に組み込み済みであり、新たな費用の発生はない予定です。

4．現役部員の声（抜粋）

＜部室についての感想＞

・居場所ができて嬉しい
・居心地も良くテスト前には勉強部屋としても活用させていただいています
・部活前の空きコマや、試験前の勉強で使っています。新しい居場所が増えてとても嬉しいです
・仲間とのコミュニケーションが確実に増えた
・何かあった時にいける場所がある安心感がすごい
・非常に使い勝手が良いです。空調が自由に調整できるので快適に過ごせています。ロッカーもあることで多くの荷物を持ち運ぶ必要がなくなりました

＜今後どのように使いたいか＞

・溜まり場
・部活前の時間潰しや課題を進める際に使いたいです
・憩いの場。他パートとの交流の場
・パートのミーティング等でも利用できるとより部室の用途に幅が広がると考えます

・場所が欲しいときの居場所、部関連の用事

＜部室にまつわるエピソードなど＞
・個人的なものでは、ほとんど関わりのなかった他パートの1・2年生と話す機会を得ることができました
・ピザをとって追いコンをしたのが楽しかった
・練習のレストで寒いときに風に当たらずに済むようになった
・テスト期間にみんなで集まって勉強会
・寒い日に暖房が効いた場所でストレッチできてほっこりした
・大会の時にとてもいい休憩スペースとしても使えました。（補助員審判の合間とか）
・同じ学科の皆で演習できた

ようやく以前の日常が戻ってまいりました。改めてありがとうございました。

部室棟・部室の状況について

正面（グラウンド側）

裏側（校舎側）

2階部室への階段

階段側（左側がグラウンド）

部室入口裏側（居室側）

部室入口

部員用シューズロッカー

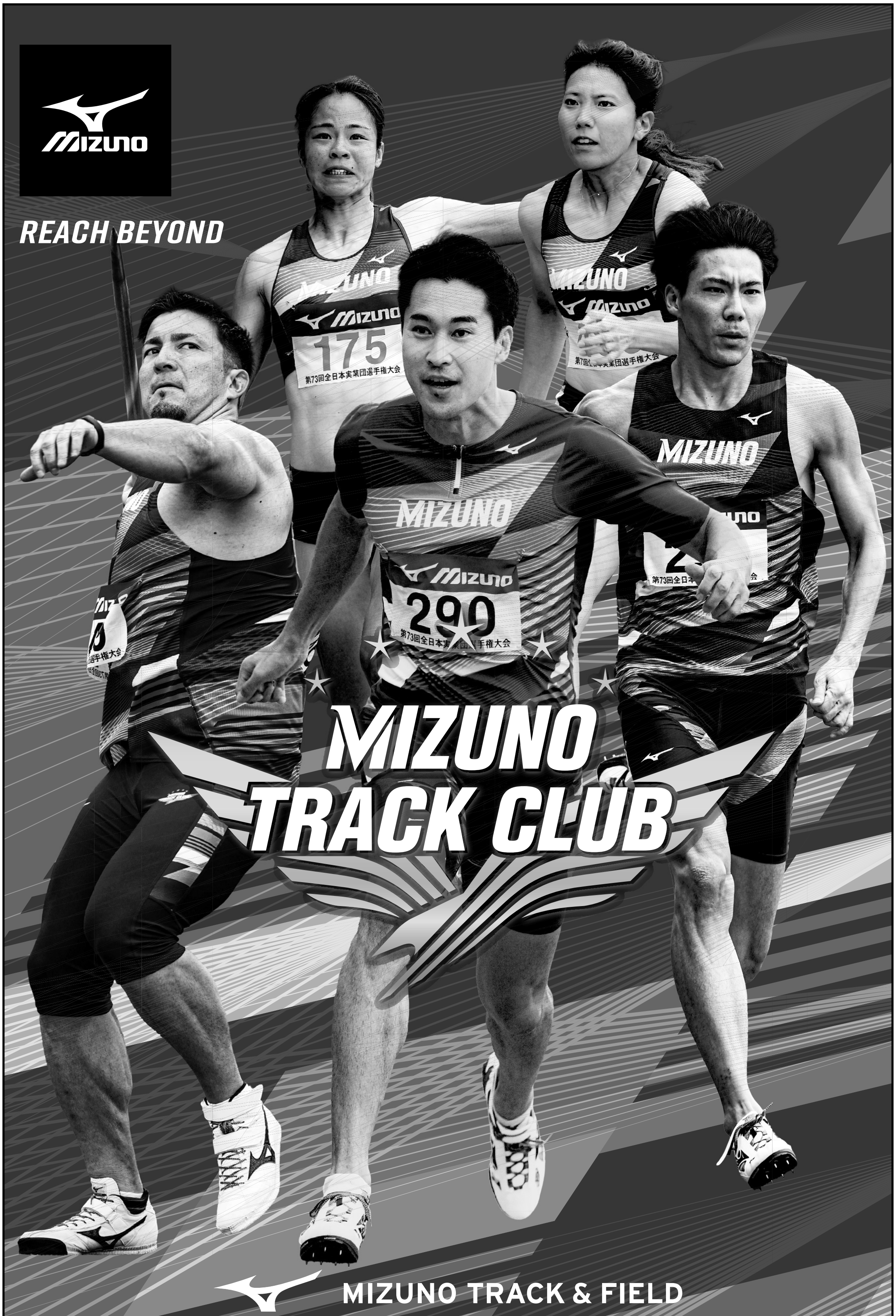
ロッカーと荷物置き

デスクワーク用テーブル

部室よりグラウンドを望む

１階陸上運動部倉庫

駒場地図（矢印の所に部室棟）


MIZUNO
REACH BEYOND
MIZUNO
TRACK CLUB
MIZUNO TRACK & FIELD

特別企画　～箱根駅伝～

2026 年 1 月 2 日・3 日に開催された第 102 回箱根駅伝に、秋吉拓真（4 年）と本多健亮（修士 2 年）の 2 名が出場した。本多は直前の繰り上がりにより 4 区を、秋吉は 2 年連続の出走で今年は 7 区を走った。箱根路に立った 2 人は、その大舞台で何を感じ、何を思ったのか。両選手に振り返ってもらった。

夢の箱根駅伝を終えて

秋吉拓真(4 年)

平素より大変お世話になっております。長距離 4 年の秋吉拓真です。今年の箱根駅伝 7 区に関東学生連合の一員として出走し、2 年連続の箱根駅伝出場となりました。まず初めに OBOG の皆様には多大なるご支援、ご声援を頂きありがとうございました。昨年は箱根駅伝 8 区を走り、学生連合選出のルール上 1 回までしか走れないため最後の箱根路を終えたつもりでした。しかし、幸運なことにルール変更により出走制限が 2 回に引き上げられ、予選会で好走出来たこともあり、7 区に出走となりました。当日は近藤コーチと同期の森に付き添いをしてもらい、小田原中継所に入りました。体の状態は特に問題なく、よいコンディションでスタートラインに立つことが出来ました。近藤コーチには最初は下りなので抑えて入り、1-2km で平地になったところから徐々にエンジンをかけていこうという指示をもらっていました。結果として思ったより速く入ってしまいましたが、その指示を意識していたので非常にリラックスして走り始めることができ、平地になってからもしっかりスピードを出すことが出来ました。東洋大学、立教大学、東京国際大学と 1 チームずつ目標にして追い抜いていき、6km ほどで 3 校をかわしてからは東海大学を追いかけて走ることが出来ました。5km の通過が手元で 14'05 でかなり手応えを掴んでいました。しかしながら、5-6km で右脇腹に差し込みがきてしまい、ペースを落とさざるを得ませんでした。自分のペース管理が甘かったと思いますが、冷静に最低限の対処を行えたのは良かったです。12km 手前の二宮の坂で東海大学を捉え、登りと向かい風で少し走りが乱れていたので、東海大学の選手と引き合いながら走りを整えました。そこから東海大学の選手を引き離し、遠くに小さく見える神奈川大学を追いました。ただ、後半は細かいアップダウンでキロ 3 を若干超えるペースから抜け出せず前との差も縮まってきませんでした。そんな中でも坪田監督が区間順位を伝えて下さり、沿道から沢山の声援を受け、最後まで絞り出す走りができました。結果として区間 4 位相当、タイムは 62'53 で東大記録、学連記録でした。目標は区間賞、区間新記録というところだったので遠く及ばない結果に終わった直後は悔しさが大きかっ

たです。一方で 2 年連続で箱根駅伝を走れたことが何よりかけがえのない経験でしたし、夢を叶えることが出来て本当に幸せでした。この経験を出来る限り次の世代に還元していきます。以上で箱根駅伝の報告とさせて頂きます。最後になりますが、改めて沢山のご支援、ご声援ありがとうございました。

予選会から箱根駅伝本番までの道のり

本多健亮(修士 2 年)

102 回箱根駅伝 4 区を走りました修士 2 年の本多健亮です。まず、OBOG の皆様方より多大なるご支援・ご声援いただきましたこと、感謝申し上げます。いただいたご支援はシューズ等の用具と怪我の治療に充てさせていただきました。おかげさまで万全の状態で種々の選考や箱根本番を迎えることができました。

予選会後に発表された選考方法は、①予選会、②期間内の 10000m、③富津合宿での 5km×3 本の、計 5 本のスコア（WA scoring table）を合算するものでした。学生連合選出のボーダーまで 1 秒差だった私は予選会直後（①のスコア）13 番手相当で、出走圏内に順位を上げる必要がありました。11、12 月は修論前の最後の実験のおいこみ期間で、健康管理もままならない非常に苦しい中で選考が幕を開けました。

②の 10000 m は失敗しました。予選会後膝を怪我し、11 月末の日体長の一本に絞り 28 分台を狙っていたのですが、29’27”79 と目標を大きく下回る結果となりました。②の選考は苦しいものでしたが、秋吉と一緒のレースに出て共に苦しんだことはいい思い出でもあります。結局この時点でも 13 番手相当でした。

最後、③12/14 の富津の 5 km*3 の選考に全ての望みをかけて挑みました。結果は 14’52-14’48-14’45 と思うように走れず、12 番手（補欠 2 番手）が確定しました。多くの方の期待に応えられなかった申し訳なさ、自分の力不足と憧れの舞台を逃した失望でいっぱいでした。一方で、全力を出して負けた清々しさも感じ、来年の箱根に向けて頑張ろうと決意を固めました。翌日からは冬の走り込みを始めました。

ところが、1/1 の朝、坪田監督から電話で 4 区の出走が伝えられました。12/29 に専修の上山選手の不調で補欠 1 番手に繰り上がってはいましたが、まさか自分に出番が回ってくるとは思っていませんでした。嬉しさと驚きに飲み込まれるような筆舌に尽くしがたい感情でした。ひっきりなしに祝福の連絡を受けて自分が明日箱根を走る実感を深めていきました。そこからはとにかく慌ただしく息をつく暇もなく、気がついたらスタートラインに立っていました。

出走して驚いたのは応援の熱量です。途切れることのない観客、駆けつけてくれた知り合い、そして何よりあちこちに立つ東大の旗と東大関係者の応援に元気をもらいまし

た。皆様の応援に力を貰い続けながら走ったこと、東大の名が刻まれたユニフォームで箱根路を駆け抜けたことを心から誇りに思います。

　今回の箱根駅伝でいただいたご支援・ご声援を今後は後輩に繋いでいきたいと強く決意しております。

特別企画　～競歩パートの活躍～

関東インカレに多数の選手を輩出し、東大記録を連発するなど、2025 年シーズン大きな活躍を見せた競歩パート。パートとしては少数ながら部内で大きな存在感を放っている。そんな競歩パートの活躍の原点を探る。

競歩パートチーフを務めて

金谷響介

元・競歩チーフの金谷です。本稿では、「（最近よく東大記録を出す）競歩パートの活躍」というお題を頂いたところ、せっかくなので、長らく務めさせていただいたチーフとしての歩み（文字通り）にフォーカスしていきたいと思います。

私がチーフの仕事を始めたのは 2 年生(2023 年)でした。少人数パートゆえ、思いの外早々にお鉢が回ってきてしまったのです。ただ、当時のパート員は私含め 3 人、男子は私 1 人といった状況であり、パートをまとめるという意識はなく、結果で引っ張るというのも掛け声倒れになってしまっているのは明白でした。

転機が訪れたのは 3 年春(2024 年)と言えるでしょう。高校在学中よりマークしていた 2 人（越國、三村）が、予備校での 1 年間の修行を終えて、晴れて入部してくれました。これにより、ようやくチーフとしての自覚のようなものも芽生えてきました。ただし結果は芳しいとは言えず、七大戦では失格、京大戦でも目も当てられない結果であり、試合後の全体集合ではチーフとして前でコメントすることすら拒否したほどでした。加えて、秋からは主務の業務に追われる中、このままでは陸上選手になりきれないまま卒業してしまうという危機感が募ってきました。ここで出場することを決めたのが能美競歩（日本選手権 35kmW）でした。ロング適性の方がありそうだし、未知の距離に挑んでみたいという好奇心もありましたが、この距離を完歩すれば東大記録になるという下心の方がはるかに大きかったことは認めざるを得ません。結果は、なんとか完歩。目論見通り、東大記録（歴代 1/1 人でも東大記録に変わりありません）を獲得することができました。ここで得られたものとしては、周りからの評価はもちろんですが、自分はただのマネージャーではなく、本業は選手である、というアイデンティティを再確認できたことが大きかったです。

4 年春(2025 年)にもありがたいことに新入生が入ってくれて、競歩パートとしては大所帯となりました。私の心境にも変化が生じてきました。かつてパート員の自己記録更新は、嬉しいと思う一方で、悔しい気持ちの方が大きかったのですが、ここに来て素

直に喜べるようになってきました。ライバルとして競い合いつつも、共にもっと強くなるという意識を会得できたのだと思います。

さて、引退するまで 2 年半弱の間、ロールモデルもいないままにチーフを務めてきました。その中で感じてきた信念として、練習に真摯に向き合い、結果を出し続けることが最も効果的なパートマネジメントであるというものがあります。パートチーフを務める後輩諸君におかれましては、自分の競技に向き合うだけで大変なのに、さらにパート員を引っ張ることなんて、と思うときもあるでしょう。ただ、みんなで高め合って強くなるという意識を持って、自分がその駆動点になるという覚悟を持てば、自らの競技力向上に必ず資するでしょうし、チーフを務められることを幸運と感じられるようになると思います。

最後に、競歩パートを献身的にサポートしてくださっている寺田先輩、同期としてチーフを力強く支えてくれた沖をはじめ、関係する皆さまに感謝申し上げて、拙文の締めくくりとさせていただきます。

今年度の振り返り、今後について

沖夏子

平素より大変お世話になっております。競歩 4 年の沖夏子です。 このたび特集で執筆の機会をいただきましたので、今年度の競技を振り返るとともに、今後について書かせていただきます。

今年度は、5000m 競歩、10km 競歩、ハーフマラソン競歩の計 3 種目で東大記録を更新することができました。学部生最後の年であったこと、また昨年度は怪我が多く納得のいく結果を出せなかったこともあり、この 4 年間で最も競技と向き合った一年となったと感じています。競技力向上に向けて、怪我を防ぐために今まで以上に体のケアを入念に行ったり、脚を作るために普段の練習距離を今まで以上に伸ばしたりしました。

私には、シーズン序盤の時点で、学部生の間に必ず達成したい目標が二つありました。 一つは 5000m で 26 分を切ること、もう一つは日本選手権に出場することです。5000m については、高校生の頃から目標にしていた 26 分切りをなかなか達成できず、常にそのことが頭に引っ掛かっていました。大学 1 年生の時から可能性は十分にあるタイムだっただけに、「切れそうで切れない」状態が続いたことがもどかしかったです。また、寺田コーチに初めてお会いした際、「すぐに 24 分台を出せそう」と言っていただいたことも心に残っており、早く結果を出さなければという焦りも少なからずありました。

日本選手権出場は、東京大学陸上運動部に入部した当初からの最大の目標でした。私には、トラック種目でいい記録を出すこともちろん大事でしたが、特にロード種目で結果を出したいという思いが強くありました。競歩の大きな大会の多くがロードで行われることもあり、ロードで結果を出すことが自分にとって大きな目標になっていきました。

どちらも本来であれば、もっと早く達成できたはずの目標だったと思います。しかし、記録向上に対する考えの甘さや、大事な時期の怪我が重なり、大学 4 年生まで達成できずにいました。

今年度は一度も怪我をすることなく練習を積むことができ、10 月の高畠競歩では日本選手権の参加標準記録を危なげなく突破することができました。その後、タイムが大きく伸びる時期が訪れ、元旦競歩の 10km でも全日本インカレの A 標準相当のタイムを切ることができました。

5000m では、6 月の四大戦で念願の 25 分台を達成し、さらに 1 月の東大競歩記録会で 24 分台に突入することができました。23 分台も視野に入る内容だっただけに、ここまで短期間でタイムを縮められたことには自分自身が一番驚いています。24 分切りは、次のシーズンでの大きな目標です。

私は、陸上を始めて今年で 10 年目、競歩を始めて 7 年目になります。中学 1 年生のときに何気なく始めた陸上、高校 1 年生のときに何気なく始めた競歩を、これほど長く続けることになるとは思っていませんでした。想像以上に長い競技生活になっていますが、まだ終わらせるつもりはありません。自分はまだ伸びると信じています。

今後は大学院へ進学し、競技も継続する予定です。忙しい生活の中でどこまで記録を伸ばせるかは分かりませんが、可能性を信じ、無理をせず、一歩ずつ積み重ねていきたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

自分なりの目標の立て方

青山虹海

この文を執筆するにあたり、私はこの 1 年何を目標にして陸上に取り組んできたのかを考えました。4 月までは関東インカレ、10 月までは高畠競歩、2 月までは日本選手権。これらの大きな大会に「出場する」、そのための参加標準を切ることを目標に 1 年間取り組んできました。1 つ参加標準が切れれば次に目指すべき参加標準が出てくるという点で目標が立てやすくここまで目標を見失うことなく前に進んで来られたと感じています。また、もう一つの目標の立て方として、先輩である沖夏子さんの背中を追うというものがありました。沖さんは高校時代から常に私の前を歩く存在であり、心のど

こかで「沖さんに勝てないのではないか」という思いもありました。だからこそ、勝つのではなく一年前の夏子さんに追いつくということを目標として来ました。成長モデルとしての目標というのでしょうか。実際、一年前の沖さんと同じ時期で同程度のタイムを出せるように練習ペースを決めている日もありました。そのおかげか私自身も想像していなかった成長をこの一年で成し遂げることができました。そして、切るべき参加標準記録は残り一つになり、標準記録よりもターゲットナンバーを意識しなければならないところまで来ました。また、一つではありますが東大記録を更新することが出来ました。

その一方で、来年度さらに成長するためには今年度と同じ目標の立て方では不十分だとも感じています。これまでのように「参加標準」や「誰かの背中」を指標とするだけでなく、自分自身の可能性を基準に目標を設定していく必要があると考えています。来年度は、自分の限界を引き上げることを前提に練習を組み立て、今年度以上の成長を実現できる一年にしたいと思います。

なぜ歩くのか

越國太貴

競歩パートの朝は早いです。9時半に集合し、アップ。他の部員が眠い目を擦ってドリルを始める時、競歩パートではポイント練習の1本目が始まります。

「歩いている時、何を考えているの？」と、何回聞かれたことでしょうか。気になる気持ちもわかります。たしかに、20km を歩くのにかかる1時間半弱という時間は、ボーッと過ごすのにはいささか長すぎます。

競歩を選ぶ人は、稀です。もちろん、僕たちは競歩に誇りを持っていますし、競歩が素晴らしいスポーツであることに疑いを持つことはありません。しかし、敢えて陸上競技を選び、さらに敢えて競歩を選ぶ人が数少ないこともまた、疑いようがないでしょう。それは、裏を返せば、競歩選手は皆、並々ならぬ思想、信念を持って、競歩を選んでいるということです。決して、なんとなくでは選ばない種目に取り組む理由は、一人一人少しずつ違っていて、それでも同じ方向を見ていることに、大きな魅力があります。

僕が歩く上で、活躍できるというのは大きな理由です。やはり、やるからには活躍したいし、認められたいし、チームに貢献したいです。先日、全国の切符を手にしました。嬉しくて、競歩を頑張ってよかった、と思いましたし、数々の人との縁や幸運に恵まれて今日に至っていることを思うと、不思議な気持ちです。

しかし、もし自分が他のスポーツでの才能を見出され、今すぐ世界大会に行ってくれ、と言われたとしても、僕は競歩を選ぶと思います。名誉も、承認も、確かに僕を動

かす理由ですが、世界に競歩選手が僕しかいなくても、競歩を続ける理由はずっと、僕の中にあり続けるでしょう。

ただ純粋に、知りたいのです。競歩を初めて５年、まだまだ留まるところを知らない自分の成長。練習を重ね、追いつき、そして追い越していくかつて憧れだったタイム。自分はどこまで速く、美しく歩けるようになるのだろうという、素朴な知的好奇心が、僕の足を動かします。人との競争だった高校時代から、自分との競争に変わった今、今日も駒場で歩けることが、それだけで幸せです。

学部生活は折り返しになり、当初は想像さえしなかった境地に手をかけました。自分に眠っていた可能性を、僕はどこまで磨いていけるでしょうか。そのことを考えるだけで、どんなに長い練習でも、あっという間に終わってしまいます。

果てしない自分との対話。その先に、まだ見たことのない景色が待っていると信じています。

特別企画　～院生の活躍～

競技と研究の両面で顕著な成果を挙げた中根美七海(博士 1 年)の活躍を受け，本号では特別に「院生の活躍」を企画した。今年度、競技では箱根駅伝予選会で院生チーフとしてチームを東大院記録へと導き，研究では新たな銀河を発見した中根氏に，それぞれに向き合う中で得た経験と思いを伺った。

陸上と研究

中根美七海

この度、会報主任の日影君からご推挙いただきました、東京大学理学系研究科物理学専攻博士課程 1 年の中根美七海と申します。「箱根駅伝」、「競歩パートの活躍」に並んで「陸上と研究の両立」というテーマで書かせていただけるということで、大変光栄に思います。

振り返ってみると、私が小学生 6 年生の時に何気なく入部した、3 ヶ月程度の臨時の部活動「長距離部」が陸上長距離との最初の出会いでした。スポーツ、特に球技は不得手で、当時は走るのも得意というわけではありませんでしたが、練習を重ねるごとに記録が伸びていったことで、上達する楽しさを初めて実感しました。中学では迷わず陸上部と駅伝部に入部しました。自分の現在位置を把握し、達成しうる最大値を目標に定めて積み上げていった陸上競技と、まず達成したい大きな目標を掲げ、その目標に向けてチームで練習に励んだ駅伝競技。どちらの方法にも長所・短所はあるとは思いますが、最近、特に大学院に入ってからは完全に前者の積み上げ式に寄った方法を取っています。だからこそ、異なるアプローチで直向きに努力を重ねた中学での 3 年間はかけがえのない経験であったと感じています。それから、高校、大学、大学院と陸上を続け、今年でもう 14 年目になります。学部に入ってからは、それまでのような順調な陸上生活とはなりませんでした。1 年生の時は浪人のブランクで自己記録には程遠く、2 年生に上がるとコロナ禍で集団練習や試合ができない状況になりました。そうした中で、自分なりに「今年は 5000m で 14 分台」という目標を立てて練習に取り組みました。結果として記録は 15 分 00 秒まで伸び、目標にはあと一歩届きませんでしたが、厳しい状況の中でも目標に向かって努力する経験は大きなものだったと感じています。その後 5000m14 分台や 10000m30 分台という記録を出すことができたのは、陸上競技に打ち込んできた成果であると私自身誇りに感じるとともに、高いレベルの選手も所属し、常に上を目指せるような環境であった東大陸上部に感謝しています。4 年時には主将を務めさせていただき、コロナ禍を経て改めて対校戦の意味やチームとして競技に向き合う

ことの大切さを考える一年でもありました(写真左)。こうして陸上に打ち込んだ学部時代を終え、大学院では新たに研究の世界に挑戦することになりました。

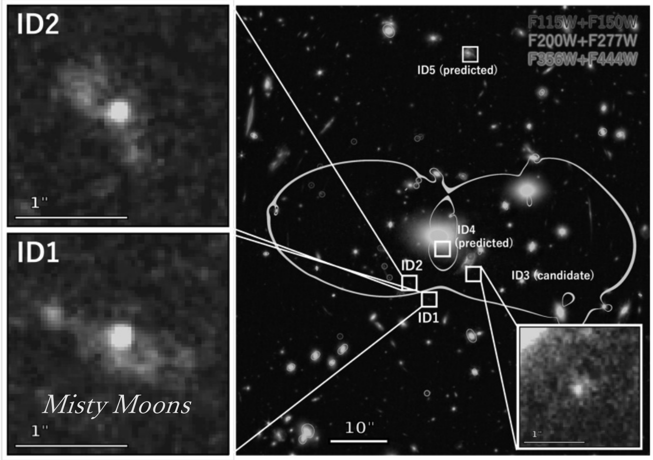
大学院進学後は、遥か 130 億光年以上年彼方の遠方宇宙の研究を始めました。約 138 億年前にビッグバンで始まった宇宙には、しばらくの間、光を発する星や銀河が存在しない「暗黒時代」と呼ばれる時期がありました。その後、宇宙に漂うガスが暗黒物質の密度の高い領域に集まり、重力収縮によって第一世代の星や銀河(初代星・初代銀河)が形成され、現在の宇宙へと進化していきました。初代星・初代銀河の性質は理論的に様々な予測がされていますが、現在観測的にはまだ見つかっておらず、現代の天文学における重要な課題の一つとなっています。初代星・初代銀河を観測しようと様々な試みがなされる中、2021 年クリスマスにアメリカ航空宇宙(NASA)によって、赤外線観測用のジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡(JWST)が打ち上げられました。JWST の観測装置が持つ近赤外線領域において非常に高い感度を持ち、約 133 億年以上前の遠方宇宙に存在する銀河が観測できるようになってきました。ただ、そのような遠方宇宙で観測できる銀河の多くは、既にある程度成長した明るい天体であり、初代星・初代銀河の観測は依然として簡単ではありません。このような状況を打開する方法の一つが重力レンズ効果を利用することです。重力レンズ効果とは、手前にある銀河団のような強い重力を持つ天体によって、その背後にある遠方宇宙の天体の光が曲げられ、何倍にも増光されたり、複数の像に分かれたりして観測される現象です。この効果を利用すれば、初代星・初代銀河のような本来は非常に暗い遠方宇宙の天体でも観測することが可能になります。

私は現在、2025 年夏に観測を開始した JWST の大規模プログラムである、VENUS (Vast Exploration for Nascent, Unexplored Sources; PID: #6882)のチームに加えていただき、その一員として研究を進めています。VENUS は重力レンズ効果を利用して遠方宇宙の形成初期の暗い星や銀河・ブラックホールを探査する大規模な国際共同研究で、100 人以上の研究者が参加しています。観測された撮像イメージのデータを注意深く調べていく中で、私は推定 134 億年前に存在する低星質量銀河を発見しました(写真右)。この銀河は重力レンズ効果によって約 30 倍にも増光・拡大されており、本来であればぼやっとした光としてしか観測されない遠方銀河の内部構造が、複数の塊(クランプ)としてはっきりと見えていました。私たちは中心の明るいクランプとその周囲に広がる淡い光の見た目から着想を得て、この銀河を"Misty Moons"と名付けました。解析の結果、この複数のクランプが銀河全体の星質量の 80%以上を占めていることが分かりました。この値は近傍宇宙で見られる銀河と比べて約 100 倍以上高く、宇宙初期の低質星量銀河は密度の高いクランプが星形成を支配しているという可能性を示唆しています。しかし、このような構造は数値シミュレーションでの再現が難しく、その起源を明らかにするために今後さらなる追観測を行う予定です。

銀河の発見以降は、撮像イメージを用いて銀河の光度を測定したり、重力レンズモデルから増光率を推定したりといった解析や銀河の性質・特徴に関する議論をチームのメ

ンバーと協力して行いました。発見から約 1 ヶ月半という短い期間で論文を書き上げ、天文学分野の学術雑誌 The Astrophysical Journal(ApJ)に主著者として投稿しました。発見の喜び、解析を進めていく中での冷めやらぬ好奇心の裏で、この 1 ヶ月半は人生で 1 番忙しく辛い時期でもありました。今回のプログラムではデータが観測後すぐに公開されるため、他の研究者に先を越されないようできるだけ早く論文化する必要があり、睡眠時間を削りながらデータ解析と執筆を進めました。共著者は 70 人以上と多く、いただくコメントへの対応にも追われました。また、この時期はちょうど箱根駅伝予選会と重なっており、練習時間を確保するのも簡単ではありませんでした。予選会の結果は自己記録から 2 分遅れでチーム内 9 番と悔しいものとなりました。研究に追われる日々の中で思うように練習が積めなかったこともありますが、それでも外に出て走る時間は、研究から少し離れて頭を整理する貴重な時間でもありました。多くの方々に解析や議論の面で支えていただき、無事に論文化するという非常に大きな経験をさせていただいたことには心から感謝しています。今回の発見は、VENUS プログラムが目指している成果の一つではありますが、約 300 時間にも及ぶ大規模観測という大きな目標を掲げたからこそ得られた結果でもあると強く感じています。

さて、陸上と研究のそれぞれ文章の長さから察せられる通り、現在の私は研究の比重が高い生活を送っています。「陸上と研究の両立」というテーマについて、私がお世話になった松本啓岐先輩や古川大晃先輩のような方々を思うと恐縮ではありますが、せっかくの機会ですので、私なりの考えを書かせていただきます。まず両立と言っても、同時に同じ熱量で向き合いながら高いレベルの結果を出すというのは非常に難しいと感じています。実際に、陸上に注力した中学・高校・学部時代は大会での入賞や自己記録更新といった形で陸上で結果を出してきました。一方、浪人時代や大学院進学後は東大合格や主著論文の出版といった形で勉強や研究に力を注いできました。大学院進学後は学部時代の自己記録の更新はまだできていないのが現状ですが、それは陸上に並ぶほど熱中できることに出会えたということでもあり、それはそれで喜ばしいことだと感じています。陸上も研究も、長い時間をかけて少しずつ積み上げていく営みであるという点では共通しているように思います。日々の積み重ねが結果に繋がるという感覚は、研究にもそのまま通じるものがあります。一方で、両立という観点では、それだけでは忙しさの中で計画が後ろ倒しになってしまうこともあります。最近は、大きな目標とその期日をあらかじめ定めておくことで、今やるべきことや優先順位がより明確になるのではないかと感じています。陸上と研究、それぞれの取り組み方は時期によって変わってきましたが、これからも自分なりのペースでその両方を大切に続けていければと思っています。



左: 2022 年四大戦にて。右: Misty Moons と銀河団領域のカラー画像(Nakane, M., Kokorev, V., Fujimoto, S., et al. 2025, arXiv e-prints, arXiv:2511.14483)。

特集記事　～練習日誌の付け方～

練習日誌は，日々の練習やコンディションを記録し，自分の競技を振り返るための重要な手段である。一方で，何をどのように書くかは人によって異なり，その付け方にはそれぞれの工夫や考え方がある。
今回の特集記事では，「練習日誌の付け方」をテーマに，さまざまな視点から話を伺った。日々の記録をどのように競技力向上につなげているのか，本特集を通じてそのヒントを感じ取っていただければ幸いである。

練習日誌を付けるときに大事なこと

寺田秋夫 1988 年卒

中学 3 年の時に区の陸上競技大会に借出されたときに指導の先生から「練習日誌をつけなさい」と言われ日誌をつけ始めました。高校で陸上部に入ってから、試合から引退するまで 21 年間欠かさず付けました。

最初は、雑誌「ランナーズ」付録の練習日誌を使って、フォーマットに従い、天気・練習の種類･距離と主なタイムと思い出したように体重くらいしか記録していませんでした。　半年位で試合の結果と練習がどう結びついているのか考え、試合 1 週間前の流れを読むようにはなりました。が、そんな短いスパンの表面的な数字を追っても大事なことは読めないのに気付くのには時間がかかりました。競歩を始めてから、先輩に言われ当面の狙いを週頭に書き、日々気象コンディションと練習をどうこなせたのか自己評価を書くようになりました。週次の目標も思うようには、ならないことを自覚して、改めて試合毎に 3 か月くらいの流れと直前 3 週間くらいの練習内容と調子を見て「そういうことだったのか」と思うようになりました。

シニアになってからは練習細部よりも、バイタルや後の JISS にアドバイスされ精神状態を記録して月単位のスパンで試合結果とどういう因果関係にあるか見ていくことの方に意味があるのに気づきました。また、練習への向き合い方がバイタル、精神状態も含めて、後続の練習のできや効果に及ぼす影響の度合いが大きいことにも気が付きました。

1992 年くらいからパソコンで管理できるようになって、紙を括らなくてもグラフや週別の一覧ができるようになり、随分いろいろ考えたり気づいたりするようになりました。

日誌ではなく計画の話になりますが、選手の皆さんとは、目指す試合とレベルの大きな流れを話して、週次でメニューを出しています。計画の組み立て方は試合から逆算し

て 3 週 1 タームでやりたいこと 3 つ、それをさらに逆算で週に落として 2 つを Jack Daniel の教本をベースに東大生風にしています。計画を立てるときも、前週のポイント練習のタイムよりも、各選手の練習の感想と練習前後の感情や顔色を見て調整していった方が上手く流れていくと感じています。練習の感想を的確に言語化できる選手がそれぞれのレベルで強くなっていくのは間違いない事実ですので日誌にも自省として文字にすることは大事だと思います。素直に振り返れる選手は同じ失敗・怪我が少ない気もします。

長距離種目ならではかもしれませんが、最初に設定した目標に向かっていく心情をコントロールできていることが大事で、一時的な体調で目標を上方・下方に再設定してしまう地に足がついていない、場当たり的な練習になってしまい、例え結果が修正目標通りでも次につながっていかないと感じています。

今は Garmin や Coros が練習は勿論、睡眠・各種バイタルの記録とアドバイスをしてくれる時代ですが、自分で蓄積して読み解いてオリジナルを試せる力が大事です。ダウンロードしたデータを ChatGPT に聞いても分析してくれますが、スポーツは生身の人間が日々うつろう体調・心理状態で取り組む総合的なアートで今の技術ではデータ化も推論も限界があり、精度の高いアドバイスは出てこないです。様々なレベルの選手で、競技にすべてを割けるわけではない東大生の場合は、基本は踏まえつつも自分流を作っていけるかが大事で、練習日誌を付ける毎日の数分に集中できるとトレーニング教本には書かれない自分ならではの強くなる道が見えてくると思います。

精神状態の件に興味のある方は：Sport Mental Health Assessment Tool 1 で検索をかけてみて下さい。

練習日誌は心の安定のために

藤原大二 2000 年卒

今もマスターズで競技を続けていて練習日誌を付けています。使っているのは A6 のノートで学生時代と同じ。持ち運びやすいのでいつも練習用カバンに入れています。記録するのは練習場所、メニューとタイム（ジムの場合は重さと回数）、その時の体調や痛みのある箇所、フォームで意識したことやその効果・体感など。試合のときはレースごとのタイム、風、順位とレースの展開など。ごくありふれた練習日誌だと思います。

日誌の振り返り方も、当日の練習タイムを過去のそれと見比べて調子を確認したり、パフォーマンスが良かったシーズンの練習メニューを振り返って今後の参考にしたり。これも一般的でしょう。

今回の特集テーマを通して自分の練習日誌の役割を改めて考えてみると、本当の目的は心の安定のためかも、と気が付きました。メモを振り返ると上手く行かなかった感想ばかり。えっ、何でこれが心の安定に繋がるかって？　なぜなら、良い結果が出た直前の日誌にもイマイチなタイムや不安が綴られているから。今日の練習が思い通りに行かなかったとしても、本番では何とかなるんじゃないか、という淡い期待を抱くことができ、それで心を落ち着けているのです。

そんな練習日誌は誰にも見せたことがありません。誰かに見せる前提になると、他者の目を意識した感想を書いてしまいそう。

様々なツールの活用を

松本翔 2008 年卒

練習日誌については、高校駅伝の強豪校、宮崎県立小林高校駅伝部での競技生活でつけ始めました。高校生活においては大学ノートに毎日睡眠時間や練習内容、そして自分の感じたことを記載する内容で、毎日顧問に提出し、赤ペンで適宜フィードバックを受ける形式でした。

そして大学での競技生活に移行してからも、高校時代と同様に練習日誌をつけることを習慣にしていきました。ときに長期の故障で書くことがなく空白期間もありましたが、概ね、高校時代と同様に記載し、過去の記載と見比べ、また書くことで練習の振り返りをすることが有意義だったと思います。

大学卒業後は 3 年弱の実業団に所属していましたが、その際は excel 形式での作成と提出をし、その後 2011 年からの市民ランナー時代には手書きスタイルに戻りました。マラソンの自己記録（2 時間 13 分 38 秒）をはじめ、ハーフや 30km、あるいは 5000m の自己記録を出したときの練習内容とその「感覚」は、走り続けるいまでも振り返り、参考になる貴重な財産です。

2017 年秋に子供が生まれ、以降は時間がとれないため、GPS 時計とアプリによる記録に頼っている状況です。手書きのよさは認識しつつも、アプリの利便性を存分に感じており、周りの市民ランナーをみると心拍数の記録なども記録しながら競技力向上に努めているようです。東京大学という「日本最高峰」の大学に在籍の皆さんですから、様々なツールを最大限活かして競技に取り組んでもらえればと思います。

日誌に残す道程は道標

小森康太郎　長距離博士 3 年

昨今の長距離ロードでは、厚底シューズや GPS ウォッチが欠かせないアイテムとなっています。しかし、それらと同じくらい重要な武器となるものがあります。積み上げてきた練習を、目標へ歩んできた道程を書き残すこと——練習日誌です。日誌をつける最大のメリットは、現状の実力をしっかりと把握できることだと思います。こなした練習の内容を逐次記録していくことで、過去の自分との比較が可能になり、現在地がよく分かるはずです。また、同じ練習ができていても、その日のコンディションや余裕度の違いによって、その時の実力はかなり変わってくると思われます。そういった点も記載しておけば、後から読み返したときに、自分の実力を精度よく見積もることができると思います。例えば、ペース走やテンポ走では、同じ設定で走り切った場合でも、タイムトライアルのように余裕がなかったのか、ハーフペースの感覚だったのか、好天候だったのか悪天候だったのかによって、その時の実力は大きく異なるでしょう。力感や余裕度、天候などをしっかり記録しておけば、現状の実力をより正確に把握できると思います。この現状の把握は陸上競技のあらゆる種目で重要ではありますが、ハーフマラソン以上の距離を走るロード長距離レースでは特に大切だと思います。他の種目であれば、シーズン中に数試合へ出場して実力を把握し、次の試合や本命のイベントに備えることができます。しかし、ハーフ以上の距離になると、きちんと全力で走るレースは年に二回ほどしかないと思います。そして、現役部員の場合、その数少ない機会の一つが箱根予選会になることが多いはずです。そこでは絶対に外せません。だからこそ、普段の練習と日誌の記録から実力を把握し、適切な目標やレースプランを立てることが大切です。

日誌のつけ方ですが、前述したようなコンディションや力感などが記録できていれば、最低限の内容でも構わないと思います。色々とストイックに記載するのも効果的だと思いますが、一番大切なのは記録を継続することです。気合いを入れすぎて、日誌を書くことが億劫になるようでは続きません。ブログや SNS を更新するくらい気楽に書けるのが理想だと思います。あるいは、少しユーモアを入れてみても良いかもしれません。私の日誌には、読み返すと頭を抱えたくなるようなバカバカしいことも書かれています。黒歴史になることは間違いありません。しかし、そのおかげで気負わずに継続できています。そんな感じで、自分流の続けられる書き方を探すのがよいと思います。日誌に残した道程は、目標への心強い道標になってくれるはずです。

日々の「痕跡」を記す

恩田武琉 中距離3年

「練習日誌の書き方」と言う題目なので、日誌の書き方が合っているかの自信がない人、日誌を書くことが習慣化されていない人やそもそも日誌を書いたことがない人を対象とします。

練習日誌を書くのには明確な目的が複数個あり、それらを達成するために毎日書いています。

中距離パートの部員のうちの 1 人が、最近練習日誌を書くサイトを開発してくれました。もちろん私はそれにも書いているわけですが、それに加えて自分以外見られないスプレッドシートにも日誌を書いています。開発してくれたサイトを利用できない方がほとんどだと思いますし、より汎用性が高いということもあって主にスプレッドシートのような形式の日誌に何を書くべきだと思うかについて述べます。

今の時代、中長距離の陸上選手にとって Garmin や COROS は非常に便利だし、これらに記録されているものを見返せば過去のタイムがわかるから日誌は不要と考える人も多いかもしれません。しかし、私は、これらのツールは(少なくとも今の段階では)「完全なもの」とは言えないと思います。まず、これらのツールは様々な場面で見づらさを感じます。データを読み込むのに毎回若干の時間がかかりますし、同時に多くのデータを見ることができません。一方、スプレッドシートなら欲しい情報にすぐにアクセスできるし表形式である限り見た目(内容の記載順など)もほぼ自分の理想のものにできます。さらに、Garmin や COROS といったツールに記録される情報は、練習を記録するものとして不十分だと考えます。陸上競技は繊細で、様々なことがタイムに影響します。グラウンドコンディションはもちろんですが、疲労、睡眠、食事、メンタルなども大きく作用するわけです。これらの情報を考慮した上でないと練習を評価することは不可能であると考えます。

また、すべての練習には目的があるはずですが、日誌に目的を書けばそれを強く意識することもできます。練習前に練習について記述するのは Garmin や COROS ではできないはずです。

以上を踏まえて、私は自分の日誌の項目に以下を設けています:

「日付、曜日」

「イベント」(用事など。毎日見るものに書くと便利です)、

「身体コンディション」(疲労、怪我の状況など)

「走行距離」

「週間走行距離」(怪我の防止を考えると月間走行距離よりも重要と考えます)

「補強」

「練習内容、設定」(ここに目的も書きます。練習メニューは目的があって初めて意味をなすものなので同じ欄に書いています)、
「記録」、
「参考記録」(過去の記録、他の人の記録)、
「気温」、「湿度」、「天気」、「風」、「シューズ」、
「途中経過、コメント」(一般的な日誌に書く内容です)、
「ホンキ度」(1〜5 で評価します。毎日オールアウト(5 の練習)したら怪我します)、
「その他コメント」(日記のような感じです。私の場合、半分くらいは陸上競技と関係がない内容です。メンタルの可視化や記録に役立ちます)、
「睡眠」(時刻と時間ともに記入)。

私はこれらの項目すべてに意味があると思っているので書いていますが、初めて日誌を書く人にとってこれら全てを書くのは大変だと思うので自分で重要だと思うことを書くのが良いと思います。

ある程度の期間日誌を書いたら、自分の練習や状態について正しい評価がしやすくなると思います。結果には必ず理由があるはずで、それを考察できる状態にすることが重要だと考えます。例えば、調子が悪いときの直前に試験(メンタル、睡眠に影響する)があったら、それも原因になり得ることがわかります。

「一日生きることは、一歩進むことでありたい」という湯川秀樹氏の有名な言葉がありますが、私はこれを普段から意識していて、特に大学生などの若い人が毎日を漫然と過ごすのは勿体無いことだと感じます。そして、陸上競技に限らないのですが、毎日何かしらの成長をするには、日誌や日記を書いて見直すことで毎日の成長を意識するのがより効果的だと考えます。競技生活がうまくいかなくても日々の努力が無駄になることはないですが、それを記録しない限り努力の痕跡は残りません。成長を記録するというのが、私の中では 1 つのモチベーションになっています。

特に自分しか見られない日誌を書くというのは、自分に正直になれるのでおすすめです。脚が痛いときは痛いと書くし、練習がうまくいって嬉しいときは嬉しいと書きます。書いた内容が自分のなかで「黒歴史」になることはあっても、他の人にそれが「バレる」ことはありません。

最も需要なのは、「毎日書く」ことです。記録が欠落している期間があると上記に挙げた効果が薄まるためです。日誌の書き方は書く回数が増えるにつれて最適化されていくものなので、まずは日記を書くような軽い気持ちで書くのが良いと思います。

「歴史」を残す

鈴木隆史 長距離3年

私が日誌を書く理由、それは日常におけるさまざまな事象の主観的評価を文章に残し、自分の「歴史」を残すことにあると思います。「歴史」というものは、過去から現在に至るまでの自身の軌跡を明確にし、未来に取るべき行動を参照する枠組みとして、ある種の論理的な思考の場として機能します。「歴史」の分析を可能とするために、そのままでは忘却されてしまうであろう曖昧な感情を何とか言語化して文章に残し、少しでも切り離された過去を明確に想起できるように文面に残しているわけです。それは陸上競技で言えば、ポイント練習や試合一つ一つに対してどのような調整－睡眠時間、動きづくり、補強…－を行い、どのようなコンディションのもとでどのようなモチベーションをもって取り組み、その結果どのような成果を得られたか、とにかく詳細に記録を残しています。また、長距離という種目の特性上、日々のジョグが単調なものになりがちなので、モチベーションを維持するために走行距離を数値化し、努力の「歴史」を可視化することも重要です。

ただ、陸上日誌に関しては私よりも他に成果を出している方の記事の方が参考になると思いますので、私はより一般的に日常における感情の「歴史」という点において日誌をつける意義について論じようと思います。私たち大学生の多くは、言語クラスという集合体はありますが、中高時代のようにクラス全体で複数の授業を決まった座席で受講することもありませんし、強制力を持ったクラス行事－体育大会、文化祭、修学旅行…－というものも存在しません。さらに、私のように一人暮らしをしている学生は、帰宅しても対面での話し相手がいないため、家が親族とのコミュニケーションの場としての機能を喪失し、何もしなければ1日1日が振り返られることなく終わってしまいます。毎週同じ時間の講義に出席して、一人で十数キロメートルのジョグを何度も行う中で、それぞれの 1 日を生きたリアルな感覚というものが失われていくのではないかと私は危惧しています。そして、日常における新鮮さを失い体感時間の速さが実際の時間を大きく上回り、いつの間にか社会に送り出されてしまうことを危惧しています。

そこで、私は陸上日誌だけでなく、日常のあらゆる事象について記した日記を別につけています。「日常」の内容は講義の感想、バイト先での出来事、プライベートな友人との遊びといった個人的なものにとどまらず、政治経済的な状況に関して思ったことを正直に記すようにしています。後から見れば黒歴史であることは間違いありませんし、「思想が強い」と他から言われることも多々ありますが、思想・良心の自由を存分に発揮して自分の感情を残すことで、日常の陳腐化を防ぐことができると思っています。自分が違和感を覚えたとしても、「思想が強い」から言語化せずに日常の中に忘れ去ってしまったら、批判的思考を失うとともに、あっという間に社会に送り出された時に無条

件に権威に追随する大人になってしまうのではないでしょうか。権威を持つ者は、自分たちにとって都合が良く、不条理な弱者弾圧が行われる状況を日常化させてしまうかもしれません。それに対して沈黙を決め込んだ先に待ち受ける社会は、一体どのようなものでしょうか。

こういった権威主義的パーソナリティを持った大人にならないためにも、私たちは疑問を持つ姿勢を大切にし、将来に議論するための史料として「歴史」を残していくことが重要です。何も、日誌に思想を記せとか煽動しているわけではありません。ただ、私たちは陸上部員である以上に、学業を生業とする大学生です。多感で若い時期に学生として学べる機会は、大学とそれに連続する大学院の数年間だけでしょう。社会に出る前に自分がどのように日常の評価を下していたかを参考にすることで、将来の選択がより合理的なものになると信じ、私は毎日、陸上競技の内容だけにとどまらない日誌を残しています。

OB・OG 葉書通信

藤原大二(2000 年卒)

日付：2025 年 8 月 30 日
大会：川口市民体育祭
記録：100m　12"05 (+1.7)

2025 年シーズンは膝の怪我からの復帰となり、2 年振りに全力でレースを走ることができました。春までは痛みで走ることすらできなかったことを思えば、まずまずの結果と言えるでしょう。2026 年シーズンに向けては冬も継続的に走る事ができています。この投稿を書いている今日、スパイクとシューズを新調しました。春のシーズンインが楽しみです。

松本翔(2008 年卒)

日付：2025 年 11 月 23 日
大会：大田原マラソン
記録：2 時間 20 分 31 秒（7 位）

その他、青島太平洋マラソンで 2 時間 22 分 17 秒で 2 位、これから大阪マラソン 2026 を走ってきます。マラソン 2 時間 20 分切り、5000m では 14 分台をまだまだキープしていきます（現在 40 歳）

OB・OGの活躍

東大と私の20年

宮﨑彩（2008年卒）

この度、西村邦裕陸上運動倶楽部情報委員長よりご推挙いただきました。東京大学教養学部教養教育高度化機構で特任准教授をしております宮﨑彩と申します。大学卒業後は海外を飛び回り、同期との交流を除き陸上部からは遠ざかっていましたので、これまでの先輩方のお話と比べると毛色が違うかもしれませんが、東大や陸上との出会いを通じて非常にマイペースに歩んできた20年についてお話します。

東大×陸上

振り返ると、帰国子女である私の部活に関する感覚は他の方達と大きく違いました。10歳から熱中していたテニスを続けるため、まず硬式庭球部に入部しましたが、教養学部後期課程での勉強を優先するため、2年の秋学期から駒場で練習のできる陸上部に転部しました。アメリカの高校ではテニス部と陸上部の両方に所属していたため、部活を変えることに躊躇はありませんでした。そもそもアメリカで陸上部に入ったのは、アメリカ人と比べて短距離走が速かったことと、何より棒高跳び選手に憧れがあったからでした。アメリカの部活の「楽しくスポーツをしよう」というのが私のスタンスだったため、日本の大学のハードコアな部活哲学には衝撃を受けました。

東大の陸上を語るうえで欠かせないのが、（確か必修の）スポーツ身体科学で出会った小林寛道先生と八田秀雄先生の「楽しくスポーツを科学する」理念と実践でした。大学1年時には、寛道先生のマシンを使って100メートルを速く走る授業を選択しました。今思うとギニーピッグだったのかもしれませんが、寛道先生のお話と「アニマー！」と叫びながらマシンを使う楽しさを通じて、クラスメート全員が100メートル走の記録を伸ばせたのは驚異的でした。大学2年時の八田先生の授業では、高校の時の憧れだった「棒高跳び」の選手でいらした中村さん（マスターズ記録保持者）と3メートル以上の跳躍記録を持つ陸上部のリョッキーに出会い、お二人に一から棒高跳びを教えていただきました。高所恐怖症だと気づかなかったため、棒の上で反動を活かしながら体を持ち上げる動作に無意識のストップがかかりがちでしたが、練習すれば跳べるはず！と、毎週棒高跳びを楽しみました。そして、リョッキーと一緒に棒高跳びを楽しむため、非常に楽観的に陸上部の扉を叩きました。

ところが想定していた陸上部ライフと実際は全く異なるものでした。当時の女子陸上部は、同期がリョッキーと私の2名、上級生、下級生合わせても6、7名という小さくても練習熱心なチームでした。残念ながら他大学との対抗戦の種目ではなかった棒高跳びは封印せざるを得ず、短距離、跳躍、投擲をメインに色々な種目を担当することになりました。また、最終学年時には、部活に残っていた4年生が私のみであったことから、女子主将になりました。当時は部活を絶やさず、伝統をつなぐことが私の使命だと思っていたので、少ない人数でもチーム全体で対抗戦を勝ち抜くために、女子部をまとめることに尽力しました（写真①）。

2011 年に駒場の博士課程に進学し、不定期に寛道先生の QOM ジムに通うようになってからは、とても真剣に体の声に耳を傾けながら、関節や筋肉の動きに意識を向けることの楽しさを実感し、先生のお話を沢山伺える、とても恵まれた時間を過ごしています。最近再び QOM ジムに行き始めたのですが、その際に、主務の今野さんと寛道先生とお話する機会があり、今回のオファーにつながったのはご縁だと思います。また、昨年退官された八田先生とは 9 号館や銀杏並木、桜の時期は桜並木でしょっちゅうお会いしていたので、陸上部の後輩の高山花子さんを交えて「給水おじさん」として日本中に感動を与えられた先生を記念し、3 人でご飯を食べに行く機会もありました。駒場に長くいるからこそ部活後も先生方と関係を発展できることに喜びを感じています。

東大×文化遺産

入学した時は想像もしていなかった、東大とのご縁が 20 年目に入り、今では駒場が完全なるホームとなっています。といっても学生として関わっていた期間が 17 年なので、今、教員として大学に所属していることが不思議でなりません。

東大に入った一番の理由は、高校生の時に Aera のムック『考古学』で読んだ南米考古学研究の第一人者、大貫良夫先生の記事でした。私は 7 歳の時に見たメキシコのテオティワカン遺跡に衝撃を受けてから、文化遺産を保全する仕事に就きたいと考えていました。日本では見たことのないスケールの遺跡を延々と歩き、太陽のピラミッドの頂上から見下ろした景色の壮大さは圧巻でした。春分の日には白装束を着たメキシコ人が太陽と月のピラミッドを覆い、太陽からエネルギーをもらう儀式を行うのですが、過去の文明が人びとの心の中に息づいている素晴らしさに感動しました。同時に、当時まだ開発途上国だったメキシコでは、政治的経済的要因で保全されている遺跡とそうでないものの扱いがまるで違っており、国を挙げて保全されるものと、放置されるものはどのように区別されるのか？国が文化財を保全できないのであれば、どのような仕組みがあればより多くの遺跡を守ることができるのか？という疑問を抱いたのが、私のその後のキャリア形成に大きく影響を与えました。

大貫先生の下、南米考古学を学ぶために東大に入ると、先生は既に退官され、研究チームも他大学へと移動されていたことが分かり、私は途方に暮れました。進振りの際に、文学部考古学専攻の先生にご相談すると、「国際的なことをやりたいなら国際関係論の方が良いのではないか」とアドバイスをいただき、国際関係論に進学しました。大学 3 年生の時に、当時陸上部をサポートしてくださっていた先輩の鎌倉真音さんから、文化遺産保全の権威であられる工学部・都市工学の西村幸夫先生について教えていただき、本郷で受講したことがきっかけで、西村先生とはその後もプロフェッショナル、アカデミア両方の世界でご縁が続いています。グラウンドで鎌倉さんにいただいたアドバイスがその後のキャリアパスに大きな影響を与えていることを今回再認識し、この場を借りて改めて感謝申し上げたいと思います。

社会科学、特に国際政治の観点から文化遺産の保全について研究をしている人が世界的にあまりいない中、先行研究も乏しく、研究のアプローチが全く定まっていない状況に直面し、そこから 11 年の長い博士論文執筆の旅が始まりました。修士課程修了後に外資系経営戦略コンサルタントとして 1 年働いていた際、激務すぎる環境の中で

自分の好きなことに24時間を使いたいと覚悟して入った博士課程でしたが、それでも想像を絶する厳しさでした。

　まず、博士課程を休学し、世界的に多くの専門家を輩出しているUniversity of York（英国）の修士課程（歴史的建造物保全学）で文化遺産の保全手法と理論を基礎から学びました（写真②)。その内8ヵ月間は週1回、アルプス以北で最大級のゴシック建築であるYork Minsterで石工見習いとして大聖堂の東側の窓の修復工事に携わりました。テニスコートの面よりも大きな東窓からステンドグラスを全て外し、窓枠の内外に足組場を設置し、そこに板を渡して、朝から夕方まで作業をするというかなりハードな環境でした。初日から足組場にポンと乗せただけの板上に通され、「この15世紀の石に穴を開けて、摩耗した窓枠のディテールを直すためにセラミックピンをモルタルで埋めてくれる？」という指示を受け、電動ドリルを手渡されました。電動ドリルで石に穴を掘るのも初めて、練習なくオリジナルの部材である石に手を加えるのも初めて。そもそもこの時に初めて高所恐怖症であることに気づきましたが後の祭り。数カ月後には石工の先輩方と真冬の雪が吹きすさぶ現場で板の上をひょいとまたぎながら窓枠を修理し、寒い日は工房で土台になる石の表面を鑿と槌で平らに削れるようになりました。しかしながら、石工になりたいわけではないことにも気づきました。York大学の先生からもビジネスセクターを知り、社会・人文科学の知識を持って文化遺産を扱うことができることが私の強みであるというコメントをいただき、他の人にできない方法で文化遺産保全に携わる道を模索し始めました。

　英国留学後は、博士論文に関連する文化遺産保全や文化外交を行う組織で（フィールドワーク兼）仕事をする鬼のような二束の草鞋生活が始まりました。それは、論文執筆に時間をあてるため時折仕事を辞めるという不規則な社会人生活の始まりともなりました。まず、帰国後2年半勤めた国際交流基金を辞め、国費留学でメキシコに1年渡航しました。スペイン語を学び直しながら、メキシコの国立文化財修復保全大学大学院で授業を聴講し、博論のフィールドとなるメキシコ市歴史地区に潜り込んでコミュニティや地方自治体の方達と濃密な時間を過ごしながら研究を進めました。その2年後、スペイン語が強みとなって、ユネスコで有形文化遺産専門家として働く機会を得ました（写真③)。私の研究対象であり、国際文化遺産保全制度を運用する世界遺産センターで、ラテンアメリカ・カリブ地域各国の世界遺産制度の運用支援に尽力した後、翌年からは実際に裨益者の顔が見えるペルー事務所に移りました。宙ぶらりんになっていた『10の歴史都市で防災計画を加味した文化遺産保全計画を策定するプロジェクト』を回し、現地の地方自治体、コミュニティ、文化省と審議しながら、ボトムアップのワークショップを通じて都市ごとにアクションプランを策定してもらいました。その後、アンコール遺跡群のあるカンボジア・シェムリアップ事務所で一人駐在をしながら、既存プロジェクトのモニタリングをしつつ、コミュニティに還元できる文化遺産保全プロジェクトの中身を作り上げるというわくわくする仕事にも携わりました。

　これらの経験を盛り込んで論文を書き上げ、博士号を取得してからは、これまでの学びを社会に還元するため、キャリアの方向性を変えました。まず、これまで築いてきた出会いを通じてお声がけいただく機会が増え、文化遺産保全、コミュニティ参加、防災、平和教育、持続可能な開発、制度設計などのキーワードで国際会議やプロ

ジェクトに参加しております。例えば2025年は初めてアフリカ大陸に上陸し、アフリカの人たちが自らアフリカの文化遺産とは何か、その価値とは何かを大陸縦横断で話し合う国際会議に招待していただきました（写真④）。ポストコロニアリズムの議論が文化遺産の定義プロセスの中で行われている様子を目の当たりにし、西洋中心主義的な制度設計の構造を初めて体感しました。

また、現在は、東大で学部1、2年生に向けて、国際的な視野を身に着けてもらいながら、深く一つのテーマを掘り下げる訓練に特化した教育を実施しています。昨年から文化的営みの分析を通じて平和について考えてもらう国際研修『戦争と文化』を東大で始めました。1年目は60年代から90年代に渡る内戦で影響を受けてきたカンボジアについて学んでいたのですが、7月下旬に文化遺産を舞台にタイとの国境で武力衝突が生じ、直前に現地研修はキャンセルせざるを得なくなりました。地政学的リスクに伴う学生の安全確保の難しさや、円安とインフレなどの経済的負担など、様々なリスクを考慮し、2026年度夏は広島で国内研修『文化遺産のポリティックス　実習』を実施いたします。今まで以上に、国際社会におけるパラダイムシフトにどのように対応していくべきなのか、教育の観点からも考えざるを得ない状況が出ているように思います。文化遺産をめぐる研究、教育、プロジェクトを実施するうえで、社会科学が当該領域において重要であることを再確認しており、今後どこに身を置いて、ライフワークを続けていくか模索しているところです。

メッセージ

最後に、現役の皆さんにお伝えしたいこと。それは、東大という恵まれた環境を精一杯楽しんでほしいということです。私は元々やりたいことがはっきりしていましたが、東大に入って「楽しく○○しよう」を貫いていった結果、授業や部活、友人や先生方との出会いを通じて、色々な道が拓かれました。なかなか感謝をお伝えする機会がありませんが、振り返ると色々な方にサポートしていただき、「好き」を沢山伸ばすことできたのは、東大の自由さや、様々なアセットがあったからだと思います。先輩をはじめ陸上部の皆様、先生方、有難うございました。

大学での4年間はあっという間です。学生の皆さんには、例えばQOMジムをフル活用する、気になる先生の授業を受けてみる、東大記録を破るなど、欲望のままに学生生活を楽しんでほしいなと思います。2026年度、私の授業では文化遺産をめぐるポリティクスについて理論と実践（広島研修）を行うだけでなく、国際的に活躍する先輩たちと「グローバル・シチズン」についてディスカッションをする予定です。日本にいながら世界に目を向けるきっかけになればと思うので、興味があれば是非受講してみてください。なお、これまでの取組についてはこちらにまとめておりますので、是非お目通しください（https://sites.google.com/g.ecc.u-tokyo.ac.jp/iop/home）。

Best of luck to all of you!

宮﨑さんからご提供の写真

法人、個人を問わず、ワンストップでのサービスをご提供します

【法人向けサービス】

法人税、消費税の申告、税務相談

経理、会計業務のサポート

【個人向けサービス】

所得税の申告（個人事業主や譲渡など）、税務相談

相続税、贈与税の相談、申告

明石顕 税理士
社会保険労務士 事務所

〒351-0011
埼玉県朝霞市本町2丁目27番37号
TEL:070-5463-5221
E-mail: ken.akashi@office-ka-walk.com

1999年　経済学部卒
2005年　世界陸上（ヘルシンキ）50㎞競歩15位
2007年　世界陸上（大阪）50㎞競歩16位

デロイトトーマツ税理士法人、太陽グラントソントン税理士法人を経て2023年独立開業(税理士、社会保険労務士)

卒業アルバム

秋山賢太郎

2025年
国公立戦200m

秋吉拓真

2026年
第102回箱根駅伝7区

安部飛悠河

2024年
京大戦100m

安藤佑真

2024年
七大戦800m

井上賢志

2025年
京大戦400m

沖夏子

2025年
京大戦
5000mW

金谷響介

2025年
関東インカレ
10000mW

酒井亮

2025年
京大戦走高跳

田口祐実

2023年
七大戦3000m

田中醇之介

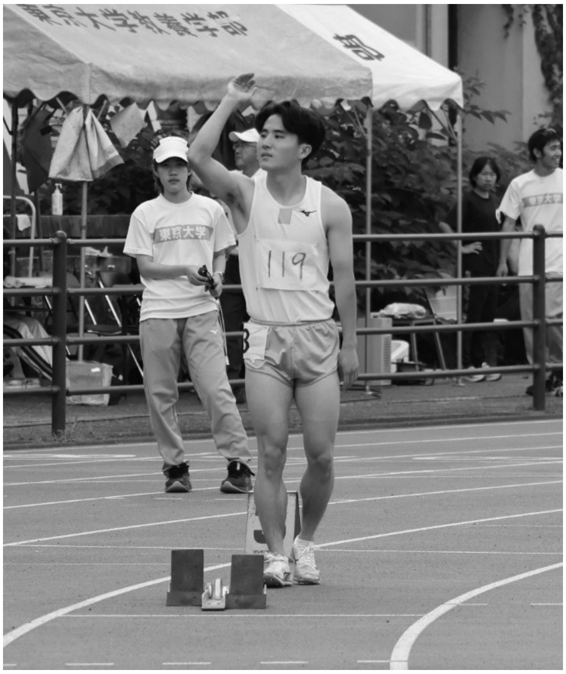
2024年
関東インカレ
十種走高跳

種瀬愛美

2023年
七大戦
800m

土屋諒

2024年
京大戦400m



林佑哉

2025年
四大戦400mH

福田創太郎

2025年
国公立戦400mH

藤井奎輔

2025年
四大戦200m

堀田夏生

2025年
日本大学競技会
100m

森祥真

2025年
箱根駅伝予選会

柳沼大輝

2025年
一橋戦1500m

～卒業の言葉～

不屈

秋山賢太郎

工学部化学生命工学科
200m 22"67

なかなか良い記録が出ず苦しい時期もありましたが、最終年で大きく自己記録を伸ばすことができました。対校戦で活躍できなったことは心残りではありますが、楽しく部活を終えることができて安心しています。

主務補として働く中で、いかに自分たちが恵まれた環境で練習できているかを実感できました。 OBOG の皆様、協賛企業の皆様、本当にありがとうございました。今後も色々な形で部を支えていきたいと思います！

充実の部活生活

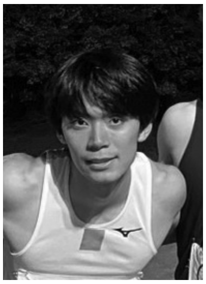
秋吉拓真

工学部機械情報工学科
5000m 13'50"09

4 年間大変お世話になりました。受験期から大学での陸上部入部を決意し、東大に入学してから1つの躊躇いもなく入部しましたが、本当に充実した4年間でした。入部時から箱根駅伝出場を目標に掲げ、3 年時にその夢を掴むことが出来ました。さらに幸運なことにルール変更によって4年時でももう一度走ることが出来ました。想像以上の舞台でしたし、かけがえのない経験になりました。同期や先輩、後輩と切磋琢磨した日々は充実感のあるものでした。また色んな面で支えてくださった近藤コーチ、監督、八田総監督、工藤部長、OBOG の方々には感謝してもしきれません。ありがとうございました。入部時は箱根駅伝という届くか分からない大きな目標だけが自分の部活をする意味でしたが、部活に入って活動するうちに対校戦、合宿、記録会などの部活の全ての活動が自分の大学4年間を形作っていったように思います。練習以外にも部活の仲間と遊んだりした時間は楽しかったですし、主将として部を率いる立場を経験できたのも良かったです。陸上運動部に入部した決断が本当に自分の大学生活にとって素晴らしいものになりました。これからは自分を育ててくれたこと素晴らしい居場所に少しでも多く恩返し出来ればと思っております。改めて4年間ありがとうございました！

楽しかった東大陸上部

安部飛悠河



工学部機械情報工学科
100m 11.76

100m で 11 秒台を出したいなと思ったのと、定期的に運動をした方がいいなと思ってこの部活に入りました。先輩方に怒られたこともやる気がなかった時期もありましたが、最終的には思ったよりハマっていました。もうちょっといける気がするので院でも頑張りたいと思います。部活の皆さんにはお世話になりました。特に短距離の同期は部活外でもいっぱい遊んでもらいました。これからよろしくね^_^

引退

安藤佑真

法学部第１類
800m 1’53”57

大学２年のときに途中入部しましたので、みなさんよりやや少ない３年間の競技生活でしたが、レベルの高い中距

離パートのみなさんと練習し、色々な対校戦に出してもらったことで、非常に濃く楽しい時間となりました。
一緒に練習してくれた選手のみなさん、陰から支えてくださった先輩方、今までありがとうございました。これからの東大陸上部の活躍を応援しています。

4年間を振り返って

井上賢志
工学部都市工学科
都市環境工学コース
400m 48.57

日本インカレを目指して始めた大学陸上は理想通りには行かなかった。1,2 年生では怪我に悩まされ、そこそこ順調に練習を積めた 3,4 年生でも最後までブレイクスルーを起こすことはできなかった。
それでも多くの思い出は残る。ラストイヤーで一着でゴールラインを通過したことはもちろんだが、何気ない練習の一幕もまた大切な思い出である。たくさんの後悔は残るが、それらも今後の人生の糧としたい。
最後に、ご支援いただいた OB の方々に心より感謝申し上げます。

卒業に際して

沖夏子
農学部国際開発農学専修
5000mW 24'17"77
10kmW 49'56

東大陸上部に入部してから、数多くの喜びや悔しさを経験し、人生の中でも忘れ難い瞬間をたくさん味わうことができました。なかでも、最後の幹部代として過ごした1年間は、中学1年生から続く陸上人生の中で、最も陸上競技と真剣に向き合い、大きく成長できた一年だったと感じています。濃密な4年間をありがとうございました。

予想外ばかりの4年間

金谷響介
法学部第3類
5000mW 21'56"78
10000mW 46'31"61
20kmW 1:38'04
35kmW 2:57'18
MarathonW 3:37'12

右も左もわからないままに入部しましたが、人と環境に恵まれた素晴らしい練習環境で競歩に打ち込むことができました。気づいたら主務まで務めることになってしまいましたが、OBOG の先輩方や同期たちをはじめ、たくさんの人の支えのおかげで、東大陸上部のために何をすべきかをじっくり考え、行動するという貴重な時間を謳歌することができました。
記憶に残っているのは、準備不足で負けた時の悔しさ、練習の成果が報われた時の悔しさなど鮮明な感情ばかりですが、当たり前すぎて意識すらしなかった日頃の練習での何気ない会話なんてのが、なによりの財産になるんだろうなと薄々感じております。
今後はいち OB、そしてファンとして東大陸上部の躍進を全力で応援して参ります。

ホンキ×ト×コンキ

酒井亮
工学部建築学科
走高跳 2m01

陸上競技に魅力を感じている仲間が同じ大学にこんなにいて、みんなが本気で取り組んでいることが救いで、頑張り続けることができた理由でした。
陸上に限らずですが、競技スポーツは根

気がいります。成長の過程が非線形だからこそ、耐え忍ぶ必要がある時がどうしても出てきます。現状に苦しんでいる仲間が他にもいたからこそ、自分も苦しい時期を乗り越えようと思えました。

東大陸上部の強さは本気と根気です。いずれ陸上から離れても、みんなと共有したこの熱は大事にしていきたいと思います。

4 年間ありがとうございました。香港のエアビにて。

感謝

田口祐実

工学部機械工学科
3000m 10'27"72

4 年間、大変お世話になりました。

辛いこともあった大学生活ですが、陸上部で様々な楽しい体験もすることができました。 大学院進学後もぼちぼち陸上を続けていけたらと思っていますので、引き続きよろしくお願いいたします。

鎖骨は折れても心は折れない

田中醇之介

文学部言語学
十種競技 5998 点

ついに卒業の時がやってきました。

それまで大きな怪我をしたことがなかった私は、去年の夏、幅跳びで着地に失敗して右の鎖骨を折る大怪我をしてしまいました。秋にも試合を予定して、6000 点取ろうと意気込んでいた矢先の出来事です。しかし私は諦めません。卒業しても、引き続き十種競技を続けて、7000 点取れるその日まで頑張ろうと思います。本当に 7000 点取れたら次は 8000 点取れる日まで再び進み続けます。

余韻

種瀬愛美

工学部社会基盤学科
1500m 5‘04”27

走るという人間にとって当たり前とも言える動作に、こうも向き合い、苦しめられ、そして時に幸せを見出すことになるとは。振り返ると「こうしてれば」「ああしてれば」が先行しますが、なんだかんだ陸上が好きだと感じられたこと、そして東大陸上部という大切な居場所ができたことが、私にとっての大きな財産です。無数の感情の海を泳ぎ続けた3年半は、「充実」の一言では表しきれないほどの濃ゆい日々でした。お世話になったすべての方に、心からの感謝を申し上げます。

儚き夢

土屋諒

工学部精密工学科
400m 48”48

4 年間、数多くの対校戦やリレーに出場させていただきました。

受験からのブランクに苦しんだ 1 年、高校時代の PB を 4 年ぶりに更新した 2 年、関東インカレ A 標準を突破した 3 年と、怪我や調子の波がありながらも概ね順調に成長することができました。ラストイヤーは一度も思うような結果を残せず本当に苦しいシーズンでしたが、個人的には自分の才能の限界までやれる事をやり切ったと思っており、後悔はありません。

思い返せば、あまり良い思いをすることばかりではなかったかもしれません。大事な対校戦は悉く外し、京大戦のマイルは 2 年連続で 0.05 秒差で敗れ、ずっと憧れ続けた関カレはあえなく予選で撃沈し、マイルも 3 年連続予選落ちでした。それでも、ラスト

イヤーは全てを懸けて練習に打ち込んできた自負があるし、数々の地獄の走練や苦手なWTとも逃げずに向き合ってきた上での結果なので、後悔はありません。自分の学部陸上に、胸を張って終止符を打てそうです。

対校戦はいつもマイルが残っているからという理由で、ろくに人の応援もせずスタンドの裏か車の中でマッサージしているような部員でしたが、そんな自分のこともたくさん応援していただいて本当に感謝しています。院でも競技を続けるのか、またどのような形で続けるのか未だに決めきれていませんが、また自分が夢中になれる目標を見つけたいと思います。4 年間本当に楽しかったです。ありがとうございました。

これからもお世話になります

林佑哉

工学部化学生命工学科
400mH 57”08

4 年間ありがとうございました。来年以降も院生として残ります。まだまだ成長途中だと思っているので、学部生に負けないよう成長し続けます。よろしくお願いします。

思い出

福田創太郎

工学部航空宇宙工学科
400mH 56"79

引退したら何も残りません。

引退してしばらく経つと、筋肉がなくなります。心肺機能もなくなります。練習メニューも忘れます。陸上部で得たほぼ全てのものを失います。

ただ、「思い出」だけは残ります。自己ベストを出した思い出、同期と競争した思い出、悔しかった思い出、合宿でクレープを落とした思い出。振り返るとたくさんの思い出があります。

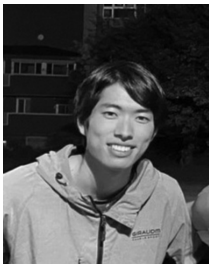
人生の充実度は思い出の数で決まると思います。中学や高校と違い、大学は自分から行動しなければあっという間に終わります。陸上部に入っていなければ、思い出の数が激減していたでしょう。

記録が出ない時や怪我する時もあると思いますが、それも貴重な「思い出」です。後輩には、他の人が羨むぐらいたくさん「思い出」を作って陸上部を卒業して欲しいです。

自分自身も大学院でもう少し「思い出」を作る予定です。4 年間ありがとうございました。

走る楽しさを知れた 4 年間

藤井奎輔



法学部第 1 類
100m 10”80

4 年間の陸上人生で、本当に多くの経験を積むことができました。「10 秒台が出せればいいな」という軽い気持ちで飛び込んだ大学陸上でしたが、最終的には、自分とは無縁だと思っていた対校戦に複数種目で出場させていただくまでになりました。こうして成長できたのは、共に楽しみ、切磋琢磨してくれた短距離ブロックの皆さん、そして何より同期の存在があったからです。4 年間、本当にありがとうございました。

あっという間の 4 年間

堀田夏生

理学部生物情報科学科
100m 11"38

私の大学での陸上は、肉離れや捻挫など、怪我をしている期間が長く、競技に集中できる期間が短くなってしま

い、文字通りあっという間の4年間でした。少し自己ベストは更新できましたが、満足のいく結果ではなかったです。でも、その中でも、こんな感じの僕とも会話をしてくれる仲間と一緒に練習できて嬉しかったです。ありがとうございます！

No Run, No Life

森祥真

工学部航空宇宙工学科
5000m 14'48"85
10000m 31'39"88
ハーフマラソン 67'00

1年生の11月に入部してから3年半、先輩、同期、後輩、OB・OG の皆様をはじめ大変多くの方にお世話になりました。心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

中1で陸上競技を始めたときは高校では野球に戻ろうと思っていたものの、高校でも陸上を続けました。高3の総体路線を落ちたときはもう競技としては走るまいと思っていたものの、途中入部をしてまで大学でも陸上競技に戻ってきました。そこまでして選んだ「走る」とは自分の何なのかとジョグをしながらいつも考えていた3年半でした。中高は出たい大会を目標にしていたけれど、特に目標のない大学陸上。それでもしがみつくように毎日確かに意志を持って走っていました。きっと走ることとは、そうやって色んなことを自問自答しながら自分と向き合う、周りと向き合うことなのだと卒業が近づく最近は思っています。自分にとって走ることは勿論好きなことだけど、それを超越して人生に必要なものなのだと知った大学陸上でした。もう辞めるなんて言いません。院でも続けますし、その後も続けます。今後ともよろしくお願い致します。

軌跡

柳沼大輝

工学部機械情報工学科
1500m 3'50"65

終わりが思うようにいかなければ後悔ばかりが心に浮かぶが、今振り返れば僕の大学陸上は満ち足りたものであったようにも思える。入学時の目標は達成できなかったものの、過去の自分は想像もしなかった景色を見ることができた。この4年間で自分が成長できたかどうかはわからないが、確かに幸せではあった。この部活を通じて出会った人々に感謝したい。

2026-27 年度東京大学陸上運動倶楽部役員

会長…総会で選任　副会長…評議員会で推挙・総会で選任　評議員…会長が推薦
理事長…会長が指名・総会で選任　副理事長…理事長が委嘱
理事…理事長が指名・総会で承認監事…会長が選任・総会で承認

会長

小林 寛道（1968）

評議員

西尾 弘二（1957）
奥山 彰宏（1959：副会長）
笹治 峻（1960）
井上 尚男（1963：副会長）
八島 秀雄（1964）
石堂 怜（1965）
細越 峻（1965）
浅井 光昭（1965）
村田 歓吾（1966）
伊澤 敏彦（1967）
村上 正名（1967）
横坂 敏彦（1970）
横田 逸郎（1973）
稲垣 義孝（1974）
小寺 清（1974）
小手川 強二（1975）
鈴木 正保（1975）
手塚 育志（1976）
橋本 光人（1976）
田上 静之（1976）
海宝 明（1977）
丸山 公夫（1978）
中谷 敬二（1979）
宮城 利久（1980）
斎藤 誠二（1980）
坂本 修一（1981：兼理事）

理事長

室城 信之（1982）

理事

工藤 和俊（部長）
坂本 修一（1981：兼評議員）
柳沢 健彦（1982：親睦）
景山 太郎（1983：親睦）
八田 秀雄（1983：競技・総監督）
勝又 幹英（1983：競技）
小林 徹（1983：副理事長・情報）
渡辺 典之（1984：副理事長・総務）
清水 明（1984：総務）
渡辺 吏（1984：総務○・情報）
石川 淳（1985：副理事長・情報）
宇佐美 潤祐（1985：親睦）
成家 秀樹（1986：財務）○
清水 真（1987：総務）
片岡 央幸（1988：財務）
寺田 秋夫（1988：競技）
井上 裕司（1988：総務）
松尾 裕徳（1989：財務）
小野 満（1991：競技）
馬場 勝也（1991：親睦）○
桜井 亮太（1993：競技）○
奥澤 徹（1993：財務）
長野 麻子（1995：情報）
林 徹也（1995：情報）
伊藤 亮治（1996：親睦）
佐藤 仁志（1999：総務）
明石 顕（1999：財務）
工藤 洋治（1999：競技）
渡辺 国広（2000：親睦）
西村 邦裕（2001：情報）○
新妻 拓弥（2001：競技）

後藤 真紀子（2002：情報）
三輪 記子（2002：親睦）
高梨 幹生（2003：総務）
出口 雅俊（2003：競技）
小口 太郎（2004：情報）
藤田 靖浩（2005：競技・監督）
木村 栄三（2007：財務）
持永 新（2008：財務）
小福田 大輔（2009：総務）
日下 桃子（2010：親睦）
大内田 弘太朗（2013：財務）
近藤 秀一（2019：競技）
原島 敏知（2019：総務）

○：委員長

監事
系 明彦（1979）
早道 信宏（1979）

東京大学陸上運動部倶楽部会則

第一章 総則

第一条（名称） 本会は東京大学陸上運動倶楽部と称し，事務所を東京都文京区本郷7の3の1東京大学運動会東京大学陸上運動部に置く。

第二条（目的） 本会は次の事項を目的とする。

1. 東京大学陸上運動部の後援
2. アマチュア陸上競技の向上発展
3. 会員相互の親睦

第三条（事業） 本会はその目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 東京大学陸上運動部に対し物心両面の支援
2. 他の公認陸上団体の組織機関に関与する本会会員の後援但し関与の場合には予め理事会に申出てその承認を経るものとする。
3. 会報，会員名簿の作成発行
4. 会員相互の親睦行事・懇親会の開催
5. その他必要なる事項

第四条（会員並びに会友） 本会は東京大学陸上運動部に在籍した者並びに理事会で認められた卒業生を正会員とし，在学生（大学院生を含む）を準会員とする。本会は理事会で認められた会友を置くことが出来る。

第五条（会費の納付） 本会の目的を達成するため会員は会費を納付しなければならない。会員が一定の年令もしくは年限を越えたとき，又は倶楽部基金を一定金額以上納付したとき，理事長は当該会員の会費を免除することが出来る。会員は会費の他，特別寄付・倶楽部基金の納付に協力するものとする。

第二章 役員の選任及び任務

第六条（役員の種類） 本会に次の役員を置く。

会長 1 名
理事長 1 名
副会長 若干名
副理事長 若干名
評議員 相当数
理事 相当数
監事 2 名
顧 問 若干名
学生幹事 若干名

第七条（会長） 会長は会員総会に於いて選任する。会長は本会を代表し，会務を統轄する。会長事故あるとき，又は欠けたるときは副会長の中から選ばれたものがその職務を代行する。

第八条（副会長） 副会長は評議員会で推挙し，会員総会に於いて選任する。副会長は会長を補佐する。

第九条（評議員） 評議員は正会員中から会長が推薦する。評議員会は理事会の要請により特定の問題の処理に協力する。会長は必要に応じて評議員会を招集しその議長となる。

第十条（理事長） 理事長は会長が指名し，会員総会に於いて選任する。理事長は理事会を代表し，之を統轄する。

第十一条（副理事長） 副理事長は必要により理事長が理事の中から委嘱する。副理事長は理事長の職務を補佐する。

第十二条（理事） 理事は理事長が指名し会員総会に於いて承認する。理事は理事会を組織して本会の目的遂行に関する一切の会務を執行し，且つ東京大学陸上運動部の諮問に応じる。理事長は必要に応じて理事会を招集してその議長となる。東京大学陸上運動部長及びその監督は職責上理事となる。

第十三条（監事） 監事は会長が選任，会員総会に於いて承認し,会計の監査に当たる。

第十四条（顧問） 顧問は本会に功労のあった会員中から会長が推薦し，会長の諮問に応じる。

第十五条（学生幹事） 学生幹事は正会員である卒業生と準会員である学生との間に円滑なる連絡をはかる事とし，東京大学陸上運動部員が之に当たる。

第十六条（任期） 役員（顧問・学生幹事は除く）の任期は 2 ヵ年とする。但し再選，重任を妨げない。

第三章 経費と会計

第十七条（経費） 本会の経費は会員及び準会員の会費，寄付金，その他の収入を以て之に当てる。会費は次の通りとする。

正会員 一口 5,000 円以上

準会員 年額 5,000 円

特別寄付は任意の額とする。倶楽部基金は一口 10,000 円とする。

第十八条（会計年度） 本会の会計年度は毎年 1 月 1 日に始まり 12 月 31 日に終る。

第四章 会員総会

第十九条（招集） 会長は毎年原則として 3月に定時総会を，また必要ある場合には臨時総会を招集してその議長となる。

第二十条（付議事項） 次の事項が会員総会に付議しなければならない。

1. 前年度収支決算報告の承認

2. 現年度予算の承認
3. 役員の選任
4. 会則の変更
5. その他必要なる事項

第二十一条（議決） 会員総会の付議事項は，総会出席の正会員の過半数の議決によって決定する。賛否同数の場合は議長が之を定める。

第二十二条（議事録） 全ての会議には議事録を作成し，議長及び議長が指名する出席者 2 名以上が署名捺印の上，之を保持する。

第五章 補則

第二十三条 本会加盟の公認陸上競技団体の会費，賦課金は本会の収入中から支払う。

第二十四条 会員は本会の運営に関し何時でも会長まで意見を提出することが出来る。会長は此れを理事長に諮り適宜処理する。

第二十五条 本会は会則を実施するために規程を定めることが出来る。規程の制定・変更は理事会の議を経て総会の決議による。

付則 この会則は昭和 60 年 3 月 12 日より施行する。但し昭和 59 年度決算，及びこれに付帯する事項は従来の会則に従う。

評議員会運営規約

評議員の数は当面 50 名前後迄とする。
会長は少なくとも年に一回評議員会を招集する。

理事会運営規約

※下線部は 2026 年 3 月総会にて変更

理事の数は 60 名以内とする。
<u>理事長は少なくとも六ヵ月に一回理事会を招集する。</u>

専門委員会
理事会の中に次の専門委員会を置き、各委員会に担当理事を置く。

総務委員会
財務委員会
情報委員会
競技委員会
親睦委員会

担当理事は理事会に於いて選任し、委員は会員の中から理事長が委嘱する。
委員長は、委員の中から理事長が委嘱する。
理事会は、専門委員会の所掌に属する特定の事項を担当させるため、委員会の中に部会を設置することができる。
部会員は、会員・準会員の中から委員長が委嘱する。

特別委員会
理事長は必要に応じて特別委員会を設けることが出来る。
委員は会員の中から理事長が委嘱する。

慶弔規定

第一条 会員につき，下記事項が生じたときは，祝賀の意を表するため，記念品を贈呈する。
1. 国際機関，国家等より表彰され，その内容が祝賀にふさわしいと認められたとき。
2. 学界，陸上競技団体，その他の諸団体より前項に準ずる栄誉を受けたとき。
3. その他，祝賀にふさわしい慶事があるとき。

第二条 会員が死亡したときは弔電，弔詞，香典，供花を適宜に選択して呈する。尚，弔問は随時行なう。
第三条 会員が長期乃至重度の疾病に罹ったときは，適当の見舞品を贈ってこれを慰問する。
第四条 会員の配偶者又は直系の尊属・卑属の死亡については，特別の事情ある場合に限り本規程を準用する。
第五条 会友又は倶楽部に特別の功労があった者が死亡したときは，弔意を表するため本規程を準用する。
第六条 本規程による具体的処理は，理事長及び総務委員会並びに親睦委員会の理事の合議を以ってこれを施行する。但し，緊急の場合は理事長が決するところによる。
附則　この規程は，昭和 61 年 3 月 12 日より施行する。

コーチ運営規定

第一条 この規程は、東京大学陸上運動部員の競技力向上等を目的として、コーチに関する必要な事項を定める。
第二条 コーチは必要に応じて複数名おくことができる。
第三条 コーチは競技委員会の推薦を得て監督が選任する。

第四条 コーチの任期は 1 年とし、再任することができる。但し、1 年に満たない期間の臨時コーチの選任を妨げない。
第五条 監督は必要に応じてコーチに指示することができる。
第六条 監督は正当な理由があるときは競技委員会の同意を得てコーチを解任することができる。
第七条 コーチに必要な経費は、本倶楽部会計から支出することができる。
第八条 コーチに関し、本規程に定めていない事項は監督と競技委員会が協議して定める。

東京大学陸上運動倶楽部基金規定

第一条 （目的）　この基金は、東京大学陸上運動部（以下「陸上運動部」という）の活動の基盤となる駒場グラウンド及びその周辺施設並びに競技用器具その他の設備及び物品の整備・購入に充当することを目的とする。
第二条 （基金の目標金額）　理事会は、前条に定める基金の目的に照らし、基金の目標金額を定め、会員に周知するものとする。
第三条（基金の管理）
1. 基金の管理責任者は理事長とし、事務は陸上運動部の東京大学陸上運動倶楽部（以下「倶楽部」という）担当主務者がこれに当たる。
2. 理事長は、基金の保全のために適切な措置を講じるものとする。
第四条 （基金の運用）
1. 基金は有利確実な方法により運用するものとする。
2. 運用の方法は理事会において定めるものとする。
第五条 （基金の使用）
1. 基金を使用するに際しては、予算を作成し、会員総会の承認を受けなければならない。
2. 前項の定めにかかわらず、やむを得ない理由がある場合には、1 会計年度につき総額 500 万円を限度として、理事会の決議により使用することができる。
第六条 （基金の他目的使用の禁止）　基金の元金およびその果実は、会員総会の議決によっても陸上運動部の援助以外に使用してはならない。
第七条 （募金の方法）
1. 基金は倶楽部会員および会員以外の有志、法人の醵金もしくは倶楽部の一般会計からの繰入によりものとする。
2. 醵金は 1 回一口 1 万円とする。
3. 新規卒業者は、卒業した年に第 1 回目の醵金を行なうものとする。

第八条　（会費の免除）　年額 30 万円以上の醵金者に対しては当該年度の会費を免除する。

第九条　（報告）　理事長は倶楽部会計監査を受けた基金の状況を各年毎に会員総会に報告し、かつ会報に掲載するものとする。

第十条　（費用の支弁）　基金の管理上要する費用は、倶楽部経費をもって支弁する。

第十一条　（規程の改廃）　本規程の改廃は会員総会の議決による。

東京大学陸上運動倶楽部表彰規程

※下線部は 2026 年 3 月総会にて変更

第一条(目的)　この規程は、東京大学陸上運動倶楽部(以下単に「倶楽部」という。)が行う部員（以降、本規程において、「大学院生を含む、東京大学陸上運動部に部費を納めている者」を指すものとする）等の表彰に関し必要な事項を定め、もって記録の向上と倶楽部の発展に寄与することを目的とする。

第二条(表彰の種類及び対象)

1.表彰の種類及びその対象となるべき者は、次のとおりとする。

〇東大記録賞: 各種目につき、東大記録以上の記録を達成した部員(同一の種目について既に表彰を受けた者については、その記録を超える記録を達成した場合に限る。)

〇優秀記録賞: 各種目(リレーを除く)につき、第 5 条第 1 項に従って定められる標準記録以上の記録を達成した部員(同一の種目について既に表彰を受けた者については、その記録を超える記録を達成した場合に限る。)

〇年間最優秀選手(MVP)賞: 年度(4 月 1 日から翌年 3 月 31 日)において傑出した競技結果を残したと認められる部員(傑出した競技結果とは、関東学生対校選手権 1 部、日本学生対校選手権、日本選手権、国民スポーツ大会等の国内トップレベルの競技会における入賞、当該年度の開始日を含む年の日本 100 傑ランクイン相当の記録や当部における傑出した記録の達成、関東学生対校選手権・七大戦・京大戦等の東大陸上運動部が重視する対校戦における複数入賞による活躍等をいう。)

〇特別年間最優秀選手賞: 年間最優秀選手(MVP)賞受賞者のうち、国内トップレベルの競技会において優勝又はそれに準ずる成績を達成した部員

〇対校戦特別貢献選手賞: 陸上運動部在籍期間における関東学生対校選手権、七大戦、京大戦の総獲得得点が、第 5 条第 2 項に従って定められる基準を達成した者

以上に関しては、学部生部員を対象とする。

〇特別賞: 他の部員の範とすべき特別の努力が認められた、又は倶楽部に対する貢献が特に高いと認められた者

2.100m、110mH 及び走幅跳の東大記録賞、特別年間最優秀選手賞ならびに対校戦特別貢献選手賞については、それぞれ、「村上記念賞」、「笹岡記念賞」、「走巾跳賞」、「内山記念賞」、「佐々木記念賞」の名称を冠する。

第三条(表彰委員会)

1.被表彰者の選考を行うため、倶楽部に表彰委員会(以下単に「委員会」という。)を設置する。

2.委員会は、監督及び競技種目等を考慮して理事長が指名する倶楽部会員若干名をもって構成する。

3.委員会に、互選により、委員長及び副委員長を置く。

4。この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が定める。
第四条(披表彰者の決定)　被表彰者は、委員会の推薦に基づき、理事会で決定する。
第五条(標準記録等)
1.標準記録は、毎年度、種目(リレーを除く)ごとに委員会が定め、総会に報告するものとする。
2.対校戦特別貢献選手賞の総獲得得点の基準(総獲得得点を計算する際の各対校戦での獲得得点の換算方法を含む)は委員会が定め、総会に報告するものとする。ただし委員会は、あらかじめ定めた基準に満たない者を、被表彰者とすべき理由を付して理事会に推薦し、理事会は被表彰者とすることができる。
第六条(表彰)　表彰は、毎年の定時総会の席において、理事長が記念品を贈呈して行う。
第七条(基金)
1.表彰に要する経費を支弁するため、倶楽部に表彰基金(以下単に「基金」という。)を設ける。
2.基金の資金には、従前の村上記念賞基金、笹岡記念賞基金、走中跳賞基金及び種目別表彰基金の資金並びに寄付金等のほか、一般会計からの繰入金をもってこれに充てる。
3.基金の経理は、特別会計とする。
4.基金の運用については、この規程に定めるもののほか、理事会が定める。
附則　この規程は昭和五十三年二月二日から施行し、昭和五十二年の実績から適用する。

2024 年 3 月 13 日改訂
表彰対象基準記録の見直し要領
関東 IC 参加標準記録 A 及び歴代 20 位相当の記録を参考とし、表彰対象となった記録が、当該記録を追加した後の歴代 20 位の記録を下回った場合、表彰対象基準記録の見直しを行うことを原則とする。
説明
記録の絶対的な高低は種日間にばらつきがあるため、あくまで関東 IC 及び歴代 20 位は参考記録とし、絶対的なレベルが高ければ 20 位以下でも表彰対象とし、逆に低くても 20 位程度までは表彰対象とする。20 位相当としたのはきりのいい記録とする調整値を考慮した。また機械的な見直しを原則とするが、原則である以上見直しを行わない結論に達しても構わない。

特別賞の表彰運用基準について
特別賞の対象を「競技記録による表彰の対象とはならない東京大学陸上運動部員」とし、原則として当該年における他の表彰（東大記録賞、優秀記録賞、年間最優秀選手(MVP)

賞:、特別年間最優秀選手賞、対校戦特別貢献選手賞）の受賞者以外の者を被表彰者とする。
なお、東京大学陸上運動部員以外の者を表彰対象者とするかどうかについては、会友制度等との関係も含めて、理事会において検討していくこととする。

東大記録賞の表彰運用基準について
各種目につき、東大記録以上の記録を達成した部員（同一の種目について既に表彰を受けた者については、その記録を超える記録を達成した場合に限る。）なお、「東大記録」は、日本陸上競技連盟「審判ハンドブック」における日本記録の定めに準じ、以下のとおり定義する（「ラウンド」とはトラック・フィールド共に、予選・決勝などの各々をさす）。
（a）同じラウンドでは、従来の東大記録を基準としてその記録と同じか上回るすべての記録が東大記録となる。
（b）前のラウンドで新たに複数の東大記録が出た場合は、その記録の中で最高のものを次のラウンド開始時点での東大記録とし、次のラウンドではその記録と同じか上回る記録のみが東大記録となる。

各「冠」賞のご説明

村上記念賞：村上国平氏（100m10 秒 6、200m21 秒 5：昭和 6 年卒）の遺志により、100m および 200m の戦後最高記録に対して昭和 47 年に設立。昭和 53 年の表彰規程制定時に 100m（男子）の東大新記録賞・東大戦後最高記録賞として継承。令和 2 年より 100m の東大記録賞に冠する。
歴代受賞者：小手川強二、佐々木裕、工藤洋治、米田武史、藤田旭洋、西村智宏、井上昴、新倉佑輔

笹岡記念賞：笹岡実氏（110mH15 秒 4：昭和 8 年卒）の遺志により、110mH の東大記録に対して昭和 50 年に設立。昭和 53 年の表彰規程制定時に 110mH の東大新記録賞・東大戦後最高記録賞として継承。令和 2 年より 110mH の東大記録賞に冠する。
歴代受賞者：上原郁、桜井亮太、近藤隆祐、小泉賢滋、馬上凌

走巾跳賞：冨山一郎氏（7m08：昭和 5 年卒）、西村平八郎氏（6m92：昭和 5 年卒）、村上国平氏（6m87：昭和 6 年卒）により、走巾跳 7m10 以上でその年の最高記録者に対して昭和 36 年に設立。昭和 53 年の表彰規程制定時に走幅跳（男子）の東大新記録賞として継承。令和 2 年より走幅跳の東大記録賞に冠する。

歴代受賞者：浜田素司、伊藤文昭、前田俊之、橋本光人、中谷敬二、森朋彦、椿幸太

佐々木記念賞：対校戦において比類なき大活躍をされた故佐々木裕氏（関東インカレ、七大戦、京大戦で通算 221 点：昭和 56 年卒）を記念して、対校戦での総獲得得点が基準を達成した者に対する対校戦特別貢献選手賞として令和 4 年に新設。
歴代受賞者：秋吉拓真

内山記念賞：関東インカレ 1 部、日本インカレにおいて東大陸上運動部所属選手として初めて優勝した内山咲良氏（令和 4 年卒）を記念して、年間最優秀選手（MVP）賞受賞者のうち、国内トップレベルの競技会において優勝またはそれに準ずる成績を達成した者への特別年間最優秀選手賞として令和 6 年に新設。

各種納入金のご案内

1. 納入金の内容

【1】会費（1 人あたり 4 口 20,000 円以上）

会費は倶楽部運営の基幹となる大切な財源であり、ご納入を強くお願い申し上げます。

2019年の総会において、今後のグラウンド改修等を見据えた中長期財務計画に関する決議がなされました。これに基づき、2020 年度以降、会費は「4 口 20,000 円」とし、これを原資として、毎年 700 万円の倶楽部基金への積立てを目標としています。今年度も同様の方針で運営いたしますので、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、ご事情により 4 口 20,000 円の納入が難しい場合には、2 口 10,000 円での納入をお願い申し上げます。また、社会の第一線をご退任された方、大学院生、会友、その他ご事情のある方については、1 口でも差し支えございません。

1986 年度総会にて会則が改定され、ご卒業後 55 年を経過された方は「任意会費納入者」として取り扱うことになっております。

また、支出が年度前半に集中するため、1987 年度より前年度 12 月からのご納入をお願いしております。

【2】倶楽部基金（1 人あたり 1 口 10,000 円以上）

倶楽部基金は 1980 年に発足し、2025 年 3 月現在、950 名を超える皆さまからご寄附をいただいております。

当初は、利息をもって陸上部の活動を支援することを目的としておりましたが、2019年の総会にて規程改定が決議され、現在は、グラウンド改修や検定費、大型（100 万円超）の用具購入のための資金プールを目的としています。今後は予算策定時に総会の承認を得たうえで、これら設備等の購入に使用可能となります。

なお、基金規定第 7 条第 3 号（会報掲載）により、新規卒業者は、卒業の年に第 1 回目の寄附を行うこととなっております。また、卒業時の寄附に加え、年度会計からの積立て、遺贈等のご寄附も歓迎しております。複数回のご寄附も大変ありがたく存じます。

2019 年の総会決議の詳細につきましては、会報復刊第 66 号（令和元年版）に掲載の「駒場第一グラウンド改修および倶楽部基金規程改定のご報告」をご覧ください。

2. ご送金の方法

【2026 年度入金口座】

・郵便振替

口座番号：00120-5-185656

口座名義：東京大学陸上運動倶楽部

・銀行振込

銀行名：みずほ銀行 渋谷支店（店番：210）

口座種別：普通預金

口座番号：8192727

口座名義：東京大学陸上運動倶楽部

納入のお願いとともに郵便振替用紙を同封しておりますので、どうぞご利用ください。倶楽部基金もあわせてご納入いただける場合は、その内訳を振替用紙の通信欄にご記入ください。

また、ご住所・お電話番号・ご勤務先等に変更があった場合は、倶楽部会員サイトより情報をご自分で修正していただけますと幸いです。

ご不明な点などございましたら、お手数ですが学生主務までお問い合わせください。

東京大学陸上運動部学生主務　今野碧衣
E-mail shumu@uttf.org / shumu.todaitf@gmail.com

東京大学陸上運動倶楽部個人情報保護規程

第一条（適用範囲）　この規程は、東京大学陸上運動倶楽部（以下「倶楽部」という）の運営について、個人情報を取り扱う場合に適用するものとする。

第二条（個人情報の収集の方法）　倶楽部が個人情報を収集する方法は、以下のとおりとする。

(1) 会員本人からの申し出

(2) 会員本人による倶楽部会員サイトからの入力

(3) 会員本人の了承を得た他の会員または会員本人の家族からの連絡

第三条（個人情報の利用目的）　倶楽部は、会員の個人情報を以下の利用目的の達成に必要な範囲内で利用するものとし､以下に定めのない目的で個人情報を利用する場合、あらかじめ会員の同意を得たうえで行うものとする。

(1) 倶楽部および陸上運動部（登録したパートを含む）からの情報提供、連絡および会費等納入のお願い

(2) 会報および会員サイト名簿ページへの掲載

第四条（個人データの共同利用）

1. 倶楽部は、会員の個人データを、東京大学陸上運動部（以下「陸上運動部」という）および東京大学大学院陸上運動部と共同利用するものとする。

2. 共同利用する個人データは以下のとおりとする。

会員の氏名・住所・電話番号・E メールアドレス・卒業年・入学年・出身高校・学部学科・勤務先・競技成績

3. 共同利用の目的は、第三条各号に定める目的とし、共同利用する個人データの管理責任者は第 10 条に定める者とする。

第五条（個人データの管理）　倶楽部は、保有する会員の個人データを漏洩、紛失、改ざん等の事態から防ぐために、必要かつ適切な措置を講じるものとする。

第六条（個人データの第三者への開示）　倶楽部は、個人情報保護法等の法令に定めのある場合または倶楽部の活動のために業務を委託する外部業者に対し提供する場合を除き、個人データをあらかじめ本人の同意を得ることなく、第三者に提供しないものとする。

第七条（個人データの修正等）　会員が、自身の個人データの利用目的の通知・開示・修正・追加・利用停止・消去・第三者提供の停止を希望する場合、会員自身が倶楽部会員サイトから入力できるようにすることを含め、倶楽部は適切に対応するものとする。

第八条（個人情報の非公開）　会員は、会員本人の住所・電話番号・E メールアドレスについて、倶楽部会員サイトにおいて非公開とすることができるものとする。

第九条(問い合わせ先)　倶楽部は、個人情報の取り扱いに関しての問い合わせや苦情、第七条の修正等の希望の申し出など行う先及びその方法を別に定めるものとする。

第十条 個人データ管理の責任者　個人データ管理の責任者は、倶楽部理事長とする。

2025 年 3 月 19 日

2026 年定時総会報告

2026 年の定時総会は、2025 年 3 月 9 日（月）、本郷・山上会館で開催されました。総会に先立ち評議員会が 16 時 30 分から 001 会議室において ZOOM とのハイブリッドで行われ、対面 8 名、リモート 5 名の評議員の参加により、東大基金についての大学事務局からの説明、中長期の財務計画に関する意見交換、当日の議題の審議などが行われました。

18 時 30 分より談話ホールにおいて、渡辺吏総務委員長の司会により、総会が開催されました。

出席者　　会員：40 名　準会員（学生）：66 名　委任状出席：38 名

開会に先立ち、この 1 年間に亡くなられた会員のために、30 秒間の黙祷が行われました。

小林寛道会長、工藤和俊部長の挨拶があり、その後、各項目の審議に入りました。

1. 2025 年度事業報告並びに決算報告
   室城信之理事長より内容説明があり、議案のとおり承認されました。
2. 2026 年度事業計画並びに予算
   室城理事長より内容説明があり、議案のとおり承認されました。
3. 表彰規程の一部変更について
   桜井亮太競技委員長より東大記録の扱いなどに関する表彰規程の変更について説明があり、議案のとおり承認されました。
4. 理事会運営規約の一部変更について
   渡辺吏総務委員長より、理事会の年 3 回の開催を可能とする理事会運営規約の変更について説明があり、議案のとおり承認されました。

審議の終了後、室城理事長、小林徹副理事長より、部室再建プロジェクトについて、

・ 駒場が世界陸上の練習会場となった追い風もあり、2025 年 9 月に部室棟が無事竣工し、プロジェクトは完了とすること
・ 104,470,411 円のご寄付をいただき、東大スポーツ基金の大学部分（全体口）からの費用充当もあって、最終的に 20,900,110 円となった黒字は倶楽部基金に繰り入れること
・ 寄付をいただいた会員の皆さまの銘板を部室内に掲出する予定であること

などの報告がありました。
また、5 つの専門委員会の報告がそれぞれの委員長から行われました。

総会の終了後は、学生を交えての懇親会が、馬場勝也親睦委員長の司会で行われました。
部員表彰では、桜井亮太表彰委員会の司会のもと、7 人 15 種目の東大記録賞のほか、MVP 賞、特別賞、新設後初となる佐々木記念賞などが授賞されました。
20 時 30 分、藤本裕之介主将によるエールを締めとして閉会しました。

100 人を超えるＯＢ・ＯＧと学生との対面での懇親は大いに盛り上がり、会員の応援の気持ちとそれに応える学生の気持ちを感じられるよい機会となりました。

委員会活動報告

総務委員会

渡辺吏(1984 年卒)

日頃よりＯＢＯＧの皆さまにはたいへんお世話になっております
総務委員会は倶楽部活動全般のコーディネーターとして、各委員会、そして学生幹部と連携して活動を進めています。
2026 年の総会は、本郷の山上会館において学生参加の懇親会とともに開催でき、大いに盛り上がりました。参加者の多くが 1980 年台卒以前の会員ですので、中堅・若手の OB/OG の積極的な参加をお待ちしています。
理事会については、1 月の会議を竣工なった新部室で開催しました。こうした打合せも適切に運用できる広さと設備です。これまで年 4 回の開催でしたが、OB/OG 戦の開催時期が前倒しとなったことに伴い、5 月の OB/OG 戦時、9 月の京大戦前、1 月の総会準備の年 3 回開催を想定し、それを可能とする理事会運営規約の一部変更を総会で承認いただきました。対面とリモートのそれぞれの良さを生かして開催しています。
一昨年より、情報委員会とも連携して倶楽部の Web サイトを運営しており、昨年は試合応援チャットや歴代記録サイトを新たに開発しました。会員名簿、お支払い履歴の参照機能、会報や部便りのアーカイブス。自由に入力・閲覧できる掲示板など、現役部員の応援と会員相互の交流促進に役立つものとなっています。まだ利用されていない方は、ぜひメールアドレスを登録・認証のうえ、ご活用ください。
今後も、中長期的なグラウンド改修を見込んだ財政基盤の確立などの課題はありますが、引き続き会員の皆さんのご支援をいただきながら、学生を応援してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

財務委員会

成家秀樹(1986 年卒)

2025 年度は、倶楽部会員の皆様より、**会費・寄付金**として **1,138 万円**のご支援をいただきました。予算 1,300 万円には届かなかったものの、引き続き高水準のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。会費の納入率については依然として課題を残しており、特に若年層会員の納入率向上が今後の重要なテーマであると認識しております。

広告収入は **207 万円**と、概ね予算水準を維持しました。また、**東京大学陸上競技会**は競歩、長距離競技会含め年間 5 回開催され、運動部会計において **約 426 万円**の収入を確保するなど、安定的な自主財源として定着しています。

支出面では、倶楽部会計から**運動部会計への補助**として **約 446 万円**を支出し、試合関係費、合宿補助、遠征補助、用具費等を通じて現役部員の活動を支援しました。2025 年度は、七大学対校戦が北海道で開催され、遠征補助費が増加した点が特長的です。

また、**会員親睦費**については **約 56 万円**を支出し、OB・OG 戦や皇居周回駅伝などの行事を通じて、世代を超えた交流の機会が継続的に確保され倶楽部活動の活性化を実感する一年となりました。

2025 年度の特筆すべき事項として、**部室再建プロジェクトが無事完了**した点が挙げられます。倶楽部会員の皆様からの多大なるご寄付とご理解により、最終的にはプロジェクト全体で黒字を確保し、**約 2,090 万円を倶楽部基金に繰り入れる**ことができました。これにより、2025 年度末の倶楽部基金残高は **約 1 億円**となり、将来の施設整備やグラウンド改修への備えが一層強化されました。

今後も、現役部員の競技力向上と倶楽部活動の活性化を財務面から支えるとともに、安定した財務基盤の維持・強化に努めてまいります。引き続き、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

評議員会で共有された中長期的な財務課題について、簡単に補足いたします。

倶楽部基金は財務面の強化ができた一方で、インフレや建設費高騰を背景に、将来のグラウンド改修や公認維持に必要となる費用は、従来想定を大きく上回る可能性がでてきています。このため、**基金の実質的な価値を維持しつつ、将来に備える仕組みづくり**が重要な課題となっています。

今年度は、財務委員会として

- 倶楽部基金の中長期的な運用・管理方法の検討（東大基金のスキーム研究含む）
- 将来のグラウンド改修・維持費用を見据えた積立水準の整理
- 遺贈寄付を含む寄付手段の多様化に向けた情報提供

を主な活動テーマとして取り組み、次回総会において一定の方向性をお示しできるよう検討を進めてまいります。

情報委員会

西村邦裕(2001 年卒)

倶楽部会員および部員の皆様のご協力を頂き、無事、2026 年、令和八年度版会報復刊 73 号をお届けできることになりました。毎年、多くの方にご寄稿もいただき、感謝申し上げます。

陸上運動倶楽部の会員サイトの稼動に伴い、様々な機能をデジタルへ移行することができました。総務委員長の渡辺吏さんの力が大きいところで感謝しております。倶楽部会員サイトで本人認証を行っていただくことで、年次の近い会員名簿をご覧いただけるようになっております。2025 年の定時総会において個人情報保護規程の変更が承認されたことを踏まえ、昨号より名簿の紙での発行は行わないことにとなりました。まだ未登録の方は、是非、https://uttf.club/ の Web サイトにアクセスし、メールの認証うえ、ご登録いただけますと幸いです。

また、記録集についてもデジタル化を進めました。これまでは会報後半に小さい文字で多くの記録を載せておりましたが、本号より各種目 30 傑の掲載へと変更しております。デジタル化した記録集もご覧いただき、記録の謝りや風情報の追加などございましたら、ご連絡をいただければ修正いたします。

今年度の特集記事は「練習日誌の付け方」です。私たちの頃は、紙やノートでの記録が一般的でしたが、現在はデジタルでの管理が主流になっているかと思います。私自身もジョギングアプリを利用し、GPS ログとともに写真などを記録しています。最近では、出張先の新しい街で、朝にジョギングすることを楽しみにしています。時差ボケ対策や運動不足の解消にも役立てています。また、アプリを通じて、友人たちのジョギングや練習内容を見ることができるため、良い刺激にもなっています。

2025 年の七大戦は、北海道大学が主管校でした。情報委員会としてはデジタル化の一貫として、ライブ配信の議論に加わりました。室城理事長のご紹介もあり、札幌テレビ放送に委託して、ライブ配信を行うことができました。

本号での小特集のひとつは、2025 年に完成した部室再建の報告です。私の頃は、トレーニング体育館に部室がありましたが、数年前にトレーニング体育館自体がなくなり、部室のない時期が続きました。OBOG の皆様のご支援および八田先生、工藤部長、小林副理事長のご尽力もあり、部室が再建でき、現役の皆さんの活動もしやすくなったのでは、と想像しています。

また、2026 年お正月の箱根駅伝では、修士 2 年の本多さん、学部 4 年の秋吉さん、と、2 年連続、2 名の箱根駅伝の出場という快挙にもなり、東大総長の応援も含めて、盛り上がりにも繋がりました。箱根駅伝も「小特集」にしています。

今後も、部内および倶楽部内のコミュニケーションの活性化につながるよう、デジタル化を推進して参ります。ご意見、ご助言など貯まりながら、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

競技委員会

桜井亮太(1993 年卒)

日頃より OG・OB の皆様におかれましては大変お世話になっております。
2025 年度の表彰委員会では、第 58 回東京六大学陸上の 5000m 優勝を皮切りに、第 76 回全国七大学対校陸上競技大会の 1500m および 5000m、3000m 障害での 2 年連続 3 冠王による大会 MVP（このうち 5000m、3000m 障害は大会新記録）、自身 2 度目の出場となる東京箱根間往復大学駅伝競走（第 102 回）第 7 区での区間 4 位相当の快走、1500m および 10000m、ハーフマラソンでの東大記録樹立、特にハーフマラソンでは 2025 年度の日本ランキング 91 位にランクイン、と今年度も人知を超える大活躍を見せた 4 年生秋吉拓真主将を、文句なしの年間最優秀選手(MVP)賞の表彰対象者として選出しました。なお、秋吉主将は主要対校戦（関東学生陸上競技対校選手権大会/七大学対校陸上競技大会/東京大学・京都大学対校陸上競技大会）における累計得点が 84 点となり、佐々木記念賞獲得者第一号（基準 70 点）となっております。また、4 種目で東大記録を保持し、パイオニアとして昨今の東大陸上部最強女子競歩陣を牽引してきた 4 年生沖夏子女子主将と、上記東京箱根間往復大学駅伝競走第 4 区に出走し、秋吉主将とともに東京大学陸上運動部の知名度上昇に貢献した修士 2 年生本多健介選手を、特別賞表彰対象者として選出しました。
さらに、秋吉主将や沖女子主将のほか、4 年生金谷響介主務が 35km 競歩とフルマラソン競歩の 2 種目、3 年生青山虹海選手が女子 10000m 競歩および女子 10km 競歩、女子 20km 競歩の 3 種目、2 年生越國太貴選手がハーフマラソン競歩、2 年生沖田康太朗選手が実に 33 年ぶりにハンマー投げ、さらには期待の新人渡邉晴香選手が女子ハーフマラソンで東大記録を樹立しました。このほか、20 名の選手がのべ 29 種目で優秀記録賞を樹立しています。
2026 年度も全国レベルの活躍が期待される部員が多く在籍しております。今年度は、多くの対校戦が遠征となりますが、OG・OB の皆様におかれましては、引き続きご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

親睦委員会

馬場勝也(1991 年卒)

2025 年度は恒例の OB・OG 戦と皇居周回駅伝、隔年開催となる京大戦後の東大・京大 OBOG 懇親会という三つのイベントを中心に倶楽部会員と現役部員の交流の場をアレンジいたしました。
2025 年度の OB・OG 戦は、暑さ対策の観点から開催時期を前倒しし、5 月 18 日（日）に開催しました。若手からベテランまで多くの OBOG の皆様にご参加いただき、競技会には延べ 134 名が出場しました。今年もたくさんのお子様にエントリーいただき、50m には 7 組・32 名、走り幅跳びには 13 名が出場しました。競技会終了後

の懇親会も大いに盛り上がりました（競技結果は、東京大学陸上運動部ホームページ（https://www.uttf.org/）に掲載しております。トップページのメニューから 「試合開催情報」 ＞ 「OBOG 競技者の皆様へ」 に移動していただきますと「OBOG 戦結果一覧」がございます。こちらをご覧ください)。

10 月 5 日（日）の京大戦終了後には両校 OBOG 約 45 名の参加をいただき懇親会を開催いたしました。対校戦そのものは残念な結果となりましたが、懇親会はそれぞれの旧交を温める大変楽しい会となりました。

11 月 15 日（土）には穏やかな好天のもと皇居周回駅伝大会を開催いたしました。前年から 1 チーム増の 7 チームが参加し、和気あいあいと楽しく健脚を競いました。本年のネットタイム優勝は、おなじみのチーム METI（河本健一・寺井大貴・平岡侑一郎・吉屋拓之)、昨年に続く連覇となりました。大会後は、補助員としてサポートいただいた現役部員を加えた約 35 名が参加した懇親会を開催し、最終結果の発表と表彰で大変盛り上がりました。

2026 年度は関東インカレの翌週・5 月 31 日（日）に開催される OBOG 戦、晩秋の皇居周回駅伝大会という二つのイベントを予定しております。今年も幅広い OBOG の皆様のご参加を心よりお待ちしております。本年度もよろしくお願いいたします。

2025年度 OB・OG戦　結果

男女１００m（決勝）

【１組】

1	14.21	藤村　陽	東大OB・1986
2	15.62	石川　淳	東大OB・1985
3	16.10	久保　忠博	東大OB・1984
4	22.48	浅野　勝己	東大OB・1984
	欠場	新良　聡史	東大OB・1984

【２組】

1	11.12	西田　昴広	東大OB・2011
2	11.74	柏木　龍太	東大OB・2022
3	12.88	瀬川　莉玖	東大OB・2024
4	13.28	栗田　徹士	東大OB・2015
5	13.60	大村　泰平	東大OB・2008
6	14,57	市野澤　空任	東大OB・2022
	欠場	馬場　勝也	東大OB・1991

【3組】

1	14.56	岡田　理香	東大OG・2013
2	15.12	堀越　彩香	東大OG・2011
3	15.63	久保木　結	東大OG・2013
	欠場	西田　晴菜	東大OG・2014

【4組】

1	11.31	西川　諒	理二・2028
2	11.82	福田　創太郎	工・航空宇宙・2026
3	11.89	若松　駿	工・社基・2024
4	12.07	中田　光	理一・2028
5	12.85	田中　醇之介	文・2026

【5組】

1	11.40	市野澤　空任	東大OB・2022
2	11.95	落合　利紅	工・物工・2027
3	12.44	柳沼　大輝	工・機情・2026
4	12.46	林　健太郎	理二・2028
5	13.27	大槻　修也	理一・2028
	欠場	寺西　拓	理一・2029

総合

1	11.12	西田　昴広	東大OB・2011
2	11.31	西川　諒	理二・2028
3	11.40	市野澤　空任	東大OB・2022
4	11.74	柏木　龍太	東大OB・2022
5	11.82	福田　創太郎	工・航空宇宙・2026
6	11.89	若松　駿	工・社基・2024
7	11.95	落合　利紅	工・物工・2027
8	12.07	中田　光	理一・2028

男女４００m（決勝）

【１組】

1	1:39.54	横尾　直哉	東大Ｊｒ
2	1:40.74	石原　匠	東大Ｊｒ
3	1:52.82	松本　陽向	東大Ｊｒ
	欠場	横尾　友樹	東大Ｊｒ

【２組】

1	1:06.80	藤村　陽	東大OB・1986
2	1:16.85	大谷　薫	東大OB・1986
3	1:20.61	久保　忠博	東大OB・1984
4	1:26.95	堀越　彩香	東大OB・2011
	欠場	石原　匠	東大OB・2008

【3組】

1	56.55	恩田　武琉	理一・2028
2	56.57	竹下　柚稀	工・シス創・2027
3	1:00.70	寺尾　瑛司	文二・2028
	欠場	斉藤　章太	文一・2029

【4組】

1	52.47	福田　創太郎	工・航空宇宙・2026
2	53.17	落合　利紅	工・物工・2027
3	56.76	徳山　大暉	理二・2028
4	58.41	遠藤　渓一郎	理二・2028

総合

1	52.47	福田　創太郎	工・航空宇宙・2026
2	53.17	落合　利紅	工・物工・2027
3	56.55	恩田　武琉	理一・2028
4	56.57	竹下　柚稀	工・シス創・2027
5	56.76	徳山　大暉	理二・2028
6	58.41	遠藤　渓一郎	理二・2028
7	1:00.70	寺尾　瑛司	文二・2028
8	1:06.80	藤村　陽	東大OB・1986

男女１５００m（決勝）

【１組】

1	4:16.5	藤本　祐之介	工・化学生命工学・2027
2	4:21.2	瀬川　莉玖	東大OB・2024
3	4:29.8	越野　レオ	農・水圏・2026
4	4:30.5	月崎　竜童	東大OB・2008
5	4:31.4	日影　拓真	法・3類・2027
6	4:47.2	越國　太貴	理一・2028
7	4:50.3	大村　泰平	東大OB・2008
8	4:57.5	大内田　弘太郎	東大OB・2013
9	5:08.5	柏木　龍太	東大OB・2022
10	5:35.9	佐藤　芳宏	東大OB・1987
11	5:52.2	阿部　飛悠河	工・機情・2026
12	6:03.8	小川　美菜	東大OG・2019
13	6:33.4	井上　裕司	東大OB・1988
14	6:52.5	宗石　譲	東大OB・1982
	途中棄権	井上　賢志	工・都市工・2026
	欠場	近藤　航介	東大OB・2001
	欠場	成家　秀樹	東大OB・1986
	欠場	石原　宏尚	東大OB・2008
	欠場	落合　利紅	工・物工・2027
	欠場	東條　秀祐	東大OB・2023
	欠場	和田　優輝	理二・2028

【2組】

1	4:55.9	小田　慎太郎	文一・2029
2	4:59.1	織原　健人	東大OB・2017
3	5:07.1	佐藤　吏輝	理一・2029
4	5:11.6	寺西　拓	理一・2029
5	5:14.6	安井　章	東大OB・1988
6	5:23.2	大沼　歩生	理一・2029
7	5:26.0	荒田　章悟	東大OB・2016
8	5:30.6	信田　泰知	理一・2029
9	5:34.0	佐藤　駿	東大OB・2016
10	5:38.2	松本　幌平	文三・2029
11	5:43.3	川崎　太陽	理二・2029
12	5:48.3	田中　基愛	文三・2029
13	5:55.7	内山　陽文	文二・2029
14	6:13.0	斎藤　章太	文一・2029
15	6:23.7	岩田　優	理一・2029
	欠場	服部　瑞季	理二・2029
	欠場	渡辺　遥斗	理一・2029
	欠場	戸田　匠音	文二・2029
	欠場	中田　光	理一・2029
	欠場	塩川　玲央	理一・2029
	欠場	棚瀬　愛美	工・社基・2026

総合

1	4:16.5	藤本　祐之介	工・化学生命工学・2027
2	4:21.2	瀬川　莉玖	東大OB・2024
3	4:29.8	越野　レオ	農・水圏・2026
4	4:30.5	月崎　竜童	東大OB・2008
5	4:31.4	日影　拓真	法・3類・2027
6	4:47.2	越國　太貴	理一・2028
7	4:50.3	大村　泰平	東大OB・2008
8	4:55.9	小田　慎太郎	文一・2029

男女３０００m（決勝）

1	9:19.2	瀬川　莉玖	東大OB・2024
2	9:23.0	山﨑　貴裕	東大OB・2010
3	9:45.3	月崎　竜童	東大OB・2008
4	9:55.8	新妻　拓弥	東大OB・2001
5	10:10.2	大久保　翔平	東大OB・2013
6	11:54.5	佐藤　芳宏	東大OB・1987
7	12:04.5	寺田　秋夫	東大OB・1988
8	12:59.1	小川　美菜	東大OG・2019
9	13:53.2	大谷　薫	東大OG・1986
10	15:50.5	斎藤　誠二	東大OB・1980
	欠場	近藤　航介	東大OB・2001
	欠場	清水　明	東大OB・1984
	欠場	成家　秀樹	東大OB・1986
	欠場	渡邉　晴香	文三・2029
	欠場	東條　秀祐	東大OB・2023

男女棒高跳（決勝）

	記録なし	上 野 隆 治	東大ＯＢ･2015

お子様　５０m（決勝）

【１組】

1	19.1	山崎　碧人 2	東大Jr
2	23.9	高梨　将稔 2	東大Jr
3	27.1	石原　蒼 2	東大Jr
4	54.8	月崎　海瑠 1	東大Jr
5	02:36.6	早川　寿信 1	東大Jr
	欠場	岩川　美涼 2	東大Jr

【２組】

1	15.5	早川　晴信 3	東大Jr
2	19.6	小林　澪奈 3	東大Jr
3	22.3	吉岡　玄 3	東大Jr
4	22.9	松本　陽彩 3	東大Jr
5	27.4	渡邉　智文 3	東大Jr
	欠場	塩見 真友里 3	東大Jr

【3組】

1	11.8	佐野　菫 5	東大Jr
2	12.1	西田　健人 5	東大Jr
3	12.4	岡田　英理似 4	東大Jr
4	14.4	月崎　天翔 4	東大Jr
	欠場	岩川 凌太郎 4	東大Jr
	欠場	横尾　友樹 4	東大Jr

【4組】

1	13.5	松本　悠陽 5	東大Jr
2	14.9	山崎　颯大 5	東大Jr
3	19.7	上野　葵 5	東大Jr
4	21.3	西村　雅 5	東大Jr
	欠場	文　ニコ 5	東大Jr

【5組】

1	10.6	石原　匠 7	東大Jr
2	10.8	藤田　稜 7	東大Jr
3	10.9	松本　陽向 7	東大Jr
4	11.9	栗田　泰士 6	東大Jr
5	13.4	高梨　智暉 6	東大Jr

【6組】

1	8.7	樋口　一文 9	東大Jr
2	8.9	新妻　知弥１１	東大Jr
3	9.1	西村　奏 8	東大Jr
4	9.3	横尾　直哉 9	東大Jr

【7組】

1	9.4	倉員　修平１０	東大Jr
2	10	倉員 沙百合 7	東大Jr
3	13.1	栗田 みのり 4	東大Jr
4	16.3	岡本　倫明 4	東大Jr
5	25.1	岡本　華佳 3	東大Jr

総合

1	8.7	樋口　一文 9	東大Jr
2	8.9	新妻　知弥１１	東大Jr
3	9.1	西村　奏 8	東大Jr
4	9.3	横尾　直哉 9	東大Jr
5	9.4	倉員　修平１０	東大Jr
6	10	倉員 沙百合 7	東大Jr
7	10.6	石原　匠 7	東大Jr
8	10.8	藤田　稜 7	東大Jr

男女１００mW（決勝）

1	16.6	千菊　智也	東大OB・2021
2	17.1	越國　太貴	理一・2028
3	18	瀬川　莉玖	東大OB・2024
4	18.6	金 谷 響 介	法・第３類・2026
5	19.8	北沢　陽弥	東大Jr
6	21	仲　美凪	工学系研究科・2027
7	21.3	畠山　小枝	工・化生・2027
8	23.2	井上　賢志	工・都市工・2026
9	23.6	今野　碧衣	教養・地域研究・2027
10	24.4	浅野　勝己	東大OB・1963
11	24.9	多田　有沙	工・建築・2027
12	25.3	奥田　航平	工・機械B・2024
13	25.8	宮宇地　彬	理一・2028
	欠場	落合　利紅	工・物工・2027
	欠場	金島　成美	広域科学専攻　生命環
	欠場	成家　秀樹	東大OB・1986

男女　８００mW（決勝）

1	03:29.7	瀬川　莉玖	東大・2024
2	03:31.4	寺田　秋夫	東大OB・1988
3	03:49.2	金谷　響介	法・第３類・2026
4	03:52.8	小澤　直紘	理一・2031
5	03:57.1	沖　夏子	農・国農・2026
6	04:04.7	吉澤　登吾	理一・2029
7	04:06.4	青 山 虹 海	農・応生・2027
8	04:08.7	早川　晃司	東大OB・2011
9	04:15.5	田中　智也	理一・2032
10	04:25.7	髙島　啓嗣	文三・2029
11	04:43.9	種瀬　愛美	工・社基・2026
12	04:44.3	張　小巍	理一・2029
13	04:45.2	鈴木　晴陽	理一・2029
14	04:48.2	有田　周	理二・2029
15	04:49.3	栁　沙織	法・第１類・2027
16	05:14.5	渡邉　晴香	文三・2029
17	05:27.2	小川　哲生	理一・2029
18	05:32.2	服部　瑞季	理二・2029
19	05:32.7	佐藤　大師	文一・2029
20	05:35.3	倉田　拓実	理一・2030
22	05:56.3	染川　尊俊	理一・2029
23	05:57.4	小泉　祐翔	理二・2029
24	05:57.6	大江　至道	理一・2029
25	06:34.3	浅野　勝己	東大OB・1963
21	5:47.2失格	遠藤 渓一郎	理二・2028
	欠場	系　明彦	東大OB・1979

男女　スウェーデンリレー（決勝）

【１組】

1	02:06.5	ミャクミャク
2	02:07.5	工・化生・2026
3	02:25.0	Orion Beers
4	02:36.1	平成ステイヤーズ

【２組】

1	02:07.7	柳沼と愉快な仲間たち
2	02:10.6	機械系＋J
3	02:10.9	本郷正門付近
4	02:31.1	まさかりかさま

総合

1	02:06.5	ミャクミャク
2	02:07.5	工・化生・2026
3	02:07.7	柳沼と愉快な仲間たち
4	02:10.6	機械系＋J
5	02:10.9	本郷正門付近
6	02:25.0	Orion Beers
7	02:31.1	まさかりかさま
8	02:36.1	平成ステイヤーズ

男女走高跳（決勝）

1	1m80	田中　醇之助	文･2026
2	1m40	遠藤 渓一郎	理二･2028
3	1m20	宇佐美 潤祐	東大ＯＢ･1985
4	欠場	馬 場 勝 也	東大ＯＢ･1991

男女走幅跳（決勝）

1	6m36	徳 山 大 暉	理二･2028
2	6m21	田中 醇之介	文･2026
3	6m06	西 田 昴 広	東大ＯＢ･2011
4	5m87	若 松 駿	工･社基･2024
5	5m56	林 佑 哉	工･化生･2026
6	5m51	井 上 賢 志	工･都市工･2026
7	5m49	土 屋 諒	工･精密･2026
8	5m33	秋山 賢太郎	工･化生･2026
9	4m91	遠藤 渓一郎	理二･2028
10	4m89	栗 田 徹 士	東大ＯＢ･2015
11	4m78	藤 井 奎 輔	法･第１類・2026
12	4m63	安部 飛悠河	工･機情･2026
13	4m58	林 健 太 郎	理二･2028
14	3m71	堀 越 彩 香	東大ＯＧ･2011
15	3m00	宇佐美 潤祐	東大ＯＢ･1985
	欠場	久 保 忠 博	東大ＯＢ･1984
	欠場	坂 本 向 輝	理二･2028

男女砲丸投（決勝）

1	11m80	土 井 雅 人	東大ＯＢ･2018
2	8m51	徳 山 大 暉	理ニ･2028
3	8m09	井 上 賢 志	工･都市工･2026
4	7m93	長谷川 達也	東大ＯＢ･1999
5	6m95	坂 本 向 輝	理二･2028
6	6m50	北 沢 剛 久	東大ＯＢ･1993
7	4m67	寺 田 秋 夫	東大ＯＢ･1988

男女円盤投（決勝）

1	31m43	土 井 雅 人	東大ＯＢ・2018
2	23m52	北 沢 剛 久	東大ＯＢ・1993
3	18m99	坂 本 向 輝	理二・2028
4	18m90	徳 山 大 暉	理二・2028
5	17m47	安部 飛悠河	工・機情・2026
6	16m91	井 上 賢 志	工・都市工・2026
7	16m02	林 健 太 郎	理二・2028
8	15m09	藤 井 奎 輔	法・第１類・2026
9	10m35	大 村 泰 平	東大ＯＢ・2008
10	欠場	橋 本 官 樹	理二・2028
11	欠場	和 田 優 輝	理二・2028

男女砲丸投（決勝）

1	11m80	土 井 雅 人	東大ＯＢ・2018
2	8m51	徳 山 大 暉	理ニ・2028
3	8m09	井 上 賢 志	工・都市工・2026
4	7m93	長谷川 達也	東大ＯＢ・1999
5	6m95	坂 本 向 輝	理二・2028
6	6m50	北 沢 剛 久	東大ＯＢ・1993
7	4m67	寺 田 秋 夫	東大ＯＢ・1988

男女やり投（決勝）

1	338m28	福 井 透	東大ＯＢ・2025
2	36m96	秋山 賢太郎	工・化生・2026
3	36m66	坂 本 向 輝	理二・2028
4	31m43	若 松 駿	工・社基・2024
5	28m18	瀬 川 莉 玖	東大ＯＢ・2024
6	27m64	藤 井 奎 輔	法・第１類・2026
7	19m40	土 井 雅 人	東大ＯＢ・2018

お子様走幅跳（決勝）

1	2m73	横 尾 直 哉	東大Jr
2	2m40	倉 員 修 平	東大Jr
3	2m33	倉員 沙百合	東大Jr
4	2m07	石 原 匠	東大Jr
5	1m97	栗 田 泰 士	東大Jr
6	1m91	上 野 葵	東大Jr
7	1m79	栗田 みのり	東大Jr
8	1m60	山 崎 颯 大	東大Jr
9	1m33	西 田 健 人	東大Jr
10	1m31	月 崎 天 翔	東大Jr
11	1m27	高 梨 智 暉	東大Jr
12	0m97	山 崎 碧 人	東大Jr
13	0m75	石 原 蒼	東大Jr
	欠場	横 尾 友 樹	東大Jr
	欠場	文 ニ コ	東大Jr
	欠場	藤 田 稜	東大Jr

男女+RC:R[40]C[3]やり投（決勝）

1	338m28	福 井 透	東大ＯＢ・2025
2	36m96	秋山 賢太郎	工・化生・2026
3	36m66	坂 本 向 輝	理二・2028
4	31m43	若 松 駿	工・社基・2024
5	28m18	瀬 川 莉 玖	東大ＯＢ・2024
6	27m64	藤 井 奎 輔	法・第１類・2026
7	19m40	土 井 雅 人	東大ＯＢ・2018

お子様走幅跳（決勝）

1	2m73	横 尾 直 哉	東大Jr
2	2m40	倉 員 修 平	東大Jr
3	2m33	倉員 沙百合	東大Jr
4	2m07	石 原 匠	東大Jr
5	1m97	栗 田 泰 士	東大Jr
6	1m91	上 野 葵	東大Jr
7	1m79	栗田 みのり	東大Jr
8	1m60	山 崎 颯 大	東大Jr
9	1m33	西 田 健 人	東大Jr
10	1m31	月 崎 天 翔	東大Jr
11	1m27	高 梨 智 暉	東大Jr
12	0m97	山 崎 碧 人	東大Jr
13	0m75	石 原 蒼	東大Jr
	欠場	横 尾 友 樹	東大Jr
	欠場	文 ニ コ	東大Jr
	欠場	藤 田 稜	東大Jr

男女円盤投（決勝）

1	31m43	土 井 雅 人	東大ＯＢ・2018
2	23m52	北 沢 剛 久	東大ＯＢ・1993
3	18m99	坂 本 向 輝	理二・2028
4	18m90	徳 山 大 暉	理二・2028
5	17m47	安部 飛悠河	工・機情・2026
6	16m91	井 上 賢 志	工・都市工・2026
7	16m02	林 健 太 郎	理二・2028
8	15m09	藤 井 奎 輔	法・第１類・2026
9	10m35	大 村 泰 平	東大ＯＢ・2008
10	欠場	橋 本 官 樹	理二・2028
11	欠場	和 田 優 輝	理二・2028

2025年度決算報告

単位：円

倶楽部会計報告

	項目		2025年度予算	実績	差異(実績-予算)	2024年度予算（参考）	実績(24/12/31)（参考）
収入	繰越		500,000	500,000	0	500,000	500,000
	会費寄付金		13,000,000	11,380,000	▲ 1,620,000	12,000,000	10,805,000
		会費	12,000,000	10,380,000	▲ 1,620,000	12,000,000	10,805,000
		寄付金	1,000,000	1,000,000	0	0	0
	学生会費		487,500	665,000	177,500	452,500	587,500
	広告収入		2,200,000	2,071,000	▲ 129,000	2,200,000	2,446,110
	雑収入		0	5,349	5,349	0	40,484
	計		16,187,500	14,621,349	▲ 1,566,151	15,152,500	14,379,094
支出	会報発行費		1,600,000	1,178,413	▲ 421,587	1,600,000	1,433,273
	総会費		500,000	705,248	205,248	350,000	484,414
	会議費		50,000	3,267	▲ 46,733	50,000	0
	通信費		100,000	23,490	▲ 76,510	50,000	23,454
	デジタル化推進費		550,000	509,952	▲ 40,048	700,000	540,850
	運動部補助		6,272,026	4,459,453	▲ 1,812,573	6,491,030	6,902,987
	慶弔費		30,000	0	▲ 30,000	30,000	28,265
	監督活動費		300,000	300,000	0	300,000	300,000
	倶楽部雑費		75,000	14,016	▲ 60,984	80,000	95,373
	会員親睦費		600,000	562,827	▲ 37,173	700,000	579,969
	コーチ活動費		150,000	90,000	▲ 60,000	320,000	100,000
	倶楽部基金積立		5,460,474	5,974,683	514,209	3,781,470	3,233,979
	次年度繰越		500,000	800,000	300,000	500,000	500,000
	計		16,187,500	14,621,349	▲ 1,566,151	15,152,500	14,379,094

運動部会計報告

	項目		2025年度予算	実績	差異(実績-予算)	2024年度予算	実績(24/12/31)
収入	運動会・学友会からの補助		126,000	46,000	▲ 80,000	149,000	126,000
	倶楽部補助		7,402,026	5,827,344	▲ 1,574,682	7,103,730	6,902,987
		年度会計からの補助	6,272,026	4,459,453	▲ 1,812,573	6,491,030	6,902,987
		スポーツ基金活用	1,130,000	1,367,891	237,891	612,700	0
	東大競技会収入		2,290,000	4,257,981	1,967,981	1,000,000	1,398,800
	院生登録費回収		199,500	282,000	82,500	199,500	206,150
	雑収入		0	224,603	224,603	0	158,310
	計		10,017,526	10,637,928	620,402	8,452,230	8,792,247
支出	試合関係費		2,000,000	2,820,784	820,784	2,500,000	1,822,129
	東大競技会支出		150,000	245,857	95,857	50,000	163,161
	学連関係費		1,200,000	1,095,293	▲ 104,707	1,200,000	1,163,046
	遠征補助費		1,705,000	1,645,000	▲ 60,000	1,400,000	1,405,524
	合宿補助費		1,070,000	1,010,000	▲ 60,000	750,000	1,010,220
	沖縄合宿補助		1,000,000	700,000	▲ 300,000	なし	なし
	用具費		1,838,726	2,097,969	259,243	1,602,230	1,868,947
	ユニフォーム代補助		350,000	429,351	79,351	450,000	461,469
	サポート関連費		100,000	124,012	24,012	なし	なし
	新入部員獲得費		453,800	345,159	▲ 108,641	なし	なし
	運動部雑費		150,000	124,503	▲ 25,497	300,000	663,576
	計		10,017,526	10,637,928	620,402	8,452,230	8,792,247

倶楽部基金状況　(円)

2024年度末残高			87,805,232
	2025年度醸金		8,205,961
		2025年部室寄付	8,125,961
		2025年基金	80,000
	2025年度利息		28,976
2025年度末残高(一般会計からの積立前)			96,040,169
	2025年度末の一般会計からの積立		5,974,683
2025年度部室関係費用			▲2,174,258
2025年度末残高(一般会計からの積立後)			99,840,594

東大スポーツ基金寄付状況　(円)

	全体
2024年度末 使用可能額	76,995,240
2025年度寄付額のうち使用可能額(寄付の85%)	3,617,050
2025年度用器具購入	▲ 1,367,891
2025年度部室関係費用	▲76,985,043
2025年度末 使用可能額	2,259,356

会計監査の結果、本決算は会則に照らし、公正かつ妥当なものであることを認める。

2026年2月7日

東京大学陸上運動倶楽部監事

系 明彦

早道 信宏

表彰基金運用状況　　1978年3月～2026年3月31日

2026年4月1日

〔収入の部〕

1）既設基金		509,177 円
（村上記念賞・笹岡記念賞・走幅跳賞）		
2）パート別醵金		1,299,809 円
短距離	276,696	
中長	367,828	
長距離	78,300	
棒	29,000	
投擲	90,000	
マネージャー	39,000	
その他	418,985	
3）倶楽部基金より繰り入れ		1,184,000 円
2003年5月	1,000,000	
2021年11月	100,000	
2022年10月	84,000	
4）預金利息		653,402 円
～2025年3月	652,574	
2025年4月～26年3月	828	
5）佐々木記念賞表彰基金		689,476 円
2022年4月～22年12月	689,476	
		4,335,864 円

〔支出の部〕

1）トロフィー代		3,945,553 円
1977～2017年度計	3,173,981	
2018	86,223	
2019	108,402	
2020	49,847	
2021	88,886	
2022	83,234	
2023	89,957	
2024	127,922	
2025	137,101	
2）諸掛		22,804 円
（信託解約手数料等）		
うち2025年度分	0	
3）預金残高		367,507 円
（2026年4月1日現在）		
		4,335,864 円

以上のとおりご報告いたします

東京大学陸上運動倶楽部　表彰基金　会計

松本 翔

○ 醵金

本基金スタート時にパート別に1977年以前の卒業生を対象に実施。その後も1991年度まで、有志の学年の卒業時に醵金をいただいた。

スタート時	680 千円
1985・1986年度	191 千円
1988・1989年度	15 千円
1990年度	10 千円
1991年度	50 千円

○ 寄付

また、同窓会等の剰余金から寄付をいただいている。

1998年度	表彰委	5千円
1999年度	1982年同窓会	5千円
2000年度	監督寄付等	23千円
2001年度	理事会等	21千円
2008年度	ジャンプ会	6千円
2016年度	皇居駅伝有志	3千円
2017年度	1982年同窓会	6千円
2017年度	中長会	4千円
2018年度	佐々木さんを偲ぶ会	139千円
2018年度	2015年短距離会	12千円
2018年度	中長会	5千円

〔最近の残高推移〕

05年1月	1,285	
06年1月	1,233	
07年1月	1,202	
08年1月	1,081	
09年1月	1,024	寄付
10年1月	940	
11年1月	855	
12年1月	771	
13年1月	698	
14年1月	575	
15年1月	467	
16年1月	359	
17年1月	259	寄付
18年1月	176	寄付
19年1月	264	寄付
20年1月	178	
21年1月	70	
22年1月	120	倶楽部基金
23年1月	805	倶楽部基金＋佐々木記念賞
24年1月	721	
25年1月	632	
26年1月	505	

2026年度優秀記録賞標準記録

（下線は昨年度より変更のあった記録）

男子		女子	
種目	標準記録	種目	標準記録
100m	10"85	100m	13"10
200m	21"90	200m	27"10
400m	49"50	400m	60"00
800m	1'55"00	800m	2'23"00
1500m	3'57"00	1500m	4'50"00
		3000m	10'10"00
5000m	14'45"00	5000m	18'00"00
10000m/10km	31'00"00/31'00	10000m/10km	37'30"00/37'30
110mH	15"60	100mH	16"00
400mH	55"60	400mH	66"50
3000mSC	9'30"00	3000mSC	12'00"00
ハーフマラソン	1°07'30	ハーフマラソン	1°25'00
マラソン	2°30'00	マラソン	3°20'00
5000mW	23'45"00	5000mW	30'00"00
10000mW/10kmW	47'30"00/47'30	10000mW/10kmW	61'00"00/61'00
20kmW	1°40'00	20kmW	2°05'00
35kmW	3°10'00	35kmW	3°35'00
50kmW	4°50'00		
21.0975kmW	1°45'00	21.0975kmW	2°12'00
42.195kmW	4°00'00	42.195kmW	4°30'00
走高跳	1m95	走高跳	1m50
棒高跳	4m20	棒高跳	2m50
走幅跳	7m10	走幅跳	5m30
三段跳	14m50	三段跳	10m50
砲丸投	12m30	砲丸投	10m00
円盤投	38m50	円盤投	30m00
槍投	55m00	槍投	35m00
ハンマー投	42m00	ハンマー投	20m00
十種競技	5800	七種競技	3800

男子　　　　　　　　女子

昨年度からの変更点

男子	
100m	10"90→10"85
200m	22"00→21"90
800m	1'55"50→1'55"00

2025年度表彰対象者一覧

2025年度年間最優秀選手(MVP)賞

パート	氏名	学年	選出理由
長距離	秋吉拓真	4	七大戦 1500m/3000mSC/5000m 3冠、大会MVP 3000mSC、5000m 七大戦大会新記録 1500m、10000m 東大記録更新 京大戦1500m/5000m優勝、六大戦5000m優勝 2025年度日本ランキング ハーフマラソン91位 箱根駅伝7区出走　区間4位相当

特別賞

パート	氏名	学年	選出理由
競歩	沖夏子	4	東大記録4つ保持(5000mW, 10kmW, 20kmW, ハーフW) 女子主将 競歩のパイオニア
長距離	本多健介	M2	箱根駅伝出走、東京大学陸上運動部の知名度向上に貢献

佐々木記念賞

パート	氏名	学年	選出理由
長距離	秋吉拓真	4	対校戦(関カレ・七大・京大)4年間累計84点(基準70点)で受賞。 本年度:七大18点(1500m・3000mSC・5000m各1位)、京大12点(1500m・5000m各1位)

東大記録賞

パート	氏名	学年	種目	記録	樹立大会名	期日	歴代順位
長距離	秋吉拓真	4	男子10000m	28’45″62	第319回日本体育大学長距離競技会	2025/03/29	1
			男子1500m	3’48″20	第 240 回東海大学長距離競技会	2025/09/28	1
			男子ハーフマラソン	1° 01’01	第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会	2026/02/01	1
	渡邉晴香	1	女子ハーフマラソン	1° 24’13	THE CHALLENGE RACE 2025 SERIES 14 in ARAKAWA	2025/12/13	1
競歩	沖夏子	4	女子10kmW	49’56	第74回元旦競歩大会	2026/01/01	1
			女子5000mW	24’17″77	第8回東大競歩記録会	2026/01/10	1
			女子20kmW	1° 45’15	第109回日本陸上競技選手権大会・ハーフマラソン競歩	2026/2/15	1
			女子ハーフマラソン競歩	1° 51’12	第109回日本陸上競技選手権大会・ハーフマラソン競歩	2026/2/15	1
	金谷響介	4	男子35km競歩	2° 57’18	第49回全日本競歩能美大会 第109回日本陸上競技選手権大会・35km競歩	2025/03/16	1
			男子フルマラソン競歩	3° 37’12	第62回全日本競歩高畠大会	2025/10/26	1
	青山虹海	3	女子10kmW*(1)	51’12	第74回元旦競歩大会	2026/01/01	2
			女子10000mW	52’01”35	第8回東大競歩記録会	2026/1/10	1
			女子20kmW*(1)	1° 50’00	第109回日本陸上競技選手権大会・ハーフマラソン競歩	2026/2/15	2
	越國太貴	2	男子ハーフマラソン競歩	1° 31’36	第62回全日本競歩高畠大会	2025/10/26	1
投擲	沖田康太朗	2	男子ハンマー投	48m56	第104回関東学生陸上競技対校選手権大会	2025/05/10	1

*(1)同じレース・同ラウンドで複数人が従来の東大記録を上回った場合は両方とも東大記録賞の対象になる
本規定は日本陸連「審判ハンドブック」に準じ、2020年度総会にて承認(Jan 4th, 2026 競技・表彰委員により決定)

2025年度優秀記録賞

パート	氏名	学年	種目	記録	樹立大会名	期日	歴代順位
短距離	井上賢志	4	男子400m	48″57	第98回東京大学・京都大学対校陸上競技大会	2025/10/05	6
	藤井奎輔	4	男子100m	10“80(+0.6)	第73回東京地区国公立大学対校陸上競技大会	2025/06/21	16
	遠藤渓一郎	2	男子100m	10″65(+0.9)	第76回全国七大学対校陸上競技大会	2025/07/26	6
	宮宇地彬	2	女子100m	12″92(+1.5)	第6回日本大学競技会	2025/07/20	6
	西川諒	2	男子200m	21″67(−0.8)	第98回東京大学・京都大学対校陸上競技大会	2025/10/05	9
	徳山大暉	2	男子110mH	15”54(−0.5)	第98回東京大学・京都大学対校陸上競技大会	2025/10/05	20
	小田槙太朗	1	男子100m	10″62(+1.9)	第80回鹿児島県陸上競技選手権大会	2025/07/12	4
	渡辺遥斗	1	男子100m	10″84(+1.4)	第98回東京大学・京都大学対校陸上競技大会	2025/10/05	21
			男子200m	21″84(−2.4)	第73回東京地区国公立大学対校陸上競技大会	2025/06/21	16
			男子400m	49″21	第98回東京大学・京都大学対校陸上競技大会	2025/10/05	15
中距離	安藤佑真	4	男子800m	1’53”57	第18回wttk・田園クラブ中距離記録挑戦会	2025/10/12	10
	小栗蒼一郎	2	男子800m	1’54″38	第18回wttk・田園クラブ中距離記録挑戦会	2025/10/12	15
	柳沼大輝	4	男子800m	1’54″51	第17回wttk・田園クラブ中距離記録挑戦会	2025/08/03	16
	吉澤登吾	1	男子800m	1’53”10	第66回東京大学・一橋大学対校陸上競技大会	2025/08/30	6
長距離	秋吉拓真	4	男子3000mSC	8’57″65	第76回全国七大学対校陸上競技大会	2025/07/27	3
	森祥真	4	男子ハーフマラソン	1° 07’00	第101回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会	2025/10/18	12
	大森智	3	男子10000m	29’34″09	第319回日本体育大学長距離競技会	2025/03/29	4
			男子1500m	3’51″69	第 239 回東海大学長距離競技会	2025/07/13	6
			男子5000m	14’22″73	第324回日本体育大学長距離競技会	2025/11/16	5
			男子ハーフマラソン	1° 03’56	第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会	2026/2/1	3
跳躍	酒井亮	4	男子走高跳	2m01	第76回全国七大学対校陸上競技大会	2025/07/27	6
	田中醇之介	4	男子110mH	15″00(+1.0)	第104回関東学生陸上競技対校選手権大会	2025/05/09	7
			男子十種競技	5998	第104回関東学生陸上競技対校選手権大会	2025/05/09	3
競歩	金谷響介	4	男子5000mW	21’56″78	第76回全国七大学対校陸上競技大会	2025/07/26	14
	青山虹海	3	女子5000mW	26’30”04	第98回東京大学・京都大学対校陸上競技大会	2025/10/05	2
			女子ハーフマラソン競歩	1° 56’00	第109回日本陸上競技選手権大会・ハーフマラソン競歩	2026/2/15	2
	越國太貴	2	男子10000mW	41’44″41	第46回東京大学陸上競技会	2025/11/09	2
			男子5000mW	20’14″52	第98回東京大学・京都大学対校陸上競技大会	2025/10/05	2
			男子20kmW	1º26’38	第74回元旦競歩大会	2026/01/01	2

歴代年間最優秀選手賞受賞者

（2007 年度制定、該当者がある場合のみ記載）

2014 年度　福永大輔

2015 年度　宮原弘季

2016 年度　西村智宏　軽部智

2017 年度　近藤秀一

2018 年度　三宅功朔　高石涼香

2019 年度　三宅功朔　内山咲良

2020 年度　内山咲良

2021 年度　内山咲良　馬上凌　高橋創

2023 年度　北岸健吾　秋吉拓真

2024 年度　新倉佑輔　秋吉拓真

2025 年度　秋吉拓真

2026年度予算案(2026/1～2026/12)

単位:円

倶楽部予算案

	項目	2025年度実績	2026年度予算
収入	繰越	500,000	800,000
	会費寄付金	11,380,000	11,000,000
	学生会費	665,000	580,000
	広告収入	2,071,000	2,119,000
	雑収入	5,349	0
	計	14,621,349	14,499,000
支出	会報発行費	1,178,413	1,200,000
	総会費	705,248	698,200
	会議費	3,267	10,000
	通信費	23,490	50,000
	デジタル化推進費	509,952	500,000
	運動部補助	4,459,453	6,183,959
	慶弔費	0	30,000
	監督活動費	300,000	300,000
	倶楽部雑費	14,016	75,000
	会員親睦費	562,827	570,000
	コーチ活動費	90,000	200,000
	表彰基金繰入れ	0	0
	倶楽部基金積立	5,974,683	4,631,841
	次年度繰越	800,000	50,000
	計	14,621,349	14,499,000

運動部予算案

収入	運動会・学友会からの補助	46,000	57,000
	倶楽部補助	5,827,344	7,289,644
	年度会計からの補助	4,459,453	6,183,959
	スポーツ基金活用	1,367,891	1,105,685
	東大競技会収入	4,257,981	4,220,000
	院生登録費回収	282,000	232,750
	雑収入	224,603	0
	計	10,637,928	11,799,394
支出	試合関係費	2,820,784	2,600,000
	東大競技会支出	245,857	190,000
	学連関係費	1,095,293	1,100,000
	遠征補助費	1,645,000	3,526,000
	合宿補助費	1,010,000	1,140,000
	沖縄合宿補助	700,000	300,000
	用具費	2,097,969	1,803,400
	ユニフォーム代補助	429,351	350,000
	サポート関連費	124,012	301,684
	新入部員獲得費	345,159	338,310
	運動部雑費	124,503	150,000
	計	10,637,928	11,799,394

倶楽部基金状況 (円)

2025年度末残高		99,840,594
	2026年度醵金	180,000
	2026年度利息	0
2026年度末残高(一般会計からの積立前)		100,020,594
2026年度末の一般会計からの積立		4,631,841
2026年度末残高(一般会計からの積立後)		104,652,435

東大スポーツ基金寄付状況 (円)

2025年度末 使用可能額	2,259,356
(支出)2026年度用具購入	▲ 1,105,685
2026年度末 使用可能額	1,153,671

会費納入者一覧

1955	浅澤　誠夫	1975	小池　貞夫	1982	井上　博之	1986	細井　浩之
1957	古寺　博	1975	小田　博文	1982	江川　徹	1986	藤村　陽
1959	柴崎　嘉之	1976	田上　静之	1982	眞田　順吉	1986	手嶋　英一
1963	井上　尚男	1976	大野　譲	1982	石村　達清	1986	内藤　浩文
1963	興津　誠	1976	手塚　育志	1982	柳沢　健彦	1986	武田　政文
1964	寺尾　勝汎	1976	坂井　建雄	1982	溝口　勝	1986	工藤　恵理子
1965	渡部　一之	1976	林　秀樹	1982	谷口　哲雄	1987	畠　英雄
1965	松下　清彦	1976	酒井　憲司	1982	中村　典裕	1987	久留主　志朗
1965	浅井　光昭	1976	大谷　一夫	1982	宗石　譲	1987	原　秀樹
1967	伊澤　敏彦	1976	依藤　宏	1983	浅野　浩二	1987	木許　雄司
1968	小林　俊夫	1976	杉田　寛治	1983	小林　徹	1987	小竹　茂夫
1968	伊藤　文昭	1977	吉村　俊郎	1983	梅本　道生	1987	佐藤　芳宏
1969	青木　征彦	1977	海宝　明	1983	八田　秀雄	1987	佐野　哲也
1969	池田　元美	1978	中山　裕	1983	山内　仁志	1987	植木　鉄也
1969	外山　攻	1978	丸山　公夫	1983	秋守　利郎	1987	清水　真
1970	大築　立志	1979	系　明彦	1983	景山　太郎	1987	坪内　恒治
1970	二ノ方　寿	1979	中谷　敬二	1983	勝又　幹英	1987	佐々木　茂
1971	沢辺　達郎	1979	田中　康久	1984	清水　明	1987	西村　裕之
1971	崎田　高明	1979	高松　信彦	1984	久保　忠博	1987	近藤　修司
1971	相良　誠	1979	藤澤　治雄	1984	半田　禎	1987	藤井　紫麻見
1971	岡島　貴敏	1979	早道　信宏	1984	並川　耕士	1987	酒瀬川　亮介
1972	竹歳　誠	1979	沖田　協介	1984	渡辺　吏	1988	宮田　亮
1972	宇治原　潔	1979	三谷　勝明	1984	中村　貴司	1988	片岡　央幸
1972	小川　和夫	1980	高橋　裕一郎	1984	渡辺　典之	1988	大道　英城
1972	佐々木　忠恭	1980	渡辺　修一	1984	中島　広治	1988	小泉　勉
1972	森　美佐尾	1980	斎藤　誠二	1984	太田　充男	1988	井上　裕司
1972	小川　和夫	1980	山本　利徳	1984	太田　丈児	1988	寺田　秋夫
1973	福田　真一	1980	宮城　利久	1984	新良　聡史	1988	清水　貴夫
1973	横田　逸郎	1980	大橋　悟	1984	北村　美樹浩	1988	照井　克生
1974	飯嶋　正樹	1980	荒井　彰夫	1985	栗田　晴彦	1988	安井　章
1974	小川　賢治	1980	石川　忠	1985	吉賀　千晃	1988	大野　兼司
1974	堀内　文隆	1981	慶林坊　智	1985	山村　幸治	1989	稲本　龍生
1974	中司　文典	1981	坂本　修一	1985	石川　淳	1989	古田　泰
1975	石本　裕	1981	野田　晴彦	1985	宇佐美　潤祐	1989	井上　悟
1975	木村　隆司	1981	武智　久典	1985	奥井　雅人	1989	川本　哲文
1975	小熊　証	1981	四日　淳一	1986	新見　克彦	1989	東島　眞一
1975	鈴木　正保	1981	松岡　辰雄	1986	成家　秀樹	1989	森野　正敏
1975	松野　信夫	1981	渡邊　淳一郎	1986	柳川　政洋	1989	松尾　裕徳
1975	藤井　由幸	1982	室城　信之	1986	大谷　薫	1989	掛上　恭
1975	小林　俊	1982	中山　亨	1986	谷口　秀児	1989	石原　健司

1990	三橋　信明	1994	川原　徳市	1997	斉藤　浩司	2002	田中　創
1990	古川　俊幸	1994	近藤　隆祐	1997	大野　敏	2002	大堀　徳人
1990	河本　健一	1994	室田　幸靖	1997	加藤　整	2002	渡部　昌
1990	神田　勲	1994	前田　泰志	1997	柴田　健太郎	2002	仁井谷　興史
1990	児玉　実史	1994	亀井　聡	1997	瀬川　大	2002	仁井谷　聖実
1990	松岡　建志	1994	長野　麻子	1997	近藤　新吾	2002	三輪　記子
1990	柳川　貴弘	1994	鈴江　知久	1997	半村　哲	2002	後藤　真紀子
1991	馬場　勝也	1994	石井　崇	1997	高橋　匡輝	2002	辻　拓一郎
1991	坪田　博行	1995	松浦　能行	1997	田角　聡志	2002	衛藤　淳一
1991	中谷　良人	1995	高野　裕子	1998	大嶽　浩司	2002	池田　紘士
1991	坂本　信	1995	吉岡　大地	1999	保泉　学	2002	稲澤　綾子
1991	岩間　年治	1995	霞　浩樹	1999	山下　大輔	2002	本田　牧子
1991	小野　満	1995	難波　聡	1999	宇都　忠和	2002	片桐　梓
1991	宮崎　昭彦	1995	宇都宮　聡	1999	佐藤　仁志	2002	関水　康伸
1991	福重　俊幸	1995	重見　聡一	1999	関根　福太郎	2003	山崎　智裕
1991	森　順一	1995	岡本　高太郎	1999	信國　真理子	2003	池田　哲
1991	矢野　聡	1995	長友　将之	1999	工藤　洋治	2003	小山　剛史
1991	篠原　聡	1995	荒木　康太郎	1999	森田　理央	2003	藤原　啓
1991	宮崎　りか	1995	伊藤　みどり	1999	明石　顕	2003	中島　香恵
1992	鯵坂　耕司	1995	米澤　陽子	2000	藤原　大二	2003	肥後　明佳
1992	福島　敬司	1995	石橋　泰寛	2000	高橋　陽平	2003	鈴木　貴博
1992	小須田　英治	1996	大澤　進	2000	溝井　順哉	2003	田辺　匡亮
1992	内田　英生	1996	清水　啓仁	2000	平岡　久和	2003	村川　雄一
1992	松浦　幹太	1996	柴田　大朗	2000	小林　蓉子	2003	高梨　幹生
1992	林　薫	1996	寺嶋　容明	2000	渡辺　国広	2003	川添　雄太
1992	奥村　明日香	1996	宗包　浩志	2000	今田　努	2004	田坂　和彦
1992	田中　泰史	1996	後藤　泰彦	2001	普光　真生	2004	鳫野　重之
1992	稲垣　裕章	1996	橋本　健	2001	近藤　航介	2004	山本　晃祥
1993	奥澤　徹	1996	岩田　光則	2001	桑田　良昭	2004	島田　俊雄
1993	北澤　剛久	1996	前田　憲生	2001	佐々木　和岳	2004	高倉　栄男
1993	前田　幸男	1996	永井　正也	2001	長田　洋輔	2004	岸田　陽子
1993	桜井　亮太	1996	伊藤　亮治	2001	稲澤　晋	2004	高見　康裕
1993	山口　博隆	1996	中嶋　淳一	2001	本田　達也	2004	熊丸　拓郎
1993	増田　健司	1997	佐野　泰彦	2001	田中　正清	2005	藤田　靖浩
1993	玉木　雄一郎	1997	佐々木　努	2001	新妻　拓弥	2005	淺野　晃平
1994	朝日　雄治	1997	小泉　賢滋	2001	木庭　愛	2005	春木　洋輔
1994	苧坂　壮栄	1997	島田　雅史	2002	佐藤　康治	2005	式場　健太
1994	神田　潤一	1997	朝重　良三	2002	青木　孝憲	2005	堀内　壮太

2006	米田　武史
2006	村井　昂志
2006	宮崎　哲平
2006	渡部　勇雄
2006	式場　敦子
2007	平原　唯灯
2007	磯部　洋輔
2007	岩永　将太
2007	田中　明恵
2007	橋本　淳
2007	柳井　和則
2007	山崎　大
2007	佐野　太郎
2007	田浦　秀俊
2008	山本　卓典
2008	大村　泰平
2008	片山　芳明
2008	庄司　宇
2008	石原　宏尚
2008	板倉　祥哲
2008	松本　翔
2008	月崎　竜童
2008	山本　祥
2008	伊勢田　明弘
2009	齊藤　甲次朗
2009	大谷　真人
2009	堀内　敦史
2009	加藤　宏平
2009	金尾　太郎
2009	小福田　大輔
2009	千徳　恒憲
2009	松本　光一
2009	栫井　駿介
2009	田中　裕一郎
2009	菅野　雄大
2010	中嶋　毅彰
2010	山崎　貴裕
2010	都井　紘
2010	坂井　啓一
2010	三原　千尋
2010	石川　恭平
2010	横田　祥
2010	西川　鋭
2010	中嶋　毅彰
2010	日下　桃子
2010	野村　圭吾
2011	加藤　拓哉
2011	渡邉　拓也
2011	定金　駿介
2011	進野　裕規
2011	吉村　千冬
2011	堀越　彩香
2011	井出　昌宏
2011	近藤　尭之
2011	西田　昂広
2011	園部　竜也
2011	早川　晃司
2011	木内　久雄
2012	青木　佑樹
2012	山田　竜也
2012	定金　みなみ
2012	石丸　翔也
2012	東　大貴
2012	須田　遊人
2012	川口　祐貴
2013	玉谷　謙治
2013	久保木　結
2013	宮口　航
2013	渡邉　陽大
2013	岩川　純也
2013	丹家　里枝
2013	大内田　弘太朗
2013	瀧川　朗
2013	片山　卓也
2013	渡邊　駿
2013	青沼　和幸
2013	大久保　翔平
2013	立岡　美夏子
2013	杉浦　奈実
2014	高森　一
2014	八子　基樹
2014	櫻井　駿
2014	原　慎一郎
2014	堀田　樹生
2014	川原　善紀
2014	三浦　達彦
2014	近藤　健一
2014	吉岡　基
2014	杉本　南
2015	原　知明
2015	上野　隆治
2015	今須　宏美
2015	栗田　徹士
2015	栗田　さくら
2015	松本　大瑚
2015	丸野　幹人
2015	工藤　健太
2015	二宮　翔平
2015	岡島　弘明
2015	筒井　隆徳
2015	納　朋子
2016	渥美　祐次郎
2016	中川　夏樹
2016	沢登　良馬
2016	杉山　耕平
2016	千田　周平
2016	宮﨑　愛里香
2016	小西　慶治
2016	藤井　将大
2016	飯島　靖成
2017	軽部　智
2017	荒田　彰吾
2017	柏原　翔一
2017	箕島　頌
2017	田中　恭平
2017	深澤　竜太
2017	坂出　竜弥
2017	織原　健人
2017	稲葉　啓人
2017	櫻井　悠也
2017	岩渕　康太
2017	泉　悠太
2018	後藤　裕瑛
2018	下村　麟平
2018	福永　亮
2018	大日方　孝輝
2018	伊藤　幸乃
2018	石黒　駿
2018	合浦　岳彦
2018	田村　和也
2018	杉森　康平
2018	清水　洸一
2018	伊東　祐輝
2018	渡邉　成陽
2018	土井　雅人
2018	須藤　克誉
2018	早川　航平
2018	河野　太郎
2018	宇野　文貴
2018	岸　康太
2019	長谷川　祐輝
2019	近藤　秀一
2019	平木　基人
2019	椋本　健太郎
2019	田口　広太郎
2019	小川　美菜
2019	小林　龍史
2019	原島　敏知
2019	近藤　秀一
2019	坂口　諒
2019	伊藤　龍一郎
2019	秋元　沙綾香

2019	齋藤　嘉紀
2019	荒木　玲
2019	野々田　聖一
2019	油井　星羅
2019	堀江　駿
2019	升野　裕史
2019	戸部　潤一郎
2020	平井　智史
2020	三宅　功朔
2020	後藤　潤平
2020	阿部　飛雄馬
2020	大島　知之
2020	遠藤　正陽
2020	影山　優輔
2020	藤原　暉
2020	佐藤　彰太
2020	一柳　里樹
2020	近藤　弘樹
2020	栗山　一輝
2021	岩崎　誠倫
2021	滝口　直弥
2021	大西　嘉祐
2021	岸田　祐馬
2021	木﨑　健太
2021	金井　琳
2021	井上　昴
2022	日小田　真和子
2022	内山　咲良
2022	三浦　勁士
2022	小川　大智
2022	川脇　優輝
2022	柏木　龍太
2022	鬼頭　壮平
2022	助川　皓洸
2022	小河　弘樹
2022	加藤　悠生
2022	加藤　泰斗
2022	澁谷　舜
2022	金山　裕生
2022	花渕　真生
2022	髙橋　怜央奈
2022	松原　亘希
2022	馬上　凌
2022	丹羽　皐乃
2022	阿隅　杏珠
2023	西岡　健伸
2023	宮田　一馬
2023	先崎　俊亮
2023	石田　紘大
2023	石丸　智也
2023	ウォルシュ　禅
2023	岩室　真央
2023	田中　亮也
2023	河﨑　駿也
2023	伊藤　黎
2023	中根　美七海
2024	藤川　紘晃
2024	丹菊　優太
2024	金井　直樹
2024	本多　健亮
2024	丸山　翔太郎
2024	向井　一真
2024	高橋　創
2024	小川　暖
2024	永田　聡太郎
2024	鈴木　亜里桜
2024	松永　隆宏
2024	奥田　航平
2024	高橋　遼平
2024	高橋　拓未
2024	久保　亘
2024	若松　駿
2025	小柳　舞夏
2025	金吉　一穂
2025	北風　航也
2025	羽田　慎太郎
2025	長廣　武
2025	住友　雄紀
2025	東　楓太
2025	廣瀬　颯真
2025	福井　透
2025	石田　慶
2025	植野　颯太
2025	三好　真生
2025	越野　レオ
2025	北岸　健吾
2025	甘利　駿
2025	伴　翔太郎
2025	堂脇　良介
2025	藤井　心太朗
2025	橋本　将
2025	瀬川　莉玖
2025	小西　諒
2025	越川　剛暉
2025	西田　大晟

基金醵金者一覧

1926　加藤　重一
1927　谷村　健助
1928　鈴木　竹雄
1928　中島　正樹
1929　木倉　和一郎
1929　塩田　末平
1929　林　不二雄
1930　今野　源八郎
1931　加納　陽三
1931　不破　浩
1932　黒瀬　太一
1932　佐々木　邦彦
1932　村松　恒治
1933　赤羽　良平
1933　小野　勝次
1933　小林　完
1933　壷井　玄剛
1933　前田　充明
1934　富塚　忠順
1934　藤巻　直意
1934　藤森　謙一
1935　井上　直明
1935　小島　立平
1935　柴田　次郎
1936　荒川　政司
1936　大原　栄一
1936　成田　正信
1936　新沢　寧
1936　山口　順太郎
1937　関　仁太郎
1937　水野　種一
1938　大淵　忍爾
1938　久留　幸男
1938　佐藤　邇
1938　西脇　孝三郎
1938　森田　真積
1939　新羅　正雄
1940　朝倉　行一
1940　市川　一郎
1940　長内　正
1940　吉川　義三
1940　木村　正昭
1940　永井　真茂
1940　松田　倉三
1940　山本　甚一
1941　尾崎　将
1941　中尾　一喜
1941　西尾　貫一
1941　西川　仁
1942　熊沢　安定
1943　浅見　喜作
1943　石川　吉右衛門
1943　石黒　一三
1943　筧　文夫
1943　河田　隆一
1943　中原　正雄
1943　蜂谷　三郎
1944　岩間　英太郎
1944　神谷　洋
1944　川村　次郎
1944　佐藤　哲郎
1944　戸川　潔
1944　山尾　信一
1945　福島　茂
1945　宮村　光武
1946　西嶋　和夫
1947　尾崎　守男
1947　船橋　明
1947　堀岡　正義
1947　月見里　禮次郎
1948　大村　梅雄
1948　酒井　直之
1948　湊　暁
1950　神尾　友三郎
1950　副島　有年
1951　碓井　貞敏
1951　瀬川　昌昭
1952　酒井　利之
1952　澤島　政行
1952　吉田　邦彦
1953　石澤　謙一
1953　岩﨑　善藏
1953　大羽　益雄
1953　吉田　新生
1954　田口　健次郎
1954　頼本　節雄
1955　浅澤　誠夫
1955　杉山　泰夫
1955　中森　孜郎
1955　三島　健二郎
1955　山中　靖男
1956　安生　二郎
1956　奥出　克洋
1956　高橋　俊見
1957　加藤　昭
1957　木村　尚史
1957　古寺　博
1957　竜沢　俊文
1957　手島　宗太郎
1957　西尾　弘二
1957　橋本　雅明
1957　藤田　宏明
1958　浦野　穏昌
1958　太田　真弘
1958　加藤　博夫
1958　川村　滋
1958　鷹取　和朋
1959　石母田　宏
1959　上原　豊吉
1959　奥山　彰宏
1959　柴崎　嘉之
1959　中川　功哉
1959　福井　義夫
1960　稲葉　滋
1960　梅田　圭良
1960　加藤　和生
1960　高山　弘
1960　中村　康
1960　花田　博
1960　安田　功
1961　芦浦　保之
1961　阿蘇　和宏
1961　川那辺　元
1961　小島　巖

1961　島津　征三
1961　冨山　恒
1961　南舘　欣也
1961　宮下　国生
1962　池上　賢
1962　関口　正之
1962　相馬　光之
1962　辻　義弘
1962　飯田　欽司郎
1962　米倉　秀和
1963　浅野　勝己
1963　石塚　哲司
1963　井上　尚男
1963　今井　嘉博
1963　興津　誠
1963　狩野　庄吾
1963　小林　茂之
1963　篠原　健
1963　高橋　之治
1963　竹鼻　次雄
1963　浜田　素司
1963　原田　克己
1963　福田　武吉
1963　水戸　啓三郎
1963　山田　浩平
1963　山野邊　正男
1964　尾崎　宏
1964　熊野　隆喜
1964　佐藤　健爾
1964　白倉　徹哉
1964　寺尾　勝汎
1964　中塚　晴夫
1964　永野　正久
1964　八島　秀雄
1964　横山　高幸
1965　浅井　光昭
1965　石堂　怜
1965　井原　鉄雄
1965　井村　義人
1965　後　正武
1965　城戸　龍太郎
1965　白神　賢志
1965　細越　峻
1965　松下　清彦
1965　由井　浩
1965　和田　正三
1965　渡部　一之
1966　足立　三朗
1966　上田　裕一
1966　川島　紘一郎
1966　河野　親
1966　佐久間　征夫
1966　杉浦　正憲
1966　鈴木　英毅
1966　土谷　喬
1966　堤　銀次郎
1966　坪内　利彦
1966　西阪　廣
1966　原田　芳紀
1966　村田　歓吾
1966　森尾　正照
1967　阿部　純和
1967　伊澤　敏彦
1967　岡本　正宏
1967　小野塚　昭三郎
1967　川田　治央
1967　小橋　正實
1967　小林　一義
1967　園田　恭義
1967　高橋　正明
1967　田中　潔
1967　冨山　保
1967　林　義之
1967　御厨　尚
1967　村上　正名
1967　諸井　将明
1967　八久保　修
1967　横堀　紀男
1968　青木　克彦
1968　伊藤　明克
1968　伊藤　文昭
1968　伊藤　栄明
1968　大野　公一
1968　栢木　武夫
1968　倉田　喜弘
1968　小林　寛道
1968　小林　俊夫
1968　嶋本　典夫
1968　杉野　信雄
1968　髙橋　宏
1968　田付　貞洋
1968　花野　敏彦
1968　村瀬　伸二
1968　山崎　潮
1968　山本　忠伸
1968　山本　光祥
1968　湯浅　味代士
1969　青木　征彦
1969　池田　元美
1969　宇田川　一昭
1969　遠藤　雄三
1969　祥雲　弘文
1969　高井　壮一
1969　角田　太作
1969　外山　攻
1969　光冨　正敏
1969　森　茂雄
1969　吉村　育生
1970　赤坂　裕
1970　大築　立志
1970　田家　邦明
1970　二ノ方　寿
1970　茂木　和行
1970　横坂　敏彦
1970　吉田　博
1971　岡島　貴敏
1971　金岡　博人
1971　相良　誠
1971　崎田　高明
1971　沢辺　達郎
1971　福喜多　博
1971　福島　徹
1971　前田　政男
1971　八幡　和彦
1972　宇治原　潔
1972　小川　和夫
1972　佐々木　忠恭
1972　竹歳　誠

1972	照屋　憲一	1976	谷　信幸	1980	加藤　明	1983	秋守　利郎
1972	野本　尚嗣	1976	田上　静之	1980	斎藤　誠二	1983	浅野　浩二
1972	益倉　克成	1976	手塚　育志	1980	白木　秀典	1983	伊吹　仁宏
1972	森　美佐尾	1976	橋本　光人	1980	高橋　裕一郎	1983	牛村　圭
1972	綿谷　昭夫	1976	林　秀樹	1980	田上　知紀	1983	内田　啓介
1973	福田　真一	1976	宮地　薫	1980	本條　毅	1983	梅本　道生
1973	横田　逸郎	1976	依藤　宏	1980	宮城　利久	1983	景山　太郎
1974	飯嶋　正樹	1977	石原　徹	1980	山岸　嘉春	1983	勝又　幹英
1974	稲垣　義孝	1977	大平　和由	1980	山本　利徳	1983	小林　徹
1974	栗明　純生	1977	海宝　明	1980	渡辺　修一	1983	中尾　俊史
1974	小寺　清	1977	島田　幸雄	1981	栗島　明康	1983	八田　秀雄
1974	高田　和典	1977	田中　幸春	1981	黒柳　博司	1983	姫野　利隆
1974	告原　敏昭	1977	前田　俊之	1981	慶林坊　智	1983	福田　明
1974	中司　文典	1978	中山　裕	1981	坂本　修一	1983	山内　仁志
1974	堀内　文隆	1978	原田　直	1981	島谷　哲	1984	太田　丈児
1974	山崎　光正	1978	山田　均	1981	武智　久典	1984	太田　充男
1974	横手　慎二	1979	在原　元司	1981	野田　晴彦	1984	北村　美樹浩
1975	相木　邦夫	1979	一色　聡	1981	松岡　辰雄	1984	久保　忠博
1975	石本　裕	1979	糸　明彦	1981	室井　道人	1984	五太子　政史
1975	小熊　証	1979	小笠原　朗	1981	四日　淳一	1984	清水　明
1975	小田　博文	1979	沖田　協介	1981	渡邊　淳一郎	1984	中島　広治
1975	木村　隆司	1979	高松　信彦	1982	浅野　守信	1984	中村　貴司
1975	小池　貞夫	1979	武井　誠	1982	石村　達清	1984	並川　耕士
1975	小手川　強二	1979	田中　康久	1982	井上　博之	1984	新良　聡史
1975	小林　俊	1979	中谷　敬二	1982	江川　徹	1984	半田　禎
1975	鈴木　正保	1979	早道　信宏	1982	眞田　順吉	1984	藤田　大介
1975	藤井　由幸	1979	藤澤　治雄	1982	谷口　哲雄	1984	渡辺　吏
1975	松野　信夫	1979	三谷　勝明	1982	中村　典裕	1984	渡辺　典之
1976	大野 譲	1979	渡辺　芳治	1982	溝口　勝	1985	池田　浩
1976	惟村　正弘	1980	荒井　彰夫	1982	宗石　譲	1985	石川　淳
1976	酒井　憲司	1980	石川　忠	1982	室城　信之	1985	宇佐美　潤祐
1976	杉田　寛治	1980	大橋　悟	1982	柳沢　健彦	1985	奥井　雅人

1985	尾崎　徹	1987	佐々木　茂	1989	稲本　龍生	1991	坪田　博行
1985	栗田　晴彦	1987	佐藤　勝美	1989	井上　悟	1991	中谷　良人
1985	藤　浩明	1987	佐藤　芳宏	1989	植田　直樹	1991	馬場　勝也
1985	中島　健蔵	1987	佐野　哲也	1989	大塚　法昭	1991	日隈　洋
1985	ﾈﾙｿﾝ　浩子	1987	塩原　正勝	1989	川本　哲文	1991	福重　俊幸
1985	本島　康史	1987	清水　真	1989	小寺　律	1991	宮崎　昭彦
1985	山村　幸治	1987	平　光三郎	1989	近藤　信彰	1991	宮崎　りか
1985	吉賀　千晃	1987	坪内　恒治	1989	阪本　英二	1991	矢野　聡
1985	吉川　暢宏	1987	西村　裕之	1989	野村　幸世	1992	稲垣　裕章
1986	淺野　敏久	1987	畠　英雄	1989	古田　泰	1992	内田　英生
1986	井上　洋一	1987	原　秀樹	1989	真柳　浩太	1992	奥村　明日香
1986	遠藤　利彦	1987	藤井　紫麻見	1989	森野　正敏	1992	河尻　洋
1986	大谷　薫	1987	山下　昌信	1990	大口　弘明	1992	設楽　公晴
1986	桑原　振一郎	1988	麻生　裕之	1990	川俣　啓治	1992	椿　幸太
1986	武田　政文	1988	石川　春樹	1990	河本　健一	1992	福島　敬司
1986	田村　真一	1988	井上　裕司	1990	神田　勲	1992	松浦　幹太
1986	手嶋　英一	1988	上清　直隆	1990	児玉　実史	1992	吉田　敬
1986	内藤　浩文	1988	大野　兼司	1990	高井　真	1993	遠藤　亘
1986	成家　秀樹	1988	大道　英城	1990	田山　裕信	1993	奥澤　徹
1986	新見　克彦	1988	片岡　央幸	1990	戸井田　康宏	1993	加藤　勉
1986	長谷川　健	1988	熊倉　浩高	1990	古川　俊幸	1993	北澤　剛久
1986	藤村　陽	1988	小泉　勉	1990	松岡　建志	1993	桜井　亮太
1986	細井　浩之	1988	清水　貴夫	1990	松宮　弘幸	1993	竹俣　高綱
1986	門利　いづみ	1988	鈴木　正啓	1990	宮内　泰	1993	玉木　雄一郎
1986	柳川　政洋	1988	寺田　秋夫	1990	三好　明徳	1993	前田　幸男
1987	安達　和宏	1988	照井　克生	1990	柳川　貴弘	1993	山口　博隆
1987	植木　鉄也	1988	星　喬一	1990	吉田　彰吾	1994	朝日　雄治
1987	尾関　博之	1988	細谷　功	1991	小野　満	1994	石井　崇
1987	久留主　志朗	1988	宮田　亮	1991	酒井　一人	1994	井上　宗宣
1987	小竹　茂夫	1988	安井　章	1991	坂本　信	1994	苧坂　壮栄
1987	近藤　修司	1988	吉富　亮平	1991	篠原　聡	1994	亀井　聡
1987	酒瀬川　亮介	1989	石原　健司	1991	渋谷　啓一	1994	川原　徳市

1994	神田　潤一	1997	大野　敏	2000	志田　健	2002	田中　創
1994	工藤　麻衣子	1997	岡崎　啓明	2000	平岡　久和	2002	田村　潔
1994	近藤　隆祐	1997	古賀　拓郎	2000	溝井　順哉	2002	辻　拓一郎
1994	佐々木　廣海	1997	近藤　新吾	2001	青木　孝	2002	永田　章人
1994	鈴江　知久	1997	斉藤　浩司	2001	稲澤　晋	2002	仁井谷　聖実
1994	室田　幸靖	1997	佐々木　努	2001	岡野　浩行	2002	仁井谷　興史
1995	秋根　茂久	1997	佐野　泰彦	2001	桑田　良昭	2002	本田　牧子
1995	石橋　泰寛	1997	柴田　健太郎	2001	木庭　愛	2002	宮崎　徹
1995	伊藤　みどり	1997	島田　雅史	2001	佐々木　和岳	2002	三輪　記子
1995	宇都宮　聡	1997	達野　大輔	2001	鈴木　陽介	2002	渡部　昌
1995	小野　範和	1997	田中　伸治	2001	田中　正清	2003	相原　佑康
1995	霞　浩樹	1997	朝重　良三	2001	田渕　宏樹	2003	安達　太一
1995	重見　聡一	1997	半村　哲	2001	長田　洋輔	2003	大上　隆史
1995	高野　裕子	1997	吉屋　拓之	2001	中台　慎二	2003	川添　雄太
1995	林　徹也	1998	篠山　大明	2001	新妻　拓弥	2003	川添　祐佳
1995	松浦　能行	1998	松本　圭介	2001	西村　邦裕	2003	小山　剛史
1995	松尾　哲也	1999	明石　顕	2001	羽場　靖洋	2003	鈴木　貴博
1995	村上　泰紀	1999	宇都　忠和	2001	普光　真生	2003	高梨　幹生
1995	吉岡　大地	1999	工藤　洋治	2001	本田　達也	2003	田辺　匡亮
1996	伊藤　亮治	1999	佐藤　仁志	2001	八木　創	2003	出口　雅俊
1996	岩田　光則	1999	佐野　潤	2001	八木澤　一朗	2003	出口　真悠子
1996	河本　献太	1999	篠原　直秀	2001	山田　千尋	2003	橋本　武
1996	後藤　泰彦	1999	関根　福太郎	2002	青木　孝憲	2003	林　健太郎
1996	柴田　大朗	1999	滝沢　剛	2002	池田　紘士	2003	肥後　明佳
1996	永井　正也	1999	中川　渉行	2002	稲澤　綾子	2003	藤本　優
1996	長島　慶尚	1999	信國　真理子	2002	衛藤　淳一	2003	藤原　啓
1996	橋本　健	1999	長谷川　達也	2002	大堀　徳人	2003	松林　武生
1996	前田　憲生	1999	古屋　芳直	2002	河内　一了	2003	宮本　幸子
1996	三浦　真	1999	森田　理央	2002	後藤　真紀子	2003	森下　聡
1996	山岡　和貴	1999	渡辺　浩史	2002	佐藤　康治	2003	山崎　智裕
1997	石井　邦尚	2000	今田　努	2002	関水　康伸	2003	雪本　真治
1997	岩井　美和子	2000	加納　健史	2002	田口　暁之	2004	石井　康雄

2004　今泉　勇	2006　稲垣　誠	2007　平野　茉来	2009　菅野　雄大
2004　小笠原　義之	2006　式場　敦子	2007　平原　唯灯	2009　千徳　恒憲
2004　岡本　泰英	2006　庄司　一郎	2007　深尾　宙彦	2009　田中　裕一郎
2004　鎌倉　真音	2006　田中　佑貴	2007　萬澤　康雄	2009　原　尚史
2004　岸田　陽子	2006　津村　瑛子	2007　三好　信哉	2009　堀内　敦史
2004　熊丸　拓郎	2006　中原　健二	2007　村上　秀	2009　松本　光一
2004　笹原　翔太	2006　宮崎　哲平	2007　柳井　和則	2009　和田　光一郎
2004　島田　俊雄	2006　村井　昂志	2007　山崎　大	2009　割沢　高行
2004　下野　豊和	2006　村田　拓哉	2008　石井　嵩	2010　浅沼　達也
2004　高倉　栄男	2006　吉田　和敬	2008　石井　仁也	2010　石川　恭平
2004　高見　康裕	2006　米田　武史	2008　石原　宏尚	2010　片島　拓弥
2004　田坂　和彦	2006　渡部　勇雄	2008　伊勢田　明弘	2010　北沢　太郎
2004　西谷　健吾	2007　新井　邦生	2008　板倉　祥哲	2010　日下　桃子
2004　服部　真司	2007　井上　元博	2008　大村　泰平	2010　坂井　啓一
2004　松崎　孝大	2007　岩永　将太	2008　片山　芳明	2010　中嶋　毅彰
2004　村口　和人	2007　梅沢　啓	2008　庄司　宇	2010　西川　鋭
2004　村口　紅美	2007　岡田　良平	2008　関原　孝之	2010　野村　圭吾
2005　淺野　晃平	2007　小野　剛志	2008　月崎　竜童	2010　三原　千尋
2005　池田　大行	2007　片岡　哲朗	2008　中山　陽右	2010　山崎　貴裕
2005　桑原　明	2007　河本　和美	2008　林田　恵吏佳	2010　山田　健太郎
2005　式場　健太	2007　木村　栄三	2008　松本　翔	2010　横田　祥
2005　高橋　竜一	2007　黒澤　徹也	2008　山本　祥	2011　井出　昌宏
2005　津和　佑子	2007　坂田　祐輔	2008　山本　卓典	2011　江間　輝裕
2005　南條　靖	2007　佐野　太郎	2009　大谷　真人	2011　酒谷　彰一
2005　大久保　摩耶	2007　鈴木　崇人	2009　桜井　駿介	2011　定金　駿介
2005　春木　洋輔	2007　田浦　秀俊	2009　加藤　宏平	2011　園部　竜也
2005　深瀬　剛正	2007　田中　明恵	2009　門脇　啓太	2011　竹俣　直道
2005　藤田　靖浩	2007　千島　悠司	2009　金尾　太郎	2011　中村　彰吾
2005　堀内　壮太	2007　浜田　里紗	2009　北岡　祐	2011　西田　昂広
2005　本多　剛	2007　林　盛	2009　倉員　智瑛	2011　早川　晃司
2005　目黒　亜由子	2007　氷上　将一	2009　小福田　大輔	2011　堀越　彩香
2005　吉岡　和夫	2007　平井　恵	2009　齊藤　甲次朗	2011　増本　健太郎

2011　吉村　千冬
2012　青木　佑樹
2012　東　大貴
2012　池田　剛志
2012　石丸　翔也
2012　川口　祐貴
2012　鈴木　俊輔
2012　須田　遊人
2012　高木　海平
2012　高田　知樹
2012　竹内　真裕
2012　土居　富裕
2012　中島　圭一
2012　舢島　一樹
2012　廣瀬　彬
2012　山田　竜也
2013　青沼　和幸
2013　岩川　純也
2013　大内田　弘太朗
2013　大久保　翔平
2013　川端　紘介
2013　北川　裕一
2013　久保木　結
2013　佐々木　駿
2013　杉浦　奈実
2013　鈴木　理香
2013　高田　裕之
2013　瀧川　朗
2013　立岡　美夏子
2013　玉谷　謙治
2013　丹家　里枝
2013　西川　卓
2013　原　湖楠
2013　真木　伸浩
2013　宮口　航
2013　宮野　健司
2013　山下　修平
2013　渡邉　陽大
2013　渡邊　駿
2014　小野田　実真
2014　川原　善紀
2014　近藤　健一
2014　櫻井　駿
2014　塩見　真一郎
2014　杉本　南
2014　高森　一
2014　武田　有希子
2014　谷口　尚史
2014　張　珉箕
2014　原　慎一郎
2014　堀田　樹生
2014　増田　結心
2014　増田　有里子
2014　松野　智成
2014　三浦　達彦
2014　八子　基樹
2014　梁瀬　将史
2014　山本　憲二郎
2014　吉岡　基
2015　荒井　太弥能
2015　今須　宏美
2015　上野　隆治
2015　岡島　弘明
2015　上ヶ嶋　幸一
2015　工藤　健太
2015　栗田　さくら
2015　栗田　徹士
2015　後藤　拓矢
2015　筒井　隆徳
2015　鳥羽　愛子
2015　富岡　真悟
2015　中里　彰
2015　中島　寛貴
2015　納　朋子
2015　原　知明
2015　松本　大瑚
2015　丸野　幹人
2015　横田　絢
2015　吉田　訓
2015　割田　聖洋
2016　渥美　祐次郎
2016　伊藤　嘉宏
2016　小西　慶治
2016　小南　直翔
2016　佐藤　駿
2016　鈴木　敦士
2016　千田　周平
2016　寺井　大貴
2016　中川　夏樹
2016　樋口　美沙
2016　秀島　創
2016　藤井　将大
2016　宮﨑　愛里香
2016　吉川　誠司
2017　網谷　直紀
2017　荒田　彰吾
2017　稲葉　啓人
2017　岩渕　康太
2017　大久間　啓介
2017　織原　健人
2017　鍵本　直人
2017　柏原　翔一
2017　加藤　騎貴
2017　神田　公平
2017　越村　真至
2017　坂出　竜弥
2017　櫻井　悠也
2017　西條　大悟
2017　西村　智宏
2017　原　耕資
2017　深澤　竜太
2017　福島　洋佑
2017　松下　周平
2017　松本　大樹
2017　森本　淳基
2018　石黒　駿
2018　伊東　祐輝
2018　宇野　文貴
2018　遠藤　幸生
2018　大日方　孝輝
2018　加藤　輝仁
2018　岸　康太
2018　後藤　裕瑛
2018　清水　洸一
2018　杉森　康平
2018　鈴木　晴也
2018　須藤　克誉
2018　田村　和也

2018	土井　雅人	2021	岩崎　誠倫
2018	萩尾　公貴	2021	太田　優成
2018	早川　航平	2021	木﨑　健太
2018	藤原　大樹	2021	岸田　祐馬
2018	松本　啓岐	2021	千菊　智也
2018	棟重　賢治	2021	滝口　直弥
2018	山之内　良太	2021	中田　健人
2018	渡邉　成陽	2021	中村　優太
2019	荒木　玲	2021	松本　郁也
2019	伊藤　龍一郎	2022	小河　弘樹
2019	黒岩　道子	2022	加藤　悠生
2019	小林　龍史	2022	金山　裕生
2019	近藤　秀一	2022	川脇　優輝
2019	佐藤　悠介	2022	助川　皓洸
2019	高石　涼香	2022	玉木　献人
2019	野々田　聖一	2022	三浦　勁士
2019	長谷川　祐輝	2022	道岡　聖
2019	原島　敏知	2022	吉田　悠生
2019	堀江　駿	2023	石田　紘大
2019	升野　裕史	2023	上野　和雅
2019	溝内　遼平	2023	ウォルシュ　禅
2019	椋本　健太郎	2023	香月　翔太
2019	油井　星羅	2023	兼田　竜昇
2020	阿久津　大貴	2023	森本　聡
2020	一柳　里樹	2024	熊　優奈
2020	影山　優輔	2024	丹菊　優太
2020	勝又　健太	2024	本多　健亮
2020	古賀　淳平	2024	向井　一真
2020	佐藤　彰太		
2020	松原　新		
2020	森本　祥之		
2021	石田　駿平		

2026年度行事予定

期日	行事（★：主管）	場所
1月2日(金)～1月3日(土)	箱根本戦	4・7区
1月10日(土)	第8回競歩記録会	駒場
3月9日(月)	倶楽部総会	山上会館
3月22日(日)	第47回東京大学陸上競技会	駒場
4月5日(日)	東京六大学対校陸上競技大会★	日吉(神奈川)
4月24日(金)～4月26日(日)	日本学生陸上競技個人選手権大会	平塚(神奈川)
5月10日(日)	東京国公立対校陸上競技大会	大井(東京)
5月21日(木)～5月24日(日)	関東学生陸上競技対校選手権大会	カンセキスタジアムとちぎ(栃木)
5月31日(日)	OB・OG戦(TKマスターズ)	駒場
6月12日(金)～14日(日)	日本陸上競技選手権大会	パロマ瑞穂スタジアム(愛知)
6月28日(日)	四大学対校陸上競技大会	未定
7月24日(金)～26日(日)	七大学対校陸上競技大会	平和台・博多の森(福岡)
8月29日(土)	一橋戦★	駒場
9月5日(土)～9月7日(月)	日本学生陸上競技対校選手権大会	横浜日産スタジアム(神奈川)
9月下旬	京大戦	西京極(京都)
10月中旬	箱根駅伝予選会	国立昭和記念公園(東京)
10月中旬	第48回東京大学陸上競技会	駒場
11月上旬(2日間開催)	第49回東京大学陸上競技会	駒場
11月中旬	皇居周回駅伝	皇居

2026年度七大戦申し合わせ事項(案)

1. 七大学間での議論において、以下の理念を共通認識事項とする。
   (1) 七大学が実力を十分に発揮し、勝負に徹することができるよう、公平性のある議論を行う。
   (2) 七大戦の持つ独自性（OP 種目・レセプション・各校の応援）を尊重し、議論を行う。
2. 七大戦は原則として 1 日制とするが、事前に全大学の了承が得られれば、前日に種目の一部を行ってもよい。期日は、可能な限り 7 月の第 3 週または第 4 週の日曜日か土曜日とする。
3. 競技日程は原則として前大会と同様とし、変更する場合は、遅くとも開催日の 1 ヵ月前までに各大学に連絡し、七大学全ての承認を得ること。また、その後、運営の都合上、競技日程をやむを得ず変更する場合も、七大学全ての承認を得ること。
4. 女子の競技種目は 100m、400m、800m、3000m、100mH、4×100mR、走高跳、走幅跳、砲丸投、やり投の 10 種目とする。種目・得点制度の変更は申し出があるごとに話し合い、七大学全ての意見が一致する場合においてのみ行うこととする。また、原則として遅くとも実施の一年前に行われる代表者会議で決定し、それ以降の変更は行わない。
   2026年度大会の実施種目については、2025年12月頃に実施される次期代表者会議にて決定され、それ以降の変更は行わない。
5. 女子の 400m までの種目は、当日出場する人数が 8 名を超えた場合、予選・決勝を行う。(2021 年度：7 大学の合意に基づき、女子 100mH は出場人数が 8 名を超えた場合もタイムレース決勝とした。また女子 400m について、エントリー人数が 9 名であったが予選は行わず決勝のみとした。2024年度：7大学の合意に基づき、女子400mはタイムレース決勝とした。）決勝進出者は 2 組 3 着＋2 で決定する。800m 以上の種目は予選を行わない。
6. 女子 800m は各レーンに同じ大学の選手が 2 人ずつ入り最初の 100m をセパレート方式で実施する。
7. 決定事項引き継ぎのため、代表者会議には次期代表者を必ず出席させること。また、女子の代表者会議を男子と同じ場に設け、必ず女子代表者および次期代表者が出席する。但し、女子部員が不在の場合はこの限りではない。
8. 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は従来の方式に準じ、エントリー用紙に希望する開始高さを記入しそれを基に代表者会議において決定する。
9. リレー種目のレーン順は、代表者会議の席上で抽選、決定する。

10. 予選通過のプラス 2 名の決定は記録を優先し、同記録の場合は着順によって決定する。さらに同着順の場合のみ抽選を行う。
11. 1 種目の人数枠は、男子が各種目 3 名、補欠 1 名まで、女子が各種目 2 名、補欠 1 名までとする。
12. トラック競技予選の組分けについては、原則として記録順に均等に割り振った上、一つの組に同一大学の選手が 2 名以上重ならないように調整し、各組の条件に差をつけないこと。トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順の決定も公正を期して行う。
13. 代表者会議における申し合わせ事項の変更は全大学承認の上とする。
14. 選手の変更は、大会前の代表者会議に申し出た場合に限り、補欠との入替を認める。
15. アスリートビブスは、北海道大学 101～199、1001～1099、東北大学 201～299、2001～2099、東京大学 301～399、3001～3099、名古屋大学 401～499、4001～4099、京都大学 501～599、5001～5099、大阪大学 601～699、6001～6099、九州大学 701～799、7001～7099、以上のように固定制とし、男子は白地に黒文字で、女子は白地に朱文字で、各大学で大会前に準備する。ただし、3000m、3000mSC、5000m、5000mW に関しては専用のナンバーカードを着用する。このアスリートビブスは主管校が準備する。
16. 申し合わせ事項に不備、遺漏があれば、代表者会議で協議の上、訂正、追加する。
17. 代表者会議は大会前に行うこととし、その際に次年度申し合わせ事項を決定する。
18. 対校得点は、男子が各種目とも 1 位 6 点、2 位 5 点、3 位 4 点、4 位 3 点、5 位 2 点、6 位 1 点とする。

    女子は各種目とも 1 位 4 点、2 位 3 点、3 位 2 点、4 位 1 点とする。
19. 対校得点に関して、同点の場合は優勝種目の数で、それで決定できない場合は 2 位入賞者数で、以下同様に 3 位入賞者数、…で順位を決定。
20. オープン競技の開催、非開催、内容については主管校が決定する。
21. やむなく当日に棄権する場合には、必ず棄権届を提出すること。
22. エントリーについて、締切後の選手変更は一切認めない。万が一、変更があった場合には、当該選手の出場を認めない。
23. リレーメンバーについて、対校の部に出場する選手で 2 名に限り、事前にエントリーしていなくてもメンバーと交代することができる。また、対校の部に補欠としてエントリーされている者は、変更で正選手となった場合に、リレーメンバーと交代することが出来る。
24. 七大戦本戦への参加は、学部 4 年生以下の者に限る。学年は入学学年に（在籍年数－1）を加えたものとする。ただし、特例によりそれ以外の者でも出場が認められる場合も

ある。【特例措置】2017 年度：北大で仮面浪人をした北大生 1 名の出場を認めた。（理由）仮面浪人期間は実質的に大学生活を送っていたとは言い難い。また、七大戦の時に在籍年数は 5 年となるが、部内での位置は 4 年生であったから。2021 年度：留学を理由に留年した選手について、（入学学年＋在籍年数－1）＝1+5-1=5 となり 5 年生の扱いになるが、留学していた期間を含む 1 年間は部活を停止していたため本戦への出場を認めた。※この事例とその理由は参考程度に記したものであり、これが採決の根拠とはなりえない。今後このような特例に関しては、各代での話し合いにより自由に決定する。

25. 主管校による記録審査は不要とする。エントリーファイルに記入する資格記録は、前年度 4 月 1 日以降の最高記録とする。（※ただし 2021 年度大会に限り、資格記録は 2019 年 4 月 1 日以降の最高記録とした）エントリーファイルは、主管校の主務に送るのではなく、自校以外の六大学に送る。そして、スタートリストを作成する前に、各大学のエントリーを確認する期間を設ける。この時に、資格記録に対し指摘する場合は、指摘内容とその根拠、主将の署名が記されたファイルを作成し、それを七大学全体で共有する。実際にどの時期に、どのような方法で行うかは主管となる大学が提案する。
26. オープン、対校ともに招集漏れの場合、即刻棄権扱いとする。ただし、「複数種目出場届」を提出することにより、選手のミス以外による招集漏れを認める。また、これを提出した場合、代理人による招集を認め、この時はゼッケンの提示は必要としない。
27. 代表者会議では、申し合わせ事項については確認する程度にとどめ、レーン決めや次期幹部顔合わせなどを行うのみにする。ただし直接意見を交わしたい議題がある場合、それぞれの大学の意見を共有する時間を設ける。しかしこれは議論に決着をつけることを目的とはしない。
28. 話し合いの方法は各代に委ねるが、代表者会議以外の場、例えば LINE などで議論をしっかり重ねることを推奨する。ただしあくまで確定は代表者会議でのみ行うものとする。

2025 年度 部内5傑

[男子]

100m

1 小田槇太朗(1年)	10’’62(+1.9)	7/12
2 遠藤渓一郎(2年)	10’’65(+0.9)	7/26
3 藤井奎輔(4年)	10’’80(+0.6)	6/21
4 渡辺遥斗(1年)	10’’84(+1.4)	10/5
5 西川諒(2年)	10’’91(+0.0)	8/30

200m

1 西川諒(2年)	21’’67(-0.5)	10/5
2 渡辺遥斗(1年)	21’’84(-2.4)	6/21
3 藤井奎輔(4年)	22’’18(-2.4)	6/21
4 井上賢志(4年)	22’’22(+0.4)	10/12
5 遠藤渓一郎(2年)	22’’37(+0.4)	10/12

400m

1 井上賢志(4年)	48’’57	10/5
2 土屋諒(4年)	48’’60	10/5
3 渡辺遥斗(1年)	49’’21	10/5
4 秋山賢太郎(4年)	51”38	10/12
5 落合利紅(3年)	51’’74	3/8

800m

1 吉澤登吾(1年)	1’53”10	8/31
2 安藤佑真(4年)	1’53”57	10/12
3 小栗蒼一郎(2年)	1’54”38	10/12
4 秋吉拓真(4年)	1’56”12	6/14
5 布施力(2年)	2’00”98	6/14

1500m

1 秋吉拓真(4年)	3’48”20	9/28
2 大森智(3年)	3’54”79	5/31
3 栁沼大輝(4年)	3’55”64	5/31
4 山田望仁(2年)	4’03”31	4/26
5 森祥真(4年)	4’03”55	6/21

3000m

1 秋吉拓真(4年)	8’13”17	3/22
2 大森智(3年)	8’13”40	7/12
3 大宮夏輝(2年)	8’47”2	11/8

4 染川尊俊(1年)	8’56”2	11/8
5 小澤直紘(1年)	8’57”4	11/8

5000m

1 秋吉拓真(4年)	13’51”23	4/5
2 大森智(3年)	14’22”73	11/16
3 渡邉慶大(3年)	14’51”03	7/5
4 大宮夏輝(2年)	14’54”24	11/16
5 山田望仁(2年)	14’57”86	11/30

10000m

1 秋吉拓真(4年)	28’45”62	3/29
2 大森智(3年)	29’34”09	3/29
3 渡邉慶大(3年)	31’28”07	5/15
4 森祥真(4年)	31’39”88	9/21
5 鈴木晴陽(1年)	32”13’74	12/20

ハーフマラソン

1 秋吉拓真(4年)	61’38”	2/2
2 森祥真(4年)	67’00	10/18
3 大宮夏輝(2年)	67’50	10/18
4 染川尊俊(1年)	69’31	10/18
5 鈴木晴陽(1年)	70’47	10/18

110mH

1 田中醇之介(4年)	15’’00(+1.0)	5/9
2 徳山大暉(2年)	15’’54(-0.5)	10/5
3 田中基愛(1年)	16’’50(+0.5)	8/10

400mH

1 福田創太郎(4年)	56’’79	6/21
2 林佑哉(4年)	57’’16	6/21
3 徳山大暉(2年)	1’’02’’71	6/21

5000mW

1 越國太貴(2年)	20‘14“52	10/5
2 金谷響介(4年)	21‘56“78	7/26
3 髙島啓嗣(1年)	24‘53“15	10/5

10000mW

1 越國太貴(2年)	41’44”41	11/9
2 金谷響介(4年)	46’31”61	7/14
3 髙島啓嗣(1年)	50’28”26	11/9

4×100mR

1 西川-遠藤-藤井-小田	41’’38	10/5
2 西川-遠藤-藤井-秋山	41’’53	7/27
3 安部-遠藤-藤井-折川	42’’47	6/21
4 安部-遠藤-藤井-折川	42’’66	6/14
5 折川-遠藤-藤井-井上	43’’21	4/5

4×400mR

1 井上-西川-吉澤-土屋	3’’13’’49	10/5
2 井上-西川-和田-土屋	3’’18’’03	8/30
3 和田-井上-藤井-土屋	3’’19’’76	7/27
4 福田-井上-安藤-土屋	3’’20’’37	6/14
5 福田-井上-林-土屋	3’’20’’87	6/21

走幅跳

1 田中醇之介（4年）	6m95	3/22
2 尾嵜玄空（2年）	6m53	10/5
2 大野夢真（2年）	6m53	8/30
4 徳山大暉（2年）	6m48	4/5
5 坂本向輝（2年）	6m20	6/14

三段跳

1 坂本向輝（2年）	14m37	10/5
2 徳山大暉（2年）	14m16	10/25
3 寺西拓（1年）	13m64	10/5

走高跳

1 酒井亮（4年）	2m01	7/27
2 田中醇之介（4年）	1m96	3/22
3 坂本向輝（2年）	1m80	10/5
3 徳山大暉（2年）	1m80	8/30
5 佐藤吏輝（1年）	1m50	7/27

棒高跳

1 田中醇之介（4年）	3m80	4/5
2 徳山大暉（2年）	3m00	6/21
3 松村徳大（4年）	2m90	6/21
4 佐藤吏輝（1年）	2m60	7/27
5 坂本向輝 (2年)	2m40	11/9

砲丸投

1 沖田康太朗(2年)	11m60	8/30
2 田中醇之介(4年)	11m31	5/8
3 徳山大輝(2年)	9m04	8/30

4 村上凜(2年)	8m35	8/30
5 井上賢志(4年)	8m23	10/12

円盤投

1 沖田康太朗(2年)	28m73	4/5
2 田中醇之介(4年)	27m09	5/9
3 杉田知隆(2年)	25m02	8/30
4 橋本官樹(2年)	24m62	6/21
5 村上凜(2年)	24m24	10/5

ハンマー投

1 沖田康太朗(2年)	48m56	5/10
2 村上凜(2年)	39m44	10/5
3 徳山大輝(2年)	15m33	11/8
4 落合利紅(3年)	15m20	10/5

やり投

1 坂本向輝(2年)	46m60	10/5
2 橋本官樹(2年)	45m84	4/5
3 田中醇之介(4年)	41m42	3/23
4 徳山大輝(2年)	37m96	8/30
5 寺田良(1年)	37m38	11/9

[女子]

100m

1 宮宇地彬(2年)	12’’92(+1.5)	7/20
2 畠山小枝(3年)	13’’06(+1.8)	7/12
3 今野碧衣(3年)	13’’59(+0.9)	7/26

200m

1 畠山小枝(3年)	27’’15(-2.3)	6/21
2 宮宇地彬(2年)	27’’40(-2.0)	4/5

400m

1 宮宇地彬(2年)	1’’01’’42	7/26
2 多田有沙(3年)	1’’03’’62	7/26
3 畠山小枝(3年)	1’’04’’79	10/5
4 三木菜摘(3年)	1’’07’’53	10/5

800m

1 種瀬愛美(4年)	2’34”03	7/27
2 服部瑞季(1年)	2’42”59	10/5

1500m

1 渡邉晴香(1年)	5’02”93	6/21

2 柳沙織(3年)	5’04”00	6/14
3 種瀬愛美(4年)	5’04”27	4/27

5000mW

1 沖夏子(4年)	25’25”96	10/5
2 青山虹海(3年)	26’30”04	10/5
3 三村珠広(2年)	30‘51“14	7/12

10000mW

1 沖夏子(4年)	52’24”64	2/8
2 青山虹海(3年)	54‘13“21	7/12

4×100mR

1 多田-畠山-宮宇地-今野	51’’29	4/12
2 多田-畠山-宮宇地-今野	51’’30	6/21
3 多田-畠山-宮宇地-今野	51’’32	4/5

走幅跳

1 今野碧衣（3年）	4m96	3/8
2 高橋亜実（1年）	4m67	8/30
3 三村珠広（2年）	3m74	10/12

走高跳

1 三村珠広(2年)	1m30	8/30

砲丸投

1 三村珠広(2年)	6m92	10/5
2 畠山小枝(3年)	6m54	8/30
3 多田有沙(3年)	5m94	7/27

円盤投

1 多田有沙(3年)	13m31	6/14
2 渡邉晴香(1年)	9m72	6/14

やり投

1 今野碧衣(3年)	19m03	7/26
2 高橋亜実(1年)	12m32	7/26
3 青山虹海(3年)	11m74	6/14

六大戦
総合６位　４位争いに敗れる

第 58 回東京六大学対校陸上競技大会は、2025 年 4 月 5 日(土)に日吉陸上競技場で行われた。個人では、5000m で秋吉(4)が箱根駅伝で活躍したランナーに勝ち優勝を飾った。また、フィールド種目では、Pakkebier(D2)が円盤投で 3 位に入賞した他、田中(4)は走高跳および棒高跳でともに 4 位を獲得するという活躍を見せた。しかし、他の種目では上位争いに絡むことができず、課題の残る試合となった。

[男子]
100m では、遠藤(2)が 10'75 で大学ベストを更新した。関東インカレ A 標準(10'70)に惜しくも届かなかった。
5000m では秋吉(4)がラストスパートを見せ、箱根駅伝に出場したランナーをも置き去りにし優勝した。
円盤投には Pakkebier(D2)と沖田(2)が出場した。どちらも資格記録から期待されていた順位に食い込むことができなかったもののそれぞれ 3 位、6 位と入賞を果たした。

[女子]
400mH に多田(3)が出場した。久しぶりの出場であり、上手く足を合わせることが出来なかったが 3 位で走り切り点数を獲得した。

第 58 回東京六大学対校陸上競技大会
於 日吉競技場

男子 100m
予選(2 組 3 着+2)
1 組(+1.6)
5 遠藤渓一郎　東大　10”75
2 組(+1.4)
6 藤井　奎輔　東大　11”04

男子 200m
予選(2 組 3 着+2)
1 組(-0..6)
　折川　京祐　東大　DQ
2 組(+1.4)
6 藤井　奎輔　東大　22”65

男子 400m
タイムレース決勝
1 森田　陽樹　早大　46”21
2 古俣　由人　明大　47”10
3 権田　浬　　早大　47”16
4 万木　大夢　法大　47”59
5 植田　壮太　法大　47”83
6 榊原　聡真　立大　49”21
7 井上　賢志　東大　49”47
8 佐田　龍昇　明大　50”69
11 土屋 諒　　東大　50'10

男子 800m 決勝
1 立迫　大徳　早大　1'50”12
2 水嶋　優斗　早大　1'51”08
3 神林　輝　　法大　1'51”55
4 市村瞭太郎　慶大　1'52”88
5 石澤　空武　法大　1'53”18
6 川嶋　康駿　立大　1'53”31
7 芳沢　暢浩　東大　1'53”46
8 辻　　啓太　立大　1'55”22
11 北岸 健吾　東大　1'58”61

男子 1500m 決勝
1 青木　龍翔　立大　3'47”39
2 大塚　直哉　立大　3'47”76
3 岩上　貴徳　法大　3'50”06
4 山田　晃央　早大　3'51”18
5 地案　尚宏　明大　3'51”54
6 野川　元希　明大　3'52”24
7 鈴木　雄大　法大　3'53”83
8 野田　大晴　慶大　3'55”34
10 大森 智　　東大　3'56”57
11 柳沼 大輝　東大　4'01”17

男子 5000m 決勝
1 秋吉　拓真　東大　13'51”23
2 成沢　翔英　慶大　13'52”06
3 工藤　慎作　早大　13'54”36
4 野田　晶斗　法大　14'04”40
5 井上　史琉　明大　14'15”60
6 山下　翔吾　立大　14'16”19
7 伊藤幸太郎　早大　14'16”44
8 清水　郁杜　法大　14'20”29
11 本多 健亮　東大　14'42”46

男子 110mH
決勝(-2.1)
1 西　　徹朗　早大　13”87
2 松本　望　　法大　14”17
3 小池　綾　　法大　14”30
4 馬上　凌　　東大　15”28
5 成川　純輝　立大　15”31
6 田中醇之介　東大　15”52
7 伊藤慎太郎　立大　16”29
　瀬能　斗亜　早大　DNS

男子 400mH タイムレース決勝
1 渕上　翔太　早大　49”87
2 盛岡　優喜　早大　50”96
3 酒井　春名　法大　53”80
4 藤原　聡大　慶大　54”10
5 宮川　雄太　立大　55”88
6 渡井　虎鉄　慶大　56”21
7 福田創太郎　東大　58”01
8 林　　佑哉　東大　58”68

男子 3000mSC 決勝
1 湯田陽平兵　法大　8’50”38
2 安田　陸人　慶大　8’50”97
3 小林周太郎　明大　8’52”46
4 鈴木　太陽　慶大　8’57”83
5 原田　颯大　立大　8’59”49
6 林　　祐正　立大　9’36”48
7 森野　結太　明大　9’53”27
8 森　　祥真　明大　10’14”85
9 小笠原倫汰　東大　10’17”29

男子 4×100mR 決勝
1　早大　高須-水野-由井-寺澤　39”87
2 明大　鷹羽-中谷-川津-倉澤　40”18
3 慶大　青木-若舩-篠宮-田辺　40”82
4 立大　紙崎-佐藤-塩味-岡上　41”38
5 東大　折川-遠藤-藤井-井上　43”21
　法大　DNS

男子 4×400mR 決勝
1 早大　松本-森田-権田-渕上　3’09”19
2 法大　植田-山野-菊田-万木　3’10”07
3 明大　平岡-佐田-原田-古俣　3’14”82
4 慶應大　林-久保-長谷川-松下　3’15”49
5 立大　榊原-辻-前嶋-川嶋　3’20”00
6 東大　土屋-井上-藤井-安藤　3’26”60

男子走高跳決勝
1 須崎　遥也　慶大　2m03
2 中村　楓馬　立大　2m00
3 若原　祐人　慶大　2m00
4 田中醇之介　東大　1m95
5 立野　裕馬　法大　1m95
6 酒井　亮　　東大　1m90

男子棒高跳決勝
1 佐々木秀晟　早大　4m70
2 本郷　達也　立大　4m20
3 麻野　大成　法大　3m90
4 田中醇之介　東大　3m80
5 川辺　陽也　立大　3m40
6 山田　直弥　法大　3m40
7 大熊　靖吾　東大　2m80

男子走幅跳決勝
1 宮坂　玲皇　明大　7m42(+0.1)
2 佐々木悠人　早大　7m29(+1.6)
3 渡邊　耀介　法大　7m14(+1.6)
4 竹内　一歩　明大　7m06(+1.7)
5 岡崎　煌　法大　6m95(+2.1)
6 黒川　拓人　慶大　6m81(+1.4)
7 深澤　哲朗　慶大　6m69(+0.9)
8 徳山　大暉　東大　6m48(-0.1)
11 松村　徳大　東大　5m84(+2.9)

男子三段跳決勝
1 山下　遥平　法大　15m32(+0.9)
2 三浦　和真　慶大　14m86(-0.2)
3 神崎　琥太郎　明大　14m82(-0.8)
4 棚井　将輝　早大　14m79(+0.6)
5 岡崎　煌　法大　14m69(+0.7)
6 金成　悠司　慶大　13m83(+2.0)
7 藤原　多文　明大　13m73(+0.2)
8 若松　駿　東大　13m09(+1.0)

男子砲丸投決勝
1 山田　暉斗　法大　17m26
2 大畑　歩斗　法大　13m83
3 高橋　諒　　慶大　12m15
4 守屋　浩睦　早大　11m76
5 五十嵐大輝　慶大　10m71
　Jack Pakkebier　東大　DNS
　田中醇之介　東大　DNS

男子円盤投決勝
1 山田　暉斗　法大　44m43
2 大畑　歩斗　法大　38m24
3 Jack Pakkebier　東大　32m33
4 高橋　諒　　慶大　31m62
5 山田　直弥　慶大　28m79
6 沖田康太朗　東大　28m73
7 中崎　貴生　立大　25m58
8 戸梶　凌　　立大　21m87

男子やり投決勝
1 松重　蒼吾　法大　62m92
2 鶴澤　元基　早大　62m90
3 梅澤　祥吾　早大　62m90
4 高橋　諒　　早大　55m54
5 関　聡二郎　法大　54m20
6 小倉　拓己　法大　48m26
7 稲垣　航　　慶大　48m15
8 橋本　官樹　東大　45m84
10 村上 凛　　東大　30m25

男子総合
1 法大　134 点
2 早大　110 点
3 慶大　77 点
4 立大　54 点
5 明大　40 点
6 東大　33 点

女子 100m 決勝(-1.7)
1 河野　桃々　早大　12”47
2 岡田　翠　　法大　12”57
3 黒丸　朝日　東大　12”70
4 玉置　彩乃　慶大　13”22
5 畠山　小枝　東大　13”58

女子 200m 決勝(-2.0)
1 上島　周子　早大　25”04

2 福島　揺　　法大　25”77
3 町田　愛莉　立大　26”70
4 清水　美甫　慶大　27”39
5 宮宇地　彬　東大　27”40

女子 400mH 決勝
1 大川寿美香　早大　1’00”07
2 星野　莉亜　法大　1’05”45
3 多田　有沙　東大　1’12”73

女子 4×100mR 決勝
1　法大　岡田-及川-福島-星野
46”78
2 早大　上島-谷中-河野-清水
47”94
3 立大　町田-黒丸-田村-吉岡
49”69
4 東大　多田-畠山-宮宇地-今野
51”32

女子走高跳決勝
1 矢野　夏希　早大　1m70
2 佐田　那奈　慶大　1m65
3 田村　茉優　立大　1m60
4 西村　宥乃　法大　1m55
5 三村　珠広　東大　1m20

女子走幅跳決勝
1 内藤　香乃　早大
5m68(+0.8)
2 椎名ひまり　明大
5m49(+1.4)
3 喜久里彩吹　慶大
5m35(+1.0)
4 大友　愛子　立大
4m89(+0.2)
5 今野　碧衣　東大
4m79(+1.7)

女子総合
1 早大　22 点
2 法大　13 点
3 慶大　9 点
4 立大　4 点
5 東大　3 点
5 明大　0 点

関東インカレ
総合 20 点に届かずも来年の関東インカレに期待がかかる結果に

第 104 回関東学生陸上競技対校選手権大会は 5 月 8、9、10、11 日(木、金、土、日)の 4 日間に渡って、相模原ギオンスタジアムで開催された。男子 2 部は出場選手が少なかったこともあり、得点は伸び悩んだ。しかし、男子 10000mW で越國(2)が 3 位、金谷(4)が 4 位に入賞し、男子十種競技では田中(4)が 5 位を獲得するなど個人種目で存在感を示した。また、1、2 年生の出場も多く、未来に繋がる雰囲気を感じられる大会となった。3 部では、長距離を中心に検討したものの総合 4 位という結果であった。

[男子 2 部]

400m 予選は 1 組に井上(4)、2 組に土屋(4)が出場。井上は、前半からスピードを出し、トップ争いに加わる。しかし、第 3 コーナーを通過後、他選手に抜かれ 4 着でゴールした。記録は 48”85 だった。土屋は前半控えめなレース展開を見せる。徐々に追い上げ、2 人の選手を追い抜き 3 着でゴールした。記録は 49”30 であった。

100m 予選は 4 組に遠藤(2)の出場。いいスタートを決めぐんぐんと加速していく。序盤までは流通経済大学の選手に並ぶ勢いで、着順での通過が垣間見えたが、中盤の加速力を欠き、50m 以降隣や大外の選手に追い込まれる展開となり、4 着でのフィニッシュとなった。記録は 10"80、この時風は-0.6m だった。

400m 準決勝には 1 組に井上(4)の出場。序盤は勢いよく飛ばしていき、自分のペースを維持しながら走り続ける。どんどん追い抜かされていくが、最後まで力を振り絞って走り先頭集団との差をだんだんを縮めていった。しかし、抜くことはできず、結果は 5 位で 48.63 だった。

1500m 予選は 1 組に柳沼(4)が出場。前半は超スローペースで試合が展開され、柳沼は集団の真ん中あたりに位置取り落ち着いた走りを見せる。最後の 400m に突入すると各選手が一斉にスパートをかけ、柳沼も勝負をかける。しかし、順位は 8 着でタイムは 4’03”98 という結果で終了した。

4×100mR 予選は 2 組に堀田(4)-遠藤(2)-藤井(4)-折川(3)での出場。1 走の堀田、出だしから他の選手よりも少し後れを取ってしまい後ろから追いかける形となった。2 走の遠藤、出だしは少し遅れてしまいバトンが少し詰まる形になり、その後前にいる選手を追う形となった。遠藤と 3 走の藤井のバトンパスは比較的うまくいき、その後前の選手の背中を追う形で 4 走へ。藤井と 4 走の折川のバトンパスはつまり気味であった。その後折川は他の大学の選手と競って走り、タイムは 42.36(6 着）でゴール。

十種競技には田中(4)が出場。1 種目目の 100m は 3 組で出場。終始組内で 1 位をキープし 11"09 でフィニッシュ。この時の風は +0.7m であった。2 種目目は走幅跳だ。1 本目は 6m56(+1.7)と上々の滑り出しで、2 本目は惜しくもファール。迎えた 3 本目は、踏切板の 50cm 以上手前で踏切ることとなり記録は 6m13(+1.2)であった。3 種目目の砲丸投げは、1 投目から 11m31 と自己ベストを更新し、その後も安定して 11m 超えの投擲をし、結局 11m31 が記録となった。4 種目目は走高跳である。184cm から挑戦するものの、187cm で 3 回バーを落としてしまい、自己ベストからは 15cm ほど低い 184cm が記録となった。5 種目目は 400m で、3 組で出場。ここでなんと、51"99 をたたき出し、自己ベス

トを 53"36 から大幅に更新した。6 種目目の 110mH、ここで 15.00(+1.0)の自己ベストを更新。第7種目の円盤投、こちらも27m09で自己ベストを更新。第 8 種目の棒高跳び、ここ 3m40 から試技を開始するも 3 回目でやっとクリア。しかし続く高さで3回失敗。3m40で終えた。第 9 種目のやり投げも 39m48 と自己ベストには及ばなかった。最終種目の1500m。最後は 5:41.30 でゴールした。総合得点5998点で、見事5位に入賞を果たした。

砲丸投には田中(4)が出場した。田中は 1 投目がかみ合わずファウルするも、2 投目では 9m35 とひとまず結果を残した。3 投目は記録を伸ばせず 8m83 で競技を終えた。

800m 予選は1組に安藤(4)、2組に吉澤(1)の出場。1組目は、スタートして200mを過ぎたところでレース全体のペースが落ち、400m の通過は 59 秒前後とスローな入りとなる。バックストレートにかけて位置を上げ上位進出を狙うが、残り 200m 地点からやや遅れをとり、1’57”39 の 9 着でゴール。吉澤は、離れた最後尾からの入りとなるが、200m を過ぎたあたりで集団に追いつく。最後のホームストレートで鋭く伸び、1’54”33 の 2 着であった。

走高跳には酒井(4)が出場。190cm を 1 回目でクリア。次の195cmは1回目に惜しくもバーを落としてしまい、結局3本までに195cmをクリアすることができなかった。酒井は190cmで競技終了となったが、190cmを1本目でクリアしていたことが幸いし、試技回数の差で8位に入賞した。

800m 準決勝は吉澤(1)の出場。吉澤は後から追いかける展開となるも、吉澤は自分のペースを維持して走る。300m 地点で集団に追いつく粘り強さを見せるが、600m 付近で集団がばらけてしまい、置いていかれる形となり、7着でゴールする。

ハンマー投には、東大からは沖田(2)、村上(2)の出場。そして始まった最初の 1 投目、村上はネットにハンマーを引っ掛けてしまう。そして次の2投目も修正が効かず、
同様にファールしてしまう。そして迎えた 3 投目、村上は38m84という記録を出し、
自己ベストを更新する。沖田は、1 投目はかなり慎重に入ったが、48m56の自己ベストをマーク。2、3投目で記録を伸ばしたかったものの、足のグリップが効かず、ハンマーを思うように加速できない。その後何とか決勝には進んだものの、記録を伸ばせず 8 位で試技を終えた。

10000mW には、金谷(4)、越國(2)が出場。越國は、全体の先頭集団の後方、男子 2 部の先頭集団としてスタートし、金谷は先頭集団から少し離れたところから 1 人で歩き始めた。越國は、3000mすぎから離れていき少しずつペースを落としていった。金谷は、4000m付近で前の選手に追いつき引き合う形で歩みを進めた。越國は、その後もペースを落とし続けたが、最後の 1 周で切り替えスパートをかけゴールした。金谷は 8000m 付近から少しずつペースを上げ、残り 200m で最後のスパートをかけ 5 位の選手を切り離しゴールした。越國が 45’42”92 で 3 位、金谷が 47’25”72 で 4位とそれぞれ6点と5点を獲得した。

[女子一部]
10000mW は沖(4)、青山(3)が出場。沖、青山ともに集団から離れて冷静にスタートした。沖は 4000 メートル付近で一回目の警告を受けたが、沖は動じることなく歩き続け、前から落ちてきた3人を追い越し、セカンドベストとなる52’57”90でゴールした。青山は最初やや引っ張られてハイペース気味になってしまったものの、自己記録に近い 55’47”41 でフィニッシュした。

第104回関東学生陸上競技対校選手権大会
於相模原ギオンスタジアム

[男子2部]
100m
予選(5組2着+6)
4組(-0.6)
4 遠藤渓一郎　東大　10”80
決勝(+3.4)
1 守　祐陽　大東大　9”97
2 北原竜之介　大東大　10”22
3 上山　拓己　尚美学大　10”26
4 石井　空我　流経大　10”27
5 菊地　大輝　上武大　10”28
6 宮下青空海　育英大　10”30
7 松本　悠来　大東大　10”31
池嶋　公清　流経大　DQ

400m
予選(5組2着+6)
1組
4 井上　賢志　東大　48”85
4組
3 土屋　諒　東大　49”30
準決勝(2組3着+2)

1組
1 井上　賢志　東大　48.63
決勝
1 清水　大地　東大　47”61
2 齊藤　奏太　城西大　47”91
3 榊原　聡真　関東学院大 48”03
4 渡邊　耕志　流経大　48”07
5 藤　太樹　横国大　48”86
6 山田　大翔　亜大　49”02
7 中島　勇輔　城西大　49”04
8 角　来琉　東経大　49”42

800m
予選(4組3着+4)
1組
9 安藤　佑真　東大　1’57”39
2組
2 吉澤　登吾　東大　1’54”33
準決勝(2組3着＋2)
7 吉澤　登吾　東大　2’01”22
決勝
1 山鹿　快琉　育英大　1’53”74
2 池田　蓮　神奈川大　1’54”48
3 山田　理基　東経大　1’54”91
4 野口　遥斗　流経大　1’55”02
5 岡本　晃汰　亜大　1’55”16

6 根本　樹　東経大　1’55”27
7 磯　翔真　大東大　1’55”28
8 長　哲平　亜大　1’56”29

1500m
予選(3組3着+3)
1組
8 栁沼　大輝　東大　4’03”98
決勝
1 青木　龍翔　東大　3’44”92
2 小河原陽琉　東北大　3’45”40
3 井口　愁斗　東大　3’46”98
4 椙山　一颯　阪大　3’47”96
5 梅原　悠良　九大　3’49”05
6 杉原　立樹　東大　3’49”83
7 大塚　直哉　北大　3’50”64
8 熊井　渓人　京大　3’52”37

5000m　決勝
1 ｽﾃｨｰﾌﾞﾝ ﾑﾁｰﾆ 創価大　13’32”59
2 ﾃﾞﾆｽ ｷﾌﾟﾙﾄ　日本薬大　13’35”50
3 ﾌﾞﾗｲｱﾝｷﾌﾟﾄｩｰﾌﾞｼｭｰｱ　麗澤大　13’40”92
4 ﾗﾌｧｴﾙ ﾛﾝｷﾞｻ　拓大　13’43”99
5 野中　恒亨　國學院大　13’52”93
6 折田　壮太　青学大　13’57”12
7 ﾈﾙｿﾝ ﾏﾝﾃﾞ ﾗﾝﾋﾞﾃｨ　桜美林大　13’57”67
8 小池　莉希　創価大　13’57”73
13 秋吉　拓真　東大　14’09”10

10000m　決勝
1 ｽﾃｨｰﾌﾞﾝ ﾑﾁｰﾆ 創価大　28’14”30
2 ﾈﾙｿﾝ ﾏﾝﾃﾞ ﾗﾝﾋﾞﾃｨ　桜美林大　28’16”10
3 ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄﾞ ｼｭﾝｹﾞﾔﾈｲﾔｲ　麗澤大　28’17”45

4 安島　莉玖　青学大　28’19”81
5 黒田　然　青学大　28’24’”8
6 ｽﾃｨｰﾌﾞﾝ ﾚﾏｲﾔﾝ　駿河台大　28’28”24
7 辻原　輝　國學院大　28’31”42
8 小池　莉希　創価大　28’35”98
12 秋吉 拓真　東大　28’56”02

ハーフマラソン　決勝
1 帰山　侑大　駒大　1:01’43
2 野沢　悠真　創価大　1:01’49
3 山口　翔輝　創価大　1:01’51
4 山川　拓馬　駒大　1:01’56
5 高山　豪起　國學院大　1:01”57
6 塩出　翔太　青学大　1:02’05
7 浅川　侑大　帝京大　1:02’13
8 谷口　颯太　帝京大　1:02’46
60 大森. 智　東大　1:08’13
※トラック周回1周(400m)不足のため参考記録

10000mW　決勝
1 荒井　爽汰　創価大　42’39”62
2 八村　巧馬　桜美林大　42’40”02
3 越國　太貴　麗澤大　45’42”92
4 金谷　響介　青学大　47’25”72
5 山内　一輝　青学大　47’32’56

4×100mR
予選(3組2着+2)
2組
6 東大　堀田-遠藤-藤井-折川　42”36
決勝
1　大東大　舟木-門野-宮下-富樫　39”83
2　駿河台大 富田-佐藤-金丸-安藤　40”25
3　流経大 石井-池嶋-五十嵐-池田　40”29
4 平成国大　金子-益田-高野-森田　40”98
5　立大　簗瀬-岡上-塩味-森田　41”05
6　成蹊大　藤原-秋山-山﨑-澤田　41”09
7 ウェルネス大　竹重-上月-鈴木-小磯　41”40
8　関東学園大　太田-青木-ﾒﾘｶﾄﾞﾛ-向田　46”22

男子4×400mR
予選(4組1着+4)
1組
3 東大　井上-藤井-落合-土田　3’19”11
決勝
1 大東大　清水-齋藤-中島-渡邉　3’10”90
2 駿河台大　齋藤-渡邊-森田-金丸　3’11”95
3 育英大　土屋-櫻井-遠藤-山鹿　3’12”20
4 東農大　藤-古屋-朱雀-川上　3’12”67
5 立大　榊原-岡上-押上-塩味　3’12”75
6 神奈川大　加藤-山田-小山-井上　3’12”82
7 ウェルネス大　鈴木-三島-鈴木-長友　3’17”82
8 作新学大　大塚-新間-手塚-齋藤　3’17”70

走高跳　決勝
1 辻　来空　駿河台大　2m10
2 伊藤　舜　茨城大　2m04
3 館　海斗　上武大　2m04
4 菅澤　綾都　茨城大　2m00
5 浅井　優　流経大　2m00
6 中田　陽　大東大　1m95
6 榎本　光希　茨城大　1m95
8 酒井　亮　東大　1m90

砲丸投　決勝
1 松岡　義人　明海大　14m67
2 中郷　成生　一橋大　14m38
3 橋本　空楽　平成国大　14m27
4 小山　皓幹　平成国大　14m17

5 大信田凌生　流経大　　13m93
6 橋本　大輝　明海大　　13m63
7 鈴木　皓大　明海大　　13m53
8 都丸　佑太　群大　　　13m12
25 田中醇之介　東大　　　9m35

ハンマー投　決勝
1 浅利　磨海　流経大　　61m61
2 尾﨑　奎太　流経大　　56m41
3 西田　航太　流経大　　52m28
4 志賀悠一郎　上武大　　51m15
5 小倉　優輝　平成国大　49m40
6 中居　大翔　明海大　　49m18
7 西本　勇希　明海大　　48m95
8 沖田康太朗　東大　　　48m56
13 村上 凜　　東大　　　38m84

十種競技
100m　3 組(+0.7)
1 田中醇之介　東大　　　11”09
走幅跳
2 田中醇之介　東大　　　6m56(+1.7)
砲丸投
4 田中醇之介　東大　　　11m31
走高跳
2 田中醇之介　東大　　　1m90
400m　3 組
2 田中醇之介　東大　　　51.99
110mH　1 組(+1.0)
2 田中醇之介　東大　　　15.00
円盤投
7 田中醇之介　東大　　　27m09
棒高跳
9 田中醇之介　東大　　　3m40
やり投　1 組
7 田中醇之介　東大　　　39m48
1500m
13 田中醇之介　東大　　　5’41”30
総合
1 羽鳥　凌生　群大　　　6987
2 飯田椋汰朗　流経大　　6497
3 鈴木　　空　流経大　　6359
4 大嶋　爽生　都留文大　6030
5 田中醇之介　東大　　　5998
6 秋山　　尽　平成国大　5921
7 青木　颯哉　流経大　　5897
8 田中京太郎　埼玉医大　5869

男子 2 部総合得点
1 駿河台大　　97 点
2 大東大　　　94.5 点
3 流経大　　　83 点
4 平成国大　　57 点
5 創価大　　　46 点
6 育英大　　　42 点
7 明海大　　　40 点
8 立大　　　　39 点
14 東大　　　　17 点

[男子 3 部]
800m　決勝
1 山田　大詩　筑波大院　1’50”56
2 芳沢　暢浩　東大院　　1’52”72
3 二見　優輝　筑波大院　1’54”61
4 稲葉　　健　東大院　　1’55”24
5 小田嶋　凜　学習大院　1’57”31
6 宇賀神悠資　群大院　　2’00”84

ハーフマラソン　決勝
1 古川　大晃　東大院　　1:04’44
2 丸山翔太郎　東大院　　1:08’18
3 森田　雄貴　東大院　　1:09’41

3000mSC タイムレース決勝
1 樋本　雄大　帝京大院　9’11”05
2 越川　剛暉　東大院　　9’22”95

10000mW　決勝
1 和家昂太郎　国士大院　41’49”89
2 木村　太一　東学大院　44’00”16
3 千菊　智也　東大院　　44’26”65
4 山田　夏大　電通大院　50’07”89
4×400mR　決勝
1 東大院　　増田-ｳｫﾙｼｭ-稲葉-杉岡
3’22”89
2 横国大院　　服部-山口-定松-田畑
3’29”06

男子 3 部総合得点
1 筑波大院　　27 点
2 大東大院　　10 点
3 東海大院　　9 点
4 東大院　　　9 点
5 順大院　　　8 点
6 日大院　　　6 点
7 東学大院　　6 点
8 国士大院　　5 点

[女子 1 部]
10000mW　決勝
1 斉藤　茅音　神奈川大　46’36”12
2 中島　橙子　順大　　　46’41”37
3 中村　綾花　日体大　　46’43”92
4 藤田真美加　順大　　　47’24”66
5 廣瀬　夏希　順大　　　48’54”86
6 岡田　佳乃　早大　　　48’55”59
7 西山こと乃　早大　　　49’04”79
8 髙尾　美月　東学大　　49’12”32
16 沖　夏子　東大　　　52’57”90
19 青山 虹海　東大　　　55’47”41

女子 1 部総合得点
1 日体大　　　147 点
2 筑波大　　　115.5 点
3 順大　　　　78.5 点
4 青学大　　　75 点
5 大東大　　　45 点
6 早大　　　　43 点
7 日女体大　　39 点
8 東女体大　　39 点
東大　　　　0 点

国公立戦

男子総合２位　女子２位

第 73 回東京地区国公立大学対校陸上競技大会は、6 月 21 日(土)に上柚木競技場にて開催された。四大戦後一週間での開催であった。総合は、男子は残念ながら優勝はできなかったが、トラックの部で 1 位となった。女子は、多種目に選手が出場し目標だった総合２位を達成することができた。男子の 5000m ではスコンク、400m や 1500m で 1 位を取るなど活躍が見られる種目がたくさんあった。また、短距離や投擲では関東インカレの標準突破する選手が大勢いた。

[男子]

400m では土屋(4)、井上(4)が東学大を含む 3 人の競り合いをゴールまで続け、井上は勝ち切り 1 着、土屋は 3 着でフィニッシュした。井上は全体 1 位、土屋は全体 3 位だった。

5000m では大森(3)と渡邊(3)が成長をみせ、秋吉に続く、2、3 位を獲得しスコンクを成し遂げた。

砲丸投で沖田(2)が専門種目ではない中力強い投擲をみせ、2 位を獲得した。

[女子]

400m で宮宇地(2)の 2 位や 3000m での渡邊(1)の 2 位など来年にもつながる活躍が見られた。

第 73 回東京地区国公立大学対校陸上競技大会
於　上柚木陸上競技場

[男子]

100m
予選(4 組 1 着+4)
1 組(-0.99)
4 田中醇之介　東大　11”40
3 組(+0.6)
2 藤井　奎輔　東大　10”80
4 組(-0.6)
1 遠藤渓一郎　東大　11”05
決勝(+0.9)
1 渋川　陽希　東学大　10”60
2 遠藤渓一郎　東大　10”72
3 野口　裕太　都立大　10”84
4 藤井　奎輔　東大　10”90
5 白石　雄大　一橋大　10”91
6 立川　義浩　都立大　11”12
7 東井　良太　農工大　11”21
木村　伊吹　東学大　DNS

200m
予選(3 組 2 着+2)
1 組(+3.3)
2 西川　諒　東大　21”87
2 組(+2.6)
2 藤井　奎輔　東大　21”86
3 組(-0.9)
1 渡辺　遥斗　東大　21”19
決勝(-0.4)
1 札内　航　東工大　21”75
2 西川　諒　東大　21”82
3 渡辺　遥斗　東大　21”84
4 金田　康佑　東学大　21”92
5 関口　璃紅　東学大　22”04
6 藤井　奎輔　東学大　22”18
7 河合　星弥　電通大　22”81
8 清武　宏希　都立大　22”94

400m
タイムレース決勝
1 井上　賢志　東学大　48”88
2 鈴木　爽生　東学大　49”08
3 土屋　諒　東大　49”30
4 津山　将汰　東学大　49”58
5 相澤　尚毅　電通大　49”85
6 鈴木　雄太　東学大　50”52
7 長田遼太郎　電通大　50”73
8 小松武咲支　科学大　51”28
11 落合 利紅　東大　52”33

800m
タイムレース決勝
1 島田　隼　電通大　1’55”12
2 芳沢　暢浩　東大　1’56”41
3 小堺　隆弘　一橋大　1’56”82
4 鈴木　雄太　東学大　1’56”89
5 小栗蒼一郎　東大　1’57”32
6 濱口　昊太　東学大　1’58”32
7 谷川　蒼太　科学大　1’58”52
8 岡　千里　東外大　1’59”90
12 稲葉 健　東大　2’03”25

1500m
タイムレース決勝
1 栁沼　大輝　東大　3’59”74
2 岩田　和大　科学大　4’00”44
3 二見　拓輝　電通大　4’00”80
4 山下熙莉杏　電通大　4’01”38
5 河内謙士朗　電通大　4’03”13
6 森　祥真　東大　4’03”55
7 濱島　秀陽　農工大　4’04”85
8 梶岡　拓真　一橋大　4’04”86
14 榎本 涼馬　東大　4’15”04

5000m
決勝
1 秋吉　拓真　東大　14’30”80
2 大森　智　東大　15’03”50
3 渡邊　慶大　東大　15’06”11
4 中村　駿太　科学大　15’09”42
5 久保　周斗　一橋大　15’20”24
6 岩田　和大　科学大　15’20”96
7 平林　樹　電通大　15’25”58
8 藤澤　圭祐　科学大　15’39”43

110mH
タイムレース決勝
1 伊藤　巧翔　東学大　14”94(-3.2)
2 澁谷　隆成　一橋大　15”16(-3.2)
3 小屋翔一朗　東学大　15”43(+1.5)
4 櫻井　愛貴　東学大　15”72(-3.2)
5 徳山　大暉　東大　15”75(+1.5)
6 飯塚　恭佑　電通大　16”23(+0.9)
7 安藤　佑晟　都立大　16”11(+1.5)
8 濱島　夏彦　都立大　16”14(+1.5)
9 高橋　遼平　東大　16”39(-3.2)

400mH
タイムレース決勝
1 東井　良太　農工大　54”36
2 内田　友海　科学大　55”61
3 古川　柊依　東学大　55”82
4 安藤　佑晟　都立大　56”43
5 福田創太郎　東大　56”79
6 小屋翔一朗　東学大　56”84
7 庭田　雄理　東学大　57”16
8 林　佑哉　東大　57”36

5000mW 決勝
1 吉迫　大成　東学大　19’34”72
2 越國　太貴　東大　21’27”48
3 金谷　響介　東大　23’27”77
4 山田　夏大　電通大　23’48”81
5 白石　大輝　東学大　25’29”87

4×100mR 決勝
1 東学大　木村-渋川-関口-藤原　41”14
2 一橋大　瀬田-澁谷-志村-白石　41”31
3 都立大　立川-野口-井上-中島　42”12
4 東大　安部-遠藤-藤井-折川　42”47
5 電通大　児玉-稲津-吉田-河合　42”72
6 農工大　渡戸-東井-岸田-陣立　43”20
7 東外大　川村-佐々木-岡-松浦　46”63
8 科学大　田口-平井-平田-礼内　47”94
4×400mR 決勝
1 電通大　長田-河内-大石-相澤　3’20”10
2 東学大　津山-鈴木-関口-鈴木　3’20”55
3 東大　福田-井上-林-土屋　3’20”87
4 一橋大　大山-白石-志村-五嶋　3’22”31
5 科学大　小松-礼内-中村-田口　3’24”31
6 農工大　正木-濱島-大矢-立見　3’30”03
7 都立大　谷-清武-高橋-森田　3’30”60

走高跳 決勝
1 丸小野開之　東学大　2m02
2 藤原虎太郎　東学大　1m99
3 関崎　至流　東学大　1m93
4 酒井　亮　東大　1m90
5 松本　敢汰　都立大　1m85
6 坂本　向輝　一橋大　1m80
7 濱島　夏彦　都立大　1m75
8 寺田　雄翔　電通大　1m70
田中醇之介　東大　DNS

棒高跳 決勝
1 桜井　愛貴　東学大　3m90
2 藤原　育歩　東学大　3m80
3 松野　亙我　東学大　3m70
4 田中醇之介　東大　3m50
5 濱島　夏彦　東工大　3m10
6 安藤　佑晟　東工大　3m10
7 徳山　大暉　東大　2m80
8 松村　徳大　東大　2m80

走幅跳 決勝
1 三上　滉平　東学大　6m72(+1.3)
2 中村　祐希　科学大　6m61(+1.2)
3 西野　拓志　東学大　6m59(+2.5)
4 櫻井　愛貴　東学大　6m37(+0.3)
5 陣立　智弘　農工大　6m28(+1.9)
6 菊池　主馬　東大　6m22(+1.6)
7 谷　隆成　一橋大　6m10(+2.1)
8 石川　陽春　東工大　5m88(+0.9)
10 大野　夢真　東大　5m88(+0.9)

砲丸投 決勝
1 三浦　優輝　東学大　12m08
2 沖田康太朗　東大　11m12
3 笠原　豪　都立大　10m60
4 黒野力輝汰　東学大　10m51
5 武藤　大空　農工大　10m22
6 櫻井　愛貴　東大　10m11
7 濱島　夏彦　都立大　9m29
8 徳山　大暉　東大　8m70
9 村上　凛　東大　8m05

円盤投 決勝
1 神宮寺俊輔　東学大　34m40
2 天野　快成　東学大　34m01
3 津山　将汰　東学大　33m90
4 武藤　大空　農工大　31m38
5 濱島　夏彦　都立大　30m30
6 安藤　佑晟　都立大　28m60
7 笠原　豪　都立大　26m99
8 米山　真宙　都立大　26m36
9 沖田康太朗　東大　25m53

男子総合
1 東京学芸大学　220 点
2 東京大学　144 点
3 東京 都立大学　69 点
4 電通大学　48 点
5 科学大学　43 点
6 一橋大学　34 点
7 東京農業大学　30 点
8 東京外国語大学　7 点

[女子]
100m タイムレース決勝
1 タネル舞璃乃　東学大　12”45(+0.7)
2 奥田　彩愛　東学大　12”72(+0.7)
3 田崎　香穂　一橋大　12”92(+0.7)
4 畠山　小枝　東大　13”11(+0.7)
5 佐藤　美桜　東京都立大　13”41(-0.1)
6 西村　遥香　一橋大　13”94(-0.1)
7 岩間絵里佳　東外大　14”08(-0.1)
8 井戸田菜桜　科学大　14”12(-0.1)
9 多田　有沙　東大　14”15(+0.7)

400m 決勝
1 柏倉　うみ　東学大　58”03
2 宮宇地　彬　東大　1’03”60
3 中嶋　雪音　東学大　1’04”26
4 井戸田菜桜　科学大　1’05”05
5 大城　七海　東外大　1’06”27
菅沼沙紅良　農工大　DNS

1500m 決勝
1 太田　結菜　都立大　4’58”14

2 風間日菜子　農工大　　　5’00”99
3 大川　真歩　東学大　　　5’02”88
4 渡邊　晴香　東大　　　　5’02”93
5 平　ひより　東外大　　　5’06”41
6 鈴木　心結　農工大　　　5’11”61
7 横山　陽菜　東外大　　　5’19”21
8 種瀬　愛美　東大　　　　5’24”81

3000m 決勝
1 大川　真歩　東学大
10’05”65
2 渡邊　晴香　東大
10’56”48
3 宮崎　絢香　東学大
11’15”09
5000mW 決勝
1 西山こと乃　東学大
24’01”72
2 田村　楽　東学大
25’14”11
3 沖　夏子　東大
26’33”54
4 青山　虹海　東大
27’13”97
5 山口　莉子　東学大
29’51”67
6 中澤　暖乃　東学大
31’16”45

走高跳 決勝
1 下元　香凜　東学大　　　1m60
2 内山　秀眞　一橋大　　　1m55
3 村井ひより　都立大　　　1m45
4 小林　菜月　東学大　　　1m40
5 三村　珠広　東大　　　　1m30
6 河合　優　　一橋大　　　1m25
7 成川　瑠音　東外大　　　1m20
8 佐久間唯歌　東外大　　　1m20

走幅跳 決勝
1 佐久間理緒　東学大
5m43(+1.6)
2 内山　秀眞　一橋大　　5m25(-
1.3)
3 村井ひより　都立大
5m07(+0.8)
4 上野　美優　都立大
4m59(+1.9)
5 今野　碧衣　東京都立大　4m48(-
0.2)
6 河合　優　　東京都立大　4m18(-
1.3)

女子総合
1 東京学芸大学　　105 点
2 東京大学　　　　46 点
3 一橋大学　　　　35 点
4 東京都立大学　　22.5 点
5 東京外国語大学　21 点
6 東京農業大学　　12 点
7 科学大学　　　　8 点

四大戦
男子総合２位　昨年から順位一つ上げる

第 50 回国立四大学対校陸上競技大会は、2025 年 6 月 14 日(土)に駒場グラウンドにて開催された。男子はフィールドの部では 3 位となるも、どのパートも活躍を見せ、トラックの部で 1 位となり昨年の 3 位から一つ順位を一つ上げて 2 位となった。女子は自己記録を出す選手も多くいたがまだ他大には及ばない結果となった。

[男子]
400m で井上(4)と土屋(4)がワンツーフィニッシュを決め大量得点を獲得した。4×100m リレーもマイルリレーも東京学芸大学に勝てず２位となった。
5000m では秋吉(4)が 14’18”02 と大会記録を更新しての１位となった。森(4)も 5000m で3位、栁沼(4)が 1500m で２位と得点を獲得した。
走高跳で酒井(4)が 1m95 を 1 本目を落とすも 2 本目で修正して自己ベストタイで２位となった。
[女子]
5000mW では、沖(4)、青山(3)がどちらもラストの直線で粘りを見せ自己記録を更新した。記録は沖が 25’34”28 で、２点、青山(3)が 27’57”31 で１点を獲得した。

第 50 回国立四大学対校陸上競技大会
於 駒場グラウンド

[男子]

100m(-1.0)

1	鶴田　俊陽	群大	10”62
2	遠藤渓一郎	東大	10”78
3	渋川　陽希	東学大	10”81
4	土屋　快太	埼玉大	10”95
5	藤井　奎輔	東大	10”99
6	三浦　泰廉	埼大	11”33
7	堀江　巧	東学大	11”49
8	田代　瑛莉	群大	11”60

200m

1	鶴田　俊陽	群大	21”89(+1.0)
2	関口　璃紅	東学大	22”31(+1.0)
3	藤井　奎輔	東大	22”39(+1.0)
4	井上　賢志	東大	22”40(-2.7)
5	金田　康佑	東学大	22”40(-2.7)

400m

1	井上　賢志	東大	49”13
2	土屋　諒	東大	49”91
3	店網　周平	群大	50”75
4	山田　智輝	埼大	51”19
5	清田虎太朗	東学大	1’09”02
6	稲葉大伊知	東学大	1’20”19
	羽鳥　凌生	群大	DNS

800m

1	鈴木　雄太	東大	1’55”86
2	宇賀神悠資	群大	1’57”40
3	原田光太郎	東学大	1’57”43
4	安藤　佑真	東大	1’57”99
5	石原　諒人	群大	1’59”70
6	布施　力	東大	2’00”98
7	冨田　風羽	埼大	2’01”97
8	土谷　飛羽	埼大	2’05”98

1500m

1	樋熊　悠翔	埼大	4’01”02
2	栁沼　大輝	東大	4’01”91
3	大池　駿	群大	4’04”00
4	大澤　直紀	埼大	4’06”14
5	櫻井　駿	東学大	4’07”01
6	山田　望仁	東大	4’19”46
7	石原　諒人	群大	4’14”10
8	久保田遼	東学大	4’18”12

5000m

1	秋吉　拓真	東大	14’18”02
2	樋熊　悠翔	埼大	15’14”64
3	森　祥真	東大	15’24”01
4	澁谷　優斗	埼大	15’27”73
5	山本陽一朗	東学大	15’30”75
6	牛久　賢哉	群大	15’38”83
7	吉井　奎登	東学大	15’56”93
8	漆崎　広陽	東学大	16’24”19

110mH

1	伊藤　巧翔	東学大	15”26(-0.9)
2	津山　将汰	東学大	15”54(-1.8)
3	小舘　翼	埼大	15”55(-0.9)
4	徳山　大暉	東大	15”78(-0.9)
5	馬上　凌	東大	15”96(-1.8)
6	山口　智也	埼大	15”97(-1.8)
7	大田　歩武	群大	17”21(-0.9)

400mH

1	吉原　辰樹	群大	54”16
2	古川　柊依	東学大	56”73
3	吉原　辰樹	埼大	56”95
4	福田創太郎	東大	58”93

5000mW

1	吉迫　大成	東学大	19’16”37
2	千菊　智也	東大	20’56”49
3	越國　太貴	東大	20’58”37
4	木村　太一	東学大	22’47”80

4×100mR

1	東学大	木村-渋川-関口-藤原	41”30
2	東大	安部-遠藤-藤井-折川	42”66
3	埼大	中村-三浦-山田-杉本	42”73
4	群大	喜多-鶴田-田代-羽鳥	42”80

4×400mR

1	東学大	鈴木-関口-古川-鈴木	3’19”51
2	東大	福田-井上-安藤-土屋	3’19”51
3	群大	店網-松崎-齋藤-吉原	3’20”66
4	埼大	山田-中村-杉本-小山	3’24”74

走高跳

1	丸小野開之	東学大	2m00
2	酒井　亮	東大	1m95
3	関崎　至流	東学大	1m90
4	富田　大翔	群大	1m80
5	徳山　大暉	東大	1m75
6	富小林航也	群大	1m65

棒高跳

1	藤原　育歩	東学大	3m80
2	松村　徳大	東大	2m80
3	田中醇之介	東大	NM

走幅跳

1	三上　滉平	東学大	7m02(-2.3)
2	小林　航也	群大	6m37(-1.1)
3	阿部　晃大	群大	6m36(+0.6)
4	大野　夢真	東大	6m20(-0.5)
5	徳山　大暉	東大	6m19(+0.8)
6	篠原　紀啓	埼大	6m17(+0.0)
7	山崎　楓太	東学大	5m89(-0.5)
8	小林　響	埼大	5m80(+0.6)

三段跳
1 富田　大翔　群大　14m80(+1.4)
2 関崎　至流　東学大　13m69(+1.0)
3 池田　修翔　埼大　13m46(+0.8)
4 坂本　向輝　東大　13m46(+1.0)
5 中村　拓翔　東学大　13m25(+1.5)
6 若松　駿　東大　13m07(+0.9)
7 小林　航也　群大　12m94(+1.1)

砲丸投
1 三浦　優輝　東学大　13m10
2 都丸佑太郎　群大　12m72
3 石川　駿　群大　11m93
4 黒野力輝汰　東学大　11m67
5 石井　健資　埼大　11m44
6 沖田康太朗　東大　10m02
7 田中醇之介　東大　9m68

円盤投
1 天野　快成　東学大　38m94
2 阿部　仁　群大　35m13
3 都丸佑太郎　群大　33m91
4 三浦　優輝　東学大　30m54
5 石井　健資　埼大　29m45
6 安部飛悠河　東大　19m01
7 林　健太郎　東大　16m24

ハンマー投
1 沖田康太朗　東大　44m78
2 笹岡　俊介　東学大　43m68
3 都丸佑太郎　群大　36m31
4 天野　快成　東学大　33m08
5 阿部　仁　群大　23m49
村上　凜　東大　DNS

やり投
1 下村知太郎　東学大　63m32
2 萬場　優太　群大　52m32
3 神宮寺俊輔　東学大　49m88
4 阿部　仁　群大　45m48
5 橋本　官樹　東大　43m89
6 秋山賢太郎　東大　35m51
7 矢澤　史哉　埼大　32m43

男子総合
1 東京学芸大学　125 点
2 東京大学　99 点
3 群馬大学　92 点
4 埼玉大学　49 点

[女子]
100m(-1.4)
1 髙橋　侑希　埼大　12”69
2 奥田　彩愛　東学大　12”80
3 柏倉　うみ　東学大　12”86
4 齋藤　美那　群大　13”19
5 畠山　小枝　東大　13”28
6 寺園　華　埼大　13”28
7 竹田　蘭　群大　14”46
8 多田　有沙　東大　14”10

200m タイムレース決勝
1 髙橋　侑希　埼大　25”69(0.0)
2 柏倉　うみ　東学大　26”00(0.0)
3 奥田　彩愛　東学大　26”48(-1.6)
4 玉川　結空　埼大　27”20(-1.6)
5 畠山　小枝　東大　27”41(-1.6)
6 柴崎　愛弓　群大　27”44(0.0)
7 荒井　美輝　群大　27”72(-1.6)

400m
1 兜森　友希　東学大　57”12
2 弥永　優希　東学大　58”94
3 玉川　結空　埼大　59”30
4 荒井　美輝　群大　1’02”71
5 河崎千巴奈　群大　1’02”75
6 宮宇地　彬　東大　1’03”92
7 関　鈴　埼大　1’05”16

800m
1 本坊　あこ　東学大　2’18”15
2 中村　愛花　群大　2’19”30
3 藤田　一花　東学大　2’21”83
4 鈴木　愛花　群大　2’30”32
5 種瀬　愛美　東大　2’34”07
6 服部　瑞季　東大　2’49”83
7 小澤　りみ　埼大　3’09”81

1500m
1 中村　愛花　群大　4’51”17
2 阪　千都　東学大　4’59”12
3 鈴木　愛花　群大　5’03”90
4 栁　沙織　東大　5’04”40
5 大川　真歩　東学大　5’07”99
6 種瀬　愛美　東大　5’24”90
7 小澤　りみ　埼大　6’25”66

3000m
1 渡邉　晴香　東大　10’43”92
2 栁　沙織　東大　10’45”98
3 大川　真歩　東学大　10’47”89
4 鈴木　愛花　群大　10’59”80
5 西山こと乃　東学大　11’35”33
6 齋藤　胡桃　群大　11’54”24
400mH
1 小池　琉南　東学大　1’08”39
2 関　鈴　埼大　1’09”72
3 中嶋　雪音　東学大　1’09”88
4 柴崎　愛弓　群大　1’10”45
5 髙橋　野花　群大　1’15”44
6 宮宇地　彬　東大　1’19”00

5000mW
1 田村　楽　東学大　24’43”14
2 宮崎　絢香　東学大　25’02”70
3 沖　夏子　東大　25’34”28
4 青山　虹海　東大　27’57”31

4×100mR
1 東学大　髙嵜-奥田-タネル-兜森
47”71
2 埼大　寺園-髙橋-木村-馬場
48”36
3 東大　多田-畠山-宮宇地-今野
51”33
4 群大　髙橋-柴崎-齋藤-竹田
1’06”35

4×400mR
1 東学大　弥永-本坊-阪-藤田
3’57”32
2 埼大　玉川-木村-関-髙橋
4’00”42
3 群大　柴崎-荒井-河崎-中村
4’15”56
4 東大　今野-多田-畠山-宮宇地
4’26”08

走幅跳
1 馬場　彩香　埼大　5m82(+0.6)
2 下元　香凜　東学大　5m36(+0.7)
3 冨士盛智咲　東学大　5m05(-1.8)
4 木村　愛　埼大　4m97(-1.4)
5 関口　蒔琉　群大　4m85(+0.1)
6 今野　碧衣　東大　4m68(-0.8)

三段跳
1 馬場　彩香　埼大　11m83(+1.2)
2 吉良　光咲　東学大　11m80(+1.4)
3 萩原けい奈　東学大　11m26(-0.3)
4 黒澤　華凜　群大　11m06(+1.0)
5 木村　愛　埼大　10m63(+0.8)
6 櫻井　柚希　群大　10m41(+0.9)
7 多田　有沙　東大　9m78(+0.8)

砲丸投
1 佐藤　真耶　群大　10m49
2 齋藤いつみ　群大　9m91
3 髙嵜　桃花　東学大　9m58
4 植田　陽翔　東学大　8m97
5 種瀬　愛美　東大　5m55
6 田口　祐実　東大　4m71

円盤投
1 石下　礼彩　東学大　36m61
2 江田　夏実　東学大　35m17
3 齋藤いつみ　群大　32m93
4 横沢　芽依　群大　30m39
5 多田　有沙　東大　13m31
6 渡邉　晴香　東大　9m72

やり投
1 安藤　珠希　東学大　39m02
2 江田　夏実　東学大　38m15
3 佐藤　真耶　群大　24m43
4 今野　碧衣　東大　18m90
5 青山　虹海　東大　11m74

　北澤　まい　群大　　DNS

女子総合

1	東京学芸大学	146 点
2	群馬大学	78 点
3	埼玉大学	59 点
4	東京大学	44 点

七大戦

男子総合４位　昨年から順位上げられず

第 76 回全国七大学対校陸上競技選手権大会は、2025 年 7 月 26、27 日(土、日)に円山陸上競技場で行われた。秋吉(4)が 1500m、5000m、3000mSC で二年連続三冠を獲得や、ハンマー投で沖田(2)、村上(2)が 1 位、2 位を取るなど活躍を見せたものの、去年から順位を上げることはできなかった。女子は様々な種目に出場したが、点数の獲得には至ることができなかった。しかし、宮宇地(2)の 400m での自己新記録などの成長が見られる試合でもあった。

[男子トラック種目]

400mH は２組には林(4)が、出走。勢いよく飛び出し、前半から中盤にかけて外側の東北大の選手に迫る走りを見せる。ただ、8 台目以降は 19 歩に移行し厳しい走りとなり、57.72 の 7 着でフィニッシュした。

100m では 1 組に小田(1)の出場。中盤までトップを走る力強い走りを見せたが、後半失速し３着でのフィニッシュとなった。2 組には遠藤(2)の出場。遠藤はまずまずの飛び出しを見せるも、中盤で加速しきれず 2 着でのフィニッシュ。3 組に藤井(4)の出場。藤井はスタートで出遅れる形となるも、中盤に向けて着実に加速していく。得意の後半で捲くれるかと思われたが、力及ばず、4 着でのフィニッシュとなった。

決勝では、7 レーンに遠藤(2)、8 レーンに小田(1)が出場。両者ともにまずまずのスタートを見せると、中盤までは遠藤が小田にやや先行する形となる。遠藤は京都大、東北大の選手と熾烈な２位争いを展開するも競り合いでの弱さが出てしまい４着でのフィニッシュ。記録は 10"65。小田も冷静に加速をして、自分のレースを展開するも、後半まくるところまでは至らず、5 着でのフィニッシュ。記録は 10"76 であった。

1500m には、10 レーンに秋吉(4)、12 レーンに柳沼(4)、13 レーンに大森(3)が出場。スタート直後、秋吉と大森は集団の前方に柳沼は真ん中付近に位置していた。秋吉はラストでスパートをかけ、1 位の選手をラスト 50m のところで抜かし 1 位でゴールした。柳沼と大森は第二集団に位置し 1200m 付近で大森はその先頭に出たが、柳沼は離れていった。ホームストレートで残りの力を振り絞って３位争いに勝ち３位であった。柳沼は順位を維持し 6 位でゴールした。東大としては 11 点を獲得した。秋吉、大森、柳沼のタイムはそれぞれ、3’54”43、3’57”81、4’00”85 であった。

400m には、１組に和田(2)、２組に井上(4)、３組に土屋(4)が出場した。和田は、バックストレートでは外側の４レーンの選手に追随していたが、第三コーナー辺りから差を広げられ、そのまま５着でゴールした。記録は 51”71 であった。井上はスタート後、高いピッチでカーブを駆け抜け、外側の８レーンの選手に迫る。しかしバックストレートで徐々に内側の６レーンの選手が追い上げてき、第三コーナー付近でリードされてしまう 。後半再度ペースを上げたいところだが、直線に入っても思うように伸びず、5 着でゴールした。このときの記録は 49”58 であった。土屋は大きなストライドでカーブとバックストレートを駆け抜ける。後半のカーブでは、先頭争いに加わったものの、直線に入って少しずつ離され、3 着でゴールした。このときの記録は 49”20 であった。

5000mW には、越國(2)、金谷(4)、髙島(1)の出場。越國は、先頭集団から離れ、落ちてくる選手を拾いつつ徐々にリズムを作っていく戦略に出た。しかし、３０００mを過ぎても一向に３‘５５ペースの先頭集団は崩れず、終始独歩を余儀なくされた越國はペースを維持することができず 、かろうじて２２分を切ることはできたものの満足いく結果とはならなかった。金谷は、４０００mで一度辛そうな表情を見せた他は１‘４５をベースに回していった。最後のスパートでは前を歩く越國に肉薄し、最終的に２１分台を出すことができた。髙島は、ペース感覚がつかめていなかったせいか、ラップが上下し終始不安定なペースだった。さらに、何週目かの判断がつかずラスト一周を残してフィニッシュしかけるという失態を犯し、あわてて歩き直し残り一周を完歩したものの 25 分台には届かなかった。

4×100mR では西川(2)-遠藤(2)-藤井(4)-秋山(4)の出場。ほぼ横一列で２走がスタートした。1 走と 2 走はかなり詰まってしまった。バックストレートでは遠藤がスピードをあげて、3 走に繋いだ。ここでもバトンがうまくいかず、他の大学と差が少しついてしまった。コーナーではの藤井がうまく走り、秋山に繋いだ。この時点で５位であった。メイ

ンストレートでは他の大学のエースの人がたくさんいながらも、差をつけられることもなくそのまま5位でゴールした。この時41.53であった。

3000mSCは秋吉(4)と大宮(2)と大槻(2)の出場。秋吉はスタート直後から一人で飛び出し、自分のペースを作って走っていく。大宮と大槻は秋吉の後ろにできた集団の中に位置付けた。大宮は集団内で入賞が狙える位置で粘り、大槻は集団から少し離れるも徐々に集団から落ちていく選手を拾っていった。秋吉がそのまま逃げ切り8'57"65で1位、大宮は入賞に一歩及ばず9'35"66で7位、大槻が9'44"23で9位となった。秋吉の記録は大会記録となった。

110mHは、徳山(2)、岩田(1)、田中(1)の出場。徳山はスタートで出遅れるも、3番目の選手を追いかける。10台目を越えた後に転倒してしまい6着でのフィニッシュ。記録は17"18であった。岩田は、スタートで少し出遅れてしまうが、前の選手を追いかける。しかし、伸びずに5着でのフィニッシュ。記録は15"92であった。田中は、好調なスタートを切ったが、中盤から後半にかけての失速が目立ち6着でのフィニッシュ。記録は17"01であった。

800mは小栗(2)、吉澤(1)、安藤(4)の出場。小栗は、最後方からレースをはじめ1周目の通過に合わせて徐々に順位を上げて3.4番手についた。ペースを維持しながら2周目も走り切ったものの、先頭の4人の集団のラストスパートにはついていくことができず、1'56"25の組5着でゴールした。吉澤は集団の後ろ側の位置から入り、ホームストレートで順位を上げていった。2周目のバックは落ち着いて4番手を維持しラスト200mで二人を抜き組2着の1'53"63で決勝進出を決めた。3組目の安藤はスタートから集団で走ったものの1周目の通過が59秒台のスローペースであった。そこから一気にペースが上がり安藤も食らいついたが順位で決勝に進むことが確定される先頭二人には離され組4着の1'57"24でフィニッシュした。
決勝には、吉澤(1)が出場。オープンレーンになると吉澤が縦長な集団を引っ張る形となった。400mの通過は58秒ほどでややゆっくりとした立ち上がりとなった。400m地点の手前から徐々にペースも上がり、先頭も吉澤から入れ替わった。吉澤は3番手につけながらペースを上げるも、前の2人とは差が広がる一方であった。残り100mの位置で吉澤は4番手に位置を下げるも、ラストスパートで抜き返し、3番手でレースを終えた。記録は1'54"58であった。

200mには、藤井(4)、西川(2)、井上(4)の出場。藤井は、運営のスタートミスがあり、藤井は出走できなかったため自動的に決勝進出が決まった。西川は、快調にスタートし、前半100mで先頭集団に立ち、得意の後半で余力を残しながら1位でゴールした。この時21.98(+0.1)であった。井上は、勢いよくスタートした。80mくらいまでは横一線だったが、120mくらいで少し先頭と差が開いた。後半立て直すことができず6着でゴール。この時22.37(-0.9)であった。
決勝は、予選のスタートの不具合もあり、タイムレース決勝2組で行われた。藤井(4)と西川(2)の出場。藤井は、うまく飛び出し、先頭集団にたった。カーブを抜けると、1位との差が開き始めた。後半で3位以下を引き離すも1位には及ぶことができず、2着でゴール。この時、22.39(-2.5)であった。西川は50m付近では4位で通過した。カーブ抜けで6位まで落ちたが、得意の後半でぐんぐん抜かしていき、3位でゴールした。この時21.77(+0.2)であった。結果総合順位では西川が3位、藤井が8位であった。西川の3位により4点を獲得した。

5000mは、秋吉(4)、大森(3)、渡邉(3)が出場。スタートし、すぐに秋吉が飛び出し他選手は集団になるという展開に。集団はスローペースでスタートしたが、1000mを過ぎると一気にペースアップし、大森・渡邉・浅野(名大)が抜け出して2位集団となった。3人揃って1km3分ペースで進み、ラスト200mで大森が渾身のスパート。浅野と渡邉も追うが逃げ切り、大森が逃げ切った。渡邉はあと一歩で浅野に及ばなかった。
結果は秋吉14'21"91で大会記録更新。強さを見せつけた。大森は14'58"67、渡邉は15'02"38だった。1、2、4位で合計14点を獲得した。

4×400mRは和田(2)-井上(4)-藤井(4)-土屋(4)の出場。号砲が鳴りレースがスタートした。和田はスタートから勢いよく飛び出し、内側の九大、東北大の選手と差をつけ、外側の選手たちと並んで200m地点を通過。しかしその後スピードを落とし、7番手でバトンを渡す。2走井上は序盤から力強く加速し前との距離を詰めようとするが、思ったように伸びず最後は5番手の阪大の選手に引き離され

る形で、6 番手でバトンを繋いだ。3 走藤井は前半スピードを出し 200m で前に追いつこうとするが、なかなか距離を縮めることはできず、6 番手のままバトンは 4 走へ。4 走土屋は序盤落ち着いて加速し、バックストレートで名大に抜かれてしまうが、300m 地点では抜き返し 5 番手の阪大との距離を詰めるが、惜しくも届かず6位でフィニッシュ。記録は 3.19.76 であった。

[男子フィールド種目]
三段跳は坂本(2)、徳山(1)、寺西(1)の出場。寺西(1)は、1 本目はステップジャンプで潰れてしまい着地まで行くことができず 11m24 だったが、2 本目は 12m54、3 本目は 12m53 と記録を伸ばした。坂本(2)の 1 本目はファール。助走練習のときから本数を重ねる毎に助走距離が伸び、調整が難しかったらしいが、2 本目は 13m44 と記録を残すことに成功。しかし、この記録のままだとトップエイトには残れない。注目の 3 本目は 13m68 と記録を伸ばすものの、惜しく 9位でトップエイト進出とはならなかった。徳山(2)は 1 本目で 13m62 を跳び PB を更新、本数を重ねる毎に助走スピードも出て、踏み切り板前のテンポアップも綺麗にはまり、3本目で 13m92 と記録を伸ばしトップエイト進出を決めた。残り 3 本を残して 6 位だったので、このまま対校得点を持って帰りたいとこである。5 本目で徳山はさらに記録を伸ばし 13m97 をマーク。しかし、最終跳躍で順位を抜かされ、7 位で競技終了となった。

走幅跳は尾嵜(2)、大野(2)、坂本(2)の出場。1 本目は3人ともファールという滑り出しとなった。続く2本目。坂本は痛恨のファールだったものの、大野は 6m36 と大学ベストを更新して 8 位につけ、直後に尾嵜も 6m35 をマークし 9 位としてトップ 8 を射程圏内に捉えた。そして 3 本目。坂本は記録を残したものの 6m05 と伸ばしきれなかった。続く大野はファール。現状 8 位のままで、他の結果を待つ。次の尾嵜は 6m32 と記録を伸ばすことはできなかった。結果後続が好記録を出し大野は 12 位、尾嵜は 13 位、坂本は 18 位となった。

走高跳は佐藤(1)、坂本(2)、酒井(4)が出場。佐藤(1)は 1m50 から試技開始。1m50 を一発でクリアし、記録を無事残してのスタートとなった。しかし続く 1m55 は助走が安定しなかったこともあり、3 回失敗。記録は 1m50 となった。坂本(2)は 1m60、1m65、1m70 を一回でクリア。1m75 の試技に挑戦するも 2 回失敗したところで、捻った足の痛みも大きくなってきたため大事を取り 3 回目以降をパス。記録は 1m70 で終了した。酒井(4)は 1m85、1m90、1m95 を一回でクリア。続く高さは 1m98。2 回まで失敗。後がなくなった。3 回目の跳躍。体がややバーに当たったが、バーは落ちることはなく見事に 1m98 をクリアした。その 2m01 の跳躍。1 回目、かすかにバーに当たり惜しくも失敗。2 回目もまた失敗。3 回目の跳躍でその浮き上がった身体は見事に 2m01 のバーを越えた。続く 2m04 は残念ながら 3 回失敗に終わったが、記録は 2m01 で 6 センチの大幅自己ベスト更新、かつ 2 位という好成績で幕を閉じた。

[女子トラック種目]
100m は 1 組に今野(3)の出場。良いスタートを見せるも、少しずつ前との差が開いていく。50m 付近からは徐々に差を広げられる展開となったものの懸命に食らいつき、7 着でフィニッシュ。この時の記録は 13“59 で、風は+0.9m であった。

400m は宮宇地(2)、多田(3)の出場。宮宇地は他の選手に並ぶ走りを見せつつ冷静にレースを進める。200m 地点から徐々に順位を上げ、ラストの直線では懸命な走りを見せ、1‘01“42 の 4 着でゴール。4 着以下の記録 1 番目で決勝進出を決めた。多田は良い飛び出しを見せるが、バックストレートで外側の選手に離されていってしまう。得意の後半では粘りの走りを見せ、5 着でゴールした。記録は 1‘03“62 であった。
決勝は、宮宇地(2 年)の出場。宮宇地は積極的にレースを進め、良いテンポでレースを進めていく。バックストレートまでは上位の選手に喰らいつく走りであったが、第二曲走路から疲労の色が見え始める。少しずつ遅れ、ホームストレートでも前の選手に追いつくことは出来ず、そのまま 8 位でゴールした。記録は 1‘04“36 であった。

3000m は柳(3)と渡邉(1)が出場。前半はややスローな展開。2 人ともしっかり先頭集団についていった。ラスト 1000m 手前でスパート勝負に。渡邉は先頭に食らいつこうとするが離されてしまった。柳はスパートに対応できず、ペースダウンしてしまった。結果は渡邉が 10’51”37 で 10 位、柳が 11’10”32 で 12 位となった。

800m は種瀬(4)、服部(1)の出場。最初のカーブを過ぎた時点で、種瀬は先頭集団から少し離れた 11

番手についた。服部は大きく出遅れ 14 番手だった。その後種瀬は2周目に入るあたりですぐ後ろにつけていた大阪大の選手二人に抜かされ、13 番手に下がる。服部も前との差をじわじわと空けられていった。後半も追い上げを見せることはできず、種瀬は 13 位でタイムは 2’34”03、服部は 14 位でタイムは 2’49”19 だった。

4×100mR は高橋(1 年)-宮宇地(2 年)-今野(3 年)-多田(3 年)の出場。大学に入ってからスタートブロックやバトンの練習をしていないにも関わらず、しっかりと走り切り、2 走宮宇地へバトンパスを成功させた。スタートから良い飛び出しを見せたが、後半失速してしまい、3 走今野とのバトンパスを行った際、二人の手からバトンが落ちてしまう。宮宇地が拾って今野に渡すも、他大学とは大きな差をつけられてしまう。今野、多田は懸命に前を追うも、差を詰めることは出来ず、そのままゴールした。審議の結果、TR24.7 に基づき、2, 3 走のテイク・オーバーゾーン内でバトンパスが完了しなかったため、失格となった。

[女子フィールド種目]
走幅跳は高橋(1)と今野(3)が出場。高橋は 1 本目に 4m41(+0.3)、今野は 4m58(+0.3)をマークした。高橋、今野もその後1本目の記録を超える跳躍をしたが、8 位に入るために必要な 4m99 を超える跳躍をすることはできず、3 本目で競技を終了した。結果としては高橋が 4m55(+0.6)で 12 位、今野が 4m70(+1.3)で 11 位であった。

第 76 回全国七大学対校陸上競技大会 兼
第 36 回全国七大学対校女子陸上競技大会
於　円山陸上競技場

[男子]
100m
予選(3 組 2 着+2)
1 組(+1.8)
3 小田槇太朗　東大　10”76
2 組(+1.3)
2 遠藤溪一郎　東大　10”66
3 組(+0.8)
4 藤井　奎輔　東大　10”81

決勝(+0.9)
1 石田　蕉也　北大　10”44
2 石原　一真　京大　10”59
3 室田　竜磨　東北大　10”62
4 遠藤溪一郎　東大　10”65
5 小田槇太朗　東大　10”76
6 折橋　巧也　京大　10”81
7 橋平　知樹　名大　11”11
小畑　拓継　阪大　DNS

200m
予選(3 組 2 着+2)
1 組(-0.4)

藤井　奎輔　東大　NI
2 組(+0.1)
1 西川　諒　東大　21”98
3 組(-0.9)
5 井上　賢志　東大　22”37
決勝
1 組(-2.5)
1 田畑　慧太　阪大　21”69
2 藤井　奎輔　東大　22”39
3 関根　功織　阪大　22”77
4 稲谷　将幸　東北大　22”91
5 岸本　醍知　東北大　23”26

2 組(+0.2)
1 室田　竜磨　東北大　21”69
2 石田　蕉也　北大　21”70
3 西川　諒　東大　21”77
4 中川　雄稀　京大　21”77
5 田渕　凌　京大　21”81
6 林　宏太郎京大　22”01

400m

予選(3 組 2 着+2)
1 組
5 和田　優輝　東大　51”71
2 組
5 井上　賢志　東大　49”58
3 組
3 土屋　諒　東大　49.20

800m
予選(3 組 2 着+2)
1 組
1 小栗　蒼一郎東大　1’56”25
2 組
2 吉澤　登吾　東大　1’53”63
3 組
4 安藤　佑真　東大　1’57”24
決勝
1 渡邉　優典　東北大　1’51”44
2 丹治光太郎　九大　1’51”99
3 吉澤　登吾　東大　1’54”58
4 阿部　陽葵　京大　1’54”90
5 杉原　一冴　京大　1’55”11
6 錦戸　昴雅　東北大　1’55”19
7 山田　将大　九大　1’55”38
8 縣　昌幸　九大　1’55”91

1500m 決勝
1 秋吉　拓真　東大　3’54”43
2 渡邉　優典　東北大　3’55”02
3 大森　智　東大　3’57”81
4 国吉　遼河　阪大　3’57”82
5 丹治光太郎　九大　3’59”50
6 柳沼　大輝　東大　4’00”85
7 大野　憲尚　北大　4’02”03
8 田中　洋佑　京大　4’04”13

5000m 決勝
1 秋吉　拓真　東大　14’46”74
2 大森　智　東大　14’58”67
3 浅野　稜太　名大　14’59”75
4 渡邉　慶大　東大　15’02”38
5 辻本健太郎　阪大　15’02”88
6 加藤　太一　名大　15’04”66
7 千葉　航太　東北大　15’10”46
8 新美　朋彦　九大　15’24”02

110mH
予選(3 組 2 着+2)
1 組
2 岩田　優　東大　15”92
2 組(-0.6)
2 田中　基愛　東大　17”01
3 組(-0.9)
3 徳山　大暉　東大　17.18

400mH
予選(3 組 2 着+2)
2 組
7 林　佑哉　東大　57.72
3 組
福田創太郎　東大　DNS

3000mSC 決勝
1 秋吉　拓真　東大　8’57”65
2 大野　憲尚　北大　9’17”96
3 市川　達也　阪大　9’20”36
4 杉山　大輔　東北大　9’21”73
5 吉田　和輝　名大　9’25”89

6 新田　翼　阪大　9’28”22
7 大宮　夏輝　東大　9’35”66
8 比護　智與　東北大　9’42”18
9 大槻　修也　東大　9’44”23

5000mW 決勝
1 中村　颯葉　京大　19’26”96
2 中島壮一朗　阪大　19’35”88
3 中田　晴斗　京大　19’37”86
4 杉林　直人　阪大　19’40”01
5 松井　天　阪大　19’46”12
6 土田　浩生　京大　20’40”92
7 越國　太貴　名大　21’54”97
8 金谷　響介　東大　21’56”78
14 髙島 啓嗣　東大　26’02”54

4×100mR 決勝
1 京大　林-中川-田渕-石原 40”52
2 東北大　臼田-菅野-室田-岸本 40”74
3 名大　岩尾-藤野-佐藤-平岡 41”06
4 九大　竹山-栫-東-夏目 41”29
5 東大　西川-遠藤-藤井-秋山 41”53
6 北大　村上-石田-船迫-田中 42”17
7 阪大　関根-安達-東川-金子 42”21

4×400mR 決勝
1 東北大　渡邉-菅野-平野-岸本 3’13”65
2 京大　川村-中川-柳町-青柳 3’14”96
3 北大　村上-石田-源-高橋 3’16”45
4 九大　中島-山田-海地-丹治 3’17”04
5 阪大　田口-金子-吉村-山田 3’19”00
6 東大　和田-井上-藤井-土屋 3’19”76
7 名大　永尾-後藤-塩谷-佐藤 3’23”26

走高跳 決勝
1 清水　翔　京大　2m01
2 酒井　亮　東大　2m01
3 矢木聖一朗　九大　1m95
3 田中　颯真　京大　1m95
5 森　祥久　北大　1m90
6 保延　志信　北大　1m90
6 坂本優太朗　九大　1m90
8 菅沼　孝成　名大　1m90
12 坂本　向輝　東大　1m70
15 佐藤　吏輝　東大　1m50

棒高跳 決勝
1 島村　惟葵　東北大　4m50
2 吉冨　文暁　京大　4m40
3 倉部　彰土　東北大　4m00
4 倉内　翔平　阪大　4m00
5 吉岡樹吏哉　東北大　3m80
6 蘆田　健心　京大　3m70
7 中尾　亮介　京大　3m20
8 佐藤　吏輝　東大　2m60
徳山　大暉　東大　NM

走幅跳 決勝
1 夏目廉太郎　九大　7m28(+0.3)
2 平岡　泰那　名大　6m98(-0.9)
3 立野　秀　名大　6m96(-0.7)
4 宮本　恭伍　名大　6m93(-0.4)
5 金光　将英　東北大　6m90(-1.0)
6 早藤　海音　東北大　6m88(-0.3)
7 金光　将英　阪大　6m82(-0.5)
8 和知　陸斗　九大　6m76(-0.7)
12 大野 夢真　東大　6m36(0.0)
13 尾嵜 玄空　東大　6m35(0.0)
18 坂本 向輝　東大　6m05(-0.4)

三段跳 決勝
1 金光　将英　阪大　15m07(+1.6)
2 松井　和輝　京大　14m83(+1.8)
3 藤野　晃志　名大　14m82(+1.0)
4 永田　真也　北大　14m70(+1.2)
5 江尻　羚真　東北大　14m20(+0.3)
6 田中　颯真　阪大　14m06(+0.8)
7 徳山　大暉　東大　13m97(+1.5)
8 奈良隆ノ介　東北大　13m93(+0.3)
9 坂本　向輝　東大　13m68(+0.4)
18 寺西 拓　東大　12m54(0.0)

砲丸投 決勝
1 藤村　修冬　阪大　11m77
2 中嶋　律空　阪大　11m29
3 沖田康太朗　東大　11m11
4 鍵山　弘樹　東北大　10m77
5 谷地穣太郎　東北大　10m73
6 増田　央介　九大　10m45
7 宮崎　ﾛｰﾚﾝｽ　東北大　10m40
8 嘉藤　和真　阪大　10m36
13 徳山 大暉　東大　8m62
15 佐藤 吏輝　東大　7m43

円盤投 決勝
1 宮崎　ﾛｰﾚﾝｽ　東北大　38m35
2 藤村　修冬　阪大　38m22
3 鍵山　弘樹　東北大　36m19
4 中嶋　律空　阪大　33m06
5 中尾　亮介　京大　31m80
6 山崎　充眞　京大　31m07
7 金岡　有途　東北大　30m64
8 嘉藤　和真　北大　29m83
10 橋本 官樹　東大　24m16

12 杉田 知隆　東大　23m05
16 安倍飛悠河　東大　18m43

ハンマー投 決勝
1 沖田康太朗　東大　42m80
2 村上　凛　東大　38m51
3 宮崎　ﾛｰﾚﾝｽ　東北大　34m26
4 山崎　充眞　京大　33m32
5 金岡　有途　東北大　31m92
6 藤田　裕紹　九大　30m86
7 谷地穣太郎　東北大　23m73
8 中尾　亮介　阪大　23m36

やり投 決勝
1 増田　併介　東北大　62m25
2 藤村　修冬　阪大　62m22
3 増田　央介　東北大　61m35
4 嘉藤　和真　北大　56m83
5 木下　賀貴　東北大　53m99
6 石井誠太郎　阪大　53m42
7 赤松　知樹　阪大　48m71
8 森田　泰斗　名大　48m44
11 橋本 官樹　東大　43m00
19 秋山賢太郎 東大　33m48
20 堀田 夏生　東大　23m47

男子総合
1 東北大学　97 点
2 大阪大学　80 点
3 京都大学　70.5 点
4 東京大学　67 点
5 九州大学　42 点
6 名古屋大学　33 点
7 北海道大学　30.5 点

[女子]
100m
予選(2 組 3 着+2)
1 組(+1.5)
8 今野　碧衣　東大　13”59
2 組
畠山　小枝　東大　DNS

400m
予選(2 組 3 着+2)
1 組
4 宮宇地　彬　東大　1’01”42
決勝
1 中谷　心愛　阪大　58”28
2 臼井　千晴　東北大　58”49
3 齋藤　虹香　京大　59”67
4 加賀谷美結　東北大　1’00”51
5 藤原　早紀　北大　1’00”69
6 鴻海　妃那　阪大　1’02.08
7 権藤　千咲　名大　1’02”92
8 宮宇地　彬　東大　1’04”36

800m 決勝
1 喜多　和奏　東北大　2’16”13

2 佐伯　紅南　東北大　2’16”45
3 濱口　姫生　京大　2’17”92
4 小倉　唯愛　京大　2’19”60
5 白土　莉央　北大　2’20”85
6 浦添　千章　北大　2’20”99
7 内山　由菜　名大　2’22”36
8 白水さくら　名大　2’23”81
13 種瀬 愛美　東大　2’34”03
14 服部 瑞季　東大　2’49”19

3000m 決勝
1 髙木こころ　京大　10’21”91
2 近藤萌々葉　九大　10’26”79
3 西村日菜子　阪大　10’28”27
4 大名門里歩　京大　10’30”17
5 則包安貴子　名大　10’30”59
6 平原美和子　九大　10’38”79
7 江口　真央　九大　10’42”78
8 塩見　薫　北大　10’44”43
10 渡邉　晴香 東大　10’51”37
12 柳　沙織　東大　11’10”32

4×100mR 決勝
1 阪大　岸本 - 原 - 鴻海 - 中谷 48”41
2 京大　瀬戸 - 有村 - 齋藤 - 平松 48”56
3 東北大　古閑 - 臼井 - 大槻 - 白鳥 49”45
4 名大　都 - 市岡 - 古俣 - 権藤 49”97
5 北大　伊藤 - 藤原 - 萬屋 - 山寺 51”78
6 九大　加藤 - 落合 - 山河 - 植田 54”63
東大　高橋 - 宮宇地 - 今野 - 多田 DQ

走幅跳 決勝
1 原　萌琉　阪大　5m57(+0.7)
2 長谷川奈穂　阪大　5m52(+1.0)
3 都　百花　名大　5m47(+3.4)
4 有村実寿々　京大　5m45(+1.1)
5 山寺　柊　北大　5m30(+0.3)
6 大槻　真優　東北大　5m25(+2.4)
7 川口　愛央　九大　5m19(+2.4)
8 遠藤　はな　京大　4m99(+2.8)
11 今野　碧衣 東大　4m60(+1.3)
12 高橋 亜実　東大　4m54(+0.6)

砲丸投 決勝
1 辻　皐耶　阪大　10m09
2 原　萌琉　阪大　8m94
3 五嶋　理子　東北大　8m73
4 平谷めるも　東北大　7m96
5 岩﨑　愛璃　北大　7m88
6 原口　優芽　北大　7m27
7 奥村　恵美　京大　7m10
8 平松　藍　京大　6m93
11 多田　有沙 東大　5m94

やり投 決勝
1 長谷菜々美　東北大　38m92
2 神野ほのか　阪大　38m79
3 岩﨑　愛璃　北大　36m74
4 伊東真奈美　北大　32m42
5 中村　真澄　北大　29m17
6 辻　皐耶　阪大　28m96
7 川口　愛央　九大　23m54
8 今野　碧衣　東大　19m03
11 高橋　亜実　東大　12m32

女子総合
1 大阪大学　35 点
2 京都大学　20 点
3 東北大学　19 点
4 名古屋大学　16 点
5 北海道大学　5 点
5 九州大学　5 点
7 東京大学　0 点

全日本インカレ

馬上 110mH 順決勝進出 北岸、高橋 800m 準決勝進出 森田 3000mSC10 位

第 94 回日本学生陸上競技対校選手権大会は 6 月 5、6、7、8 日(木、金、土、日)の 4 日間に渡って、岡山・JFE 晴れの国スタジアムで行われた。東大からは千菊(D3)、北岸(M1)、秋吉(4)、吉澤(1)が出場し、活躍を見せた。

男子 10000mW 決勝に千菊(D2)が出場。後方からのスタートになったが、ペースが落ちてきた選手を1人ずつ拾いながら順位を上げていった。後半ペースを維持することが難しくなったものの、最後はスパートをかけてゴール。記録は 43'03"30。この大舞台で自己記録を更新した。

男子 800m 予選 5 組には吉澤(1)が出場。スタート後 100m すぎで先頭に立ち、自らレースを引っ張る積極的な展開を見せた。しかし、残り 1 周で他選手がスパートをかけると順位を落とす形になる。最後まで懸命に走るも再び順位を上げることができず、1'56"72 でフィニッシュ。結果は 7 位であった。

男子 800m 予選 6 組には北岸(M1)が出場。オープンレーンになると集団の後方につき、冷静にレースを進める。1 周を過ぎたところでペースを上げて集団の前方に出る。しかし、残り 200m 過ぎに他選手がさらにペースを上げると対応し切れず、結果は 8 着。記録は、1'55"26 であった。

男子 5000m 決勝には秋吉(4)が出場。スタート直後に創価大の選手が飛び出す展開となり、秋吉はその後ろの第 2 集団の 2 番手につけてレースを進めた。2000m 過ぎにペースが上がると、第 2 集団の中ほどまで落ちたものの冷静に走り続ける。その後、さらにペースアップした集団に徐々に離されるる形となった。それでも最後まで力を振り絞って走り切り、14 着でゴール。記録は、14'10"75 であった。

第 94 回日本学生陸上競技選手権大会
於　岡山・JFE 晴れの国スタジアム

[男子]

800m

予選(7 組 3 着+3)

5 組

7	吉澤　登吾	東大	1'56"72

6 組

8	北岸　健吾	東大	1'55"26

決勝

1	山鹿　快琉	育英大	1'46"79
2	岡村　颯太	鹿屋体育大	1'46"86
3	長沢　匠人	日本体育大	1'47"40
4	前田　陽向	環太平洋大	1'47"85
5	塩原　匠	順天堂大	1'48"26
6	萬野　七樹	関西大	1'48"75
7	水野　瑛人	中京大	1'48"76
8	森玉　鳳雅	関西大	1'49"57

5000m 決勝

1	山口　智規	早稲田大	13'40"06
2	ｼｬﾄﾞ ﾗｯｸ ｷｯﾌﾟ ｹﾒｲ	日大	13'42"32
3	平島　龍斗	日体大	13'42"84
4	中村　晃斗	志學館大	13'45"74
5	小池　莉希	創価大	13'46"96
6	黒木　陽向	創価大	13'47"07
7	ｽﾃｨｰﾌﾞﾝ ﾚﾏｲﾔﾝ	駿河台大	13'47"50
8	池間　凛斗	順天大	13'49"16
14	秋吉　拓真	東大	14'10"75

10000mW

1	逢坂草太朗	東洋大	39'16"14
2	原　圭佑	京大	39'26"14
3	金子　陸	国士舘大	39'52"47
4	赤澤　晃成	山学大	40'18"90
5	近藤　岬	明治大	40'28"50
6	中村　颯葉	京大	40'34"47
7	下池将多郎	順天大	40'46"04
8	平賀　丈也	びわスポ大	40'59"86
16	千菊　智也	東大	43'03"30

京大戦

去年の雪辱果たせず大差で敗北

第 98 回東京大学･京都大学対校陸上競技大会兼第 24 回東京大学･京都大学対校女子陸上競技大会は、2025 年 10 月 5 日(日)に東京大学駒場グラウンドで行われた。200m で西川(2)や、800m で小栗(2)が関東インカレ参加標準突破等の活躍が見られたものの、総合力で京大に力及ばず大敗をきした。女子は、多数の種目にエントリーし健闘したが、上位争いに絡む場面が限られ、厳しい戦いとなった。

[男子トラック種目]

100m に藤井(4)、小田(1)、遠藤(2)の出場。レース序盤は京都大の選手が 1 人抜け出し、残り 5 人は横一線となった。遠藤は中盤以降が追い上げるも 100 分の 1 秒及ばず、2 位でフィニッシュ。記録は 10"89。藤井は隣の京都大の選手と激しく競り合ったが、敗れて 5 位でフィニッシュ。記録は 11"07。小田は脚を痛めていた影響もあってか持ち味の後半の伸びを発揮できず 6 位でフィニッシュ。記録は 11"22。

200m に遠藤(2)、西川(2)、藤井(4)の出場。西川は加速からコーナーの抜けにかけて先頭に立ち、持ち前の後半で追随を許さず優勝。記録は21"67 であった。 藤井は前半置いていかれてしまったものの、後半に巻き返し 4 位でフィニッシュ。記録は 22"36 であった。遠藤はセットで足がずれてしまうというアクシデントがあり、持ち前のスピードを活かせなかったが粘り5位でフィニッシュ。記録は 22"49。

400m に渡辺(1)、土屋(4)、井上(4)の出場。渡辺はインレーンであってほぼ全員が視界に入った状態でスタートし、他の選手に必死についていったが 6 位となった。タイムは 49”21。土屋はバックストレートでわずかに周りに離されたが、後半型として第 3 コーナーからもスピードを落とさずに全体とついていき、5 位でフィニッシュ。タイムは 48”60。そして井上は初めからスピードにのり、バックストレートでもトップと張る様子だった。後半もその調子で走り切り、3 位でゴール。タイムは 48”57。

800m に安藤(4)、藤本(3)、小栗(2)が出場した。スタートと同時に藤本が飛び出した。他の選手を引き離しハイペースで 200m を通過。安藤、小栗は京大の選手とともに集団で走った。安藤が集団の先頭に出て、500m 過ぎで藤本を抜き去った。藤本はそこにはついていけなかった。残り 200m で安藤は再びペースを上げたが、残り 120m で京大の選手に抜かれた。京大のもう一人と小栗も食らいつき、小栗は 1’54”88 で 2 位でのフィニッシュ。安藤はスパートで離れたものの順位を維持し 1’56”15 の 4 位でフィニッシュ、藤本もなんとか走り切り 2’05”92 の 6 位でのフィニッシュであった。

1500m に柳沼(4)、秋吉(4)、森(4)が出場した。レースが始まると秋吉が勢いよく飛び出し、そこに柳沼がついたことで 2 人がハイペースで飛び出す形となった。一方で森は後ろから様子をうかがいながらレースをスタートした。400m を通過すると柳沼が少しずつ秋吉から離れはじめ、後ろから京大の選手が徐々に距離を詰めてきていた。秋吉はそのまま大差で逃げ切り、3'49 "24 の 1 位でレースを終えた。柳沼は残り 200m の地点で京大の選手に競り負け、3’56”32 の 3 位でゴールした。森は最後まで順位を上げることはかなわず、4’10”04 の 6 位でフィニッシュした。

5000m は秋吉(4)、森(4)、大宮(2)が出場。秋吉はスタート直後に飛び出し、トップを維持し他まま 1 位でゴールした。森は第 2 集団を引っ張り、大宮はその集団の後方から冷静に前に出る機会をうかがっていた。ラスト 800m で大宮が集団の前に出て、集団のペースを押しあげ、3 位でゴールした。森は大宮に続く四番手でゴール。

110mH に岩田(1)、田中(4)、徳山(2)の出場。徳山はスタートで少し出遅れてしまったものの、持ち前の粘り強さを発揮し 3 着でフィニッシュ。記録は 15"54 であった。田中はスタートから 1 台目を余裕を持って入り、そのまま安定したハードリングで 4 着でフィニッシュ。記録は 15"55 であった。 岩田は 3 台目まではスムーズなハードリングをこなしていたが、8 台目で当たったハードルにより靴が脱げてしまった。結果 6 着でフィニッシュ。記録は 19"48 であった。

400mH に林(4)、田中(4)、福田(4)の出場。スタートでは、田中がやや遅れる中、林と福田が、京都大学の選手に食らいついていく形となった。京大の選手が先行する中、選手たちは自分のペース

を崩さずにバックストレート、そして、最終コーナーへと進んでいく。ホームストレートに入った時点では、京大の3人が先頭争いをする形となったが、ギアを切り替えて前を追いかける。ここで、田中が9台目のハードルに脚がかかって転倒し、失格となってしまう。最終的には、林が57”56の4位、福田が58”39の5位でゴールし、5点を獲得した。

5000mWに金谷(4)、越國(2)、髙島(1)の3人が出場。スタート後、越國は京大の選手らと3人集団で歩くことになった。越國は警告を2回出されながらもギリギリのところまで京大の選手について行ったが、勝ち切れず、3位でのゴールとなった。金谷は終始冷静なレースを心がけ、パドルを1回しか出されない歩形で完歩することができた。髙島は中盤徐々にペースを落としていったが、ラストスパートでなんとか25分を切った。

4×100mRに西川(2)-遠藤(2)-藤井(4)-小田(1)の出場。1走西川は抜群のスタート。2走遠藤に渡すが若干窮屈なバトンパスになってしまう。遠藤はさ力走を見せ、京大との差をそのままに3走藤井へバトンをつなぐ。小田へのバトンパスではタイミング合わず京大との差を広げてしまう。追い上げを図るもかなわず、東大は41”38の2着でレースを終えた。

4×400mR に井上(4) - 西川(2) - 吉澤(1) - 土屋(4)の出場。井上は好走を見せ、京大とほぼ並んでバトンを渡した。西川はバックストレートで京大にリードを許してしまい、そのまま 3 走へ。吉澤は、激走をみせ、ぐんぐん京大との差を詰めるとバックストレートで逆転し、差を広げた。土屋は300m地点まではリードを守るも、最後の直線で並ばれた。ゴール直前で逆転を許し、東大は百分の六秒差での惜敗を喫した。

[男子フィールド種目]
走高跳に坂本(2)、徳山(2)、酒井(4)が出場した。坂本は、競技は1m60からスタートし、1m70とクリアしていった。1m75では、坂本と徳山がそれぞれ一発でこの高さをクリアした。坂本は、1m80はクリアしたものの、徳山は成功できずここで競技終了となった。坂本も1m85をクリアできず、競技終了となった。酒井は1m85、1m90を危なげなくクリアした。1m95を酒井は失敗してしまい、1m95を2回目以降にクリアしても順位の変動がないことを考慮して酒井は1m95の2回目以降をパスし、2m00に勝負をかけた。2人ともこれをクリアすることができず、2位で競技終了となった。

棒高跳に田中(4)、松村(4)、徳山(2)が出場。松村は最初の2m40と2m60を危なげなくクリアした。2m80も2回目で無事クリアし、3mに挑戦。しかし、突っ込みの勢いが足りずクリアはならなかった。徳山は開始高さの2m80を1回目でクリアした後、競技を終了した。田中は3mから競技を始めるも、うまくかみ合わず1回目2回目ともに失敗してしまうが、3回目で見事にクリア。ここで競技終了となった。

走幅跳に松村(4)、尾嵜(2)、寺西(1)が出場。松村は1本目から5m89、2本目も5m93と記録を伸ばした。尾嵜は1本目で6m24で2,3本目はともにF、寺西も1~3本目で全てF/F/Fと二人とも助走の調整に苦しんだ。尾嵜は4本目で6m53と記録を伸ばしこちらもシーズンベストを記録。寺西は、4本目以降は助走が安定してくる。5本目で6m19を記録した。

三段跳に徳山(2)、坂本(2)、寺西(1)が出場。まず1本目。第1跳躍者の寺西がいきなり大学ベストとなる13m12をマーク。徳山と坂本は3本目までに前評判以上の記録を残せない。最終6本目。まず寺西は1本目以降記録を伸ばせずにいたが最後に13m64をマーク。続いて徳山。ここまで14mに迫れておらず追い込まれた中での最終跳躍はバランスの良い跳躍を見せ13m81。坂本は、スピードに乗った跳躍で減速することなく着地し、記録は14m37となった。
砲丸投に沖田(2)、村上(2)、田中(4)の出場。沖田は1投目、10mを超える投擲を見せる。しかし、それ以降は伸び悩み、結果的に10m26でフィニッシュ。田中は1投目に9mを超え、上位を確定させる。村上は、1、2、3投目となかなか8mを超えることができない。そして、4、5投目をパスして6投目に逆転を賭けたが、これも8mを超えなかった。

円盤投に安倍(4)、村上(2)、坂本(2)が出場した。安倍は1投目をパス、3投目で18m43を投げた。4投目以降は惜しくもファールが続きそのまま6位で終了した。村上は、5投目に感覚を掴んで24m24で2位に浮上。6投目はファールだったが2位で終了した。坂本はなかなか記録を伸ばせず

21m27 の 5 位で後半戦に突入。5 投目にいい振り切りを見せて 23m10 に記録を伸ばした。

ハンマー投に沖田(2)、村上(2)、落合(3)の出場。沖田は一投目から 40m を超え、その後 3 投目でさらに記録を 42m73 まで伸ばした。村上は 5 投目で記録を 39m44 まで伸ばし、見事自己ベストを更新する。落合は 1、2、3 投目とファールを繰り返す。そしてなんとか 6 投目で 15m20 の記録を残した。

やり投は堀田(4)、秋山(4)、坂本(2)が出場。堀田は 1 投目に 27m42 を記録するも、その後はファールが続き記録を伸ばせなかった。秋山も 2 度のファールの後、3 投目に 28m65、5 投目には 29m45 と記録を伸ばしたものの、上位には届かなかった。坂本は三段跳と時間が重なっていたものの、4 投目で 41m20 をマークすると、最終 6 投目には 46m60 を投げ、3 位に順位を上げた。

[女子トラック種目]

100m に今野(3)、畠山(3)の出場。初めに抜け出したのは畠山と 3 レーンの京大の選手である。こうして畠山は 3 レーンの選手と競り合う形となったが、中盤になって 3 レーンの選手が少し前に出たのに対し猛追するも、最後までリードを保たれた。一方、今野は初めから 5 レーンの京大の選手とほとんど横一線であり、中盤まで食らいついたものの、最後にわずかに前に出られて競り勝つことはできなかった。

400m に畠山(3)、三木(3)の出場。レースは序盤から差を少しずつ広げられる苦しい展開となったが、粘りを見せ懸命に食らいつき、畠山は記録 1'04"79 の 3 着、三木は記録 1'07"53 の 4 着となって計 3 点を獲得した。

800m に服部(1)、3 レーンに種瀬(4)の出場。スタートしてすぐ京大の選手が飛び出し、オープンレーンとなる時点で種瀬と服部はそれぞれ 3、4 番手についた。200m を通過後は前との差をじわじわと広げられる形でレースは進み、順位が変動することはなくそのままゴールした。種瀬は 2’36”50 で 3 位、服部は 2’42”59 で 4 位であった。

4×100mR に高橋(1)-畠山(3)-宮宇地(2)-今野(3)の出場。高橋は上々のスタートを決めるも、1 秒近く離され 2 走の畠山にバトンを繋ぐ。懸命に走るも京都大に差を広げられてしまう。続く宮宇地は懸命な走りで巻き返しを図ったが、差を縮めることはできず、アンカーの今野にバトンを託す。今野も力走を見せるも、京都大との差は埋められず 2 位でフィニッシュ。タイムは 51"98 だった。

[女子フィールド種目]

走幅跳に今野(3)と高橋(1)が出場。高橋の 1 本目はわずかにファール。2 本目、3 本目も助走が合わず、かなり手前で踏み切る場面が続いたが、4 本目でこの日のベストとなる 4m53(-0.3)を記録した。今野は着実に記録を重ね、4 本目で 4m56(+0.3)をマークし、これがこの日のベストとなった。

女子砲丸投には、畠山(4)、三村(2)が出場。畠山は 400m に出場しなければならず、1、2 投目をパスし、3 投目から試技開始。落ち着いて投げられたのは 4 投目からで、その 4 投目で 6m47 をマーク。結果は 6m47 で 4 位。三村は 1 投目で記録を残したので 2 投目以降は自己記録更新を目指しての試技となった。2 投目で 6m92 をマークし、大幅に自己記録を更新した。結果は 6m92 で 3 位、2 点獲得。

第 98 回東京大学・京都大学対校陸上競技大会兼第 24 回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会
於　東京大学駒場グラウンド

[男子]

100m(-0.2)

1	山田慎之助	京都大	10”88
2	折橋　巧也	京都大	10”89
3	遠藤渓一郎	東京大	10”89
4	石原　一真	京都大	11”06
5	藤井　奎輔	東京大	11”07
6	小田槙太朗	東京大	11”22

200m(+0.6)

1	西川　諒	東京大	21”67
2	田渕　凌	京都大	21”78
3	中川　雄稀	京都大	22”15
4	藤井　奎輔	東京大	22”36
5	遠藤渓一郎	東京大	22”49
6	石原　一真	京都大	22”90

400m

1	高橋　昂生	京都大	47”49
2	川村　拓也	京都大	48”49
3	井上　賢志	東京大	48”57
4	中川　雄稀	京都大	48”58
5	土屋　　諒	東京大	48”60
6	渡辺　遥斗	京都大	49”21

800m

1	阿部　陽葵	東京大	1’54”46
2	小栗蒼一郎	京都大	1:54”88
3	瀬戸　信成	京都大	1:55”02
4	安藤　佑真	京都大	1:56”15
5	川﨑健太郎	東京大	1:56”85
6	藤本裕乃介	東京大	2:05”92

1500m
1 秋吉　拓真　東京大　14’24”17
2 田中　洋佑　東京大　15’28”85
3 栁沼　大輝　東京大　15’33”77
4 柴折　心汰　京都大　15’37”30
5 奥村　究　　京都大　15’43”34
6 森　　祥真　東京大　15’58”80

5000m
1 秋吉　拓真　東京大　14’08”28
2 中村　洸文　京都大　15’05”15
3 大宮　夏輝　東京大　15’14”79
4 森　　祥真　東京大　15’17”89
5 大城龍之介　京都大　15’29”07
6 小野竜之介　京都大　15’47”82

110mH(-0.1)
1 高橋　昂生　京都大　15”10
2 柳町　悠斗　京都大　15”26
3 徳山　大暉　東京大　15”54
4 田中醇之介　東京大　15”55
5 菊田　一颯　京都大　15”98
6 岩田　優　　東京大　19”48

400mH
1 青柳　佑　　京都大　53”07
2 柳町　悠斗　京都大　54”60
3 新庄　健　　京都大　55”83
4 林　　佑哉　東京大　57”31
5 福田創太郎　東京大　57”62
　田中醇之介　東京大　DQ

5000mW
1 中村　颯葉　京都大　19’53”28
2 中田　晴斗　京都大　20’04”79
3 越國　太貴　東京大　20’14”52
4 土田　浩生　京都大　20’30”68
5 金谷　響介　東京大　22’15”28
6 髙島　啓嗣　東京大　24’53”15

4×100mR
1 京都大　林-折橋-田渕-石原
41”05
2 東京大　西川-遠藤 -藤井-小田
42”30

4×400mR
1 京都大　川村-中川-青柳-高橋
3’19”11
2 東京大　井上-西川-吉澤-土屋
3’20”62

走高跳
1 田中　颯真　京都大　1m95
2 酒井　亮　　東京大　1m90
3 山口　貴也　京都大　1m85
4 丹野　啓仁　京都大　1m80
4 坂本　向輝　東京大　1m80
6 徳山　大暉　東京大　1m75

棒高跳
1 蘆田　健心　京都大　3m60
2 田中醇之介　東京大　3m00
3 徳山　大暉　東京大　2m80
4 松村　徳大　東京大　2m80
5 水野　椋介　京都大　2m00
　吉冨　文暁　京都大　NM

走幅跳
1 高橋　昂生　京都大　6m99(+0.7)
2 松井　和輝　京都大　6m68(+0.1)
3 尾嵜　玄空　東京大　6m53(+0.2)
4 水野　椋介　京都大　6m24(-0.7)
5 寺西　拓　　東京大　6m19(+0.7)
6 松村　徳大　東京大　5m93(+0.6)

三段跳
1 松井　和輝　京都大　14m55(+0.3)
2 坂本　向輝　京都大　14m37(+1.0)
3 田中　颯真　京都大　13m83(+0.1)
4 徳山　大暉　東京大　13m81(+0.3)
5 竹生　晴彦　京都大　13m69(+0.8)
6 寺西　拓　　東京大　13m64(+0.6)

砲丸投
1 沖田康太朗　東京大　10m26
2 田中醇之介　東京大　9m24
3 新美　凌大　京都大　8m46
4 小島　伸介　京都大　8m37
5 中尾　亮介　京都大　8m01
6 村上　凜　　東京大　7m75

円盤投
1 中尾　亮介　京都大　28m63
2 村上　凜　　東京大　24m24
3 小島　伸介　京都大　23m70
4 新美　凌大　京都大　23m56
5 坂本　向輝　東京大　23m10
6 安部飛悠河　東京大　18m43

やり投
1 木下　賀貴　京都大　52m30
2 川村　拓也　京都大　48m93
3 坂本　向輝　東京大　46m60
4 赤松　和樹　京都大　46m10
5 秋山賢太郎　東京大　29m45
6 堀田　夏生　東京大　27m42

ハンマー投
1 沖田康太朗　京都大　42m73
2 村上　凜　　東京大　39m44
3 中尾　亮介　東京大　29m32
4 木下　賀貴　京都大　19m20
5 赤松　和樹　京都大　18m70
6 落合　利紅　東京大　15m20

男子総合
1 京都大　　　213 点
2 東京大　　　159 点

[女子]
100m(+0.6)
1 齋藤　虹香　京都大　12”91
2 畠山　小枝　東京大　13”12
3 平松　藍　　京都大　14”07
4 今野　碧衣　東京大　14”18

400m
1 有村実寿々　京都大　59”48
2 齋藤　虹香　京都大　59”95
3 畠山　小枝　東京大　1’04”79
4 三木　菜摘　東京大　1’07”53

800m
1 濱口　姫生　京都大　2’18”28
2 小倉　唯愛　京都大　2’23”85
3 種瀬　愛美　東京大　2’36”50
4 服部　瑞季　東京大　2’42”59

4×100mR
1 京都大　瀬戸-有村-齋藤-平松　　50”48
2 東京大　高橋-畠山-宮宇地-今野　51”98

走幅跳
1 有村実寿々　京都大　5m21 (+0.6)
2 遠藤　はな　京都大　4m66 (+0.5)
3 今野　碧衣　東京大　4m56 (+1.5)
4 高橋　亜実　東京大　4m53 (-0.3)

砲丸投
1 平松　藍　　京都大　7m10
2 奥村　恵美　京都大　7m03
3 三村　珠広　東京大　6m92

4 畠山　小枝　東京大　6m47

女子総合

1 京都大　　　38 点

2 東京大　　　18 点

箱根予選会

秋吉・本多学連選抜入り　2 年連続本戦出走なるか

第 102 回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会は、2025 年 10 月 18 日(土)に陸上自衛隊立川駐屯地～立川市街地～昭和記念公園のコースで行われた。学部生は主力の故障が相次ぎ、下級生を中心としたチーム編成で臨むこととなった。目標として掲げていた東大記録の更新に及ばなかったものの、昨年に続き 2 名が学生連合に選抜される結果となった。また、1、2 年生も箱根予選会を経験することができ今後につながる試合にもなった。

第 102 回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会
於　陸上自衛隊立川駐屯地～立川市街地～昭和記念公園
(2023.10.14)

[総合結果]

1	中央学院大学	10:32:23	
2	順天堂大学	10:32:35	
3	山梨学院大学	10:32:44	
4	日本大学	10:32:57	
5	東海大学	10:34:07	
6	東京農業大学	10:34:59	
7	神奈川大学	10:36:07	
8	大東文化大学	10:36:12	
9	日本体育大学	10:36:14	
10	立教大学	10:36:56	以上本戦出場
11	法政大学	10:37:13	
12	明治学院大学	10:38:54	
13	専修大学	10:39:06	
14	日本薬科大学	10:40:25	
15	駿河台大学	10:40:42	
…			
34	東京大学大学院	11:23:52	
36	東京大学	11:42:07	

[個人結果]

1	ブライアン キピエゴ	山梨学院大	1:00:16
2	シャドラック キップケメイ	日本大	1:00:31
3	ジョセフ ムイガイ	平成国際大	1:00:52
4	ラファエル ロンギサ	拓殖大	1:00:58
5	カマウ パトリック	上武大	1:01:10
6	スティーブン レマイヤン	駿河台大	1:02:04
7	近田　陽路	中央学院大	1:02:04
8	平島　龍斗	日本体育大	1:02:06
9	ビニアムテスファイゼラツィオン	武蔵野学院大	1:02:08
10	阿部　紘也	山梨学院大	1:02:09
11	花岡　寿哉	東海大	1:02:10
12	秋吉　拓真	東京大	1:02:12
13	ブライアンキプトゥーブ	麗沢大学	1:02:12
14	前田　和摩	東京農業大	1:02:12
15	古橋　希翁	駿河台大	1:02:13
…			
111	本多　健亮	東京大学大学院	1:03:58
302	小森康太郎	東京大学大学院	1:06:11
351	森　　祥真	東京大	1:07:00
369	大宮　夏輝	東京大	1:07:50
375	越川　剛暉	東京大学大学院	1:07:57
379	西田　大晟	東京大学大学院	1:08:08
398	高橋　拓未	東京大学大学院	1:08:55
403	浜崎航太郎	東京大学大学院	1:09:03
407	瀬川　莉玖	東京大学大学院	1:09:17
411	越野　レオ	東京大学大学院	1:09:31
420	中根美七海	東京大学大学院	1:10:23
413	染川　尊俊	東京大	1:09:31
422	小西　諒	東京大学大学院	1:10:29
427	鈴木　晴陽	東京大	1:10:47
448	柳沼　大輝	東京大	1:12:06
454	高木　啓陽	東京大	1:12:32
457	小泉　祐翔	東京大	1:12:37
466	東条　秀祐	東京大学大学院	1:13:44
468	田中　風舞	東京大	1:13:51
478	小沢　直紘	東京大	1:14:29
483	大槻　修也	東京大	1:15:01
486	望月　皓平	東京大	1:15:25

東京大学歴代記録
本年度より，誌面の都合上，本誌に掲載する歴代記録は各種目30傑までといたしました。30傑以降を含む全記録につきましては，従来通りウェブ上に掲載しておりますので，そちらをご確認ください。
○：R 7. 1. 1以降の記録

１００m（電気計時）

順位	記録	風速		氏名	日付	大会
1	10.43	+1.4		新倉　佑輔	R 6. 9.27	京大戦
2	10.56			西村　智宏	H28.10. 1	京大戦
〃	10.56	+1.6		井上　昴	R 2. 8.15	四大戦・上尾
4	10.62			藤田　旭洋	H27. 4. 4	六大戦
〃	10.62	+1.9	○	小田　慎太朗	R 7. 7.12	鹿児島選手権
6	10.65	+0.9	○	遠藤　渓一郎	R 7. 7.26	七大戦・円山
7	10.69			米田　武史	H16. 5. 1	東京選手権
8	10.70			小笠原　朗	S52. 5.21	関東I.C.
9	10.71			松岡　建志	H 1. 8.12	山梨県記録挑戦会
〃	10.71	-0.2		東　楓太	R 6. 8.11	日体大競技会
11	10.73			椿　　幸太	H 3. 5.17	関東I.C.
12	10.74			泉　悠太	H28. 3.20	東大競技会
13	10.77			春日　慶輝	H24. 8. 5	七大戦
14	10.78			真木　伸浩	H24. 6. 2	国公立戦
15	10.79			稲葉　啓人	H27.10.10	京大戦
16	10.80	+0.6	○	藤井　奎輔	R 7. 6.21	国公立戦・上柚木
17	10.81			西田　昂広	H22. 8. 1	七大戦
18	10.82	+1.4		村井　輝	H30. 9.24	京大戦・山城
19	10.83	+0.4		聲高　健吾	H29. 7. 1	四大戦・大井
20	10.84			藤原　大二	H10. 5.15	関東I.C.
21	10.84	+1.7		馬上　凌	R 3. 9.25	日体大競技会
22	10.85	+0.8		阿久津　大貴	H29. 7.30	七大戦・瑞穂
23	10.85	+0.9		横山　雄大	R 4. 3.20	東大競技会・東大
24	10.86	±0.0		木下　秀明	H29.11. 5	東大競技会
25	10.90			松本　大樹	H28. 5.29	国公立戦
26	10.91			藤本　元太	H19. 8.12	大阪府国体予選
27	10.91	-0.3		松田　光陽	R 2.11. 1	東大競技会
28	10.93			渡辺　裕太	H18. 7.30	七大戦
29	10.93			飯島　靖成	H27. 7. 4	四大戦
30	10.96			保泉　学	H 9. 7.27	七大戦

１００m（手動計時）

1	10.4	工藤　洋治	H10. 7. 4	四大戦
2	10.6	村上　国平	S 4. 4.21	関東選手権
〃	〃	松岡　建志	H 1. 6.25	早大同好会記録会
〃	〃	米田　武史	H15.10.26	東海大記録会
5	10.7	朝日　雄治	H 4. 7. 7	四大戦
〃	〃	長田　洋輔	H10. 7. 4	四大戦
7	10.8	青木　克彦	S41.11. 6	対京大
〃	〃	佐々木　裕	S50. 7.20	七大戦
〃	〃	田山　裕信	S63. 7.23	七大戦
〃	〃	小野　満	H 2. 6.30	三大戦
〃	〃	住友　文彦	H 4. 4.28	中大記録会
〃	〃	江崎　泰治	H 4. 7. 5	四大戦
〃	〃	門野　夕峰	H 5. 4.25	中大記録会
14	10.9	小手川　強二	S48. 6.24	国公立戦
〃	〃	中谷　敬二	S53.11. 3	対京大
〃	〃	柳川　政洋	S56. 6. 7	国公立戦
〃	〃	成家　秀樹	S59.11. 4	関東理工系
〃	〃	真柳　浩太	S62.11.14	明立戦
〃	〃	岩田　光則	H 5. 4.25	中大記録会
〃	〃	松本　圭介	H 8. 4.21	早大記録会
〃	〃	今田　努	H 8. 6.16	国公立戦
〃	〃	藤原　大二	H 9.10.12	京大戦
〃	〃	式場　健太	H16.10.31	東大記録会

24	11.0			西山　栄一	S 6.10.17	対京大
〃	〃			佐藤　赴夫	S15. 7.	成蹊大記録会
〃	〃			浦野　穏昌	S30. 5.22	関東I.C.
〃	〃			石塚　哲司	S37. 7.29	七大戦
〃	〃			飯島　正樹	S48. 8.19	国体予選
〃	〃			安達　和宏	H59.10.13	対京大
〃	〃			吉富　亮平	S62. 4.25	筑波大記録会
〃	〃			島本　幸治	S62.10.25	法学部学生陸上
〃	〃			中谷　良人	H 1. 6.25	早大同好会記録会
〃	〃			吉田　彰吾	H 1. 9.23	法学部学生陸上
〃	〃			河本　献太	H 6. 5.29	国公立戦
〃	〃			大嶽　浩司	H 7. 5. 3	法政大記録会
〃	〃			保泉　学	H 8. 3.17	春季オープン
〃	〃			澤田　誠	H 9. 5.31	国公立戦
〃	〃			藤本　元太	H17.10. 1	順大記録会

２００m（電気計時）

1	20.88	+1.1		新倉　佑輔	R 6. 9.27	京大戦
2	21.18			工藤　洋治	H10.10.11	京大戦
3	21.29			藤田　旭洋	H28. 7.31	七大戦
4	21.31	+1.2		井上　昴	R 1. 5.26	関東I.C.・相模原
5	21.37			西村　智宏	H28. 7.31	七大戦
6	21.44			稲葉　啓人	H27. 8. 2	七大戦
7	21.58	+1.7		聲高　健吾	H29. 5.27	関東I.C.・日産
8	21.61	+0.6		河野　太郎	H29. 5.27	関東I.C.・日産
9	21.67	-0.5	○	西川　諒	R 7.10. 5	京大戦・東大
10	21.70			小西　慶治	H27. 7.12	滋賀県選手権
11	21.74			佐々木　裕	S52. 5.22	関東I.C.
12	21.75			小野　満	S62. 5. 2	東京選手権
13	21.76			真木　伸浩	H24. 8.13	順大競技会
14	21.76	+1.1		東　楓太	R 6. 9.27	京大戦
〃	21.77	-0.4		増田　多聞	R 3. 5. 2	日体大競技会
16	21.84			泉　悠太	H28. 6.19	四大戦
17	21.84	+0.7		小嶋　健太郎	H30. 6. 9	国公立戦・上柚木
18	21.89	+2.0		香月　翔太	R 4.10. 9	国公立戦・国士舘
19	21.90			松本　大樹	H28. 7.31	七大戦
20	21.93			米田　武史	H15.10. 5	京大戦
21	21.98	+2.0		松田　光陽	R 1. 7. 6	四大戦・上尾
22	22.06			松岡　建志	H 1.10.14	対京大
23	22.08			安達　和宏	S61. 8. 3	七大戦
24	22.08			胐島　大樹	H25. 7. 7	日体大競技会
〃	22.10			飯島　靖成	H27. 7. 4	四大戦
26	22.11			大澤　渉	H23. 6. 5	日体大競技会
27	22.15			稲澤　晋	H11. 6. 5	国公立戦
28	22.16			渡辺　裕太	H18. 5.20	関東I.C.
〃	22.16			西田　昂広	H22. 7. 3	四大戦
30	22.18	+0.7		松永　隆宏	R 5. 6.25	筑波大競技会

２００m（手動計時　※は直走路、★は２２０ヤード直走路）

1	※21.5	村上　国平	S 4. 4.21	関東選手権
〃	〃	佐々木　裕	S52. 7.24	七大戦
3	21.7	小野　満	H 1. 7. 2	四大戦
4	21.8	小笠原　朗	S52. 7.24	七大戦
〃	〃	松岡　建志	S63. 6.12	筑波大記録会
6	21.9	松本　圭介	H 8. 6.16	国公立戦
7	※22.0	西山　栄一	S 6.10.17	対京大
〃	〃	住友　文彦	H 3. 6.16	国公立戦
〃	〃	大野　敏	H 7. 5.28	国公立戦
〃	〃	保泉　学	H 9. 5. 3	早慶成対抗
〃	〃	藤原　大二	H 9.10.12	京大戦
12	22.1	江崎　泰治	H 6. 7. 2	三大戦

〃	〃		澤田　誠	H 9. 6.21	四大戦
14	22.2		小手川　強二	S48. 6.24	国公立戦
〃	〃		中谷　良人	H 1. 7. 2	四大戦
〃	〃		日隈　洋	H 1. 7. 2	四大戦
〃	〃		式場　健太	H16.11. 7	国士舘大記録会
18	22.3		小川　卓三	S 8.10.17	対京大
〃	〃		浦野　穏昌	S31. 7. 7	全日I.C.
〃	〃		島本　幸治	S62. 6.14	三大戦
〃	〃		真柳　浩太	S63. 9.17	対一橋
〃	〃		門野　夕峰	H 4. 7. 7	四大戦
〃	〃		稲沢　晋	H10. 6.21	三大戦
24	22.4		中塚　晴夫	S38. 7. 7	全日I.C.
〃	〃		宇田川　一昭	S43.11. 3	対京大
〃	〃		成家　秀樹	S58. 7. 3	四大戦
〃	〃		朝日　雄治	H 4. 5.31	国公立戦
〃	〃		増田　慶太	H 9. 7.27	七大戦
29	22.5		石塚　哲司	S37. 9.15	関東I.C.
〃	〃		尾崎　俊之	S40.11. 3	対京大
〃	〃		田山　裕信	H 1. 7. 2	四大戦
〃	〃		森　朋彦	H 2. 6.30	三大戦
〃	〃		椿　幸太	H 2. 7. 7	四大戦
〃	〃		桜井　亮太	H 4. 6.27	三大戦
〃	〃		小泉　賢滋	H 7. 6.25	中大記録会

４００m（電気計時）

1	47.16		工藤　洋治	H 9. 5.23	関東I.C.
2	48.00		小西　慶治	H27. 8.11	滋賀県選手権
3	48.21		佐々木　裕	S52. 5.21	関東I.C.
4	48.35		大澤　渉	H24. 6.30	四大戦
5	48.48		土屋　諒	R 6. 9.27	京大戦
6	48.57	○	井上　賢志	R 7.10.12	京大戦・山城
7	48.71		堀内　壮太	H12.10. 7	京大戦
8	48.82		小野　満	S62. 5.16	関東I.C.
9	48.83		大野　敏	H 7. 5.19	関東I.C.
〃	48.83		森本　淳基	H28. 6.19	四大戦
11	48.99		安達　和宏	S60.10.19	対京大
12	49.01		増田　慶太	H 9. 5.31	国公立戦
13	49.13		住友　文彦	H 3. 5.17	関東I.C.
14	49.21		真木　伸浩	H24.10. 6	京大戦
15	49.25		松永　隆宏	R 5. 6.18	四大戦
16	49.28		大竹　洋平	H15. 7.28	七大戦
17	49.31		藤村　陽	S59. 7.29	七大戦
〃	49.31		稲葉　啓人	H25. 8.31	一橋戦
19	49.47		朏島　一樹	H21.10. 3	京大戦
20	49.50		林　薫	H 1. 7.30	七大戦
〃	49.50		兵頭　直弥	H19. 7.29	七大戦
22	49.53		西岡　健伸	R 4.10. 9	国公立戦・国士舘
23	49.54		小福田　大輔	H20. 9. 6	一橋戦
〃	49.54		兄井　啓太郎	H26.10. 4	京大戦
25	49.58		稲沢　晋	H12. 7. 2	四大戦
26	49.61		東　颯太	R 5. 4.22	東大競技会
27	49.64		宮原　弘季	H27. 8.30	一橋戦
〃	49.64		河野　太郎	H28.10. 1	京大戦
29	49.69		小泉　賢滋	H 7. 9.23	理工系
30	49.76		奥田　航平	R 3. 8.30	一橋戦

４００m（手動計時）

1	48.3	大野　敏	H 7. 7.23	七大戦
2	48.9	島本　幸治	S62.10.18	対京大
3	49.0	大嶽　浩司	H 7. 7.23	七大戦
〃	49.0	堀内　壮太	H12. 6.17	日体大競技会

5	49.5		桜井　亮太	H 2.10.20	大学対抗混成競技会
6	49.6		上田　裕一	S40. 7.25	七大戦
7	49.7		浦野　穏昌	S32.10.16	一般対学生
〃	〃		式場　健太	H16. 9.18	一橋戦
9	49.9		玉木　雄一郎	H 3. 4.28	中大記録会
10	50.0		森田　理央	H10.10.24	国士舘大記録会
11	50.1		大串　幹夫	S48.11. 3	対京大
〃	〃		八田　秀雄	S56.10.18	対京大
〃	〃		藤原　大二	H 8.11. 4	法政大記録会
14	50.2		田山　裕信	S63. 7. 2	三大戦
15	50.3		尾崎　俊之	S41. 7.26	七大戦
〃	〃		宇田川　一昭	S43.11. 3	対京大
〃	〃		稲垣　義孝	S48. 8.31	学連記録会
〃	〃		鈴江　知久	H 2.10.14	対京大
19	50.4		阿部　隆司	S44. 7.26	七大戦
〃	〃		古川　俊幸	H 1. 6.17	三大戦
〃	〃		内田　英生	H 2.10.14	対京大
〃	〃		篠山　大明	H 6. 9.17	一橋戦
〃	〃		八木　創	H12. 6.17	日体大競技会
24	50.5		宮崎　琢也	H 1. 7. 2	四大戦
25	50.6		和地　正明	S56. 6. 7	国公立戦
〃	〃		掛谷　英紀	H 3. 4.28	中大記録会
〃	〃		瀬川　大	H 7. 7.23	七大戦
28	50.7		加藤　由基雄	S32.11.10	対京大
〃	〃		福田　真一	S47. 6.11	国公立戦
〃	〃		霞　浩樹	H 3.10.20	六大記録会
〃	〃		長友　将之	H 6. 9.19	一橋戦

８００m

1	1.48.07		高橋　創	R 4. 5. 3	木南記念・長居
2	1.50.72		北岸　健吾	R 6.10.27	wttk・田園クラブ中距離記録
3	1.51.81		軽部　智	H28. 8. 7	N.S.S.U.ｵｰﾌﾟﾝ
4	1.51.9		一色　聡	S53. 5.21	関東I.C.
5	1.52.57		八木　創	H12. 5.21	関東I.C.
6	1.53.10	○	吉澤　登吾	R 7. 8.30	一橋戦・一橋
7	1.53.33		小野　康介	R 1. 5.25	関東I.C.・相模原
8	1.53.42		高森　一	H24. 5.19	関東I.C.
9	1.53.50		新井　邦生	H18. 5.21	関東I.C.
10	1.53.66		篠山　大明	H 9. 9.22	個人選手権
11	1.53.9		神田　潤一	H 1. 9.10	対一橋
12	1.54.02		加藤　騎貴	H28.11. 5	東大競技会
13	1.54.1		安井　章	S62.10. 4	中大記録会
14	1.54.38	○	小栗　蒼一郎	R 7.10.12	wttk・田園クラブ中距離記録
15	1.54.51		笹原　翔太	H15. 5.18	関東I.C.
〃	1.54.51	○	柳沼　大輝	R 7. 8. 3	wttk・田園クラブ中距離記録
17	1.54.61		新妻　拓弥	H12. 7. 2	四大戦
18	1.54.7		難波　聡	H 5.10.17	六大記録会
19	1.54.79		越野　レオ	R 5. 4.23	wttk・田園挑戦会
20	1.54.88		稲垣　裕章	H 2. 5.12	関東I.C.
〃	1.54.88		安藤　佑真	R 6.10.27	wttk・田園クラブ中距離記録
22	1.55.06		東島　真一	S62. 5. 3	東京選手権
23	1.55.12		坂口　諒	H30. 4.21	日体大長競技会・日体
24	1.55.31		森　達郎	H 5. 5.22	関東I.C.
25	1.55.5		岩田　要	H10. 4.29	学連記録会
26	1.55.52		岩間　年治	H 2. 5.12	関東I.C.
27	1.55.56		村井　昂志	H15. 6.15	四大戦
28	1.55.57		妹背　雄太	H28. 6.25	神奈川県選手権
29	1.55.70		渡邉　拓也	H21. 9.26	日体大競技会
30	1.55.92		西村　邦裕	H12. 7. 2	四大戦

１５００m

1	3.48.33		秋吉　拓真	R 6. 6. 1	東海大長距離記録会
2	3.49.46		新妻　拓弥	H11.10. 1	日本選手権
3	3.50.52		道岡　聖	R 3. 8. 7	wttk・田園挑戦会
4	3.50.65		柳沼　大輝	R 6. 5.25	世田谷競技会
5	3.51.51		近藤　秀一	R 6. 6. 1	東海大長距離記録会
6	3.51.69	○	大森　智	R 7. 7.13	東海大長距離記録会
7	3.52.95		久田　淳司	R 3. 5.20	関東インカレ
8	3.53.66		神田　潤一	H 3. 5.17	関東I.C.
9	3.54.94		瀬川　莉玖	R 6. 4. 6	六大戦
10	3.55.05		軽部　智	H28. 3.20	東大競技会
11	3.55.10		高橋　創	R 3.10.16	wttk・田園挑戦会
12	3.55.22		八木　創	H11. 6.12	四大戦
13	3.55.72		西川　拓	H28. 7.31	七大戦
14	3.55.74		妹背　雄太	H28. 5.29	国公立戦
15	3.56.2		太田　丈児	S56.10.18	対京大
16	3.56.43		福島　洋佑	H28. 5. 7	東京選手権
17	3.56.49		越川　剛暉	R 6. 4.13	日体大長競技会
18	3.56.62		渥美　祐次郎	H26. 6.14	日体大長競技会
19	3.56.89		鬼頭　壮平	R 3. 5. 5	wttk・田園挑戦会
20	3.57.6		山内　仁志	S57. 8. 8	七大戦
21	3.57.93		阿部　飛雄馬	R 1. 6. 1	国士舘大競技会・国士
22	3.57.97		森本　聡	R 4. 9.17	日体大長競技会・日体大
23	3.57.98		松本　翔	H16. 8. 1	七大戦
24	3.58.0		新井　邦生	H15.10. 5	京大戦
25	3.58.31		谷　知典	R 4. 6.18	MKディスタンス・世田谷
26	3.58.49		越野　レオ	R 6. 8.11	wttk・田園挑戦会
27	3.58.5		篠山　大明	H 9.10.12	京大戦
28	3.58.6		安井　章	S61.10.18	対京大
29	3.58.70		石原　宏尚	H19. 4.29	日体大競技会
30	3.58.8		坂本　修一	S55. 7.13	四大戦

５０００m

1	13.51.23	○	秋吉　拓真	R 7. 4. 5	六大戦・日吉
2	14.03.63		近藤　秀一	H28. 9.25	日体大長競技会
3	14.03.68		新妻　拓弥	H11. 5.16	関東I.C.
4	14.11.73		本多　健亮	R 5.12. 2	日体大長競技会
5	14.23.37		瀬川　莉玖	R 5.11.25	日体大長競技会
6	14.23.96		久田　淳司	R 2.12. 6	日体大長競技会
7	14.26.72		西田　大晟	R 6.11.10	日体大長競技会
8	14.29.80	○	大森　智	R 7. 6.14	四大戦・東大
9	14.30.18		松本　翔	H19. 6.24	日体大競技会
10	14.30.73		福島　洋佑	H28. 4.24	日体大長競技会
11	14.35.84		阿部　飛雄馬	R 1. 9.28	京大戦・東大
12	14.37.0		神田　潤一	H 5. 4.29	学連記録会
13	14.37.67		東　大貴	H22.12.11	平国大競技会
14	14.38.54		越川　剛暉	R 6.11.10	日体大長競技会
15	14.39.1		坂本　修一	S56. 3.21	学連記録会
16	14.39.64		渡邉　慶大	R 6.12. 1	日体大長競技会
17	14.40.2		福田　明	S57. 4. 4	クラス別記録会
18	14.40.92		渥美　祐次郎	H25.12. 1	日体大長競技会
19	14.45.00		竹俣　直道	H21. 4. 5	六大戦
20	14.45.3		半村　哲	H 8. 5.25	東海大記録会
21	14.45.35		道岡　聖	R 2.12. 6	日体大長競技会
22	14.46.41		溝井　順哉	H11.10.11	京大戦
23	14.48.28		鬼頭　壮平	R 3.12. 5	日体大競技会
24	14.50.5		宮野　健司	H23.10. 1	京大戦
25	14.50.99		中根　美七海	R 4.12. 3	順大長競技会・順大
26	14.52.16		中台　慎二	H11.10.11	京大戦
27	14.53.1		舟橋　秀利	H 7.11.12	学連記録会
28	14.53.3		青木　佑樹	H23.10. 1	京大戦
29	14.54.24	○	大宮　夏輝	R 7.11.16	日体大長距離記録海

30	14.55.30			加藤　悠生	R 3.10.31	京大戦

１００００m

1	28.45.62		○	秋吉　拓真	R 7. 3.29	日体大長競技会
2	29.13.71			近藤　秀一	H29.11.25	10000m挑戦会・慶応
3	29.19.9			新妻　拓弥	H11.11.28	日体大競技会
4	29.34.09		○	大森　智	R 7. 3.29	日体大長競技会
5	29.51.3			坂本　修一	S55.11. 3	メープル陸上
6	29.51.59			本多　健亮	R 5.11.19	10000m挑戦会
7	29.54.51			松本　翔	H19. 5.19	関東I.C.
8	29.55.55			瀬川　莉玖	R 4.12.17	松戸市記録会・松戸
9	30.18.68			東　大貴	H22.11.27	記録挑戦会
10	30.24.18			阿部　飛雄馬	R 1. 9.21	日体大長競技会・日体
11	30.28.52			西田　大晟	R 5.11.19	10000m挑戦会
12	30.33.70			渥美　裕次郎	H26. 9.27	日体大長競技会
13	30.43.96			宮野　健司	H22.11.27	記録挑戦会
14	30.47.0			舟橋　秀利	H 7.11.18	順大記録会
15	30.52.67			道岡　聖	R 3. 9.23	GENJO打破記録会
16	30.55.08			中根　美七海	R 4.11.20	10000m挑戦会・国立
17	30.56.59			竹俣　直道	H20. 9.27	日体大競技会
18	30.59.1			神田　潤一	H 4.12. 5	順大記録会
19	31.03.1			島田　雅史	H 6.11.27	中大記録会
20	31.10.7			半村　哲	H 7.11. 4	順大記録会
21	31.16.64			山田　健太郎	H20.12.14	日体大競技会
22	31.20.20			石原　宏尚	H18. 9.23	日体大競技会
23	31.21.69			松本　啓岐	H29. 4.22	日体大長競技会・日体
24	31.23.0			福田　明	S57. 3.28	学連記録会
25	31.25.98			松本　郁也	H30.12.22	平国大競技会・鴻巣
26	31.32.7			池田　哲	H11.12. 4	日体大競技会
27	31.33.1			中台　慎二	H11. 9.18	東大記録会
28	31.33.67			小松　息吹	H27. 9.27	東海大長記録会
29	31.35.7			高井　真	S63.10. 2	中大記録会
30	31.35.74			青木　佑樹	H23. 9.24	日体大長競技会

１１０mH（電気計時）

1	14.09	+1.7		馬上　凌	R 3. 8.28	日体大競技会
2	14.76			小泉　賢滋	H 8.10. 6	関東新人
〃	14.76	+1.1		高橋　遼平	R 4. 8.28	一橋戦・東大
4	14.79			上松　祐太	H24. 5.13	関東I.C.
5	14.89			中川　涉行	H10. 7.26	七大戦
6	14.90			尾崎　翔	H18. 7. 9	四大戦
7	15.00	+1.0	○	田中　醇之介	R 7. 5.29	関東I.C.・相模原
8	15.03			宮原　弘季	H27. 5.14	関東I.C.
9	15.04			杉森　康平	H27. 5. 6	法政大競技会
10	15.05			近藤　隆祐	H 5. 7.27	七大戦
11	15.07			酒谷　彰一	H21. 7. 4	四大戦
12	15.23			桜井　亮太	H 4. 7.19	七大戦
13	15.31			増本　健太郎	H22. 8. 1	七大戦
14	15.35			上原　郁	S60. 5.12	関東I.C.
15	15.40			田中　啓	H17. 7.31	七大戦
〃	15.40	+0.5		本田　洋平	R 1. 9.28	京大戦・東大
17	15.41			川原　善紀	H25. 6. 1	国公立戦
18	15.51			梅沢　啓	H18.10. 8	京大戦
19	15.54	-0.5	○	徳山　大輝	R 7.10. 5	京大戦・東大
20	15.58			谷口　尚史	H24. 4.29	日大競技会
21	15.60			日隅　洋	H 1. 7.30	七大戦
22	15.68			宮田　亮	S60. 5.11	関東I.C.
23	15.76			加来　宗一郎	H26. 5. 3	日体大競技会
24	15.79	+0.5		向井　一真	R 3. 8.30	一橋戦
25	15.83			関水　康伸	H12. 7.23	七大戦
26	15.85			寶田　雅治	H27. 8. 2	七大戦

27	15.87		八木澤　一朗	H12. 4. 8	六大戦
28	15.87		江間　輝裕	H22. 8. 1	七大戦
29	15.89	+1.5	松田　光陽	H30. 9.24	京大戦・山城
30	15.90		川本　哲文	S63. 4. 9	六大戦

１１０mH（手動計時）

1	14.8	田中　啓	H16. 9.18	一橋戦
2	15.0	近藤　隆祐	H 5. 5.30	国公立戦
3	15.1	桜井　亮太	H 4. 5.31	国公立戦
4	15.2	上原　郁	S61. 5.25	国公立戦
〃	〃	日隈　洋	H 2. 7. 7	四大戦
6	15.4	笹岡　実	S 7. 5.15	全日I.C.
〃	〃	松村　巌	S13. 6. 4	関東I.C.
8	15.6	梅田　圭良	S34. 7.26	七大戦
〃	〃	井上　尚男	S37. 9. 8	全日本東京都予選
10	15.7	山本　利徳	S52. 7.24	七大戦
〃	〃	川本　哲文	S63. 7.23	七大戦
〃	〃	竹崎　修次	H 2.10.14	対京大
13	15.8	鶴岡　鶴吉	S 3. 6.24	対高師
〃	〃	加納　陽三	S 4. 6. 9	対高師
〃	〃	井上　幸彦	S 6. 5.31	全日I.C.
16	15.9	霞　浩樹	H 5. 8.30	夏季オープン
〃	〃	森田　理央	H 9.10.12	京大戦
18	16.0	渡辺　熊介	S 5.10.17	対京大
〃	〃	杉野　信雄	S40. 7.25	七大戦
〃	〃	伊藤　栄明	S42.11. 3	対京大
〃	〃	佐々木　裕	S51. 8. 8	阪神選手権
〃	〃	八田　秀雄	S56. 6. 7	国公立戦
〃	〃	吉川　暢弘	S58. 6.19	三大戦
〃	〃	大嶽　浩司	H 9.10.12	京大戦
25	16.1	石村　達清	S56. 5. 3	筑波大記録会
〃	〃	木村　昭弘	S61. 4.19	筑波大混成記録会
〃	〃	石川　春樹	S62.10.18	対京大
28	16.2	辻本　仁	S51. 6.20	神奈川選手権
29	16.3	笹治　峻	S34. 6.13	法政大記録会
〃	〃	大野　譲	S48. 6.24	国公立戦
〃	〃	栗島　明康	S54. 9. 1	学連記録会
〃	〃	溝口　勝	S56. 6. 7	国公立戦
〃	〃	柳　千春	S58. 6.19	三大戦
〃	〃	吉田　敬	H 1. 5. 5	早慶成戦
〃	〃	八木澤　一朗	H11. 9. 4	一橋戦

２００mH（※は直走路）

1	24.12	馬上 凌	R 3.10.10	国武大記録会
2	24.95	柏木 龍太	R 3.10.10	国武大記録会
3	25.6※	藤巻　直意	S 8. 6.28	継走大会
4	25.8※	渡辺　熊介	S 3.11.11	継走大会
5	25.9	高橋　徳之助	S 4. 6. 2	運動会
6	27.3	渡辺　晃	S15.10.15	対京大
7	27.4※	小菅　進之助	S 4.10.13	市民大会
〃	27.4	林　不二雄	S 3. 6. 1	運動会
9	27.6	三藤　正	S 3. 6. 3	運動会
10	27.8	小林　靖吉	S14. 5.24	運動会
11	27.9	鶴岡　鶴吉	S 2. 6. 6	運動会
12	28.0	斎藤　慶司	S12. 6. 3	運動会

４００mH（電気計時）

1	51.36	宮原　弘季	H27. 7. 4	四大戦
2	51.52	小泉　賢滋	H 8. 4.28	東京選手権
3	53.19	森田　理央	H10. 5.17	関東I.C.
4	53.24	藤村　陽	S60. 7.13	福島選手権

5	53.40	兄井　啓太郎	H27.10.10	京大戦
6	53.41	柏木　龍太	R 4. 3.26	順天大競技会
7	53.48	上松　祐太	H24. 5.20	関東I.C.
8	53.86	ウォルシュ　禅	R 4. 5.21	関東I.C.・国立
9	53.95	工藤　洋治	H10.10.11	京大戦
〃	53.95	松田　光陽	R 1. 5.26	関東I.C.・相模原
11	54.13	越村　真至	H27. 5.30	国公立戦
12	54.22	上原　郁	S61. 8. 3	七大戦
13	54.31	加来　宗一郎	H28. 7.31	七大戦
14	54.79	宮田　亮	S60. 5.10	関東I.C.
15	55.06	中川　渉行	H 8. 7.28	七大戦
16	55.10	高木　海平	H21.10.11	日体大競技会
17	55.47	深澤　眞楠	H20. 8. 3	七大戦
18	55.64	酒谷　彰一	H22.10. 9	京大戦
〃	55.64	増田　多聞	H30. 9.24	京大戦・山城
20	55.65	山田　銀河	H26. 5. 4	日体大競技会
21	55.67	赤木　裕	H21. 7.26	七大戦
22	55.69	本田　洋平	H30. 9.24	京大戦・山城
23	55.76	向井　一真	R 3. 9.26	日体大競技会
24	55.93	三好　真生	R 6. 6.15	四大戦
25	55.95	高倉　栄男	H15. 7.27	七大戦
26	55.97	高橋　遼平	R 5. 3.12	東大競技会・東大
27	55.99	羽場　靖洋	H11.10.11	京大戦
28	56.19	掛上　恭	S63.10.15	対京大
〃	56.19	日隈　洋	H 1.10.14	対京大
30	56.25	増本　健太郎	H21.10.12	秋季オープン

４００mH（手動計時）

1	53.8	佐々木　裕	S52. 4.29	東京選手権
2	54.0	井村　義人	S39. 6. 8	国体
3	54.9	八田　秀雄	S56.10.18	対京大
4	55.1	小笠原　朗	S52. 7. 3	四大戦
〃	〃	桜井　亮太	H 2. 8.26	国体予選
6	55.5	霞　浩樹	H 5.10. 9	京大戦
7	55.7	冨山　保	S41. 5.23	関東I.C.
8	55.8	大串　幹夫	S49. 5.25	六大戦
9	55.9	田中　秀樹	H 1.10.22	六大記録会
10	56.1	和地　正明	S56. 4.12	六大戦
〃	〃	麻生　裕之	S62.10.18	対京大
12	56.3	井上　尚男	S37. 9.15	関東I.C.
13	56.6	島本　幸治	S63. 6.12	筑波大記録会
14	56.8	松村　巌	S11.11. 1	日本選手権
〃	〃	辻本　誠	S48. 6.24	国公立戦
〃	〃	掛谷　英紀	H 3. 7.28	七大戦
17	56.9	水野　忠文	S14. 6. 4	関東I.C.
〃	〃	杉野　信雄	S40. 7.25	七大戦
〃	〃	横田　逸郎	S44.11. 2	対京大
20	57.0	石川　春樹	S62. 6.14	三大戦
〃	〃	林　薫	H 1.11.11	東大記録会
22	57.1	阿部　隆司	S44.11. 2	対京大
〃	〃	近藤　隆祐	H 5.10. 9	京大戦
24	57.2	綿谷　昭夫	S45.11. 3	対京大
〃	〃	末松　良勝	S53. 7.29	七大戦
〃	〃	馬場　勝也	H 2. 5.21	長崎県選手権
27	57.3	戸井田　康宏	S63. 9.17	対一橋
28	57.4	笹治　峻	S34.11. 8	対京大
29	57.6	小菅　進之助	S 6.11. 7	対京大
〃	〃	吉田　敬	H 1. 5.28	国公立戦

３０００mＳＣ

1	8.48.43	新妻　拓弥	H12.10.15	国体

2	8.52.7		坂本　修一	S55.10.13	国体
3	9.01.27		半村　哲	H 8. 7.28	七大戦
4	9.05.74	○	秋吉　拓真	R 7. 5.15	順大記録会
5	9.12.58		越川　剛暉	R 6. 6.29	平国大競技会
6	9.13.5		清水　明	S58. 7.24	七大戦
7	9.14.05		畠　英雄	S61. 5.17	関東I.C.
8	9.15.49		藤井　豊	H11. 5.15	関東I.C.
9	9.16.96		福島　洋佑	H28. 5.20	関東I.C.
10	9.17.99		石原　宏尚	H18. 9. 9	ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ
11	9.18.13		道岡　聖	R 3. 5. 4	東海大記録会
12	9.18.9		福田　明	S57. 8. 8	七大戦
13	9.20.27		青木　佑樹	H22. 7. 3	四大戦
14	9.24.59		阿部　飛雄馬	H30. 7.29	七大戦・厚別
15	9.27.54		村上　聡	H 8. 7.28	七大戦
16	9.27.6		田中　幸春	S51. 5.23	関東I.C.
17	9.28.47		瀬川　莉玖	R 4. 6. 4	平国大競技会・鴻巣
18	9.28.74		瀧澤　剛	H24. 4.15	六大戦
19	9.29.01		遠藤　正陽	H31. 4.28	平国大競技会・鴻巣
20	9.30.3		神田　潤一	H 3. 7. 7	四大戦
21	9.32.4		森　順一	S63. 7.23	七大戦
22	9.32.47		相原　佑康	H14. 7.28	七大戦
23	9.33.81		渡邊　駿	H24. 6.30	四大戦
24	9.34.35		高橋　竜一	H15. 7.27	七大戦
25	9.34.90		岡田　良平	H18. 7.30	七大戦
26	9.35.66	○	大宮　夏輝	R 7. 7.27	七大戦・円山
27	9.36.5		舟橋　秀利	H 7.11.12	学連記録会
28	9.36.63		栗山　一輝	H30. 7.29	七大戦・厚別
29	9.37.3		竹俣　高綱	H 3. 4.21	法政記録会
30	9.38.2		藤　浩明	S59. 7.29	七大戦・平和台

５０００mW

1	19.54.60		渡邉　成陽	H27.10.10	京大戦
2	20.14.52	○	越國　太貴	R 7.10. 5	京大戦・東大
3	20.41.85		後藤　潤平	R 1. 6.29	国公立戦・上柚木
4	20.53.62		堀田　樹生	H25.10. 5	京大戦
5	21.06.56		早川　晃司	H22. 4.29	くまがや記録会
6	21.08.55		棟重　賢治	H29. 6.17	国公立戦・鴻巣
7	21.16.02		春木　洋輔	H16.10.31	東大競技会
8	21.31.48		宇野　文貴	H25.10. 5	京大戦
9	21.36.72		保田　亜久利	R 1. 6.29	国公立戦・上柚木
10	21.43.33		堀江　駿	H28.10. 1	京大戦
11	21.51.43		千菊　智也	R 2. 9.27	東大競技会
12	21.53.74		近藤　健一	H24.10. 6	京大戦
13	21.55.73		瀧川　朗	H22.10. 9	京大戦
14	21.56.27	○	金谷　響介	R 7. 7.26	七大戦
15	22.01.28		明石　顕	H 9. 8.30	関東選手権
16	22.19.5		衛藤　淳一	H11. 6.27	東陸記録会
17	22.21.34		松原　亘希	R 3.10.31	京大戦
18	22.42.58		上野　和雅	R 3.10.31	京大戦
19	22.56.52		櫻井　悠也	H28.10. 1	京大戦
20	23.45.57		増田　結心	H25.10. 5	京大戦
21	24.16.08		菅野　雄大	H20. 6.28	千葉県選手権
22	24.17.20		寺田　秋夫	S61.11.10	関東理工系対校
23	24.53.15	○	髙島　啓嗣	R 7.10. 5	京大戦・東大
24	24.55.08		井上　雄介	H22.10. 9	京大戦

１００００mW

1	40.53.86		渡邉　成陽	H27.12.12	国士舘大競技会
2	41.44.41	○	越國　太貴	R 7.11. 9	東大競技会
3	42.12.57		後藤　潤平	H30.12.15	国士舘大競技会・国士
4	43.18.68		明石　顕	H10. 4.19	長野県競歩

5	43.37.1	春木　洋輔	H16.10.11	国武大記録会
6	43.57.57	早川　晃司	H22. 3.25	春季オープン
7	44.02.67	棟重　賢治	H27.12.12	国士舘大競技会
8	44.07.27	宇野　文貴	H27.12.12	国士舘大競技会
9	44.20.56	瀧川　朗	H22.12.11	平国大競技会
10	44.34.25	近藤　健一	H25. 4.28	国士舘大競技会
11	44.36.69	堀江　駿	H30. 7. 7	ホクレンD.C.北見・東陵公園
12	44.44.20	衛藤　淳一	H12. 9. 3	全日I.C.
13	44.44.63	保田　亜久利	H30.12.15	国士舘大競技会・国士
14	44.52.30	堀田　樹生	H25.12.14	国士舘大競技会
15	45.45.95	千菊　智也	H30. 5.26	関東I.C.・相模原
16	46.31.61	金谷　響介	R 6.11.18	東大競歩記録会
17	46.48.1	寺田　秋夫	S62. 5.17	関東I.C.
18	46.56.8	小竹　茂夫	S61. 4.13	学連記録会
19	47.02.68	松原　亘希	R 3. 5.22	東大競技会
20	47.08.82	坪田　博行	S63. 5.22	関東I.C.
21	47.29.20	櫻井　悠也	H28. 4.30	国士館大競技会
22	47.33.95	松原　亘希	R 1.12.14	国士館大競技会・国士
23	47.39.28	和田　光一郎	H20. 3.23	東大競技会
24	47.55.94	増田　結心	H25. 3.16	東大競技会
25	47.56.48	上野　和雅	R 4. 3.16	春季オープン・鴻巣
26	48.02.68	中台　慎二	H11. 5. 9	関東I.C.
27	48.10.1	北沢　太郎	H20. 3.30	春季オープン
28	48.25.94	菅野　雄大	H20. 5.18	関東I.C.
29	48.51.3	佐藤　仁志	H 9. 4. 6	学連記録会
30	49.26.23	大澤　進	H 5. 5.22	関東I.C.

４×１００mR（電気計時）

1	40.46	泉　悠太	西村　智宏	H28.10. 1
		松本　大樹	稲葉　啓人	京大戦
2	40.66	泉　悠太	西村　智宏	H28. 5.20
		松本　大樹	藤田　旭洋	関東I.C.
3	40.70	泉　悠太	西村　智宏	H27. 5.15
		稲葉　啓人	藤田　旭洋	関東I.C.
4	40.85	影山　優輔	井上　昴	R 1. 5.23
		平井　智史	聲高　健吾	関東I.C.・相模原
5	40.88	聲高　健吾	小嶋　健太郎	H30. 9.24
		井上　昴	村井　輝	京大戦・山城
6	40.89	小嶋　健太郎	阿久津　大貴	H30. 5.24
		井上　昴	木下　秀明	関東IC・相模原
7	40.96	香月　翔太	井上　昴	R 1. 8. 4
		平井　智史	聲高　健吾	七大戦・博多
8	41.00	工藤　洋治	藤原　大二	H 9. 5.24
		松本　圭介	保泉　学	関東I.C.
9	41.08	村井　輝	井上　昴	R 1. 9.28
		影山　優輔	聲高　健吾	京大戦・東大
10	41.10	松永　隆宏	横山　雄大	R 4. 5.20
		新倉　佑輔	香月　翔太	関東I.C.・国立
11	41.21	小嶋　健太郎	阿久津　大貴	H30. 7.28
		井上　昴	村井　輝	七大戦・厚別
12	41.26	新倉　佑輔	横山　雄大	R 4. 7.31
		香月　翔太	東　楓太	七大戦・仙台
13	41.27	阿久津　大貴	聲高　健吾	H29. 5.25
		河野　太郎	長久　将	関東I.C.・日産
14	41.31	香月　翔太	井上　昴	R 1. 8.31
		松田　光陽	聲高　健吾	一橋戦・一橋
15	41.33	上村　諒	東　楓太	R 6. 6.15
		新倉　佑輔	藤井　奎輔	四大戦
16	41.35	工藤　洋治	藤原　大二	H10. 5.16
		長田　洋輔	稲沢　晋	関東I.C.
17	41.36	村井　輝	井上　昴	R 1. 7. 6

			平井　智史	聲高　健吾	四大戦・上尾
18	41.38	○	西川　諒	遠藤　渓一郎	R 7.10. 5
			藤井　奎輔	小田慎太郎	京大戦・東大
19	41.39		錦戸　謙親	東　楓太	R 6. 5.11
			新倉　佑輔	羽田　慎太郎	関東I.C.
20	41.45		泉　悠太	飯島　靖成	H27. 7. 4
			稲葉　啓人	藤田　旭洋	四大戦
21	41.46		小嶋　健太郎	稲葉　啓人	H28. 4. 2
			松本　大樹	藤田　旭洋	六大戦
22	41.47		藤田　旭洋	稲葉　啓人	H26.10. 4
			胐島　大樹	西村　智宏	京大戦
23	41.52		井上　昴	聲高　健吾	H29. 7.30
			影山　優輔	阿久津　大貴	七大戦・瑞穂
24	41.53	○	西川 諒	遠藤 渓一郎	R 7. 7.26
			藤井 奎輔	秋山 賢太郎	七大戦・円山
25	41.58		鈴木　貴博	稲沢　晋	H12. 5.20
			長田　洋輔	青木　孝憲	関東Ｉ.C.
26	41.59		宮口　航	八子　基樹	H24. 5.19
			真木　伸浩	春日　慶輝	関東I.C.
27	41.63		丹菊　優太	東　楓太	R 5. 6.18
			松永　隆宏	新倉　佑輔	四大戦
28	41.64		丹菊　優太	横山　雄大	R 4. 8.28
			新倉　佑輔	東　楓太	一橋戦・東大
29	41.68		長田　洋輔	稲沢　晋	H11. 5.14
			青木　孝憲	藤原　大二	関東I.C.
30	41.72		瀧山　健	米田　武史	H16. 5.16
			相川　啓佑	式場　健太	関東Ｉ.C.
〃	41.72		丹菊　優太	横山　雄大	R 4. 4. 9
			新倉　佑輔	香月　翔太	六大戦・慶應

４×１００ｍR（手動計時）

1	41.6	今田　努	藤原　大二	H 9. 6.21
		工藤　洋治	松本　圭介	四大戦
2	41.9	吉田　彰吾	中谷　良人	S63. 7.23
		真柳　浩太	松岡　建志	七大戦
〃	〃	椿　幸太	中谷　良人	H 2. 6.30
		日隈　洋	小野　満	三大戦
4	41.9	今田　努	松本　圭介	H 9. 5.31
		工藤　洋治	澤田　誠	国公立
5	42.0	古賀　拓郎	松本　圭介	H 7. 7.23
		岩田　光則	工藤　洋治	七大戦
6	42.1	丸山　公夫	小笠原　朗	S52. 7.24
		山本　利徳	佐々木　裕	七大戦
〃	〃	前田　憲生	桜井　亮太	H 3. 7.28
		朝日　雄治	椿　幸太	七大戦
8	42.3	丸山　公夫	小笠原　朗	S51. 5.22
		前田　俊之	佐々木　裕	関東I.C.
〃	〃	奥井　雅人	柳川　政洋	S56.10.18
		和泉　芳嗣	室城　信之	対京大
〃	〃	真柳　浩太	松岡　建志	S62.10.18
		吉田　彰吾	小野　満	対京大
〃	〃	椿　幸太	中谷　良人	H 2. 7. 7
		森　朋彦	日隈　洋	四大戦
〃	〃	今田　努	松本　圭介	H 8. 6.16
		入倉　慎也	大嶽　浩司	国公立
13	42.4	岡本　登	安達　和宏	S60.10.18
		植田　直樹	小野　満	対京大
14	42.5	佐々木　裕	小笠原　朗	S53.11. 3
		柳川　政洋	中谷　敬二	対京大
〃	〃	門野　夕峰	前田　憲生	H 3. 6.16
		朝日　雄治	椿　幸太	国公立

〃	〃	門野　夕峰	桜井　亮太	H 3. 6.30
		朝日　雄治	椿　　幸太	三大戦
〃	〃	河本　献太	西村　修	H 5.10. 9
		朝日　雄治	門野　夕峰	京大戦
18	42.6	青木　克彦	尾崎　俊之	S41.11. 6
		伊藤　明克	前田　政男	対京大
〃	〃	中島　広治	成家　秀樹	S58. 7. 3
		柳川　政洋	安達　和宏	四大戦
〃	〃	椿　幸太	中谷　良人	S63. 7. 2
		真柳　浩太	松岡　建志	三大戦
〃	〃	玉木　雄一郎	朝日　雄治	H 3. 7. 7
		桜井　亮太	椿　　幸太	四大戦
〃	〃	遠藤　亘	門野　夕峰	H 4. 7. 5
		前田　憲生	朝日　雄治	四大戦
〃	〃	河本　献太	松本　圭介	H 7. 5.28
		岩田　光則	古賀　拓郎	国公立戦
24	42.7	橋本　光人	小手川　強二	S48. 5.19
		稲垣　義孝	飯島　正樹	関東I.C.
〃	〃	姫野　利隆	柳川　政洋	S56. 8. 1
		和泉　芳嗣	奥井　雅人	七大戦
〃	〃	木崎　健太	岸田　祐馬	H30. 8.26
		井上　昴	近藤　哲太	一橋戦・東大
27	42.8	橋本　光人	小手川　強二	S49. 5.29
		前田　俊之	坂井　建雄	関東I.C.
〃	〃	門野　夕峰	西村　修	H 5. 5.30
		佐々木　弘次	朝日　雄治	国公立戦
〃	〃	河本　献太	岡本　高太郎	H 6. 9.17
		岩田　光則	西村　修	一橋戦
〃	〃	今田　努	藤原　大二	H 8. 6.30
		工藤　洋治	大嶽　浩司	三大戦

４×２００mR (電気計時)

1	1.31.13	相川　啓佑	三好　信哉	H18.11. 3
		瀧山　健	尾崎　翔	筑大Pシーズン

４×２００mR (手動計時)

1	1.31.5	青木　克彦	佐久間　征夫	S40.10.17
		村田　歓吾	尾崎　俊之	対一橋
2	1.32.5	相馬　光之	稲葉　滋	S34. 5.27
		加藤　和生	梅田　圭良	三大戦
〃	〃	井上　尚男	小林　茂之	S37.10.18
		今井　嘉博	石塚　哲司	対一橋
4	1.32.6	加藤　由基雄	梅田　圭良	S31.11. 3
		藤田　宏明	浦野　穏昌	対京大
5	1.32.9	青木　克彦	石　博光	S41. 5. 5
		冨山　保	伊藤　明克	三大戦
6	1.33.0	西村　平八郎	渡辺　熊介	S 3. 6.10
		村上　国平	角田　信行	対高師
〃	〃	尾崎　俊之	小橋　正実	S39. 6. 7
		石堂　怜	浅井　光昭	三大戦
8	1.33.2	石塚　哲司	相馬　光之	S35. 5.28
		浜田　素司	中尾　勝	三大戦
9	1.33.3	梅田　圭良	稲葉　滋	S35. 5.11
		加藤　和生	加藤　由基雄	三大戦
〃	〃	梅田　圭良	笹治　峻	S34. 6.28
		稲葉　滋	加藤　和生	学習院記録会
11	1.33.5	石塚　哲司	井上　尚夫	S36. 6. 3
		今村　嘉博	中尾　勝	三大戦
12	1.33.6	橋本　雅明	浦野　穏昌	S30. 6. 5
		藤田　宏明	竜沢　俊文	対一橋
〃	〃	加藤　由基雄	加藤　和生	S32. 6.23

			梅田　圭良	浦野　穏昌	対学習院
14	1.33.7		伊藤　明克	金子　勲	S41.10.23
			冨山　保	青木　克彦	対一橋
15	1.33.8		加藤　由基雄	藤田　宏明	S31. 6.10
			竜沢　俊文	浦野　穏昌	対学習院
〃	〃		田中　和生	宮村　勝男	S 2. 5.22
			中尾　章吾	角田　信行	対高師
〃	〃		稲葉　滋	加藤　由基雄	S33. 6. 9
			加藤　和生	浦野　穏昌	対一橋
18	1.33.9		中尾　勝	今井　嘉博	S36. 6.10
			井上　尚男	中塚　晴夫	立教記録会
19	1.34.1		中塚　晴夫	坪内　利彦	S38. 4.27
			石堂　怜	井村　章吾	三大戦
20	1.34.2		前田　克巳	松本　秀彦	T14.10.19
			久保　佐一	中尾　章吾	対京大
〃	〃		井上　誠夫	浦野　穏昌	S29.11. 3
			竜沢　俊文	杉山　泰夫	対京大
〃	〃		石　博光	佐久間　征夫	S39. 6. 7
			村田　歓吾	原田　芳紀	三大戦
23	1.34.4		西村　平八郎	田中　和夫	S 2.10. 2
			宮村　勝男	角田　信行	市民大会
24	1.34.5		橋本　雅明	加藤　由基雄	S31. 5. 3
			竜沢　俊文	浦野　穏昌	対青学
25	1.34.6		渡辺　熊介	安間　善雄	S 3. 6.24
			村上　国平	角田　信行	対東北大
〃	〃		宮下　国平	小島　巌	S34. 6.13
			加藤　和生	稲葉　滋	法学記録会
27	1.35.0		有山　恒	川島　震一	T10.11.13
			加藤　英夫	島村　鉄也	全国大会

４×４００mR（電気計時）

1	3.12.56		小西　慶治	稲葉　啓人	H27. 7. 4
			兄井　啓太郎	宮原　弘季	四大戦
2	3.13.44		森田　理央	藤原　大二	H10. 5.17
			滝沢　剛	工藤　洋治	関東I.C.
3	3.13.45		藤原　大二	増田　慶太	H 9. 5.25
			森田　理央	工藤　洋治	関東I.C.
4	3.13.49	○	井上　賢志	西川　諒	R 7.10. 5
			吉澤　登吾	土屋　諒	京大戦・東大
5	3.14.05		大嶽　浩司	小泉　賢滋	H 8.10. 6
			増田　慶太	工藤　洋治	関東新人
6	3.14.57		兄井　啓太郎	小西　慶治	H27. 5.16
			森本　淳基	河野　太郎	関東I.C.
7	3.14.63		小西　慶治	稲葉　啓人	H27. 5.17
			森本　淳基	兄井　啓太郎	関東I.C.
8	3.14.87		兄井　啓太郎	小西　慶治	H27.10.10
			森本　淳基	宮原　弘季	京大戦
9	3.15.61		大嶽　浩司	小泉　賢滋	H 7. 5.21
			増田　慶太	大野　敏	関東I.C.
10	3.16.07		林　薫	中谷　良人	H 1. 6. 3
			島本　幸治	日隈　洋	全日I.C.
11	3.16.57		西岡　健伸	松永　隆宏	R 3 .4.25
			高橋　怜央奈	高橋　創	東大競技会
12	3.16.73		西岡　健伸	松永　隆宏	R 3. 5.22
			高橋　怜央奈	増田　多聞	関東I.C.
13	3.16.76		真木　伸浩	塩見　真一郎	H24. 5.19
			上松　祐太	大澤　渉	関東I.C.
14	3.16.98		小西　慶治	稲葉　啓人	H27. 4. 4
			森本　淳基	河野　太郎	六大戦
15	3.17.11		奥田航平	松永隆宏	R 5. 7.23
			井上賢志	東楓太	七大戦

16	3.17.17		長田　洋輔 普光　真生	稲沢　晋 堀内　壮太	H12. 5.14 関東I.C.
〃	3.17.17		小嶋　健太郎 藤田　健一	河野　太郎 箕島　頌	H28. 7.31 七大戦
18	3.17.22		高梨　幹生 滝沢　剛	森田　理央 工藤　洋治	H10. 5.16 関東I.C.
19	3.17.37		西岡　健伸 井上　賢志	松永　隆宏 香月　翔太	R 4. 8.28 一橋戦・東大
20	3.17.45		小嶋　健太郎 兄井　啓太郎	河野　太郎 長久　将	H29. 7.30 七大戦・瑞穂
21	3.17.52		兄井　啓太郎 森本　淳基	小西　慶治 二宮　翔平	H26. 7. 5 四大戦
22	3.17.75		高倉　栄男 今泉　勇	大竹　洋平 石井　康雄	H14. 5.18 関東I.C.
23	3.18.03	○	井上　賢志 和田　優輝	西川　諒 土屋　諒	R 7. 8.30 一橋戦・一橋
24	3.18.10		兄井　啓太郎 藤田　健一	河野　太郎 森本　淳基	H27. 5.30 一橋戦・一橋
25	3.18.13		井上　賢志 香月　翔太	松永　隆宏 西岡　健伸	R 4. 5.21 関東I.C.・国立
26	3.18.54		越村　真至 藤田　健一	森本　淳基 箕島　頌	H28. 5.21 関東I.C.
27	3.18.58		西岡　健伸 高橋　怜央奈	松永　隆宏 柏木　龍太	R 3. 8.30 一橋戦・一橋
28	3.18.82		伊勢田　明弘 田中　佑貴	堀内　壮太 石井　康雄	H16. 5.14 関東I.C.
29	3.18.83		松田　光陽 井上　昴	岩﨑　誠倫 伊藤　康裕	H31. 4. 6 六大戦・慶応
30	3.18.92		奥田　航平 新倉　佑輔	松永　隆宏 東　楓太	R 5. 4. 2 六大戦

４×４００ｍR（手動計時）

1	3.16.9	滝沢　剛 増田　慶太	藤原　大二 工藤　洋治	H 9. 6.21 四大戦
2	3.17.0	中谷　良人 東島　真一	島本　幸治 小野　満	S62.10.18 対京大
3	3.17.1	増田　慶太 森田　理央	大嶽　浩司 工藤　洋治	H 8. 6.30 三大戦
4	3.17.8	霞　浩樹 難波　聡	小泉　賢滋 大野　敏	H 6. 7. 2 三大戦
5	3.18.0	大嶽　浩司 小泉　賢滋	工藤　洋治 大野　敏	H 7. 7.23 七大戦
6	3.18.4	宮崎　琢也 林　薫	中谷　良人 日隈　洋	H 1. 7.30 七大戦
7	3.18.7	田中　尊人 小泉　賢滋	増田　慶太 工藤　洋治	H 7.10.14 一橋戦
8	3.18.8	田山　裕信 小野　満	中谷　良人 島本　幸治	S63. 7. 2 三大戦
9	3.18.9	小泉　賢滋 篠山　大明	工藤　洋治 大嶽　浩司	H 7. 6.18 三大戦
10	3.19.4	早道　信宏 一色　聡	小笠原　朗 佐々木　裕	S52. 4.24 ﾘﾚｰｶｰﾆﾊﾞﾙ
11	3.19.5	森田　理央 大嶽　浩司	増田　慶太 篠山　大明	H 9.10.12 対京大
12	3.19.9	早道　信宏 末松　良勝	一色　聡 加藤　明	S53. 5.18 関東I.C.
13	3.20.1	植田　直樹 古川　俊幸	島本　幸治 小野　満	S63. 4.17 四大戦
14	3.20.5	早道　信宏 平林　啓記	小笠原　朗 佐々木　裕	S52. 5.22 関東I.C.
〃	〃	大野　敏	住友　文彦	H 5.10. 9

	〃	鈴江　知久	小泉　賢滋	京大戦
16	3.20.6	内田　英生	鈴江　知久	H 2.10.14
		住友　文彦	小野　満	対京大
〃	〃	増田　慶太	小泉　賢滋	H 6.10. 8
		篠山　大明	大野　敏	対京大
18	3.20.7	林　　薫	鈴江　知久	H 3. 7. 7
		掛谷　英紀	玉木　雄一郎	四大戦
19	3.21.2	霞　浩樹	住友　文彦	H 4. 7. 5
		掛谷　英紀	鈴江　知久	四大戦
20	3.21.5	大野　敏	住友　文彦	H 5. 6.26
		難波　聡	霞　浩樹	三大戦
21	3.21.6	田中　尊人	増田　慶太	H 8. 7. 7
		滝沢　剛	大嶽　浩司	四大戦
22	3.21.8	早道　信宏	一色　聡	S52.10.15
		末松　良勝	佐々木　裕	全日I.C.
〃	〃	大野　敏	小泉　賢滋	H 5. 7.11
		難波　聡	鈴江　知久	四大戦
24	3.21.9	加藤　明	末松　良勝	S51. 5.23
		小笠原　朗	佐々木　裕	関東I.C.
25	3.22.0	石井　康雄	大竹　洋平	H14. 9.15
		式場　健太	高倉　栄男	一橋戦
26	3.22.1	宮田　亮	安達　和宏	S59. 6.17
		新見　克彦	藤村　陽	三大戦
〃	〃	中谷　良人	住友　文彦	H 2. 7. 7
		玉木　雄一郎	桜井　亮太	四大戦
28	3.22.3	古川　俊幸	島本　幸治	S62. 7. 5
		戸井田　康宏	小野　満	四大戦
29	3.22.4	成家　秀樹	安達　和宏	S59.10.13
		宮田　亮	藤村　陽	対京大
30	3.22.7	住友　文彦	玉木　雄一郎	H 4.10.11
		鈴江　知久	難波　聡	京大戦

男子４×８００mR

1	7.56.51	戸田　賢希	伊藤　龍一郎	H28.11.13
		加藤　騎貴	軽部　智	学芸大競技会

走高跳

1	2.12		福永　大輔	H28. 7.31	七大戦
2	2.05		吉賀　千晃	S58. 6.19	三大戦
3	2.03		吉川　暢宏	S58. 5.22	関東I.C.
4	2.03		赤塚　智弥	H31. 4. 6	六大戦・慶応
5	2.02		青木　孝	H11. 7.25	七大戦
6	2.01		尾崎　徹	S57. 7.11	四大戦
〃	〃		駒田　誠	S58. 7.24	七大戦
〃	〃	○	酒井　亮	R 7. 7.27	七大戦・円山
9	2.00		大平　和由	S51. 7.18	神奈川記録会
〃	〃		藤原　啓	H12.10. 7	京大戦
〃	〃		村口　和人	H15. 5. 3	日体大記録会
〃	〃		田中　啓	H15.10. 5	京大戦
13	1.99		宮崎　昭彦	H 1.10.14	対京大
〃	〃		森　朋彦	H 2. 7.21	七大戦
〃	〃		木下　秀明	H30. 7.29	七大戦・厚別
〃	〃		田中　醇之介	R 6. 5. 9	関東I.C.
17	1.96		古川　丈史	H10. 7.26	七大戦
〃	〃		工藤　健太	H25. 7. 6	四大戦
19	1.95		大谷　一夫	S48. 6.24	国公立戦
〃	〃		辻本　仁	S51. 6.19	神奈川選手権
〃	〃		宮　正彦	H16. 7.11	四大戦
22	1.93		酒瀬川　亮介	S58. 5.19	関東I.C.
23	1.90		高野　泰	S42. 6. 4	全日I.C.
〃	〃		中谷　敬二	S53. 9.15	対一橋

〃	〃		宮城　利久	S54. 6.10	国公立戦
〃	〃		井上　博之	S56. 7.12	四大戦
〃	〃		川本　哲文	S62. 4.25	筑波大記録会
〃	〃		上原　郁	S62. 6.14	三大戦
〃	〃		鯵坂　耕司	S63. 7. 2	三大戦
〃	〃		田角　聡志	H 7. 6.18	三大戦
〃	〃		宮地　隆廣	H 8. 3.30	東大競技会
〃	〃		森下　聡	H13. 4. 7	六大戦
〃	〃		後藤　拓己	R 1. 8. 3	七大戦・博多
〃	〃		大川　晴斗	R 3. 8.30	一橋戦

棒高跳

1	5.25		三宅　功朔	R 1. 5.26	関東I.C.・相模原
2	5.00		川添　雄太	H13. 7.29	七大戦
3	4.70		上野　隆治	H24. 6. 2	国公立戦
4	4.50		加美　伸治	H 8. 5.19	関東I.C.
〃	〃		松下　周平	H28. 5.22	関東I.C.
6	4.40		安東　努	H 4. 5.16	関東I.C.
〃	〃		大谷　真人	H20. 4.20	早大競技会
8	4.30		石原　徹	S51. 6.13	国公立戦
〃	〃		鶴　道生	S57. 7.11	四大戦
〃	〃		桜井　亮太	H 4. 9.12	全日I.C.
〃	〃		石部　享士	H 9. 5.23	関東I.C.
〃	〃		松原　洸也	H25. 7. 6	四大戦
13	4.21		石川　隆昭	S48. 7.29	七大戦
14	4.20		加納　健史	H10. 4.29	日大記録会
〃	〃		島田　俊雄	H14. 5.18	関東I.C.
16	4.10		堤　銀次郎	S40. 6.13	関東I.C.
〃	〃		林　秀樹	S50. 5.17	関東I.C.
〃	〃		山本　利徳	S54. 5.13	関東I.C.
〃	〃		浅野　浩二	S56. 6. 7	国公立戦
〃	〃		中尾　俊史	S57.10.24	対京大
〃	〃		渡辺　素行	S60. 6. 2	国公立戦
〃	〃		石原　健司	S63.10.15	対京大
〃	〃		後藤　拓矢	H26. 3. 9	群馬室内
24	4.00		武智　久典	S54. 5.13	関東I.C.
〃	〃		高橋　裕一郎	S54. 7.24	七大戦
〃	〃		吉賀　千晃	S57. 9.15	対一橋
〃	〃		木村　昭弘	S60. 5.10	関東I.C.
〃	〃		渡辺　国広	H11. 5. 1	日体大記録会
〃	〃		土居　富裕	H20.10.12	京大戦
〃	〃		竇田　雅治	H29. 8.27	対一橋・一橋
〃	〃		高村　直也	R 1. 9.28	京大戦・東大

走幅跳

1	7.72		椿　幸太	H 3. 9.22	日本学生選手権
2	7.62		西村　智宏	H28. 7.31	七大戦
3	7.57		森　朋彦	H 2.10.14	対京大
4	7.52		中谷　敬二	S53.11. 3	対京大
5	7.43		中谷　良人	H 2. 7.26	東海大記録会
6	7.42		尾崎　翔	H18. 7. 8	四大戦
7	7.41	+1.2	木下　秀明	H30.11 .4	東大競技会・東大
8	7.37		真柳　浩太	H 1. 3.25	国武大記録会
〃	〃		竹内　昌男	H18. 7.30	七大戦
10	7.28		藤田　靖浩	H16. 6.12	順大記録会
11	7.26		飯島　靖成	H26. 8.30	一橋戦
12	7.25		室城　信之	S55. 4.27	東京選手権
〃	〃		寺嶋　容明	H 4.10.11	対京大
〃	〃	+1.3	三宅　功朔	R 1. 8. 4	七大戦・博多
15	7.19		武安　光太郎	H20. 5.25	関東I.C.
16	7.18		橋本　光人	S49. 5.25	関東I.C.

〃	〃			朝日　雄治	H 5. 5.22	関東I.C.
〃	〃			西田　昂広	H22. 8. 1	七大戦
19	7.17			北村　賢之	H 3. 7.28	七大戦
20	7.16	+2.0		栗原　怜也	H29.11. 5	東大競技会・東大
21	7.08			冨山　一郎	S 4. 6. 9	対高師
22	7.07			山本　利徳	S54. 5.12	関東I.C.
〃	〃			日隈　洋	H 1. 8.19	東大競技会
〃	〃			深澤　竜太	H27. 5. 4	日大競技会
25	7.04			前田　俊之	S48. 7.29	七大戦
〃	〃			桜井　亮太	H 2. 9.16	学連記録会
27	7.03			辻本　仁	S51. 5.22	関東I.C.
28	7.01			吉岡　和夫	H16. 9.18	一橋戦
29	7.00			浜田　素司	S37. 9.16	関東I.C.
〃	〃			伊藤　文昭	S42. 5.20	関東I.C.
〃	〃			高野　泰	S42.11. 3	対京大
〃	〃			栗田　徹士	H26. 5. 4	日大競技会

三段跳

1	15.46			中谷　敬二	S53. 7. 9	四大戦
2	15.42			橋本　光人	S50. 5.18	関東I.C.
3	15.37			藤田　靖浩	H15. 6. 7	日体大記録会
4	15.24	±0.0		木下　秀明	H29. 9.30	対京大・東大
5	14.94			吉田　侑弥	H27. 5.15	関東I.C.
6	14.90			寺嶋　容明	H 5.10. 9	京大戦
7	14.86			倉員　智瑛	H19.10. 7	京大戦
8	14.84			室城　信之	S55. 5.18	関東I.C.
9	14.79	+1.4		星野　祐輝	H31. 4. 6	六大戦・慶応
10	14.74			武安　光太郎	H18. 7.30	七大戦
11	14.67			椿　幸太	H 1.10.14	対京大
12	14.59			真柳　浩太	H 1. 3.25	国武大記録会
13	14.54			前田　俊之	S51. 8. 1	七大戦
〃	〃			石川　淳	S59. 5.20	関東I.C.
〃	〃			森　朋彦	H 1.10.29	筑波大記録会
16	14.47			伊藤　文昭	S42. 5.21	関東I.C.
17	14.46			佐々木　忠恭	S46. 8. 1	七大戦
〃	〃			佐野　太郎	H18. 5.14	関東I.C.
19	14.44			高野　泰	S43. 7.25	七大戦
20	14.43			冨山　一郎	S 3.10.14	対京大
〃	〃			高橋　陽平	H10.10.11	京大戦・太陽が丘
22	14.41			茂木　和行	S41.11. 6	対京大
23	14.38			廣瀬　彬	H21. 5.16	関東I.C.
〃	〃	-0.3		平木　基人	H29. 7.30	七大戦・瑞穂
〃	〃	-0.7		若松　駿	R 4. 4. 9	六大戦・慶應
26	14.37	+1.0	○	坂本　向輝	R7. 10. 5	京大戦・東大
27	14.34			岡本　正宏	S41.11. 6	対京大
〃	〃			川添　雄太	H14. 3.31	東大競技会
29	14.30			北村　賢之	H 4.10. 3	理工系
30	14.29			辻本　仁	S50. 7.20	七大戦
〃	〃			石村　達清	S54. 6.10	国公立戦

砲丸投

1	14.23			中村　優太	R 1. 8.31	一橋戦・一橋
2	13.75			照井　克生	S60.10.19	対京大
3	13.14			内田　啓介	S56. 8. 1	七大戦
4	13.07			長谷川　達也	H 9. 9. 6	一橋戦
5	12.87			横坂　敏彦	S43. 4.14	立教大記録会
6	12.74			奥村　俊樹	H27. 4. 4	六大戦
7	12.64			清水　貴夫	S62. 5.16	関東I.C.
〃	〃			宮野　涼至	H27. 5.14	関東I.C.
9	12.37			相良　誠	S45.11. 3	対京大
10	12.33			関　仁太郎	S11.10.17	対京大

11	12.32		加藤　博夫	S32.11.10	対京大
12	12.30		村尾　一夫	S 5. 5.10	全日I.C.
13	12.21		出口　雅俊	H13. 7.29	七大戦
14	12.05		冨山　恒	S35. 5. 7	関東I.C.
15	11.99		山本　利徳	S53.11. 3	対京大
〃	〃		佐々木　駿	H24.10. 6	京大戦
17	11.98		青木　孝	H12.10. 7	京大戦
18	11.96		北原　秀雄	S13.10.17	対京大
〃	〃		渡辺　健太	R 5. 6.18	四大戦
20	11.93		小野塚 昭三郎	S40.11. 3	対京大
21	11.92		桜井　亮太	H 3. 3.30	国武大記録会
22	11.90		岡野　浩行	H11. 4. 3	六大戦
23	11.86		富樫　清一	S11. 6. 3	対立教
24	11.82		外山　攻	S40.11. 3	対京大
25	11.68		百瀬　晴行	S46.10. 3	十大戦
26	11.67		溝口　勝	S56.10.18	対京大
27	11.62		長谷川　淳二	H 1. 7. 2	四大戦
28	11.61		花野　敏彦	S42. 6.27	十大戦
〃	〃		寺島　茂樹	S58.10.23	対京大
〃	〃		八木澤　光大	H30. 7.29	七大戦・厚別

円盤投

1	43.92		佐々木　駿	H24. 8.19	国武大競技会
2	43.58		照井　克生	S60.10.19	対京大
3	40.82		田上　知紀	S54. 9.23	対一橋
4	40.78		山本　利徳	S53.11. 3	対京大
5	39.58		景山　太郎	S57.10.30	法学部学生陸上
6	39.31		出口　雅俊	H12. 5.19	関東I.C.
7	38.76		横坂　敏彦	S43. 5.19	関東I.C.
8	38.55		合田　隆彦	H18. 7.30	七大戦
9	38.51		関　仁太郎	S11.10. 3	日本選手権
10	38.34		清水　貴夫	S62. 4.11	六大戦
11	38.26		相良　誠	S46. 5.23	対学芸新人戦
12	38.20		村尾　一夫	S 7.10.17	対京大
13	38.19		長谷川　進	S 4. 6. 2	運動会
14	38.18		北沢　剛久	H 4. 6.21	全関東MDPV
15	38.02		白木　秀典	S53.11. 3	対京大
16	37.71		久保田　豊	S 2. 6. 6	運動会
17	37.70		桜井　亮太	H 4. 4.18	六大戦
18	37.10		溝口　勝	S56. 7.12	四大戦
19	36.81		奥村　俊樹	H28. 8.27	一橋戦
20	36.62		青木　征彦	S42.11. 3	対京大
21	36.58		冨山　恒	S35. 4.25	東京選手権
22	36.56		宮野　涼至	H27. 4.26	日大競技会
23	36.42		高井　壮一	S43. 4.21	三大戦
24	36.40		実吉　安彦	S10. 6. 9	学部対抗
25	36.13		片山　卓也	H24. 5.20	関東I.C.
26	35.60		長谷川　達也	H10. 3.28	東大競技会
27	35.18		渡辺　誠	S 7. 5.22	学部対抗
28	35.04		外山　攻	S41. 5.15	関東I.C.
29	35.01		原　湖南	H24. 8. 5	七大戦
30	35.00		北原　秀雄	S19. 9.25	対慶応
〃	〃		土井　雅人	H27.10.10	京大戦

ハンマー投

1	48.56	○	沖田　康太朗	R 7. 5.10	関東I.C.
2	45.36		福島　敬司	H 3. 4.21	日大記録会
3	45.14		長島　慶尚	H 7.10. 8	京大戦
4	44.86		近藤　修司	S60.10.18	対京大
5	44.52		鍵本　直人	H27. 7.30	七大戦
6	44.26		小笠原　義之	H15.10. 4	京大戦

7	44.08	内田　啓介	S57. 9.12	学連記録会
8	43.82	北沢　剛久	H 4. 8.22	筑波大記録会
9	43.60	大築　立志	S43.10.20	十大戦
10	43.46	倉田　喜弘	S41.11. 6	対京大
11	43.02	田上　知紀	S54.10.20	対京大
12	42.77	冨山　恒	S35. 5. 5	関東I.C.
13	42.18	森　茂雄	S43.11. 3	対京大
14	41.95	寺島　孝明	H21. 7.25	七大戦
15	41.86	厚川　大亮	R 5. 4.16	日体大競技会
16	41.84	出口　雅俊	H13. 7.29	七大戦
17	41.24	井樋田　悟史	H 1.11.19	関東理工系
18	41.01	水戸　啓三郎	S37.11. 4	対京大
19	40.82	高井　壮一	S43. 5. 3	投擲記録会
20	40.80	河野　親	S40.11. 3	対京大
21	40.36	白木　秀典	S54.11. 4	学連記録会
22	40.26	今村　昌平	H24. 8. 5	七大戦
23	40.20	照屋　憲一	S46.10. 3	十大戦
24	40.00	土谷　喬	S40.11. 3	対京大
25	39.92	照井　克生	S59. 9.15	対一橋
26	39.58	小川　賢治	S48.10. 8	三大戦
27	39.29	冨山　保	S39.11. 8	対京大
28	39.17	蛭川　信久	S 4. 5. 5	全日I.C.
29	38.99	庄司　宇	H18. 7.30	七大戦
30	38.79	千葉　伸宏	H24. 8. 5	七大戦

やり投

1	63.92	只左　一也	H 5.10. 9	京大戦
2	63.46	谷　彰一郎	H19.10. 7	京大戦
3	62.70	伊藤　亮治	H 6. 7.31	七大戦
4	62.41	長谷川　達也	H10. 7.26	七大戦
5	61.90	奥村　俊樹	H27. 5.16	関東I.C.
6	60.90	岡野　浩行	H12. 4.29	日体大記録会
7	59.01	山田　千尋	H12.10. 7	対京大
8	57.90	桜井　亮太	H 3. 5.12	関東I.C.
9	56.28	関原　孝之	H19.10. 7	京大戦
10	55.05	出口　雅俊	H12.10. 7	京大戦
11	54.41	千葉　伸宏	H24. 8. 5	七大戦
12	53.42	岡崎　啓明	H 6.10.10	関東医科
13	53.37	北川　昂広	H19.10. 7	京大戦
14	52.43	加藤　輝仁	H27. 5.30	国公立戦
15	52.12	真喜志　亮	H 3. 7.28	七大戦
16	51.18	宮崎　昭彦	H 1. 5.28	国公立戦
17	49.69	久保　亘	R 4. 9.21	京大戦・西京極
18	49.35	杉山　耕平	H26.10. 4	京大戦
19	49.30	井上　優介	S63. 6. 5	全関東MDPV
20	49.25	三浦　勁士	R 1. 9.28	京大戦・東大
21	49.22	八木澤　光大	H29. 7. 1	四大戦・大井
22	49.13	田中　恭平	H28. 8.27	一橋戦
23	48.54	上野　隆治	H26.10. 4	京大戦

やり投（旧規格）

1	64.04	山本　利徳	S52.10.23	対京大
2	63.66	勝又　幹英	S57. 7.11	四大戦
3	62.70	土谷　喬	S38. 4.27	三大戦
4	58.82	景山　太郎	S56.10.18	対京大
5	58.46	外山　攻	S41. 5.15	関東I.C.
6	57.76	内藤　浩文	S58.10.23	対京大
7	55.47	冨山　恒	S35. 5.28	三大戦
8	54.56	堀内　文隆	S47. 7.16	七大戦
9	54.40	河合　俊雄	S 8. 6. 4	学部対抗
10	54.36	在原　元司	S53. 4.16	学連記録会

11	54.34		大橋　悟	S52.11. 3	対京大
12	54.20		野崎　幸治	S58.10.23	対京大
13	54.02		阿部　純和	S41. 7.24	七大戦
14	53.44		藤井　由幸	S46.11. 3	対京大
15	52.96		溝口　勝	S56. 5.24	関東I.C.
16	52.58		渡辺　誠	S 8.10.17	対京大
17	52.45		河野　親	S38. 4.27	三大戦
18	52.32		山崎　丈三	S 9.10.17	対京大
19	52.30		鈴木　重喜	S 4. 6. 9	対高師
20	52.09		橋本　雅明	S30.11. 6	対京大
21	51.71		古在　由信	S 7.10.17	対京大
〃	〃		藤井　義六	S 8.10.17	対京大
23	51.34		村尾　一夫	S 7.10.17	対京大
24	51.18		宮地　薫	S49.11. 4	対京大
25	50.90		尾島 巌	S39.11. 8	対京大
26	50.46		団野　健二	S 7.10.11	三医大戦
27	50.41		佐藤　健爾	S36. 5.14	関東I.C.
28	50.28		青木　克彦	S41.11. 6	対京大
29	50.18		杉江　明彦	S43. 4.21	三大戦
30	50.00		実吉　安彦	S11.10.11	対京大

十種競技

1	6947		桜井　亮太	H 4. 9.11-12	全日本I.C.
			11.31-6.83-10.91-1.85-50.81		
			15.58-36.56-4.30-57.20-4.50.16		
2	6030		八木澤　一朗	H12. 5.19-20	関東I.C.
3	5998	○	田中　醇之介	R 7. 5. 9-10	関東I.C.・相模原
4	5920		玉木　雄一郎	H 3. 5.11-12	関東I.C.
5	5757		加来　宗一郎	H28. 5.19-20	関東I.C.
6	5701		村井　輝	R 1. 5.23-24	関東I.C.・相模原
7	5682		持永　新	H19. 6.23-24	日本選手権
8	5587		長谷川　達也	H 9.11. 1- 2	東大競技会
9	5438		田中　醇之介	R 5. 7. 8- 9	兵庫選手権
10	5405		石川　春樹	S62. 5.15-16	関東I.C.
11	5346		吉田　敬	H 1. 5.19-20	関東I.C.
12	5302		内藤　孝	H 7. 4.15-16	東大競技会
13	5294		島田　俊雄	H15.11. 1- 2	東大競技会
14	5075		谷　彰一郎	H20.11. 8- 9	東大競技会
15	5036		松林　武生	H13. 5. 4- 5	日体大記録会
16	5023		出口　雅俊	H12.11. 4- 5	東大競技会
17	4837		寳田　雅治	H28. 3.19-20	東大競技会・東大
18	4749		柏木 龍太	R 3.11. 7- 8	東大競技会
19	4606		中川　夏樹	H25. 9.21-22	日体大競技会

十種競技（槍旧規格）

1	6593	山本　利徳	S54. 5.12-13	関東I.C.
2	5867	八田　秀雄	S56. 6.27-28	茨城選手権
3	5828	辻本　仁	S51. 6.19-20	神奈川選手権
4	5813	溝口　勝	S55. 6. 7- 8	筑波大記録会
5	5737	吉賀　千晃	S59. 5.17-18	関東I.C.
6	5702	武智　久典	S55. 5.17-18	関東I.C.
7	5423	木村　昭弘	S60. 5. 9-10	関東I.C.
8	5321	景山　太郎	S57. 9. 7- 8	学連記録会
9	5291	古川　源蔵	S43. 5.11-12	関東I.C.
10	4595	冨山　恒	S35. 6.30-7.1	日本選手権
11	4549	駒田　誠	S59. 9. 1- 2	混成記録会
12	4542	林　秀樹	S50. 6.13-14	神奈川選手権

２０ｋｍ

1	59.54	近藤　秀一	H29.10.14	箱根駅伝予選会・立川
2	1.00.49	新妻　拓弥	H11.10.24	箱根駅伝予選会

3	1.01.20	松本　翔	H16.10.16	箱根駅伝予選会
4	1.02.25	坂本　修一	S55.11. 9	箱根駅伝予選会
5	1.02.28	舟橋　秀利	H 7.10.29	箱根駅伝予選会
6	1.02.51	渥美　裕次郎	H26.10.18	箱根駅伝予選会
7	1.03.08	宮野　健司	H23.10.15	箱根駅伝予選会
8	1.03.27	阿部　飛雄馬	H28.10.15	箱根駅伝予選会
9	1.03.28	半村　哲	H 8.10.27	箱根駅伝予選会
10	1.03.34	石原　宏尚	H18.10.21	箱根駅伝予選会
11	1.03.39	島田　雅史	H 6.10.30	箱根駅伝予選会
12	1.03.44	近藤　新吾	H 8.10.27	箱根駅伝予選会
13	1.03.45	福島　洋佑	H28. 3. 6	立川マラソン
14	1.04.04	室井　道人	S56.10.26	河口湖西湖
〃	〃	神田　潤一	H 5.10.31	箱根駅伝予選会
16	1.04.14	福田　明	S57.11.21	坂戸毎日
17	1.04.16	織原　健人	H28. 3. 6	立川マラソン
18	1.04.22	溝井　順哉	H11.10.24	箱根駅伝予選会
19	1.04.26	梁瀬　将史	H25.10.19	箱根駅伝予選会
20	1.04.29	東　大貴	H21.10.17	箱根駅伝予選会
21	1.04.35	田坂　和彦	H13.10.20	箱根駅伝予選会
22	1.04.39	中台　慎二	H11.10.24	箱根駅伝予選会
23	1.04.42	半田　禎	S58.11.20	坂戸毎日
24	1.04.45	大野　兼司	S60.11. 3	箱根駅伝予選会
25	1.04.46	栗田　晴彦	S58.11.20	坂戸毎日
26	1.04.47	竹俣　直道	H20.10.18	箱根駅伝予選会
27	1.04.51	渡辺　吏	S58.11. 6	箱根駅伝予選会
28	1.05.00	清水　明	S58.11. 6	箱根駅伝予選会
29	1.05.01	小松　息吹	H27. 3. 1	立川マラソン
30	1.05.03	網谷　直紀	H27.10.17	箱根駅伝予選会

箱根駅伝予選会（平成30年以降。距離がハーフマラソンに変更）

1	11.25.40		秋吉・本多・西田・越川・小西
	令和5年		高橋・甘利・森・三田・越野
2	11.42.58	○	秋吉・森・大宮・染川・鈴木・
	令和7年		柳沼・高木・小泉・田中・小澤
3	11.43.18		近藤・阿部・栗山・松本・岩崎・
	平成30年		遠藤・小林・桝村・道岡・加藤悠
4	11.46.23		道岡・中根・加藤泰・久田・瀬川
	令和3年		加藤悠・鬼頭・西田・越川・金山
5	11.50.04		本多・瀬川・秋吉・越川・西田・
	令和4年		中根・宮田・高橋・甘利・三田
6	11.53.54		阿部・栗山・瀬川・額田・加藤泰
	令和元年		遠藤・古賀・箕輪・桝村・松本

箱根駅伝予選会（昭和54年以降平成29年迄。距離は20km）

1	10.52.13	近藤・福島・網谷・渥美・小松・
	平成27年	大日方・鈴木・織原・坂出・田村
2	10.52.31	舟橋・半村・近藤・島田・溝井・
	平成8年	柴田・田中・古屋・吉屋・本田
3	10.59.34	舟橋・島田・近藤・柴田・吉屋・
	平成7年	古屋・三浦・山岡・田中・本田
4	10.59.51	近藤・阿部・張・福島・松本・
	平成28年	田村・網谷・岩渕・栗山・坂出
5	11.00.18	近藤・阿部・栗山・松本・遠藤・
	平成29年	大日方・油井・須藤・田村・大庭
6	11.02.37	渡辺吏・半田・清水明・太田丈・栗田・
	昭和58年	渡辺典・武田・中村・太田充・清水真
7	11.05.04	神田・村上・島田・舟橋・半村・
	平成5年	古屋・佐々木・太田・柴田・山岡
8	11.05.09	新妻・溝井・中台・藤井・池田哲・
	平成11年	田中創・衛藤・星野・鈴木・八木
9	11.07.24	宮野・東・青木・山田・梁瀬・

	平成23年		大久保・岩川・高田・渡邊・原
10	11.07.49 平成26年		渥美・小松・福島・原・大日方・ 網谷・松本・富岡・織原・坂出
11	11.07.55 平成6年		島田・半村・柴田・林・近藤・ 吉屋・本田・太田・舟橋・石井
12	11.09.51 平成18年		松本・石原・斉藤・山崎・黒澤・ 岡田・片岡・千島・野村・栫井
13	11.11.37 平成21年		宮野・東・山田竜・山田健・青木・ 高田・山崎・大久保・渡邊駿・庄司
14	11.11.39 平成16年		松本・片岡・宮崎・石原・千島・ 中原・村田・深瀬・岡田・斎藤
15	11.11.48 平成25年		渥美・梁瀬・小野田・松野・織原 富岡・原・小松・藤井・網谷
16	11.13.24 平成17年		松本・石原・片岡・斉藤・岡田・ 黒澤・中原・宮崎・千島・村田
17	11.14.12 平成20年		竹俣・宮野・東・山田健・山田竜・ 山崎・栫井・野村・青木・嶌田
18	11.16.51 平成19年		松本・石原・野村・山田・竹俣・ 斉藤・月崎・山口・山崎・片山
19	11.16.55 平成22年		宮野・東・山田・青木・渡邊・ 梁瀬・嶌田・高田・岩川・中島
20	11.17.21 昭和55年		坂本・室井・福田・山内・太田充・ 秋守・太田丈・松岡・島谷・半田
21	11.18.18 平成24年		渥美・岩川・渡邊・梁瀬・原・ 小野田・大久保・田片・福島・野田
22	11.19.19 平成13年		田坂・衛藤・池田哲・小山・辻・ 田中創・相原・高橋竜・佐藤・安達
23	11.19.59 昭和54年		坂本・室井・野田・江川・中山・ 山内・秋守・高木・松岡・真田
24	11.20.21 平成3年		神田・村上・田中・苧坂・竹俣・ 佐々木・稲垣・石井崇・重見・山口
25	11.21.23 平成2年		神田・篠原・竹俣・森・福重・ 亀井・田中・大澤・苧坂・渋谷
26	11.20.33 平成12年		新妻・中台・田坂・池田哲・藤井・ 小山・衛藤・辻・田中創・相原
27	11.23.05 平成14年		田坂・小山・相原・田辺・山崎・ 安達・春木・桐生・中原・下野
28	11.24.00 昭和57年		福田・太田丈・半田・清水・渡辺吏・ 秋守・中村・渡辺典・細井・北村

ハーフマラソン

1	1.01.01	○	秋吉　拓真	R 8. 2. 1	日本学生ハーフ
2	1.03.44		近藤　秀一	H30.10.13	箱根駅伝予選会・立川
3	1.03.56	○	大森　智	R 8. 2. 1	日本学生ハーフ
4	1.04.39		新妻　拓弥	H12. 3.12	立川マラソン
5	1.05.03		本多　健亮	R 5.10.14	箱根駅伝予選会・立川
6	1.05.05		松本　翔	H19. 2. 4	神奈川マラソン
7	1.05.11		阿部　飛雄馬	R 1.10.26	箱根駅伝予選会・立川
8	1.05.14		瀬川　莉玖	R 4. 3.13	日本学生ハーフ
9	1.05.48		西田　大晟	R 5.10.14	箱根駅伝予選会・立川
10	1.06.15		竹俣　直道	H20.11.16	上尾シティーハーフマラソン
11	1.06.47		山田　健太郎	H20.11.16	上尾シティーハーフマラソン
12	1.06.59		宮野　健司	H22.11.21	上尾ｼﾃｨマラソン
13	1.07.00	○	森　祥真	R 7.10.18	箱根駅伝予選会・立川
14	1.07.13		渥美　祐次郎	H25.11.17	上尾シティーハーフマラソン
15	1.07.25		栗山　一輝	H31. 2. 3	丸亀ハーフ・丸亀
16	1.07.29		福島　洋佑	H28. 3. 6	立川マラソン
17	1.07.33		越川　剛暉	R 6. 2. 4	丸亀ハーフ・丸亀
18	1.07.35		東　大貴	H21.11.15	上尾シティーハーフマラソン
19	1.07.47		島田　雅史	H 8. 5.19	関東I.C.
20	1.07.50	○	大宮　夏輝	R 7.10.18	箱根駅伝予選会・立川

21	1.07.52		神田　潤一	H 2.12. 9	群馬マラソン
22	1.07.59		道岡　聖	R 3.10.23	箱根駅伝予選会
23	1.08.04		織原　健人	H28. 3. 6	立川マラソン
24	1.08.12		田坂　和彦	H15.11.16	上尾シティーハーフマラソン
〃	〃		中根　美七海	R 4. 1.30	大阪ハーフマラソン
25	1.08.24		大久保　翔平	H24. 3. 4	立川マラソン
26	1.08.31		小松　息吹	H27. 3. 1	立川マラソン
27	1.08.37		松野　智成	H25.11.17	上尾シティーハーフマラソン
28	1.08.49		金山　裕生	R 4. 1.30	大阪ハーフマラソン
29	1.08.53		石原　宏尚	H19. 2. 4	神奈川マラソン
30	1.08.58		加藤　悠生	R 2. 2. 2	神奈川ハーフ

３０ｋｍ

1	1.32.48	○	秋吉　拓真	R 8. 2.15	青梅マラソン・青梅
2	1.38.19		室井　道人	S56.11.23	河口湖
3	1.38.23		阿部　飛雄馬	R 2. 2.16	青梅マラソン・青梅
4	1.43.34		坂本　修一	S54.11.25	伊豆大島P.M.
5	1.44.36		大野　兼司	S61. 3. 2	名古屋男子30km
6	1.44.54		佐藤　芳宏	S61. 2.16	青梅マラソン
7	1.45.02		山内　仁志	S54.11.25	伊豆大島P.M.
8	1.45.38		野田　晴彦	S54.10. 7	全日I.C.
9	1.46.30		福重　俊幸	H 2. 3. 4	名古屋男子30km
10	1.47.47		江川　徹	S54.11.25	伊豆大島P.M.

マラソン

1	2.14.13	近藤　秀一	H29. 2.26	東京マラソン
2	2.23.13	舟橋　秀利	H 9. 3.30	信毎マラソン
3	2.23.55	宮野　健司	H23. 2.20	泉州国際マラソン
4	2.24.04	室井　道人	S55.12. 7	福岡国際マラソン
5	2.25.53	栗田　晴彦	S59.12.23	防府マラソン
6	2.26.54	田坂　和彦	H15. 2. 8	東京国際マラソン
7	2.26.57	坂本　修一	S54.12.23	防府マラソン
8	2.27.20	新妻　拓弥	H11. 2.14	東京国際マラソン
9	2.27.38	半田　禎	S57.12.26	防府マラソン
10	2.27.46	大野　兼司	S62. 2. 8	東京国際マラソン
11	2.28.04	佐藤　芳宏	S60.12.22	防府マラソン
12	2.28.21	中台　慎二	H11.11.28	筑波マラソン
13	2.28.27	渥美　祐次郎	H28. 3. 6	びわ湖毎日マラソン
14	2.28.30	栗山　一輝	R 2. 2. 9	愛媛マラソン
15	2.29.21	近藤　新吾	H 7.12.17	防府マラソン
16	2.29.35	細井　浩之	S60.12.22	防府マラソン
17	2.29.57	福田　明	S56. 2.11	勝田マラソン
18	2.29.58	秋守　利郎	S56. 2.11	勝田マラソン
19	2.30.35	半村　哲	H 7.12.17	防府マラソン
20	2.31.07	野田　晴彦	S54.12.23	防府マラソン
21	2.31.59	網谷　直紀	H27.11. 1	富山マラソン
22	2.32.12	太田　丈児	S57. 2.11	勝田マラソン
23	2.32.21	吉屋　拓之	H 7.12.17	防府マラソン
24	2.32.45	中島　圭一	H23. 2.27	東京マラソン
25	2.33.16	小西　諒	R 6. 3.10	静岡マラソン
26	2.33.31	島田　雅史	H 7.12.17	防府マラソン
27	2.33.47	畠　英雄	S60.12.22	防府マラソン
28	2.34.21	佐藤　勝美	S61.12.28	防府マラソン
29	2.34.30	渡辺　吏	S57.12.26	防府マラソン
30	2.34.40	寺田　秋夫	S61. 2. 3	別大マラソン

１０ｋｍW

1	44.12	宇野　文貴	H26. 4.19	輪島競歩
2	45.34	棟重　賢治	H27. 2.15	ジュニア選抜

２０ｋｍW

1	1.23.25			渡邉　成陽	H28. 2.21	日本選手権
2	1.26.38		○	越國　太貴	R 8. 1. 1	元旦競歩
3	1.26.52			明石　顕	H11. 1.31	日本選手権
4	1.26.59			後藤　潤平	H31. 2.17	日本選手権・六甲アイランド
5	1.28.20			棟重　賢治	H28. 1. 1	元旦競歩
6	1.29.50			堀江　駿	H29. 2.19	日本選手権
7	1.30.08			保田　亜久利	R 2. 1. 1	元旦競歩・明治神宮外苑
8	1.30.21			堀田　樹生	H25.10.27	高畠競歩
9	1.31.01			早川　晃司	H23. 2.20	日本選手権
10	1.31.49			千菊　智也	R 3 1. 1	元旦競歩
11	1.32.35			宇野　文貴	H27. 1. 1	元旦競歩
12	1.32.47			瀧川　朗	H22.10.31	全日本競歩高畠
13	1.33.18			寺田　秋夫	S62. 4.26	全日本競歩選手権
14	1.33.40			近藤　健一	H24. 1. 1	元旦競歩
15	1.35.38			春木　洋輔	H15. 1. 1	元旦競歩
16	1.36.11			和田　光一郎	H19. 3.25	全日本競歩根上
17	1.37.01			衛藤　淳一	H12. 1.30	日本選手権
18	1.37.16			小竹　茂夫	S61. 4.20	全日本競歩選手権
19	1.37.56			櫻井　悠也	H28. 3.20	全日本競歩能美
20	1.38.04		○	金谷　響介	R 7. 1. 1	元旦競歩・明治神宮外苑

３５ｋｍＷ

1	2.57.18		○	金谷　響介	R 7. 3. 16	全日本競歩能美

５０ｋｍＷ

1	4.16.46			渡邉　成陽	H29.10.22	高畠競歩・高畠
2	4.26.44			寺田　秋夫	S62.11. 8	ソウル五輪代表選手挑戦選抜競
3	4.49.06			菅野　雄大	H20.10.26	高畠競歩
4	5.07.04			大澤　進	H 5. 4. 4	日本選手権

女子１００ｍ

1	12.37	+1.3		内山　咲良	R 3.10.31	京大戦
2	12.5			末松　いづみ	S59. 5.20	関東I.C.
3	12.51			帰山　祐佳	H13.10.13	四大戦
4	12.6			高本　明日香	H 3. 6.16	国公立戦
5	12.89			塩入　敦子	H15. 7.27	七大戦
6	12.92	+1.5	○	宮宇地 彬	R 7. 4. 5	六大戦
7	12.94			工藤　麻衣子	H 4. 7.19	七大戦
8	12.95	+0.6		畠山　小枝	R 6. 9.27	京大戦
9	12.99			小原　明恵	H18. 7.30	七大戦
10	13.0			野村　幸世	S62. 7.25	東日本医科学生
11	13.01	+0.0		坪浦　諒子	H29. 9.30	京大戦・東大
12	13.03			納　朋子	H26.10. 4	京大戦
13	13.08			三輪　記子	H 9. 7.27	七大戦
14	13.09	-1.0		谷口　智海	R 1. 9.28	京大戦・東大
15	13.1			北澤　桂	H 8. 9.14	一橋戦
16	13.10			中島　美咲	H26.10. 4	京大戦
17	13.15			久保木　結	H21.10. 3	京大戦
18	13.18			笠村　洋子	H27.11. 8	東大競技会
19	13.22			白形　優依	H28. 5.29	国公立戦
20	13.25			清水　蘭	H19. 7.29	七大戦
21	13.26			鈴木　理香	H24.10. 6	京大戦
22	13.3			工藤　恵理子	S58. 6.19	三大戦
23	13.4			進藤　敬子	S53. 5.18	関東I.C.
24	13.52			中村　芳美	H 4.11. 3	レディース陸上
25	13.59	+0.9	○	今野　碧衣	R 7. 7.26	七大戦
26	13.67			高山　花子	H21. 5.31	国公立戦
27	13.74			大久保　渥子	H20. 8. 3	七大戦
28	13.8			藤田　明日香	H 8. 6.16	国公立戦
29	13.84			高橋　奈々	H26. 8.30	一橋戦
30	13.86			相馬　りか	H 2. 4.14	六大戦

女子２００m

1	25.57			帰山　祐佳	H13.10.13	四大戦
2	25.83	+1.4		内山　咲良	R 3. 7. 4	東大選手権
3	26.2			高本　明日香	H 3.10.12	対京大
4	26.25			末松　いづみ	S60.10.19	対京大
5	26.35			塩入　敦子	H16. 9.10	関東新人
6	26.6			工藤　麻衣子	H 3. 7. 7	四大戦
7	26.83	-0.1		谷口　智海	R 1. 7. 6	四大戦・上尾
8	26.87			小原　明恵	H17.10.29	東大競技会
9	27.27			畠山　小枝	R 6. 6.15	四大戦
10	27.3			野村　幸世	S63.10.18	対京大
11	27.4			三輪　記子	H 9.10.12	京大戦
〃	〃	-2.0	○	宮宇地 彬	R 7. 4. 5	六大戦
13	27.62			久保木　結	H22.11. 6	東大競技会
14	27.77			納　朋子	H26. 9.21	日体大競技会
15	27.9			清水　蘭	H21. 7. 4	四大戦
16	27.92			進藤　敬子	S53. 5.18	関東I.C.
17	28.0			北澤　桂	H 8.10.18	対京大
18	28.2			相馬　りか	H 2. 5. 3	早慶成対抗
〃	28.28			鈴木　理香	H24.11. 3	東大競技会
20	〃			中島　美咲	H25.11. 3	東大競技会
21	28.4			泉川　美穂	H 3.10.12	対京大
〃	〃			友常　理子	H 3.10.12	対京大
23	28.5			藤田　明日香	H 8. 6.30	三大戦
24	28.9			工藤　恵理子	S58.10.23	対京大
25	29.16			笠村　洋子	H26.11. 1	東大競技会
26	29.8			中村　千秋	S53. 7.29	七大戦
27	30.2			吉田　綾子	S53. 7.29	七大戦
28	30.46			楠木 千尋	H21.10.31	東大競技会
29	30.5			刀根　知佳子	S62.10.18	対京大

女子４００m

1	57.56		内山　咲良	R 1. 8.31	三女戦・一橋
2	58.08		塩入　敦子	H15. 7.27	七大戦
3	58.11		坪浦　諒子	H29. 9.30	京大戦・東大
4	59.18		高本　明日香	H 3. 4.27	東京選手権
5	59.37		多田　有沙	R 5. 7.23	七大戦
6	59.44		高石　涼香	H29. 7. 1	四大戦・大井
7	59.47		帰山　祐佳	H14.10.12	京大戦
8	59.98		目黒　亜由子	H16. 8. 1	七大戦
9	1.00.6		工藤　麻衣子	H 3. 6.30	三大戦
10	1.00.65		日下　桃子	H21. 5.31	国公立戦
11	1.01.1		小原　明恵	H17.10. 1	世田谷選手権
12	1.01.11		白形　優依	H28.10. 1	京大戦
13	1.01.16		畠山　小枝	R 6. 9.27	京大戦
14	1.01.42	○	宮宇地 彬	R 7. 7.26	七大戦
15	1.01.47		谷口　智海	R 1. 9.28	京大戦・東大
16	1.01.71		進藤　敬子	S53. 5.19	関東I.C.
17	1.02.06		納　朋子	H26.10. 4	京大戦
18	1.02.21		末松　いづみ	S58.10. 7	全日I.C.
19	1.02.23		鈴木　彩夏	H24. 6. 2	国公立戦
20	1.02.82		北澤　桂	H 8. 7.28	七大戦
21	1.03.07		久保木　結	H24. 9. 8	一橋戦
22	1.03.32		泉川　美穂	H 4. 7.19	七大戦
23	1.03.73		藤田　明日香	H 8. 7.28	七大戦
24	1.04.2		浜松　由莉	H22. 9. 4	一橋戦
25	1.04.29		中島　香恵	H11. 6.12	四大戦
26	1.04.37		河原　未来	H28. 8.27	一橋戦
27	1.04.45		清水　蘭	H19. 9. 8	一橋戦
28	1.04.53		今須　宏美	H24. 6. 2	国公立戦

29	1.04.93		後藤　真紀子	H12. 7.23	七大戦
30	1.04.97		遠藤　理子	R 2. 9.27	東大競技会

女子８００m

1	2.10.92		高石　涼香	H30. 5.26	関東I.C.・相模原
2	2.16.0		目黒　亜由子	H16. 6.13	日体大競技会
3	2.18.32		遠藤　理子	R 2.10.11	MK田園クラブ中距離記録挑戦会
4	2.18.65		日下　桃子	H21. 7. 4	四大戦
5	2.18.83		塩入　敦子	H16.10. 2	京大戦
6	2.19.3		泉川　美穂	H 5. 5.30	国公立戦
7	2.19.82		今須　宏美	H24.10. 6	京大戦
8	2.21.00		後藤　真紀子	H11. 7.25	七大戦
9	2.22.01		浜松　由莉	H22. 8. 1	七大戦
10	2.25.83		荒木　玲	H28. 5.29	国公立戦
11	2.25.53		中島　香恵	H12. 6. 4	国公立戦
12	2.26.14		向田　恵	H17. 5.21	国公立戦
13	2.26.24		大西　まり子	H 7. 4. 8	六大戦
14	2.26.30		工藤　麻衣子	H 5.11. 7	理工系
15	2.27.02		藤原　ゆか	H28.11. 5	東大競技会
16	2.28.63		花渕　真生	R 3.10.31	京大戦
17	2.28.86		阿隅　杏珠	R 3.10.31	京大戦
18	2.29.45		岩井　美和子	H 7. 9.24	法学部学生陸上
19	2.29.51		河原　未来	H26.10.25	日体大長競技会
20	2.30.36		種瀬　愛美	R 5. 7.23	七大戦
21	2.30.95		増田　有里子	H22. 6.13	国公立戦
22	2.31.9		中村　真理子	H 9.10.12	京大戦
23	2.32.85		鈴木　彩夏	H25.10. 5	京大戦
24	2.33.56		田中　梨咲子	R5. 7. 23	七大戦
25	2.33.6		熊谷　紫麻見	S60. 6. 2	国公立戦
26	2.34.5		高野　裕子	H 4. 9.19	一橋戦
27	2.38.4		古川　浩子	S58. 7. 3	四大戦
28	2.38.7		役重　真喜子	S60. 6. 2	国公立戦
29	2.39.24		清水　里紗	H17. 9.24	京大戦
30	2.41.18		小柳　舞夏	R 4. 7.31	七大戦・仙台

女子１５００m

1	4.35.34		高石　涼香	H30. 3.24	春季オープン・江戸川
2	4.44.90		泉川　美穂	H 5. 7.27	七大戦
3	4.47.00		今須　宏美	H24.11. 4	東大競技会
4	4.49.67		浜松　由莉	H24. 4.29	平国大競技会
5	4.51.63		阿隅　杏珠	R 3. 9.20	平国大競技会
6	4.51.87		大西　まり子	H 5. 9.26	法学系
7	4.53.52		向田　恵	H18. 4.29	日体大長競技会
8	4.54.67		日下　桃子	H20. 9. 6	一橋戦
9	4.57.03		藤原　ゆか	H29. 8. 5	N.S.S.Uオープン・日体
10	5.00.8		目黒　亜由子	H13.10. 6	京大戦
11	5.01.3		後藤　真紀子	H10. 9.26	関東新人
12	5.02.93	○	渡邉　晴香	R 7. 6.21	国公立戦・上柚木
13	5.04.00	○	柳　沙織	R 7. 6.14	四大戦・東大
14	5.04.27	○	種瀬　愛美	R 7. 4.27	wttk・田園クラブ中距離記録挑
15	5.05.36		花渕　真生	R 3.11. 6	平国大競技会
16	5.07.3		中村　真理子	H10. 9. 8	一橋戦
17	5.07.19		荒木　玲	H28. 7. 9	世田谷競技会
18	5.07.78		黒岩　道子	H28.10.22	日体大長競技会
19	5.08.10		遠藤　理子	R 2. 9.27	東大競技会
20	5.10.57		杉浦　奈実	H22. 9. 4	一橋戦
21	5.11.4		佐藤　愛	H 9. 6.21	四大戦
22	5.11.45		杉本　南	H25.10.26	日体大長競技会
23	5.11.53		小柳　舞夏	R 3.10.16	wttk・田園挑戦会
24	5.13.37		鈴木　恵美里	H22.10.23	日体大長競技会
25	5.14.2		高橋　牧子	H11. 7.24	七大戦

26	5.19.02		田中　梨咲子	R 4. 6.19	四大戦・桐生
27	5.19.9		熊谷　紫麻見	S61. 5.25	国公立戦
28	5.20.86		増田　有里子	H24. 4.15	六大戦
29	5.21.1		高野　裕子	H 4.11.15	筑波大記録会
30	5.21.4		岩井　美和子	H 7.10.14	対一橋

女子３０００m

1	9.50.58		泉川　美穂	H 5.11. 3	レディース陸上
2	10.01.78		大西まり子	H 5.10. 3	関東新人戦
3	10.15.39		高石　涼香	H29. 7.29	七大戦・瑞穂
4	10.20.10		浜松　由莉	H22.12.11	平国大競技会
5	10.21.99		向田　恵	H17.12.11	日体大競技会
6	10.22.78		阿隅　杏珠	R 3.11.20	平国大競技会
7	10.28.73		今須　宏美	H24.10.27	平国大競技会
8	10.31.98		日下　桃子	H18.12.10	日体大長競技会
9	10.34.71		藤原　ゆか	H29.12.23	日体大女子長競技会・日体
10	10.39.51	○	栁　沙織	R 7.12.20	日体大長距離競技会
11	10.40.84		佐藤　愛	H11.11. 3	レディース陸上
12	10.42.39		杉本　南	H23.10.29	日体大長競技会
13	10.43.92	○	渡邉　晴香	R 7.11. 8	東大競技会・東大
14	10.44.52		中村　真理子	H10.11. 1	レディース陸上
15	10.48.78		小柳　舞夏	R 3.12. 4	日体大競技会
16	10.53.10		遠藤　理子	R 1.12.21	日体大長競技会・日体
17	10.59.68		杉浦　奈実	H23. 7. 2	四大戦
18	11.10.74		黒岩　道子	H28.12.24	日体大女子長競技会
19	11.13.75		鈴木　恵美里	H22. 7. 3	四大戦
20	11.16.14		増田　有里子	H22.12.11	平国大競技会
21	11.16.7		高野　裕子	H 4.11. 3	レディース陸上
22	11.17.1		高橋　牧子	H12. 6.17	東海大記録会
23	11.20.4		熊谷　紫麻見	S60. 9.15	女子月例記録会
24	11.26.05		花渕　真生	R 2.12.26	平国大競技会
25	11.38.52		立岡　美夏子	H21.10.24	日体大競技会
26	11.46.3		清水　里紗	H16. 8. 1	七大戦
27	11.48.44		古川　浩子	S58.11. 3	全日I.C.
28	12.03.52		濱田　摩耶	H14. 4.28	国士舘記録会
29	12.08.9		白井　帆香	R 2.11.29	MKディスタンス
30	12.10.43		堀越　美菜	H30. 9.22	日体大長競技会・日体

女子５０００m

1	16.54.8		泉川　美穂	H 5.12. 5	岐阜県選考会
2	17.13.5		大西　まり子	H 5.10.16	水戸記録会
3	18.17.54		杉本　南	H24. 5.27	日体大長競技会
4	18.22.02		今須　宏美	H25. 3.16	東大競技会
5	18.24.9		佐藤　愛	H10.11.29	日体大競技会
6	18.26.58		向田　恵	H17.12.23	日体大競技会
7	19.13.8		高橋　牧子	H11. 9. 4	一橋戦
8	19.42.5		熊谷　紫麻見	S60.11.24	長距離記録会
9	18.45.66		藤原　ゆか	H28.12. 3	日体大長競技会
10	18.58.55		小柳　舞夏	R 3.11. 7	東大競技会
11	20.39.25		増田　有里子	H24. 9. 8	一橋戦
12	20.40.03		立岡　美夏子	H22.12.11	平国大競技会
13	20.42.25		岩上　佳世	H24. 9. 8	一橋戦
14	20.52.8		古川　浩子	S58.11. 3	長距離記録会
15	20.54.74		遠藤　理子	R 2. 9.27	東大競技会

女子１００００m

1	35.12.65		泉川　美穂	H 6. 5.20	関東I.C.
2	40.24.94		高橋　牧子	H11. 7. 4	個人選手権
3	41.03.16		堀越　美菜	R 5. 3.19	春期オープン
4	41.18.6		熊谷　紫麻見	S61. 2. 2	女子月例記録会

女子１００mH

1	15.12			久保木　結	H22. 7. 3	四大戦
2	15.65	+0.8		内山　咲良	H30. 8.12	東医体・秋田中央
3	16.26			笠村　洋子	H27. 7. 4	四大戦

女子４００mH

1	1.01.54		坪浦　諒子	H28. 6.26	広島県選手権
2	1.01.76		塩入　敦子	H16. 8.28	東海選手権
3	1.05.11		多田　有沙	R 5.10. 8	国士舘大競技会
4	1.10.43		久保木　結	H23.11. 5	東大競技会

女子３０００mＳＣ

1	11.44.46		阿隅　杏珠	R 3. 7. 4	東大競技会
2	12.31.28		小柳　舞夏	R 3. 7. 4	東大選手権
3	14.03.94		堀越　美菜	H28.10. 2	筑波大競技会

女子５０００mW

1	24.17.77	○	沖　夏子	R 8. 1.10	東大競歩記録会
2	26.30.04	○	青山　虹海	R 7.10. 5	京大戦・東大
3	26.53.09		宮崎　愛里香	H26. 8. 9	七大戦
4	30.51.14	○	三村　珠広	R 7. 7.12	東大競歩記録会

女子１００００mW

1	52.01.35	○	青山　虹海	R 8. 1.10	東大競歩記録会
2	52.24.64	○	沖　夏子	R 7. 2. 8	東大競歩記録会
3	56.34.30		宮崎　愛里香	H25.12.14	国士舘大競技会
4	65.24.78	○	三村 珠広	R 7.11. 9	東大競技会

女子４×１００mR

1	49.3	塩入　敦子	帰山　祐佳	H14. 5.12
		中西　紅美	原　樹子	関東I.C.
2	50.21	中西　紅美	塩入　敦子	H14.10.12
		目黒　亜由子	帰山　祐佳	京大戦
3	50.36	塩入　敦子	帰山　祐佳	H13.10.13
		中西　紅美	目黒　亜由子	四大戦
4	50.37	髙橋　奈々	白形　優依	H27.10.10
		笠村　洋子	坪浦　諒子	京大戦
5	50.54	帰山　祐佳	原　樹子	H13. 5.13
		中西　紅美	塩入　敦子	関東I.C.
6	50.81	河原　未来	内山　咲良	H28.10. 1
		白形　優依	坪浦　諒子	京大戦
7	50.86	髙橋　奈々	白形　優依	H26.10. 4
		中島　美咲	納　朋子	京大戦
8	〃	髙橋　奈々	白形　優依	H28. 5. 5
		笠村　洋子	坪浦　諒子	日大競技会
9	51.27	荒木　玲	谷口　智海	H30. 9.24
		内山　咲良	高石　涼香	京大戦・山城
10	51.3	帰山　祐佳	塩入　敦子	H13. 9. 1
		中西　紅美	目黒　亜由子	一橋戦
11	51.32	荒木　玲	坪浦　諒子	H29. 7.30
		内山　咲良	高石　涼香	七大戦
12	51.63	納　朋子	久保木　結	H24.10. 6
		中島　美咲	鈴木　理香	京大戦
13	51.7	友常　理子	高本　明日香	H 3. 6.16
		長野　麻子	工藤　麻衣子	国公立戦
14	51.77	塩入　敦子	帰山　祐佳	H13.10. 6
		中西　紅美	後藤　真紀子	京大戦
15	51.88	武田　有希子	白形　優依	H25.10. 5
		中島　美咲	納　朋子	京大戦
16	52.30	久保木　結	清水　蘭	H21. 7.26
		高山　花子	日下　桃子	七大戦

17	52.50		納　朋子	久保木　結	H24. 6.30
			鈴木　彩夏	鈴木　理香	四大戦
18	52.51		鈴木　理香	清水　蘭	H21. 9.12
			高山　花子	久保木　結	一橋戦
19	52.52		鈴木　彩夏	白形　優依	H25. 8.31
			中島　美咲	納　朋子	一橋戦
20	52.58		高本　明日香	相馬　りか	H 2. 7.21
			長野　麻子	工藤　麻衣子	七大戦
21	52.63		笠村　洋子	石丸　夏奈	H27. 8. 2
			白形　優依	髙橋　奈々	七大戦
22	52.65	○	多田　有沙	畠山　小枝	R7.7.28
			谷口　智海	今野　碧衣	七大戦
23	52.68		大久保　渥子	清水　蘭	H20. 8. 3
			高山　花子	日下　桃子	七大戦
〃	〃		高山　花子	清水　蘭	H21. 5.31
			楠木　千尋	日下　桃子	国公立戦
24	52.7		堀越　美菜	坪浦　諒子	H29. 8.26
			内山　咲良	高石　涼香	一橋戦
25	52.78		清水　蘭	堀越　彩香	H20. 6.14
			高山　花子	大久保　渥子	四大戦
26	52.83		鈴木　理香	久保木　結	H22. 6.13
			高山　花子	浜松　由莉	国公立戦
27	52.85		花渕　真生	内山　咲良	R 1. 9.28
			谷口　智海	町田　黎子	京大戦・東大
28	52.95		鈴木　理香	清水　蘭	H21. 9.18
			楠木　千尋	久保木　結	関東新人
29	53.08		武田　有希子	白形　優依	H25. 7.28
			中島　美咲	増田　有里子	七大戦
30	53.17		今野　碧衣	多田　有沙	R 5. 7.23
			畠山　小枝	種瀬　愛美	七大戦

女子４×４００mR

1	4.07.9	帰山　祐佳	後藤　真紀子	H13. 9. 1
		塩入　敦子	目黒　亜由子	一橋戦
2	4.14.56	鈴木　彩夏	今須　宏美	H24. 5.13
		久保木　結	浜松　由莉	関東I.C.
3	4.16.17	三輪　記子	工藤　麻衣子	H 9. 5.24
		藤田　明日香	北澤　桂	関東I.C.
4	4.16.43	中島　美咲	納　朋子	H25. 5.19
		鈴木　彩夏	今須　宏美	関東I.C.
5	4.19.19	白形　優依	河原　未来	H26. 3.28
		中島　美咲	今須　宏美	春季オープン
6	4.19.21	清水　蘭	日下　桃子	H21. 3.27
		高山　花子	楠木　千尋	春季オープン
7	4.19.72	鈴木　理香	浜松　由莉	H24. 3.22
		久保木　結	鈴木　彩夏	春季オープン
8	4.19.73	三輪　記子	後藤　真紀子	H10.11. 1
		太田　綾	藤田　明日香	レディース陸上
9	4.22.93	久保木　結	浜松　由莉	H22. 5.16
		鈴木　理香	高山　花子	関東I.C.
10	4.23.27	中島　美咲	納　朋子	H25. 4.28
		今須　宏美	増田　有里子	国士舘大競技会
11	4.26.08	今野　碧衣	多田　有沙	R 5. 6.18
		畠山　小枝	種瀬　愛美	四大戦
12	4.28.29	堀越　美菜	荒木　玲	H29.11. 5
		藤原　ゆか	高石　涼香	東大競技会
13	4.31.11	鈴木　彩夏	浜松　由莉	H23. 5.15
		丹家　里枝	杉浦　奈美	関東I.C.
14	4.32.33	久保木　結	浜松　由莉	H22. 3.24
		丹家　里枝	高山　花子	春季オープン

女子走高跳

1	1.56		内山　咲良	H30. 7.29	七大戦・厚別
2	1.53		丹家　里枝	H23. 7. 2	四大戦
3	1.48		久保木　結	H22. 8. 1	七大戦
4	1.25		楠木　千尋	H21.10.31	東大競技会
5	1.20		鈴木　理香	H21. 7.26	七大戦

女子棒高跳

1	3.00		本間　諒子	H16. 5.14	関東I.C.
2	2.40		今須　宏美	H25. 3.31	日大競技会
3	1.80		宮﨑　彩	H19. 5. 4	日体大競技会

女子走幅跳

1	5.78	+0.8	内山　咲良	R 1. 6.29	国公立戦・上柚木
2	5.41		中島　美咲	H26. 8.30	一橋戦
3	5.31		白形　優依	H28. 7.31	七大戦
4	5.24		中西　紅美	H15. 7.27	七大戦
5	5.16	+0.7	今野　碧衣	R 6. 4. 6	六大戦
6	5.13		高山　花子	H22. 8. 1	七大戦
7	5.06		工藤　麻衣子	H 3. 7. 7	四大戦
8	4.99		長野　麻子	H 4. 7.19	七大戦
9	4.93		笠村　洋子	H27.10.10	京大戦
10	4.87		小原　明恵	H18.10. 8	対京大
11	4.84		帰山　祐佳	H14. 7.28	七大戦
12	4.76		野村　幸世	S63. 6. 5	全関東MDPV
13	4.74		武田　有希子	H24.10 .6	京大戦
14	4.68		塩入　敦子	H14.10.12	京大戦
15	4.61		高本　明日香	S63. 7.23	七大戦
16	4.50	+0.2	谷口　智海	R 1. 9.28	京大戦・東大
17	4.49		武田　有希子	H25.10. 5	京大戦

女子三段跳

1	13.02	+1.0	内山　咲良	R 3. 9.18	全日本インカレ

女子砲丸投

1	11.00		武田　有希子	H25. 8.18	中四国五県
2	9.93		中西　紅美	H15. 6.15	四大戦
3	9.06		内山　咲良	R 3.10.31	京大戦
4	8.78		野村　幸世	S63. 7.31	東日本医科学生
5	8.70		楠木　千尋	H20.10.12	京大戦
6	7.93		帰山　祐佳	H14.10.12	京大戦
7	7.91		刀根　知佳子	S63.11. 6	法学部学生陸上
8	7.71		三谷　由樹	H19. 9. 8	一橋戦
〃	〃		笠村　洋子	H27.10.10	京大戦
10	7.43		三輪　記子	H 9. 9. 6	一橋戦
11	7.03		宮崎　愛里香	H27.10.10	京大戦

女子円盤投

1	36.18		武田　有希子	H25. 3.16	東大競技会
2	25.62		刀根　知佳子	H 1. 3.21	女子ｵｰﾌﾟﾝ記録会
3	20.62		長野　麻子	H 3. 6.16	国公立戦
4	20.45		今須　宏美	H25. 6. 1	国公立戦

女子ハンマー投

1	27.08		楠木　千尋	H21. 3.21	順大競技会

女子やり投

1	31.32		中西　紅美	H12. 7. 2	四大戦
2	28.49		武田　有希子	H25. 6. 1	国公立戦
3	25.62		刀根　知佳子	H 1. 7.30	七大戦
4	25.43		工藤　麻衣子	H 3.10.20	順大記録会

5	23.13		楠木　千尋	H21. 7. 4	四大戦
6	21.08		濱田　摩耶	H15. 6.15	四大戦

七種競技

1	3410		久保木　結	H24.11. 3-11.4	東大競技会
2	2161		楠木　千尋	H21.10.31-11.1	東大競技会

女子ハーフマラソン

1	1.24.13	○	渡邉　晴香	R 7.12.13	THE DISTANCE CHALLENGE
2	1.25.05		杉本　南	H25.11.17	上尾シティマラソン
3	1.28.15		杉浦　奈実	H22.11.21	上尾シティマラソン
4	1.28.40		小柳　舞夏		
5	1.30.57		高橋　牧子	H11. 5.23	黒部名水ハーフ
6	1.37.02		立岡　美夏子	H23. 2. 6	神奈川マラソン

女子マラソン

1	2.48.40		大西　まり子	H 6. 1.30	大阪国際マラソン
2	2.57.46		泉川　美穂	H 8. 1.28	大阪国際マラソン
3	3.03.32		高橋　牧子	H13.11.18	東京国際マラソン
4	3.13.10		佐藤　愛	H11. 2.11	勝田マラソン
5	3.16.38		熊谷　紫麻見	S60. 2. 3	筑波学園マラソン
6	3.20.30		杉本　南	H26. 3. 9	名古屋ｳｨﾒﾝｽﾞﾏﾗｿﾝ
7	3.35.05		杉浦　奈実	H24. 3.11	名古屋ｳｨﾒﾝｽﾞﾏﾗｿﾝ
8	3.43.22		古川　浩子	S59. 2.11	勝田マラソン

女子２０ｋｍ

1	1.15.13		泉川　美穂	H 7.11.12	神戸全日本女子ロードレース
2	1.24.26		熊谷　紫麻見	S59.11.18	坂戸毎日
3	1.29.33		古川　浩子	S58.11.20	坂戸毎日

女子１０kmW

1	49.56	○	沖　夏子	R 8. 1. 1	元旦競歩
2	51.12	○	青山　虹海	R 8. 1. 1	元旦競歩
3	54.16		宮崎　愛里香	H27. 1. 1	元旦競歩

女子２０kmW

1	1.52.42		沖　夏子	R 6. 3.17	全日本競歩
2	1.57.39		宮崎　愛里香	H27. 3.15	能美競歩

ご逝去会員のご氏名(敬称略)

ご卒業年	ご氏名	ご命日
1960年(昭和35年)	加藤和生	2026年3月16日
1969年(昭和44年)	外山攻	2025年8月15日

協賛・賛助一覧

（敬称略・数字は掲載ページ）

以下の各社・各氏に広告、賛助を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。

協賛

日鉄エンジニアリング株式会社
・・・・・・・裏表紙

フンドーキン醤油株式会社
・・・・・・・表紙裏

株式会社西之表コーポレーション
・・・・・・・裏表紙裏

株式会社アイワホーム
・・・・・・・グラビア

日本カルミック株式会社
・・・・・・・グラビア

Sky 株式会社
・・・・・・・グラビア

三輪記子の法律事務所
・・・・・・・グラビア

株式会社法学館
・・・・・・・グラビア

株式会社 UR
・・・・・・・グラビア

三井住友銀行 OB 一同
・・・・・・・グラビア

清里焼酎醸造所
・・・・・・・p.7

ミズノ株式会社
・・・・・・・p.13

株式会社北豊島園自動車学校
・・・・・・・p.16

株式会社 Qception
・・・・・・・p.21

有限会社コーチ印刷
・・・・・・・p.25

東大駒場 QOM ジム
・・・・・・・p.33

旭化成株式会社
・・・・・・・p.35

明石顕税理士事務所
・・・・・・・p.41

西北出版株式会社
・・・・・・・p.54

RUNNING SCIENCE LAB
・・・・・・・p.60

株式会社アスプラ
・・・・・・・p.64

レオニダスランニングクラブ
・・・・・・・p.66

日本経営システム株式会社
・・・・・・・p.68

マイム
・・・・・・・p.70

リッツ株式会社
・・・・・・・p.75

賛助

株式会社西之表コーポレーション
GMO ペパボ株式会社
株式会社 L&E Group
馬場勝也先輩
東京海上日動火災保険株式会社
信和不動産株式会社
株式会社しげた(ホテル緑清荘)
株式会社エンリッション
株式会社ホットライン特進館学院
そろばんスクールかしわざき
東京大学陸上運動部清里町後援会
株式会社部活のみかた
株式会社ワクワクバクハツ
有限会社たけ
坪田博行先輩
レイス株式会社
OniGO 株式会社

編集後記

本年度の会報も、多くの皆様のご協力により、無事刊行することができました。ご寄稿くださったOBOGの皆様、原稿執筆に協力してくださった倶楽部会員の皆様ならびに現役部員の皆様、広告・賛助をいただいた企業・個人の皆様に、心より御礼申し上げます。

また、編集にあたっては、情報委員会の皆様をはじめ、製本に携わってくださった有限会社コーチ印刷の皆様、主務、主務補、広告主任、部便り主任、その他多くの方々に多大なるお力添えをいただきました。加えて、日々の活動や対校戦の様子を記録し、写真の提供に協力してくださった部員の皆様にも深く感謝申し上げます。多くの方々の支えによって、今年度も会報を形にすることができました。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

なお、歴代記録のページについては、近年、掲載情報の増加に伴いページ数が大幅に増えておりました。そのため、今年度より紙面での掲載範囲を各種目30傑までとさせていただきました。ただし、すべての歴代記録は従来通りウェブ上に保存・掲載しておりますので、詳細な記録につきましてはそちらをご確認いただけますと幸いです。掲載方法については、今後も見やすさや記録の保存性を踏まえ、必要に応じて検討してまいります。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、本会報が，倶楽部の一年の歩みを振り返るとともに、OBOGの皆様と現役部員とをつなぐ一助となれば幸いです。今後とも、東京大学陸上運動倶楽部への変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2026年5月　会報主任　日影拓真

編集

情報委員会	委員長	西村邦裕(2001)
	理事	小林徹(1983)、渡辺吏(1984)、石川淳(1985)、 長野麻子(1994)、林徹也(1995)、後藤真紀子(2002)、 小口太郎(2004)
学生		日影拓真(会報主任)、田中風舞(広告主任)、 今野碧衣(主務)、小泉亮太(主務補)、 青山虹海(部便り主任)

東京大学陸上運動倶楽部

〒113-0033　東京都文京区本郷　7-3-1　東京大学運動会内

E-mail　shumu@uttf.org

Web　https://www.uttf.org/

X(旧　Twitter)　@Todai TF

送金先［2026 年度入金口座］

・郵便振替 00120－5－185656 東京大学陸上運動倶楽部

・銀行振込 みずほ銀行渋谷支店(210) 普通預金 8192727 東京大学陸上運動倶楽部